THE INTERNATIONAL SNOWBOARD/ FREESTYLE SKI/FREESKI COMPETITION RULES (ICR)
【日本語翻訳版Ver1.0/2020.01.10】

BOOK VI
JOINT REGULATIONS FOR SNOWBOADING, FREESTYLE SKI/FREESKI

SNOWBOARD SLALOM / GIANT SLALOM
SNOWBOARD PARALLEL EVENTS
SNOWBOARD CROSS
SNOWBOARD HALFPIPE
SLOPESTYLE BIG AIR
SNOWBOARD SLOPESTYLE
SKI CROSS
SKI HALFPIPE
SKI BIG AIR
SKI SLOPESTYLE

FIS COUNCIL CONSTANCE(GER)-NOVEMBER 2019

EDITION November 2019

スポーツくじ
スポーツ振興くじ助成事業

☆本書は ICR【FSBFSFK_NEW_ICR_2019-20_clean.pdf】の日本語翻訳版である。

☆翻訳内容、表現に原文（英文）との差異がある場合は原文（英文）が優先される。
　必ず原文（英文）を参照すること。

INTERNATIONAL SKI FEDERATION
FEDERATION INTERNATIONALE DE SKI
INTERNATONALER SKI VERBAND

Blochstrasse 2; CH-3653 Oberhofen / Thunersee; Switzerland

Telephone: +41 33 244 61 61
Fax: +41 33 244 61 71
Website: www.fisski.com
FIS Wiki: http://wiki.fisski.com
Email: mail@fisski.com

ⓒCopyright: International Ski Federation FIS, Oberhofen, Switzerland,2019.
No part of this book may be reproduced in any form or by any means without the written permission of the International Ski Federation.

Printed in Switzerland

Oberhofen, November 2019

目次

第１セクション

200 **全競技共通規程**.....10
201 競技会の分類及び種類.....10
202 FIS カレンダー.....12
203 FIS レース参加ためのライセンス（FIS ライセンス）.....13
204 選手の参加資格.....15
205 選手の義務と権利.....15
206 広告とスポンサーシップ.....16
207 競技用品とコマーシャルマーキング.....18
208 電子メディア権利の利用.....19
209 映画権.....23
210 競技会の組織.....23
211 組織.....23
212 保険.....23
213 プログラム.....24
214 案内.....24
215 エントリー.....25
216 チームキャプテンミーティング.....25
217 ドロー.....25
218 リザルトの公表.....26
219 賞.....27
220 チーム役員、コーチ、サービススタッフ、サプライヤー、企業代表者.....27
221 医事サービス、診察、ドーピング.....28
222 競技用品.....29
223 制裁.....30
224 手続きガイドライン.....34
226 制裁の違反.....35

第２セクション

2000 組織.....36
2001 オーガナイザーの契約.....36
2002 組織委員会.....36
2003 国際スキー連盟による任命.....37
2004 オーガナイザーによる任命.....38
2005 組織役員会の情報と大会開催における義務.....40
2006 組織委員会の基本経費.....40
2007 ジュリー.....41
2008 技術代表（TD）.....47
2009 レースディレクター（RD）／コンテストディレクター（CD）.....53
2010 アドバイザリー委員会、テクニカルアドバイザー、コースアドバイザー、ビデオコントローラーとコネクションコーチ.....54
2011 受け入れ／権利と義務.....55
2012 前走者（フォーランナー）.....56
2013 競技者の責任.....57
2014 年齢制限.....57
2015 スタート、フィニッシュ、計時と計算.....60
2016 音響システム.....60

2017 ウォームアップのスロープ 61
2018 コースの閉鎖と改良 61
2019 スタートをフィニッシュの拡声器（マイクロフォン） 61
2020 リザルトの計算と発表 61
2021 表彰式 62
2022 ドロー 62
2023 ドロー後の変更 62
2025 仮のリラン（再走、再レース） 62
2026 トレーニングと競技会の延期、中止と判断 64
2027 リザルトの記号と有効でないリザルトの記号 65
2028 Not Peermitted to Start　出走不許可／裁定 66
2029 警告／制裁 66
2030 失格／制裁 66
2031 上訴委員会 67
2032 抗議 67
2033 抗議の締め切り 68
2034 抗議の書式 69
2035 権限 69
2036 ジュリーによる抗議の解決 69
2037 上訴の権利 70
2038 競技者の用具 70
2039 競技会議定書 71
2040 FIS が承認する予定 71
2041 事故 72
2042 保険 72
3043 組織の会議 72

第 3 セクション

3000 パーク＆パイプイベント 74
3100 競技エリア 74
3101 スタートエリア 74
3102 コース 74
3103 フィニッシュエリア 78
3200 競技施設 78
3201 ジャッジスタンド 78
3202 場内放送設備 79
3203 競技会場でのリザルト（OVR） 79
3300 パーク＆パイプ競技役員／スタッフ 79
3301 競技ジュリーメンバー 79
3302 コンテストディレクター 79
3303 技術代表（TD） 80
3304 競技委員長 80
3305 主要競技会におけるフィニッシュとスタートレフェリー（OWG と WSC） 80
3306 コース係長（ハーフパイプ、ビッグエア、スロープスタイル） 80
3307 スタート役員 81
3308 競技会スタッフ 81
3309 リザルト係長 82
3310 競技セクレタリー 82
3311 ジャッジパネル 82
3400 判定基準と採点 88
3401 ジャッジハンドブック 88
3402 判定基準（ビッグエア、スロープスタイル、ハーフパイプ） 88

3403 ポイントシステム 89
3404 ランキングシステム 90
3405 データとリザルトシステム 90
3406 ビデオ判定 91
3500 競技会フォーマットとヒートの説明 92
3501 ヒートフォーマット 92
3502 有効なラン／各フェイズにおけるランの数 95
3503 タイブレーク 96
3504 ヒートの手順 96
3600 フェイズと手順 98
3601 エントリー 98
3602 チームキャプテン／競技者ミーティング 99
3603 競技会フォーマットの発表 99
3604 スタート順 99
3605 ジュリーによるコース点検 100
3606 チームのコース点検 100
3607 公式トレーニング 101
3608 各競技フェイズの前のウォームアップ 101
3609 競技フェイズ 101
3610 スタート手順とコマンド 101
3611 抗議、リラン、罰則／制裁 102
3612 特別な手順 102
3613 表彰 103
3700 リザルトと最終順位 103
3701 リザルトおよびスタートリストに関する情報 105
3703 IRMs 105
3704 不完全な競技会におけるリザルト 105

第４セクション

5000 クロスイベント 107
5100 競技エリア 107
5101 スタート 107
5102 コース 107
5103 フィニッシュゾーン 109
5104 ウォームアップコース 109
5200 設営とイベント資材 109
5201 スタート、フィニッシュ、計測器設置 109
5203 旗門 111
5204 スタートナンバー（ビブ） 112
5205 カラービブ 112
5206 放送設備 112
5300 クロス競技役員／スタッフ 112
5301 ジュリー 112
5302 レースディレクター 112
5303 技術代表（TD） 113
5304 競技委員長 113
5305 レフリー 113
5306 ビデオコントローラー 114
5307 コース係長 114
5308 コースセッター 114
5309 大会事務局 114
5310 スタート、フィニッシュ役員 114

5311 競技会スタッフ 116
5312 データサービス／計算員 117
5400 クロスヒート／ランの定義 118
5401 旗門通過 118
5402 競技者の責任 118
5403 セクションジャッジ 118
5404 意図的な接触（インテンショナルコンタクト） 120
5405 制裁の即時発表／違反による失格 123
5406 タイム計測滑走のフィニッシュ定義（予選） 123
5407 各ヒートの順位付けの定義 123
5408 ビデオコントロール 124
5500 フォーマットとヒートの説明 124
5501 予選フェーズ 125
5502 決勝 130
5600 フェーズと手順 137
5601 エントリー 137
5602 チームキャプテンミーティング 138
5603 フォーマットの発表 138
5604 ドロー／スタート順 138
5605 コースセット 140
5606 インスペクション 140
5607 トレーニング 141
5608 競技会フェーズ 141
5609 スタートストップ 141
5610 スタート手順と合図 142
5611 特別な手順 144
5612 抗議（プロテスト）、再レース（リラン） 145
5613 表彰 145
5700 リザルトとスタートリスト 145
5701 リザルトとスタートリストの情報 145
5702 最終リザルト 147
5703 未完了な競技会のリザルト 148
5800 チームイベントとミックスチームイベント 148
5801 実行 148
5900 競技用具 154
5901 スノーボード 154
5902 スキー 155

第 5 セクション

6000 アルペンスノーボードイベント 156
6100 競技フィールド（全般的な定義） 156
6101 コース公認 156
6102 コース仕様一覧 156
6103 スタート 157
6104 コース 158
6105 フィニッシュエリア 160
6106 ウォームアップスロープ 161
6200 設営と競技機材 161
6201 スタートとフィニッシュの設置 161
6202 ゲート 161
6203 計測ハウス 162
6204 計測機器 162

6205 ビブナンバー 163
6206 公式案内システム 163
6300 アルペンスノーボード競技役員 164
6301 ジュリー 164
6302 レースディレクター 164
6303 技術代表（TD） 164
6304 競技委員長 164
6305 レフリー 164
6306 コース係長 165
6307 競技セクレタリー 165
6308 コースセッター 165
6309 スタートとフィニッシュ役員 166
6310 競技スタッフ 167
6311 リザルト係長（計時計算係長） 169
6400 旗門＆フィニッシュコントロール 169
6401 旗門通過 169
6402 競技会の責任 170
6403 旗門審判 170
6404 制裁／失格の即時通告 172
6405 フィニッシュラインの通過 172
6406 ビデオコントロール 172
6500 競技フォーマット＆ヒートの説明 173
6501 シングルフォーマット–2 本滑走 173
6503 デュアルフォーマット 173
6504 パラレルイベント 173
6600 フェイズ＆手順 177
6601 エントリー 177
6602 TC ミーティング 177
6603 フォーマットの発表 177
6604 ドロー／スタート順 177
6605 コースセット 179
6606 コースインスペクション 182
6607 スタート手順と合図 182
6608 抗議、再走、ペナルティ／制裁 183
6609 特別な手順 183
6610 表彰 185
6700 リザルトと最終ランキング 185
6701 スタートでのインフォメーションとリザルトリスト 185
6702 最終ランキング 187
6703 競技不成立後のリザルト 188
6800 パラレルチームイベント 188
6801 チーム認定 188
6802 チーム資格 188
6803 チームシード 189
6804 競技 189
6805 ペナルティタイム 189
6900 用具 189
6901 競技ウェア 189
6902 ヘルメット 189
6903 ボード 189

第 6 セクション

2900 人口照明下における競技会 191

第７セクション

考慮すべきその他のブック（冊子） 192
ブラケットの例 193

序文

スノーボード　フリースタイル　フリースキー
使命と展望

展望

将来に向かってスノースポーツを世界的に拡大すること

使命

競技者が参加したくなるような、そして観客が注目するような
持続的大会を開催するために協力する

200 全競技共通規程

200.1 FIS カレンダー大会はすべて、関連する FIS 規則の下に開催する。

200.2 組織と運営
各種競技会の組織と運営に関する規則や指示は、それぞれの規則を参照する。

200.3 参加
FIS カレンダーに掲載されている競技会には、所属国スキー連盟が適切に許可し、且つ、最新のクォータに従いエントリーされた選手が参加できる。

200.4 特別規程
FIS 理事会は、異なる参加資格基準がある国内または国際競技会を開催するために、各国スキー連盟に規則や規程を採用する権限を与えることができる。ただし、現行規則の範囲内であることを条件とする。

200.5 コントロール
FIS カレンダーに掲載されている全競技会は、FIS 技術代表（以下「TD」）により監督されなければならない。

200.6 選手、オフィシャル、コーチについて科され、公表されたあらゆる法的制裁は、FIS 及び各国スキー連盟に承認される。

201 競技会の分類及び種類

201.1 特別規則及び／または参加制限のある競技会
FIS 加盟国スキー連盟、またはこれらのスキー連盟に所属し連盟の承認を得たクラブは、近隣国スキー連盟またはそのクラブを、自らの開催する競技会に招待することができる。ただし、これらの競技会を国際競技会として公表、告知してはならない。告知の際に、その参加制限を明確にしなければならない。

201.1.1 特別規則及び／または参加制限のある競技会や、FIS 非加盟連盟を含む競技会を、FIS 理事会の承認する特別競技規則の下で開催することができる。そのような規則は、その告知の中で、公表されなければならない。

201.2 FIS 非加盟連盟の競技会
FIS 理事会は、FIS 加盟国スキー連盟が、競技会に FIS 非加盟連盟組織（軍隊など）を招待することや、そのような組織からの招待を受理することを承諾することができる。

201.3 競技会の分類

201.3.1 オリンピック冬季競技大会、FIS 世界選手権大会、FIS ジュニア世界選手権大会

1 ICR のなかの「彼／彼の」などは、「彼女／彼女の」などの意味を含む。

201.3.2　FIS ワールドカップ

201.3.3　FIS コンチネンタルカップ

201.3.4　国際 FIS 競技会（FIS レース）

201.3.5　特別参加及び／または参加資格のある競技会

201.3.6　FIS 非加盟組織との競技会

201.4　FIS 競技（FIS Disciplines）
競技とはスポーツの１つの分野であり、また、１つまたは複数の種目を含む。例えば、クロスカントリースキーは、FIS 競技であり、クロスカントリースプリントは、種目である。

201.4.1　FIS 競技の承認
新しい競技が、１つまたは複数の種目からなり、少なくとも 25 ヶ国と３大陸で広く行われている場合、FIS プログラムとして含むことができる。

201.4.2　FIS 競技からの除外
競技が少なくとも２つの大陸の 12 カ国のスキー連盟で行われない場合、FIS 総会は FIS プログラムからその競技を除外することができる。

201.5　FIS イベント
イベントは、スポーツの競技会、またはその競技の内の１つである。それは、順位（ランキング）がつけられ、メダル及び／またはディプロマが与えられる。

201.6　競技会のタイプ
国際競技会は、次からなる：

201.6.1　ノルディック大会
クロスカントリー、ローラースキー、スキージャンプ、スキーフライング、ノルディックコンバインド、ノルディックコンバインド団体、ローラースキーまたはインラインを用いたノルディックコンバインド、スキージャンプ団体、プラスティックジャンプ台でのスキージャンプ、ポピュラークロスカントリーレース

201.6.2　アルペン大会
滑降、回転、大回転、スーパー大回転、パラレル、複合、KO、団体

201.6.3　フリースタイルスキー大会
モーグル、デュアルモーグル、エアリアル、スキークロス、ハーフパイプ、スロープスタイル、ビッグエア、団体

201.6.4　スノーボード大会
スラローム、パラレルスラローム、大回転、パラレル大回転、スーパーG、ハーフパイプ、スノーボードクロス、ビッグエア、スロープスタイル、団体

201.6.5　テレマーク大会

201.6.6　フィルングライテン

201.6.7　スピードスキー大会
スピード１（S1）、スピード２（S2）、スピード２ジュニア（S1J）

201.6.8　グラススキー大会

201.6.9　他のスポーツとの複合大会

201.6.10　チルドレン、マスターズ、パラスノー大会等

201.7　FIS 世界選手権大会プログラム

201.7.1　FIS 世界選手権大会のプログラムに含まれるために、種目は、数と地理的に認められた国際的立場があり、また、世界選手権大会プログラムに含まれることが考慮される前に、少なくとも２年間ワールドカップに含まれていなければならない。

201.7.2　世界選手権大会の遅くとも３年前までには、種目は、（世界選手権プログラムに含まれることを）認められる。

201.7.3　単一の種目は、個人ランキングとチームランキングの両方を同時にもたらすことはできない。

201.7.4　FIS 世界選手権大会及び FIS ジュニア世界選手権大会のすべての競技（アルペン、ノルディック、スノーボード、フリースタイルスキー、グラススキー、ローラースキー、テレマーク、スピードスキー）で、団体及び個人種目にそれぞれ８ヶ国以上の参加があった場合のみに、メダルは授与される。

202　FIS カレンダー

202.1　立候補と告知

202.1.1　各国スキー連盟は、「世界選手権大会開催規則」に従い、FIS 世界選手権大会の開催立候補を表明する権利を持つ。

202.1.2　その他すべての競技会については、FIS が発行する FIS カレンダー・カンファレンス規則に従い、各国スキー連盟が、国際スキーカレンダーに掲載するための登録を FIS にしなければならない

202.1.2.1　各国スキー連盟は８月 31 日までに、FIS ウェブサイトのメンバーセクション www.fis-ski.com にある FIS カレンダープログラムを使い FIS に申請を提出しなければならない。（南半球は５月 31 日まで）

202.1.2.2　競技会の割り当て
各国スキー連盟への競技会の割り当ては、FIS と各国スキー連盟の間での電子通信を通じて行う。FIS ワールドカップ競技会の場合、カレンダーは、それぞれの技術委員会の提案に基づき、理事会の承認を条件とする。

202.1.2.3　コース公認

FIS カレンダーに掲載されている競技会は、FIS 公認を受けた競技コースまたはジャンプ台でのみ開催することができる。大会の申し込みをする際に、コース公認証番号が含まれなければならない。

202.1.2.4 FIS カレンダーの公表
FIS カレンダーは、FIS により FIS ウェブサイト（www.fis-ski.com）で公表される。FIS が、キャンセル、延期、その他の変更を絶えず反映させ、アップデートする。

202.1.2.5 延期
FIS カレンダーに掲載されている競技会が延期となる場合、FIS に速やかに連絡し、各国スキー連盟に新しいインビテーションを送付しなければならない。さもなければ、その競技会は FIS ポイント対象とならない。

202.1.2.6 カレンダーフィー
"年会費に加え、カレンダーフィーが FIS 総会で決められ、FIS カレンダー上の各大会分を毎年支払うものである。競技日の 30 日前に提出された申請については、通常のカレンダーフィーに加え、50%の追加料金を支払う。代替となった大会についてのカレンダーフィーは、全額の支払い責任が元の開催国スキー連盟にある。

シーズン初めに、各国スキー連盟に前シーズンの実績の 70％の請求書が送られる。この請求額は FIS アカウントから引き落とされる。シーズン終了後、各国スキー連盟は、そのシーズンのすべての競技会の詳細な請求書を受取る。その後、差額が当該国の FIS アカウントから引き落とされる、もしくは入金される。

202.1.3 レース開催者の任命
各国スキー連盟が、加盟しているスキークラブなどをレース開催者に任命する場合、「国内スキー連盟と開催者の登録用紙」または同様の同意書を利用して任命する。各国スキー連盟による国際スキーカレンダーへの大会申請は、大会開催について必要な同意が確立されたものとみなす。

202.2 他国でのレース開催
他国のスキー連盟により開催される競技会は、開催地となる国のスキー連盟が承認したときにのみ、FIS カレンダーに掲載される。

203 FIS レース参加ためのライセンス（FIS ライセンス）

FIS レースに参加するためのライセンスは、FIS に各競技（複数可）において選手登録をし、参加基準を満たす選手に、各国スキー連盟により発行される。

203.1 FIS ライセンスイヤーは、7 月 1 日から始まり、翌年 6 月 30 日に終了する。

203.2 FIS 大会への参加資格を得るには、選手は所属国スキー連盟が発行したライセンスを所持しなければならない。このライセンスは、当該ライセンスイヤー期間中のみ、北半球及び南半球で有効である。ライセンスは特定の 1 ヶ国または特定の複数大会での参加に限って有効である。

203.2.1 FIS レースに参加するために FIS ライセンスを登録した選手全員が FIS 規則を承諾していることを、各国スキー連盟は保証しなくてはいけない。特に、ドーピング事例における上訴裁判所としてのスポーツ仲裁裁判所（CAS）の独占的権限に触れている条項を承諾していることを保証しなければならない。

203.3　選手がパスポートのコピーを提出することでその国籍と有資格を証明し、FIS 理事会が承認した書式の選手宣誓書に署名し、それを所属のスキー連盟に返送した場合にのみ、各国スキー連盟は、FIS ライセンスを発行することができる。未成年の申請者から提出されるすべての書類には、保護者（法的後見人）の署名が必要である。パスポートのコピーと署名された選手宣誓書は、要望に応じて、FIS に提出できるようにしなくてはならない。

203.4　FIS ライセンスイヤー（7 月 1 日から翌年 6 月 30 日）の期間中、選手は 1 ヶ国のスキー連盟が発行する FIS ライセンスを持って、国際 FIS 競技会に参加することができる。

203.5　FIS ライセンス登録の変更申請

一国のスキー連盟から他国のスキー連盟へのライセンス登録の変更申請は、春の FIS 理事会で検討される。原則として、選手が、新しい国への関連を証明しない場合、ライセンス登録の変更申請は認められない。ライセンス登録の変更申請を提出する前に、選手は競技をする国の市民権及びパスポートを所持していなければならない。加えて、新しい国/スキー連盟への登録の変更を要望する日から遡り、２年間以上、その選手はその国の主たる法的に有効な居住地がなければならない。選手が、新たに登録する国で生まれている場合、また、父または母がその国の国民である場合、２年間の居住規則への例外が撤回される。また、選手は、個人の状況についての詳細な説明と、ライセンス登録の変更申請の理由を、申請と共に提出する必要がある。
親が新しい国のパスポートを取得したが、その居住者でなく、および／または、祖先がいない場合、申請は認められない。

203.5.1　選手が、各国スキー連盟を代表して FIS カレンダー大会に既に参加している場合、新しく所属するスキー連盟が登録変更の要望を FIS に送る前に、203.5 条に記載の市民権・パスポート・居住地に関する必要事項に加えて、前所属のスキー連盟から書面での同意が必要である。
このような書面の同意がない場合、選手は、前所属のスキー連盟を代表して参加したシーズンの終わりから 12 ヶ月間 FIS カレンダー大会に参加できなく、また、新しく所属するスキー連盟より FIS レースに参加するためのライセンスの発行を受けることもできない。
これらのルールは、選手が複数の国籍を持ち、ライセンス登録国の変更を希望するときにも有効である。

203.5.2　規則のスピリットに反していて、国際スキー連盟の利益と考えられる場合、FIS 理事会は、前述の条件が満たされるにも関わらず、ライセンスの付与または、付与、変更を断る権利を完全なる裁量権で保持する。（例：加盟国スキー連盟が選手を輸入しようとする場合、ライセンス登録の変更を拒否する。）

203.5.3　ライセンス登録国の変更申請に必要な条件を満たさない場合、
例外的な状況があり、その変更を許諾することが国際スキー連盟の利益である旨を、書面にて、FIS 理事会が納得するように説明する義務は、選手にある。

203.5.4　選手が所属国スキー連盟を変更する場合、前の所属スキー連盟がその選手の移籍を許諾する条件で、それまでの FIS ポイントを保持する。

203.5.5 各国スキー連盟が提出したライセンス登録の変更申請書類（前の所属スキー連盟からの同意書面、パスポート、居住地に関する手紙）が虚偽と分かった場合、FIS 理事会は、その選手と新しく所属するスキー連盟に罰則を科す。

204 選手の参加資格

204.1 各国スキー連盟は、次に該当する選手をその組織の中で、サポート又は登録をしてはならず、並びに FIS レースまたは国内レースに参加をするためのライセンスを発行してはならない。：

204.1.1 不品行またはスポーツマンらしからぬ行為を犯したことがある、もしくは FIS 医事規定やアンチドーピング規則を尊重しなかったことがある。

204.1.2 直接もしくは間接的に、競技会への出場に対する金銭報酬を受ける、または受けたことがある。

204.1.3 219 条に定められたよりも高価な賞を受ける、または受けたことがある。

204.1.4 所属国スキー連盟または担当プールが当事者となってスポンサー、用品、広告に関する契約を結んでいる場合を除き、自分の氏名、肩書き、個人写真が広告に使用されることを許可する、または許可したことがある。

204.1.5 FIS 規則による出場資格を持たない選手と故意に対戦する、または対戦したことがある。ただし、次の場合を除く。：

204.1.5.1 その競技会を FIS 理事会が承認し、FIS または各国スキー連盟が直接コントロールし、かつその競技会が“オープン”競技会として告知されている。

204.1.6 選手宣誓書に署名していない。

204.1.7 出場停止処分中である。

204.2 FIS レースに参加をするためのライセンス発行及びエントリーをもって、各国スキー連盟は、トレーニング及び競技会に対する十分かつ有効な傷害保険がその選手にかけられていることを確認し、全責任を負う。

205 選手の義務と権利

年齢、性別、人種、宗教または信仰、性的志向、健常者または障害者にかかわらず、競技者は安全な環境でスノースポーツに参加し、薬物から保護される権利を持つ。

FIS はすべての加盟国に、子どもと若者の福祉を保護し、促進する政策を育成することを推奨する。

205.1 選手には FIS 規則を熟知する義務があり、ジュリーからの追加の指示にも従わなければならない。また、選手は、FIS 規則と規程に従わなければならない。

205.2 選手はドーピングを使用してはならない。（FIS アンチドーピング規則＆手続きガイドラインを参照。）

205.3 選手宣誓書に書かれてあるように、選手は、トレーニングコース・競技コースの安全性の懸念についてジュリーに報告する権利がある。更なる詳細は、対応する競技規則に記載されている。

205.4 表彰式に理由なく欠席した選手は、賞金を含むいかなる賞に対する請求権を失う。
例外的な状況においては、所属チームのメンバーが代理出席することもできるが、この代理人が表彰台に立つことはできない。

205.5 選手は、組織委員会委員、ボランティア、役員、一般の人々に対し、礼儀正しくかつスポーツマンらしくふるまわなければならない。

205.6 選手へのサポート

205.6.1 FIS レースに参加をするために、所属のスキー連盟を通して FIS に登録をする選手は、次を受ける可能性がある：

205.6.2 トレーニング及び競技会場への旅費の完全な補償

205.6.3 トレーニング及び競技期間中の宿泊費全額払い戻し

205.6.4 ポケットマネー

205.6.5 各国スキー連盟の決定に従い、所得喪失に対する補償

205.6.6 トレーニングや競技会のための保険を含む社会保障

205.6.7 奨学金

205.7 各国スキー連盟は、選手が引退した後の将来の職業と教育を保証するために、資金を積み立てることができる。各国スキー連盟の判断に従ってのみ分配されるこれらの資金に対し、選手は請求権を持たない。

205.8 競技会のギャンブル
選手、コーチ、チーム役員、競技役員は、自身が関係する競技会の結果への賭博行為を禁止されている。

206 広告とスポンサーシップ

この国際競技規則の文脈では、“広告”とは、会場での標識の提示やその他の表示と見なされ、一般の人々に、会社や組織の認知度を上げるために商品名やサービス名を伝え、及び、そのブランド名、活動、商品、サービスを伝えている。一方で、スポンサーシップは、会社に、競技会や大会のシリーズ（series of events）と直接のかかわりを持つ機会を提供する。

206.1 オリンピック冬季競技大会と FIS 世界選手権大会
オリンピック冬季競技大会と FIS 世界選手権大会のすべての広告とスポンサーシップの権利は、それぞれ、IOC と FIS に属し、別の契約の取り決めに従う。

206.2 FIS 大会

すべての FIS 大会では、FIS 広告規則が、競技エリアでの広告の機会を定義している、そして、FIS 理事会の承認を必要とする。FIS ワールドカップ大会の場合、FIS 広告規則が各国スキー連盟と開催地との FIS 開催地契約書の不可欠な部分を形成する。

206.3 加盟国スキー連盟

FIS カレンダーに掲載される大会を自国で開催する各国スキー連盟は、大会の広告権利保持者として売買契約する権限がある。FIS ワールドカップ競技会の場合、これらの権利は、FIS 理事会の承認に基づき、各国スキー連盟の責任を考慮に入れている開催地契約書に定義される。
各国スキー連盟が自国の外で大会を開催する場合、これらの広告規則が同様に適用される。

206.4 タイトルスポンサーとプレゼンティングスポンサーの権利

FIS シリーズが FIS 理事会で承認された場合、FIS は、タイトル/プレゼンティングスポンサー（代わりの名称も可能）パッケージの権利をマーケティングする。FIS ワールドカップシリーズの場合、これらの権利は、当該競技種別のイメージと価値を促進する適切なスポンサーに売られる。タイトルスポンサー/プレゼンティングスポンサーの権利の売却から生まれる収入は、プロフェッショナルの運営を提供するために、FIS により使われる。

206.5 マーキングの使用とサポート

全ての広告とコマーシャルマーキングそして用いられるサポートは、適切な FIS 広告規則で説明される技術的な規格に準ずる。

206.6 広告パッケージ

広告の場所、数、サイズ、形は、各競技種別の FIS 広告規則に明記される。グラフィックのイラストを含む詳細な情報は、FIS ウェッブサイトで公開されている各競技種別のマーケティングガイドに書かれている。マーケティングガイドは、必要に応じて、FIS 広告委員会によって見直され、更新され、そして、FIS 理事会で承認後、公開される。

206.7 商業賭け企業(commercial betting companies)によるスポンサーシップ

206.7.1 FIS はタイトル/プレゼンティングスポンサーの権利を商業賭け企業(commercial betting companies)に与えない。

206.7.2 商業賭け企業(commercial betting companies)による大会のスポンサーシップは、206.7.3 条を条件として認められる。

206.7.3 選手を使ったまたは選手に付ける商業賭け企業(commercial betting companies)の広告/他の賭博行為（ヘッドスポンサー、競技スーツ、スタートビブ、賞品）は、ロッタリー及びスポーツに関連のない賭博行為を運営する企業のみを除いて禁止される。

206.8 各国スキー連盟またはそのプールは、資金提供や用品・商品の供給について、オフィシャルサプライヤーまたはスポンサーとして各国スキー連盟に認められている企業や組織と契約することができる。
FIS や IOC の出場資格規則によって資格を持たないスポーツマンと一緒に、FIS 選手の写真、肖像または氏名を使用した広告を禁止する。

タバコ、アルコール製品、ドラッグ（麻薬）を選手で宣伝すること、または選手を使い宣伝することを禁止する。

206.9 そのような契約のすべての対価は、各国スキー連盟またはスキープールへ支払われなければならない。各国スキー連盟やスキープールは、各国スキー連盟の規程に従って対価を受け取る。
205.6 条に定められた場合を除き、選手がそのような対価を例え一部であれ直接受け取ることはできない。FIS は契約書のコピーをいつでも請求することができる。

206.10 ナショナルチームに供給され、使用されている用品、商品のマーキングやトレードマークについては、207 条の規格に従わなければならない。

207 競技用品とコマーシャルマーキング

207.1 FIS 大会における競技用品

FIS ワールドカップ及び FIS 世界選手権大会においては、広告に関する FIS 規則に準じ、各国スキー連盟が提供し、且つ承認したコマーシャルマーキングのついた競技用品のみ身につけることができる。ウェアー、用品へのわいせつな名前及び/また記号の記載は、禁止されている。

207.1.1 FIS 世界選手権大会、FIS ワールドカップ及びすべての FIS カレンダーの大会において、国歌演奏及び/または国旗掲揚を伴う公式セレモニーに、選手が用品（スキー／ボード、ポール、スキーブーツ、ヘルメット、眼鏡類）を持つことはできない。しかしながら、全セレモニー（トロフィー及びメダルの授与、国歌演奏）が終了した後、プレス写真や撮影等のために、表彰台の上で用品を持つことは認められる。

207.1.2 表彰式（Winners Presentation）／表彰台での用品

FIS 世界選手権大会及び全ての FIS カレンダーの大会では、選手は以下の用品を表彰台に持ち込むことが許されている：

- スキー/ スノーボード
- 履物：選手はブーツを足に履くことができる。しかし、それ以外の場所（例：選手の首周り等にかける）は許されない。選手が履く場合を除き、その他のシューズをプレゼンテーション中に表彰台に持ち込むことはできない。
- ポール：スキーの周囲に持ったり、取り付けてはならない。通常はもう一方の手に持つこと。
- ゴーグル：着用するか、または首の周りの何れかとする。
- ヘルメット：被る場合、頭に被るのみ。スキーまたはポール等の他の用品の上に乗せるなどの行為は認めない。
- スキーストラップ： スキーの製造メーカー名が付いたものを２本まで使用できる。内、１本はワックスメーカーのために使用できる。
- ノルディックコンバインド、クロスカントリーのスキーポールクリップ：クリップは、２つのポールを束ねるために使用できる。そのクリップの幅は２つのポール幅が認められるが、4cm 以内とする。その長さ（高さ）は、10cm が認められる。そのクリップの長い辺（サイド）は、ポールに対して平行でなければならない。そのポールメーカーのコマーシャルマーキングは、そのクリップの表面全体を覆うことができる。

- その他全てのアクセサリーを禁止する。：ベルト付ウエストバック、ネックバンドに付いた電話、ボトル、リュックサック／バックパックなど。

207.1.3 受賞者の非公式プレゼンテーション（フラワーセレモニー）、及び大会終了直後の大会エリアでの国歌演奏を伴う受賞者セレモニーは、抗議時間終了前であっても、開催者自らの責任において開催が認められる。スタートビブを見えるように着用することは義務である。

207.1.4 制限された通路（リーダーボード及び TV インタビューエリアを含む）での、大会のスタートビブまたは各国スキー連盟のアウターウエアーの着用は、義務である。

207.2 コマーシャルマーキング

用品とウェアー上のコマーシャルマーキングのサイズ、形状、数に関する規格は、コマーシャルマーキング及び広告に関する細則と同様に、広告委員会により検討され、毎春、FIS 理事会が次のシーズンに向けて承認し、FIS から公表される。

207.2.1 競技用品規格／コマーシャルマーキングで公表されている関連する細則と同様に、用品とウェアー上のコマーシャルマーキングと広告を管理する規則は遵守されなければならない。

207.2.2 これらの広告規則に違反した選手は、223.1.1 条に規定されているように制裁に科される。制裁が適用され、ペナルティが科される違反行為は、競技規則違反または不順守の行為として定義される。

207.2.3 各国スキー連盟がこれらの規則を施行できない場合、または、何だかの理由でその件を FIS に差し戻す場合、FIS は選手のライセンスの即時停止処置を取ることができる。当該選手や当該国スキー連盟は、最終決定が下される前に、上訴する権利を持つ。

207.2.4 広告主が、選手の氏名、肩書き、個人写真を、商品の広告、推薦、販売に関連付けて、選手の承諾を得ずに無断で使用した場合、選手は所属国スキー連盟または FIS に対して「委任状」を渡すことができる。この委任状により、必要な場合は所属国スキー連盟または FIS が、問題の企業に対し法的手段に出ることができる。選手がそのようにできない場合、FIS は選手が問題の企業に許可を与えたものと判断する。

207.2.5 選手の参加資格、スポンサーシップ、広告、選手へのサポートに関して、FIS 理事会は、これらの規則の違反や不履行について報告を受け、問題についての対応策を検討する。

208 電子メディア権利の利用

208.1 原則

208.1.1 オリンピック冬季競技大会、FIS 世界選手権大会
オリンピック冬季競技大会及び世界選手権大会のすべてのメディアの権利は、それぞれ IOC、FIS に属し、別の契約に基づかれる。

208.1.2　各国スキー連盟が持つ権利
FIS カレンダーに掲載されている大会を自国開催する FIS 加盟国スキー連盟は、電子メディア権利の所有者として、それらの大会の電子メディア権利の販売契約を締結する権限がある。各国スキー連盟が自国以外で大会を開催する際、これらの規則が適用されるが、大会が開催される国のスキー連盟との２国間協定に従うものとする。

208.1.3　プロモーション
スキーとスノーボードスポーツの広いプロモーションと露出の目的で、各国スキー連盟の利益を考慮し、契約は、FIS と協議して、準備される。

208.1.4　大会へのアクセス
全ての競技会において、メディアエリアへの人と器材の入場は、必要なアクレディテーションとアクセスパスを持つ人物に限られる。アクセスの優先権は、権利保持者に与えられる。アクレディテーションシステムとアクセスコントロールは、非権利保持者によるあらゆる不正を避けなければならない。

208.1.5　FIS 理事会によるコントロール
FIS 理事会は、各国スキー連盟及びすべての開催者によるこの規則の原則への順守をコントロールする。それについての契約や条項が FIS、各国スキー連盟、大会開催者の利益の利害衝突をもたらす場合、FIS 理事会により検討される。適切な解決方法を見つけるため、全ての情報が提供される。

208.2　定義
この規則の中では、次の定義が適用される。：

「電子メディア権利」とは、テレビ、ラジオ、インターネット、モバイル機器の権利を意味する。

「テレビの権利」は、地上波、衛星、ケーブル、電線の方法による、テレビスクリーンでの公と私的な視聴を目的とした、映像と音からなる、アナログとデジタルの両方での、TV 映像の配信を意味する。番組有料視聴制、定期視聴、インタラクティブ TV、ビデオ・オン・ディマンド・サービス、IPTV、または同様のテクノロジーは、この定義に含まれる。

「ラジオの権利」は、無線、有線、ケープルで、固定とポータブルの機器へのアナログとデジタルのラジオプログラムの配信と受信を意味する。

「インターネット」は、相互接続されたコンピューターネットワークを通じての映像と音へのアクセスを意味する。

「モバイル及びボーダブル機器」は、テレフォンオペレーターを通じた、携帯電話やその他の固定されていない機器（例：パーソナル・デジタル・アシスタント）での受信可能な映像と音の提供を意味する。

208.3　テレビ

208.3.1　製作の基準及び競技会のプロモーション
ホスト放送局のテレビ会社または代理店との製作に関する契約について、FIS カレンダーに掲載されているスキー／スノーボード大会、特に FIS ワールドカップ競技会のテレビ放送の質が考慮されなければならない。放送に影響を及ぼす国内法令と規則を考慮に入れた上で、次の点が特に重要である：

a) スポーツを中心にした、最高品質かつ最適なテレビ信号（ライブまたはディレイは、その大会による）の制作。

b) 会場の広告とイベントスポンサーの適切な配慮と露出。

c) FIS テレビ製作ガイドラインに沿った製作基準とその競技の現行マーケットの状況と FIS 競技会シリーズのレベルに対して適切な製作基準。このことは、表彰式のライブ放送を含む、大会全体のライブ放送を意味する（事情により、ライブ放送が提供されない限り）。放送は特定の選手や国に集中されずに、自然な形で製作され、全選手が映される。

d) ホスト放送局のライブ国際信号は、適切な英語のグラフィック、特に FIS オフィシャルロゴ、タイミング＆データインフォメーション、リザルト、及び国際音声が含まれていなければならない。

e) 個別のテレビマーケットの必要に応じて、大会開催国と関心が高い国ではライブテレビ放送が行われるべきである。

208.3.2 製作及び技術コスト

各国スキー連盟と代理店／権利を管理する会社との間で合意している場合を除き、様々な権利の使用の目的でのテレビ信号の製作コストは、放送局や製作会社により負担される。その放送局は、競技会が行われる国で権利を獲得した放送局であり、製作会社は権利を持っている会社から信号製作を依頼された製作会社である。開催者や各国スキー連盟が、これらの費用を負担するケースもある。

この規則の基に得られた様々な権利に関して、技術費用は、権利を得て、テレビ信号へ（解説抜きのオリジナルの画と音）のアクセスを求めている会社より支払われ、技術費用は、必要に応じて、制作会社または代理店／権利を管理する会社との間で合意されなくてはならない。このことは、また、その他の制作コストに適用される。

208.3.3 短い抜粋

非権利保持者のためにニュースアクセスを可能にする短い抜粋は、次の規則にそって、テレビ会社に提供される。多くの国の国内法が、ニュースプログラム内での短い抜粋を放送することを法律に定めていることに注意する。

これらの抜粋は、定期的に予定されているニュースプログラム内でのみ使用することができる。保管目的で保存することはできない。

a) スポーツ大会のニュースアクセスに関して法律がある国では、FIS 大会の報道について、その法律が常に優先される。

b) 競合するネットワークによるニュースアクセスに関する法律がない国では権利を管理する会社と主要権利保持者（Primary right holder）の契約が優先される条件で、権利を保持しているネットワークが競技会を放送してから 4 時間後に、放送権を管理する代理店／会社により、最大 90 秒のニュースアクセスが競合ネットワークに与えられる。この素材の使用は、競技会終了後 48 時間以内で止める。権利を保持しているネットワークが競技会の終了から 72 時間以上遅れて放送する場合、競合するネットワークは、最大 45 秒の短い抜粋を、大会終了後の 48 時間後から 72 時間後まで放送できる。短い抜粋を使用する要望は、代理店／権利を管理する会社に伝えられ、放送局に短い抜粋へのアクセスが与えられる。但し、素材を受取りに発生する技術費用に関する合意に基づかれる。

b) テレビ会社が放映権を購入していない国では、すべてのテレビ会社が、素材が手に入り次第、45 秒間の短い抜粋を放送できる。但し、素材の受取り

に発生する技術費用に関する合意に基づかれる。この素材の使用許可は、48 時間後に終了する。

d) 208.3.2 が考慮されながら、短い抜粋は、ホスト放送局や代理店／権利を関する会社により製作、配信される。

208.4 ラジオ

関心がある各国の主要ラジオ局にアクレディテーションを与えることで、ラジオプログラムを通じた FIS の大会のプロモーションが促される。会場へのアクセスは、権利保持者から必要な契約上の認可を得たラジオ会社に限り認められ、ラジオ（オーディオ）プログラムの製作の目的のみである。国内の慣例により受け入れられ、認可が得られている場合、これらのプログラムをラジオ局のインターネットサイトで配信することもできる。

208.5 インターネット

FIS の大会にかかる電子メディア権利の販売契約で別段の合意がない限り、インターネットの権利も得た各テレビ権利保持者は、その会社のウェッブサイトから配信される短い抜粋以外のビデオストリームが、自身のテリトリー外からのアクセスに対してブロックされることを保証する。

FIS の大会の素材が含まれる、定期的に予定されているニュースブリテンは、権利を持つ放送局のウェッブサイトで配信することができる。ただし、オリジナルのプログラムで配信されたブリテンを変更しないことが条件である。

アクレディテーション、チケット、その他の許可なしで、アクセスが得られる公共のエリアにおいて製作された映像と音声素材は、レース場面を含んではならない。新しい技術が、一般人が不許可でビデオ撮影をし、ウェッブサイトに掲載することを可能にさせることを認識する。ビデオ素材の許可されていない製作や使用が禁止され、法的手続きが取られる旨を伝える適切な情報が全ての入場口に掲げられ、入場チケットに印刷される。

各国スキー連盟と権利保持者／代理店は、短い抜粋が FIS ウェッブサイトに、非営利目的で掲載されることを許可する。但し、以下を条件とする：

a) インターネット配信向けに短い抜粋が確保できないとき、FIS 競技会からのニュース素材の最長時間は、各競技／各セクション 30 秒とし、競技会の終了後 48 時間以内の間、FIS ウェッブでアクセス可能である。この素材の提供に関する金銭面の条件は、FIS と権利保持者の間で同意される。

b) ニュース素材は、権利保持者やホスト放送局からできるだけ早く提供され競技会終了後、遅くとも 6 時間以内に提供される。

208.6 モバイル及びポータブル機器

モバイル及びポータブル機器により配信権が与えられている場合、権利の購入者／行使する者は、テレビの信号から、消費者の要望を最も良く満たすコンテンツを自由に製作できる。これらの機器を使い国内ベースでライブ配信しているテレビプログラムは、その他の配信チャネルを通じて利用可能なコンテンツより変更されない。

モバイル配信権が売られていない国では、行使する者が関連する技術コストを代理店／権利を管理する会社に支払う条件で、素材が製作されたとき、48 時間の間、短い抜粋や最大 20 秒間のクリップが、行使する者に提供される。

208.7 今後の開発

この 208 条に含まれる原則は、今後の FIS の大会への電子メディア権の利用の基準となる。各国スキー連盟、関連する委員会と専門家の推奨により、FIS 理事会は、新しい開発に適切と考えられる条件を作る。

209 映画権

FIS 競技会の映画製作に関するすべての契約は、映画製作者と各国スキー連盟または関連する権利を管理する会社の間にある。その他のメディア権利の利用に関するすべての契約上の合意が尊重される。

210 競技会の組織

211 組織

211.1 開催者

211.1.1 FIS 競技会の開催者は、必要な準備を行い、開催地で競技運営を直接実行する人物またはそのグループである。

211.1.2 各国スキー連盟自体が競技会開催者ではない場合、加盟しているクラブを開催者として任命することができる。

211.1.3 開催者は、アクレディテーションを受けた人が、競技規則及びジュリー決定に関する規定を受け入れることを保証しなければならない。ワールドカップレースでは、この趣旨の徹底のため、開催者は、有効な FIS シーズンアクレディテーションを持っていない人全員の署名を集める義務がある。

211.2 組織委員会

組織委員会は、開催者及び FIS から委任されたメンバー（実際のまたは法的の）により構成される。組織委員会には、開催者の権利、任務、義務が伴う。

211.3 203-204 条の資格を満たさない選手を参加させた競技会の開催者は、国際競技規則（ICR）に違反したことになり、FIS 理事会はこの開催者に対し処置を講じる。

212 保険

212.1 開催者は、組織委員会全員に損害賠償保険をかけなければならない。組織委員会の委員ではない FIS 職員及び FIS 任命の役員（用品コントローラー、メディカルスーパーバイザー等）が、FIS を代表し働く場合、FIS が彼らに損害賠償保険をかける。

212.2 最初のトレーニングまたは競技の前に、開催者は、広く知らせている保険会社が発行した保険承諾書（保険証書）或いはカバーノート（保険引受証）を取得し、それを TD に提示しなければならない。組織委員会は、最低 100 万スイスフランを補償する損害賠責保険に加入することを必要とする。推奨される賠償総額は最低 300 万スイスフランであり、この金額は FIS 理事会の決定に従って増額することがある。（ワールドカップ等）
さらに、保険証券は、アクレディテーションを受けた選手を含む参加者による、役員、コース作業員、コーチ等を含む、但し、これに限定されない他の参加者に対する損害賠償保険給付支払請求が明白に記されていなければならない。

212.3 開催者が必要な保険補償を準備できていない場合、開催者または開催国スキー連盟は、FIS 保険仲介業者に当該競技会の保険加入手配を依頼することができる（費用は開催者負担）。

212.4 FIS 大会に参加する全選手は、適切な第三者賠償責任保険と同様な、レースリスクを含む事故、輸送、レスキュー費用を補償するのに十分な額の傷害保険に加入していなければならない。各国スキー連盟は、自らが派遣と登録を行った全選手の適切な保険補償について責任を負う。
各国スキー連盟またはその所属選手は、FIS、FIS の代表、組織委員会からの要望に基づき、保険補償を証明するものをいつでも提示できなければならない。

212.5 各国スキー連盟より FIS 大会に派遣・登録されたすべてのトレーナーと役員は、被害からの輸送、レスキュー費用を補償するのに十分な額の傷害保険、第三者賠償責任保険に加入していなければならない。各国スキー連盟またはその所属トレーナーと役員は、FIS、FIS の代表、組織委員会からの要望に基づき、保険補償を証明するものをいつでも提示できなければならない。

213 プログラム

FIS カレンダーに掲載されている各競技会の開催者は、次の事項を含んだプログラムを公表しなければならない：

213.1 競技名称、競技日程、開催地。また、競技会場に関する情報と最善のアクセス方法。

213.2 各競技のテクニカルデータと参加条件

213.3 主要役員の氏名

213.4 第 1 回チームキャプテンミーティング及びドローの時間と場所

213.5 公式トレーニング開始とスタート時間のタイムテーブル

213.6 公式掲示板の設置場所

213.7 授賞式の時間と場所

213.8 エントリー締切日とエントリー用の住所、電話、ファックス、電子メールアドレス。

214 案内

214.1 組織委員会は、大会案内を発表しなければならない。この案内には 213 条に定める情報が含まれていなければならない。

214.2 開催者は、エントリー数の制限について、FIS 規則及び FIS の決定に従わなければならない。201.1 条に基づきエントリー数を減らすことも可能であるが、案内にそのことを明確にすることを条件とする。

214.3 競技会の延期や中止、またプログラムの変更については、電話、電子メール、またはファックスで、FIS、招待した国またはエントリーのあった各国スキー連盟、及び任命された TD へ直ちに連絡しなければならない。競技会の日程を早める場合、FIS の承認を得なければならない。

215 エントリー

215.1 すべてのエントリーは、組織委員会がエントリー締切日までに受け取るように送付しなければならない。開催者は最初のドローの 24 時間前までに、最終的かつ完全なリストを持っていなければならない。

215.2 各国スキー連盟は、同一日に開催される複数の競技会に、同一選手をエントリーおよびドローをしてはならない。

215.3 各国スキー連盟にのみ、国際競技会へのエントリーを行う資格が与えられる。いずれのエントリーも、次の事項を含むものとする：

215.3.1 コード番号、氏名、誕生年、所属国スキー連盟

215.3.2 エントリーする種目の正確な記載

215.4 FIS 世界選手権大会へのエントリーについては、FIS 世界選手権大会開催ルールを参照すること。

215.5 各国スキー連盟による選手のレースエントリーは、当該選手と開催者の間にのみ契約を成立させ、また選手宣誓書によって管理される。

216 チームキャプテンミーティング

216.1 第 1 回チームキャプテンミーティング及びドローの時間と場所は、プログラムに記載されなければならない。その他すべてのミーティングに関する案内は、第 1 回ミーティングのときにチームキャプテンに連絡されなければならない。緊急のミーティングは、余裕をもって連絡されなければならない。

216.2 チームキャプテンミーティングでの議論の際、他国の代理人による出席は認められない。

216.3 チームキャプテンとコーチは、クォータに従い、開催者からアクレディテーションを受けなければならない。

216.4 チームキャプテンとコーチは、ICR やジュリー決定に従わなければならない。また、礼儀正しくかつスポーツマンらしく振舞わなければならない。

217 ドロー

217.1 各種目及び各競技の選手のスタート順は、ドロー及び／またはポイント順による特定の方式に従い決定される。

217.2　書面によるエントリーが締切日までに開催者に届いている場合のみ、各国スキー連盟からエントリーされた選手のドローを行う。

217.3　ドローの時にチームキャプテンまたはコーチの出席がない選手の場合、ミーティング開始までに、エントリーした選手の出場が電話、電報、電子メールまたはファックスで確認された場合のみ、ドローが行われる。

217.4　ドローされたが競技会を欠場した選手は、TD により、その選手名と可能であれば欠場理由を TD レポートに記載されなければならない。

217.5　全参加国の代表をドローに招かなければならない。

217.6　競技を 1 日以上延期しなければならない場合、ドローもやり直さなければならない。

218　リザルトの公表

218.1　非公式及び公式リザルトは、大会別の規則に従って公表する。

218.1.1　リザルトの送信
すべての国際競技会では、スタートとフィニッシュの間は、ダイレクトコミュニケーションがなければならない。オリンピック冬季競技大会では、コミュニケーションは、固定配線で確保されなくてはいけない。ワールドカップ、世界選手権大会、オリンピック冬季競技大会の際、データサービスエリアでは、インターネット（少なくとも ADSL スピード）への接続が要求される。

218.2　全ての FIS 競技会からのデータとタイミングは、FIS、開催者、各国スキー連盟、及び参加者が、ウェブサイトを含む自身の広報の中で自由に使うことができる。ウェブサイト上でのデータとタイミングの使用は、FIS インターネットポリシーに定める条件に従う。

218.3　FIS インターネットポリシーと FIS 競技会関連データのやりとり

218.3.1　概要
スキーとスノーボードのプロモーションの一環として、FIS は各国スキー連盟に対し、メッセージや情報を会員やファンに提供することを奨励し、またそのような努力に感謝する。このような情報提供に関しては、ますます重要となっている媒体はインターネットである。
次のポリシーは、FIS 競技会データの提供を通じて、各国スキー連盟を支援するために、またそれらデータの公開と利用に関する条件を明確にするために定められたものである。

218.3.2　FIS カレンダーデータ
オンライン FIS カレンダープログラムが開発されており、各国スキー連盟が無料で利用できる。

218.3.3　リザルトとスタンディング
FIS 事務局が FIS ポイントの確認し、承認した後、各国スキー連盟は、オフィシャルリザルトを入手できる。このデータ入手を希望する場合は、FIS の IT マ

ネージャーにリクエストする。利用方法及び／または手順といった必要な情報は、IT マネージャーから個々に提供される。FIS ワールドカップリザルトは、リザルトサービスプロバイダーのクレジットを含むものとする。各種カップシリーズのスタンディングについては、ワールドカップの場合はリザルトサービスプロバイダーから受け取り後、提供可能である。その他のカップシリーズの場合は、マニュアルでのインプット後、提供可能である。

1. FIS 競技会のリザルトとデータは、各国スキー連盟、開催者、参加者のウェブサイトでのみ利用可能とし、第三者・組織に商業目的で譲渡することはできない。
   各国スキー連盟は、成績評価等の目的に、このデータを独自ソフトでの利用のためにダウンロードすることができる。
2. 各国スキー連盟のウェブサイトでリザルトを掲載する意向があるが、未加工データをアップロードできるデータベース構造がない場合は、FIS ウェブサイトの関連ページにリンクを貼ることができる。 正確なアドレスは FIS の IT マネージャーから入手可能である。
3. FIS ウェブサイトから、独自のウェブサイトを持つ全ての国内スキー連盟、スキー産業、関連メディアウェブサイトに、リクエストに応じてリンクを設定する。またそれらのサイトから FIS ウェブサイトへの相互リンクも設定すべきである。

218.3.4 開催者によるリザルトへのアクセス
"FIS ワールドカップ開催者は、レースのオフィシャルリザルトがリザルトデータベースの FIS ポイント確認手続で承認された後、これを入手することができる。これはワールドカップ用のコンピュータによる自動処理で、レース終了後直ちに行われる。

リザルトとスタンディングを含む PDF ファイルは、www.fis-ski.com からダウンロードすることができる。ファイルは、次の競技別コードと会場名で分類：AL (Alpine), CC (Cross-Country), JP (Ski Jumping), NK (Nordic Combined), SB (Snowboarding), FS (Freestyle_Skiing) 等。個々の競技会は、www.fis-ski.com 上のカレンダーの詳細なページに表示されているコーデックスによって識別可能である。

219 賞

219.1 賞の授与に関する詳細な規則は、FIS が発表する。賞は、記念品、ディプロマ、小切手または現金からなる。記録に対する賞は禁止されている。FIS 理事会が、競技シーズン約 1 年半前の秋季に、賞金の最低額と最高額について決定する。開催者は、賞金額を 10 月 15 日までに FIS へ連絡しなければならない。

219.2 複数の選手が同タイムでフィニッシュした場合、または同ポイント獲得した場合、これらの選手は、同順位となる。これらの選手には同じ賞、タイトル、またはディプロマが授与される。タイトルまたは賞の割り当てをくじ引きや他の競技会によって行うことは認められない。

219.3 すべての賞は、その競技会の最終日または大会シリーズの最終日までに授与される。

220 チーム役員、コーチ、サービススタッフ、サプライヤー、企業代表者

原則として、これらの規程は全競技に適用され、競技別規則が考慮される。

220.1 大会組織委員会は、その競技会のアクレディテーションを受けた人のリストをTD に渡さなければならない。

220.2 サプライヤー及び職務中の人物が、制限エリア内で広告活動を行ったり、207条違反のはっきりと認識できるコマーシャルマーキングのついたウェアーや用品を身につけることを禁止する。

220.3 チームオフィシャル、アクレディテーションを受けたサービススタッフ及びサプライヤーは、FIS から公式 FIS アクレディテーションを受け取り、特定の職務を遂行しなければならない。個々の開催者は、それ以外の企業代表者やその他の主要人物に対し、自由にアクレディテーションを発行することができる。

220.4 公式 FIS アクレディテーション、または開催者発行の特別アクレディテーションを所持した人のみが、コースやジャンプ台に出入りすることができる（競技別規則に従う）。

220.5 種類の異なるアクレディテーション

220.5.1 はっきりと認識できるアクレディテーションを付けた TD、ジュリー、220 条に述べた人物は、コースとジャンプ台に出入りすることができる。

220.5.2 チーム付きサービスマンは、スタートエリア及びフィニッシュのサービスエリアへ入ることができるが、コースやジャンプ台に入ることはできない。

220.5.3 開催者の裁量でアクレディテーションを受けた企業代表者でも、FIS アクレディテーションを持っていない人物は、コース及び制限されたサービスエリアに入ることはできない。

221 医事サービス、診察、ドーピング

221.1 各国スキー連盟は、レースに出場する自国選手の体の健康に責任を持つ。男女とも選手は皆、自身の健康状態について精密な診断を受ける必要がある。この診断は選手の自国で実施される。

221.2 FIS 医事委員会またはその代表者から要請があった場合、選手は競技前または後に診察を受けなければならない。

221.3 ドーピングは禁止されている。FIS アンチドーピング規則におけるあらゆる違反は、FIS アンチドーピング規則の条項に基づき罰せられる。

221.4 あらゆる FIS 競技会において、ドーピングコントロールが実施される可能性がある（競技外も同様）。規則と手順は、FIS アンチドーピング規則および FIS 手続きガイドラインに記載される。

221.5 選手の性別

選手の性別について疑問や異議申し立てが生じた場合、選手の性別判断に必要な手段を講じるのは、FIS の責任とする。

221.6 開催者に要求される医事サービス

"FIS 競技会に関わるすべての人の健康と安全は、すべての開催者 にとって最大の関心事である。これは、選手、ボランティア、コース作業員、観客を含む。

医事サポートシステムの具体的な構成は、次の要因に左右される:

- 開催される大会のサイズ、レベル、タイプ（世界選手権、ワールドカップ、コンチネンタルカップ、FIS レベル等）、地域のメディカルケアーの基準、地理的な位置、状況
- 予想される選手数、補助員数、観客数
- また、大会医事組織の責任範囲（選手、補助員、観客）は、決められるべきである。

開催者／医事、レスキューサービス長は、オフィシャルトレーニングや競技のスタート前に、必要なレスキュー設備が配置されていることをレースディレクターまたは TD に確認しなくてはいけない。事件や、本来のメディカルプランの使用が妨げられる問題が起きた際、オフィシャルトレーニングや競技会が始まる前までに、バックアッププランが準備されていなければならない。
施設、資源、人員及びチームドクターに関する具体的な必要事項は、各競技の規則と FIS メディカルカイドに書かれてある。

222 競技用品

222.1 選手は FIS 規程に適合した用品を使い FIS 競技会に出場することができる。選手は自身が使用する用品（スキー、スノーボード、ビンディング、スキーブーツ、スーツ等）に関して責任を持つ。自分の使用する用品が FIS 規格及び一般的な安全基準に適合すること、また正しく機能していることをチェックするのは、選手の義務である。

222.2 競技用品という用語は、選手が競技で使用する用品の全アイテムを含む。これには技術的機能を持つ器具と同様にウエアーも含まれる。競技用品全体でひとつの機能単位となる。

222.3 競技用品分野におけるすべての新開発は、原則として FIS の承認を得なければならない。新しい技術開発の承認に対し FIS は如何なる責任も負わない。そして、その新しい技術開発は、導入時には健康に対する未知の危険を含み、事故のリスクを高める原因になることもあり得る。

222.4 新開発は、次のシーズンに向けて、遅くとも５月１日（グラススキーは８月１日）までに提出されなければならない。１年目の新開発は、最初のシーズンに向けて暫定的に承認されるのみで、その次のシーズン前に最終承認を得なければならない。

222.5 競技用品委員会は、FIS 理事会の承認を得て、用品の細則を発表する（許可された用品の定義や説明）。原則として、選手のパフォーマンスを修正したり、失敗したパフォーマンスになりやすい選手の体の傾向を技術的に正す不自然な、または人工的な補助器具は除外する。また、選手の健康に影響を与えたり、事故の危険性を高めるような競技用品も同様に除外する。

222.6 コントロール
競技シーズン前及び期間中、または競技会における TD への抗議の提出時に、競技用品委員会委員またはオフィシャル FIS 用品コントローラーは、各種コントロールを実施することができる。十分根拠のある規程違反疑惑がある場合、証人の立会いの下で、コントローラーまたは TD が直ちに用品を没収、封印し

て FIS に送り、FIS から最終的なコントロールのため公式認定機関へ提出する。競技用品のアイテムに対する抗議の場合、敗訴した側が調査費用を負担する。コントロールが規則に基づいて行われていなかったと証明されない限り、FIS テクニカルエキスパートがコントロールを行ったレースで、独立した検査機関での用品又は用具の検査は要求できない。

222.6.1 公式の FIS 測定手段を使用する FIS 用品測定エキスパートが任命された全ての FIS の大会では、過去の測定に関係なく、その時に実施された測定結果が有効かつ最終である。

222.7 FIS の競技会における科学的および医学的な機器使用の禁止
FIS 世界選手権大会、ワールドカップ、および FIS カレンダーに掲載されているその他の競技会期間中の競技会場において、いかなる各国スキー連盟、その代表者、またはチームメンバーも以下の科学または医学機器（以下、「機器」という）も持ち込みおよび/または使用を禁止する。

- 酸素タンク、シリンダーおよびその関連機器
- 低酸素または高酸素テント、室/空洞およびその関連機器
- 全身凍結のための低温室および関連機器

各国スキー連盟の責任の下、全ての代表者およびチームメンバーが確実に 222.7 条を順守することとする。222.7 条の規則違反については、223.3 の罰則が適応される。違反再発の場合、選手の失格は、この規則違反が最終的な競技結果に関して選手に有利となるかどうかに係らず科されるものとする。

上記に示した制裁に加え、FIS は、関係する各国スキー連盟の費用において競技会場から機器の即時撤去を命ずることができる。

223 制裁

223.1 一般条件

223.1.1 制裁の対象となり、ペナルティを科される可能性のある違反行為を、次の通り定める：
-競技規則違反または不順守
-ジュリーまたは 224.2 条による個々のジュリーメンバーからの指示への不従順
-スポーツマンらしからぬ振る舞い

223.1.2 次の行為も違反とみなす：
-違反を犯そうと企てる
-他者に違反を犯させる原因となる、または他者が違反を犯すよう助長する
-他者が違反を犯すことに助言する

223.1.3 ある行為が違反にあたるかどうかの判断には、次を考慮すべきである：
-その行為が故意によるものかどうか
-その行為が緊急事態に起因するものかどうか

223.1.4 全ての FIS 加盟連盟は、アクレディテーション登録されている会員も含め、FIS 規約及び国際競技規則による上訴する権利を条件に、これらの規則及び科された制裁措置を受け入れ、認める。

223.2　適用

223.2.1　人物
これらの制裁は次に対し適用する：
- FIS または FIS カレンダーに掲載されている大会の開催者からアクレディテーションを受け、競技エリア及び競技に関連するあらゆる場所の内外にいる人物全員。
- アクレディテーションを受けていないが、競技エリア内にいる人物全員。

223.3　ペナルティ

223.3.1　違反行為により、次のペナルティが科される可能性がある：
- 戒告 - 書面または口頭
- アクレディテーションの取り消し
- アクレディテーションの拒否
- 100,000 スイスフラン以下の罰金
- タイムペナルティー

223.3.1.1　FIS 加盟連盟は FIS に対し、連盟が手配しアクレディテーション登録をした人に科された罰金及び生じた総経費の支払に責任を負う。

223.3.1.2　223.3.1.1 条に該当しない人物もまた、FIS に対し、罰金及び生じた総経費の支払に責任を負う。そのような人物が罰金を支払わない場合、FIS 大会アクレディテーション申請への許可を 1 年間、取り消しに 科す。

223.3.1.3　罰金の支払期限は、支払命令から 8 日以内である。

223.3.2　大会に出場する全選手は、さらに次のペナルティが科される可能性がある：
- 失格
- スタートポジションの後退
- 賞及び利益の没収　開催者を受益者とする
- FIS 大会への出場停止

223.3.3　規則に特に記載されている場合を除き、選手のミスが、競技の最終リザルトに有利に働く場合のみ、選手は失格になる。

223.4　ジュリーは、223.3.1 条及び 223.3.2 条に定められたペナルティを科すことができるが、5,000 スイスフランを超える罰金処分や、違反の起きた FIS 大会を過ぎて出場停止処分を選手に科すことはできない。

223.5　次のペナルティ決定は、口頭で下すことができる：
- 戒告
- 所属の各国スキー連盟経由で大会開催者に登録していない人物からの当該大会アクレディテーションの取り消し
- FIS のアクレディテーションを受けた人物の当該大会アクレディテーションの取り消し
- 競技エリアまたは競技に関連するあらゆる会場内にいる人物からの当該大会アクレディテーションの拒否

223.6　次のペナルティ決定は、書面とする：

- 罰金
- 失格
- スタートポジションの後退
- 競技会出場停止
- 所属の各国スキー連盟経由で登録した人物のアクレディテーションの取り消し
- FIS のアクレディテーションを受けた人物のアクレディテーションの取り消し

223.7 書面によるペナルティ決定は、違反者（選手でない場合）、その違反者の所属する各国スキー連盟及び FIS 事務局長に送らなければならない。

223.8 失格は全て、主審及び／または TD レポートに記録する。

223.9 ペナルティは全て、TD レポートに記録する。

224 手続きガイドライン

224.1 ジュリーの権限
大会におけるジュリーには、前述ルールに従い、多数決をもって、制裁を科す権利がある。賛否同数の場合は、ジュリー長の決定投票とする。

224.2 会場内、特にトレーニング及び競技時間内において、投票権を持つ各ジュリーメンバーは、口頭戒告を発し、当該大会のために発行されたアクレディテーションを取り消す権限が与えられる。

224.3 集団違反
複数の人物が同時かつ同一条件の下で同じ違反を犯した場合、ひとりの違反者に対するジュリー決定を、違反者全員に拘束力をもつものとみなすことができる。決定文書には違反者全員の氏名が記載され、ペナルティの範囲は個々に査定する。決定内容は各違反者に通知される。

224.4 制限
違反者に対し、制裁発動手続きが違反後 72 時間以内に始まらなかった場合、その人物は制裁を受けない。

224.5 違反の疑いのある行為を目撃した人物は、ジュリーの召集するヒアリングで証言しなければならない。またジュリーは、全ての関連証拠を考慮に入れなければならない。

224.6 用品ガイドラインに違反して使用された疑いのある物を、ジュリーは没収することができる。

224.7 ペナルティを科す前に（223.5 条及び 224.2 条による戒告及びアクレディテーションの取り消しのケースを除く）、違反に問われている人物には、ヒアリングで口頭または書面により抗弁する機会が与えられる。

224.8 ジュリー決定は全て書面で記録し、次を含むものとする：

224.8.1 犯した疑いのある違反行為

224.8.2　違反の証拠

224.8.3　違反したルールまたはジュリー指示

224.8.4　科されたペナルティ

224.9　ペナルティは違反に対し妥当なものとする。ジュリーが課すペナルティの範囲は、あらゆる軽減及び加重事由を考慮されたものでなければならない。

224.10　救済策

224.10.1　224.11 条に規定された以外は、国際競技規則の条項に従い、ジュリーのペナルティ決定を上訴することができる。

224.10.2　国際競技規則の定める期限内に上訴しない場合、ジュリーのペナルティ決定は確定的となる。

224.11　次のジュリー決定については、上訴できない：

224.11.1　223.5 条及び 224.2 条による口頭によるペナルティ

224.11.2　単一の違反に対して CHF1,000 未満の罰金。そして、同一人物による繰返しの違反に対して、追加の CHF2,500 の罰金

224.12　その他全てのケースについて、国際競技規則に従い、上訴委員会へ上訴できる。

224.13　ジュリーは上訴委員会に対し、5,000 スイスフランを超える罰金処分や、違反の起きた大会を過ぎての出場停止処分について（223.4 条）、勧告を提出する権利を持つ。

224.14　FIS 理事会は上訴委員会に対し、ジュリーによるペナルティ決定書に関するコメントを提出する権利を持つ。

224.15　手続きの費用
旅費を含む費用及び現金経費は、TD に支払われる費用と同等に計算し、違反者が支払うものとする。ジュリー決定の全てまたは一部破棄の場合、全ての費用を FIS が負担する。

224.16　罰金刑の執行

224.16.1　FIS が罰金刑の執行と手続費用について監督する。執行費用は手続きの費用とみなす。

224.16.2　違反者に科された罰金の未払いについては、違反者の所属国連盟の債務とみなす。

224.17　振興基金
罰金は全額、FIS ユース振興基金に払い込むものとする。

224.18　FIS ドーピング規則違反には、これらは適用されない。

225　上訴委員会

225.1　任命

225.1.1　FIS 理事会は、各競技のルール小委員会（ルール小委員会がない場合は、各競技の委員会）から、上訴委員会の委員長と副委員長を任命する。委員長ができない場合、または偏見や先入観のため不適格な場合、副委員長が議長を務める。

225.1.2　委員長は、上訴またはヒアリングのために提出された各ケースのため、各競技のルール小委員会、または各競技の委員会から、3 名の上訴委員会委員を任命する。この 3 名のなかに委員長自身を入れることも可能である。決定は多数決とする。

225.1.3　偏見や先入観を避けるため、またはそれらが現れるのを避けるため、上訴委員会に任命される委員は、上訴中の違反者と同じ国の連盟に所属する者であってはならない。さらに、上訴委員会に任命された委員は、違反者に対し良くまたは悪く抱いている偏見や先入観を委員長に自発的に報告しなければならない。偏見や先入観をいだいている人は、委員長により上訴委員会の委員として不適任とされる。委員長は、副委員長により不適任とされる。

225.2　責任

225.2.1　上訴委員会は、競技ジュリー決定に対する、違反者または FIS 理事会による上訴に関してのみヒアリングを開く。もしくは、競技ジュリーが制裁の規則に規定された以上のペナルティを勧告し、上訴委員会に問い合わせた事柄に関してのみ、ヒアリングを開く。

225.3　手続き

225.3.1　上訴の当事者全員が、ヒアリング時間の延長に書面で同意しない限り、上訴は、委員長が上訴を受領した後 72 時間以内に結審しなければならない。

225.3.2　上訴及び返答は全て、書面で提出しなければならない。これには、当事者が上訴を支持または返答する際に、提供するつもりの証拠も含まれる。

225.3.3　上訴の場所と形式については、上訴委員会が決定する。（電話会議、当事者、E メール交換）
上訴委員会委員は、その判決が公になるまで上訴の守秘義務を尊重することを要求され、審議中、他の委員のみと相談することが要求される。
上訴委員会委員長は、不相当な方法とならない限り、当事者から追加の証拠を要求することができる。

225.3.4　上訴委員会は、224.15 条に従い、上訴費用の配分を行う。

225.3.5　上訴委員会の判決は、審議やヒアリングの終了時に口頭で言い渡すことができる。判決と判決理由は書面で FIS に提出し、FIS が、それらを、当事者とその所属国連盟、決定を上訴されたジュリーメンバー全員に送る。また、審議書は FIS 事務局で入手可能である。

225.4　　控訴

225.4.1　　上訴委員会の判決について、FIS 定款 52; 52.1 条、52.2 条に従って、　FIS 裁判所に控訴することができる。

225.4.2　　FIS 裁判所への控訴は、上訴委員会判決の公表日から定款 52.1 条、52.2 条に規定する期日に従い、FIS 事務局長へ書面で提出する。

225.4.3　　上訴委員会または FIS 裁判所への上訴により、競技ジュリー、上訴委員会、または理事会のペナルティ決定の執行が遅れることはない。

226　　制裁の違反

223 条または FIS アンチドーピング規則に基づき下された制裁に違反した場合、理事会は妥当と考えるさらなる制裁を科すことができる。このような場合、次の制裁のいくつかまたは全てを適用することができる：

226.1　　関与した個人に対する制裁：

- 文書戒告；

及び／または

- 100,000 スイスフラン以下の罰金--

及び／または

- 一段階上の競技会出場停止処分–例：ドーピング違反に対して 3 ヶ月間の出場停止処分が科された場合、この出場停止処分に違反すると、2 年間の出場停止処分の原因となる。ドーピング違反に対して 2 年間の出場停止処分が科された場合、この出場停止処分に違反すると、生涯出場停止処分の原因となる；

及び／または

- 関与した個人のアクレディテーションの取り消し。

226.2　　各国スキー連盟に対する制裁：

- 各国スキー連盟への FIS 財政支援の取り消し；

及び／または

- 当該国内の今後の FIS 大会のキャンセル；

及び／または

- FIS 加盟国の権利の全てまたは一部取り消し。FIS カレンダー競技会への参加、FIS 総会での投票権、FIS 委員会における委員資格を含む。

第２セクション

以下 2000 番台の章は、2019-2020 シーズン、モーグル、デュアルモーグル、エアリアル競技には適用しない。モーグル、デュアルモーグル、エアリアル競技規則は、フリースタイルスキー　エアリアル・モーグル国際競技規則（ICR）を参照すること。

解説

一般原則

(1)　これらの規則は公平、安全かつ競技と競技者を最優先に考慮し、正しくかつもっとも迅速な決定を確保するために偏見なく解釈されるものとする。

関連事項が用意されていない場合

(2)　記載規則にはない状況は、類似例に則り決定されるものとする。

スノーボード、フリースタイルスキー、フリースキー競技に共通の規則

ICR に特別記載のない場合、オリンピック冬季競技大会、FIS 世界選手権大会（スノーボード、フリースタイルスキー、フリースキー競技）の専門組織のために、スノーボード、フリースタイルスキー、フリースキー競技の FIS ワールドカップ規則を有効とする

2000　組織

211 条を参照

2001　オーガナイザーの契約

2001.1　競技会オーガナイザーの選定

各国スキー・スノーボード連盟がオーガナイザーを選定する場合、FIS の基準を満たす内容の契約を締結すること。

2001.2　オーガナイザーを選定しない場合

各国スキー・スノーボード連盟がオーガナイザーを選定しない場合、FIS が直接契約を締結する。

2002　組織委員会

2002.1　構成

組織委員会は、（物理的に、もしくは法律的に）オーガナイザーおよび FIS が委嘱する者で構成し、オーガナイザーの権利、職務、および義務を行使する。（211.2 条参照）

2002.2 組織委員会は、FIS 公認の大会を適切に運営するために必要な、すべての業務責任、たとえばすべての専門的な事柄、コースの選定と準備などを含むがこれらに限らず、細部にわたり事前に把握していなければならない。円滑な大会運営のため、大会に参加するすべての個人、および団体との効率的な連絡は必要不可欠である。

2002.3 組織委員会は、大会の参加者、招待客に対し、宿泊および現地までの交通手段に関する案内、および配布物を準備すること。この案内は確実に手元に届くように、参加の都合が確保できるよう余裕をもって発送すること。

2002.4 組織委員会は FIS 事務局と競技会に参加した国に対し、準備ができ次第、ただちに責任を持って、承認された電子形式にてリザルトを配布する。遅延が生じた場合のみ、リザルト送付は大会の翌日になってもよい。大会結果を大会当日に伝達することは、各国代表者の責任とする。

2003 国際スキー連盟による任命

国際スキー連盟はすべての競技会において、技術代表（国、または地方レベルの大会を除き、オーガナイザーでなくてもよい）と主審（審判種目に関して）、必要に応じてレースディレクター（RD）/コンテストディレクター（CD）、そして以下を任命する。

2003.1 ワールドカップ競技会

- 技術代表
- レースディレクター/コンテストディレクター
- レフリー　クロスとスノーボードアルペン
- 主審と審判員　ハーフパイプ、スロープスタイル、ビッグエア、モーグル、デュアルモーグル、エアリアル

2003.2 コンチネンタルカップ競技会

- 技術代表
- 主審と審判員　ハーフパイプ、スロープスタイル、ビッグエア、モーグル、デュアルモーグル、エアリアル

2003.3 オリンピック冬季競技大会、FIS 世界選手権大会と FIS 世界ジュニア選手権大会

- すべてのジュリーメンバーと審判員

2003.4 その他すべての競技会では、技術代表、もしくは組織委員会が以下の役職を任命し、いずれの場合においても技術代表が任命を承認する。

- レフリー

2003.5 競技会の審判員は有資格者とする。国際競技会では、FIS が審判員団を指名する。

2003.6 これらの指名により、以上に挙げられた役員は、組織委員会の委員となる。

2004 オーガナイザーによる任命

オーガナイザーは、その他すべての組織委員会の委員（技術代表と審判員団を除き）を任命する。会長は、対外的に委員会を代表し、会議を主催し、他の組織が決定する事項を除き、すべての事柄を決定する。競技会の準備から事後処理まで、委員たちは国際スキー連盟、および 国際スキー連盟任命の役員と緊密に連係し、大会成功に向けて職務にあたる。会長は競技会開催に必要なその他すべての義務を負う。任命されなくてはならない役員は以下のとおりである。

2004.1 競技委員長

競技委員長は競技役員の業務を指示、監督する。競技役員会を招集し、専門的な問題について検討する。技術代表やジュリーメンバーと協議後、チームキャプテンミーティングの議長を務める。

2004.2 レフリー―クロスとスノーボードアルペンのみ

- クロスは 5305 を参照すること。
- スノーボードアルペンは 6305 を参照すること。

2004.2.1 技術代表との協力

レフリーとアシスタント・レフリーは技術代表と緊密に連携し業務にあたらなくてはならない。

2004.3 コース係長

コース係長は、ジュリーの決定に従い、コースの準備に責任を持つ。コース係長は、コースにおけるその地方の雪質、および地形について熟知していなければならない。

2004.3.1 コースデザイナー

コースデザイナーは、コースの持つ特性とコース規格に基づいて、コース造成の設計案とスケジュールを構築するものとする。

2004.3.2 コースビルダー

コースビルダーはジュリーの監督の下、コースデザイナーの指示に従ってコースを造成することに責任を持つ。

2004.4 スタートレフリー

スタートレフリーは公式インスペクションの開始時間から、トレーニングそして/もしくは競技会の終了まで、スタートに留まらなくてはならない。そして、スタートの秩序と管理、さらに以下に挙げるすべての規則を監督することに責任を持つ。

- スタートの規則とスタートの秩序が、適正に監督されているように確認する。
- 遅刻及び不正のスタートを決定する。
- 常時ジュリーとすみやかに連絡をとらなければならない。

- スタートしないすべての競技者、不正または遅延スタートしたすべての競技者の名前をジュリーに報告し、すべての規則違反をジュリーに伝える。
- スタート地点に予備のビブを確実に用意する。
- 規則に適合しない用具を使用している競技者をジュリーに報告する。
- 競技会の規模、自然状況や特徴にしたがって、適正なスタートレフリー補佐を指名する。これは、スタートディバイスの作動、スタートコマンド合図の方法、色付きのビブのチェック、ビブの配布、スタートへ競技者を並べる、観客のコントロール、スタートエリアの整理と手動計時計測などを含むその他関連任務を行うためである。
- ビッグエア、スロープスタイルとハーフパイプ競技では、オリンピック冬季競技大会と世界選手権大会を除き、スターターがスタートレフリーの役割を果たすことができる。

2004.5　フィニッシュレフリー

フィニッシュレフリーは公式インスペクションの開始時間から、トレーニングそして/もしくは競技会の終了まで、フィニッシュに留まらなくてはならない。そして、フィニッシュの秩序と管理、さらにフィニッシュ（ランディングエリアとアウトランを含む）に関するすべての規則を監督することに責任を持つ。

- フィニッシュレフリー補佐、フィニッシュエリア内における計時計測と観客のコントロールを監督する。
- 常時ジュリーとすみやかに連絡をとらなければならない。
- フィニッシュしないすべての競技者の名前をジュリーに報告し、すべての規則違反をジュリーに伝える。
- 競技会の規模、自然状況や特徴にしたがって、適正なフィニッシュレフリー補佐を指名する。これはフィニッシュラインの適正な通過、競技者のフィニッシュ順位、コース内にジャンプが着地しているか、DNS、DNF、DSQ やその他の裁定に関してフィニッシュレフリーを補佐することなどを含むその他の出来事をコントロールするためである。

2004.6　リザルト係長（計時計算係長）

リザルトの長は計時計測、計算の役員の統括と審判種目の場合には主審とともにスコアの確認に責任を持つ。計時計測種目の場合には、ジュリーとともに特別のアシスタントとしてスタートのインターバルを決定する。

2004.7　競技会セクレタリー

競技セクレタリーは、競技会に関する庶務的な仕事のすべてと、エントリーの受理、ドローの準備などに責任を持つ。2020.3 に規定される情報を網羅した公式リザルトを、確実に整えなければならない。競技役員会、ジュリー、チームキャプテンミーティングの議事録の作成に責任を持つ。スタート、フィニッシュ、計時計測、計算とゲート審判員に必要は書類を十分に準備し、適宜、正しい順序で配布する。リザルト係長の協力の下、計算を手助けし、公式記録を競技会後直ちに複写し確実に公表しなければならない。（2002.4 参照）

2004.8　　医療救助係長

FIS メディカルガイド 1.3.1 参照。

2004.9　　応急処置と医療体制

FIS メディカルガイド第一章、医療規則とガイドライン参照。

2004.10　　コース設備と専門機材係長

コース設備と専門機材係長は、コースの準備と維持に必要なすべての設備と道具の準備、他の役員に責任が任命されていない場合、トレーニングと競技会の管理、そして情報の拡散に責任を持つ。

2004.11　　メディアと報道係長

メディアと報道係長は、組織委員会の指示に従って、ジャーナリスト、写真家、テレビ、ラジオリポーターへの情報と状況説明に責任を持つ。

2004.12　　スポーツプレゼンテーション（競技を紹介する）係長

スポーツプレゼンテーション係長は、競技会場内でのアナウンサー、音楽、DJ、スクリーンと映像、そして大会をプレゼンテーションするための他のエンターテイメントの要素を含む、観客の体験するすべての局面について責任を持つ。

2004.13　　ビブコーディネーター

ビブコーディネイターは、競技者と役員に割り当てられるすべてのビブの準備、割り振り、配布と収集に責任を持つ。

2004.14　　組織委員会内のその他の役員―以下の役員を（職務説明書とともに）奨励する。

- 財務係長（金融）
- 宿泊と食事係長
- 式典係長

2005　　組織委員会の情報と大会開催における義務

2005.1　　組織委員会は、大会関係者へすべての関連情報と用具・備品を提供することに責任を持つ（212、213、214 参照）。宿泊と移動手段の詳細は、大会の最低 2 カ月前には配布すること。

2005.2　　国の選手権大会（NC）と FIS レースレベルの競技会に関しては、組織委員会は 213.8 条に則って、最初の公式トレーニングまたは大会開催日より 14 日以前にエントリーの最終締め切り日を設けた競技会プログラムを正式に用意し、FIS ホームページに掲載しなければならない。コンチネンタルカップ、ワールドカップ、世界選手権大会とオリンピック冬季競技大会に関しては、　各競技会レベルに応じて、締め切り日を特定個別のルールブックに定義する。

2006 組織委員会の基本経費

2006.1　組織委員会はFISカレンダーの規則に則って競技会の認可料金（サンクションフィー）を支払わなくてはならない。

2006.2　組織委員会はFISの現在の方針に則って、審判員に費用を補償しなければならない。

2006.3　組織委員会はFISの現在の方針に則って、FIS技術代表に費用を補償しなければならない。

2007　ジュリー

2007.1　以下のジュリーメンバーは、組織委員会のメンバーであり、競技会場内において専門的な事柄に責任を持つ。

2007.1.1　アルペンスノーボード種目（PGS、PSL、SL、GS）とパラレルチーム戦（チームイベント）

- 技術代表
- レフリー（ワールドカップ、オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、世界ジュニア選手権大会、ユースオリンピック大会ではレースディレクター）
- 競技委員長

2007.1.2　クロス種目

2007.1.2.1　スノーボードクロスとスノーボードクロスチーム戦

- 技術代表
- レフリー　FISが指名する（レベルの低い競技会**ではTD・技術代表が指名する）
- 競技委員長　―オーガナイザーが指名する。
- レースディレクター　ワールドカップ、オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、世界ジュニア選手権大会、ユースオリンピック大会において

2007.1.2.2　スキークロスとスキークロスチーム戦

- 技術代表
- レフリー　FISが指名する（レベルの低い競技会**ではTD・技術代表が指名する）
- 競技委員長―オーガナイザーが指名する。
- レースディレクター　ワールドカップ、オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、世界ジュニア選手権大会、ユースオリンピック大会において

・*主要競技会:　ワールドカップ、オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、世界ジュニア選手権大会、ユースオリンピック大会
・**レベルの低い競技会:　国の選手権大会、FISレース、オープン

・コンチネンタルカップは規則 2007.1.6 参照

2007.1.3　ハーフパイプ、スロープスタイル、ビッグエアとその他の審判種目
- 技術代表
- 主審
- 競技委員長　―オーガナイザーが指名する。
- コンテストディレクター　（ワールドカップ、オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、世界ジュニア選手権大会、ユースオリンピック大会ではレースディレクターにおいて

2007.1.3.1　フリースキーとスノーボードの競技大会を同じコースを使用して同時開催し、ダブルアップ審判方式（3502.4 参照）で行う場合、各競技大会は個別の主審を有するジュリーメンバーを設定するべきである。しかし技術代表と競技委員長、そしてオリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、ワールドカップ、世界ジュニア選手権大会またはユースオリンピック大会ではコンテストディレクターは、両競技のジュリーを兼ねてもよい。

2007.1.4　エアリアル、モーグルとデュアルモーグル、モーグル、デュアルモーグルとエアリアルのチーム戦・チームイベント
- 技術代表
- 主審
- 競技委員長―オーガナイザーが指名する。

2007.1.5　オリンピック冬季競技大会、と FIS 世界選手権大会はすべての種目に以下をジュリーメンバーとして追加する。
- スタートレフリー
- フィニッシュレフリー

2007.1.6　コンチネンタルカップでは、エアリアルとモーグル種目を除き、コンチネンタルカップのコーディネーターが FIS により指名されている場合、以下のようにジュリーメンバーとなる。

2007.1.6.1　スノーボードアルペン種目は追加のメンバー。

2007.1.6.2　クロス種目は追加のメンバー。

2007.1.6.3　パークアンドパイプ種目は追加。

2007.1.7　各ジュリーメンバーは 1 票の権利があり、同数の場合は議長が決定票を投じる（2007.5.1 参照）。
ユニバーシアード冬季大会においては、FIS が指名した FISU レース/コンテストディレクターがジュリーメンバーとしての投票権を有する。

2007.1.8　ジュリーメンバーは以下の内容で、異なる国から選出しなければならない。

異なる３か国から選出する大会	異なる２か国から選出する大会
オリンピック冬季競技大会	コンチネンタルカップ
ワールドカップ	FIS の国際競技会
世界選手権大会	
世界ジュニア選手権大会	

2007.2　オリンピック冬季競技大会、FIS 世界選手権大会のジュリーの指名

2007.2.1　FIS 理事会が以下を指名する:
- 技術代表
- レフリー
- 主審
- 審判員
- スタートレフリー
- フィニッシュレフリー
- ビデオコントローラー

2007.2.2　TD ワーキンググループが、有資格の TD をジュリーメンバーとしてスノーボード・フリースタイル・フリースキー委員会に提案し、次に FIS 理事会に承認を得るため、その氏名を提案する。
資格を満たすために、推薦されるメンバーは FIS の有効の資格を保持し、所属の国のスキー・スノーボード連盟から支持を受けていなければならない。

2007.2.3　ジャッジワーキンググループは有資格の主審と審判員をスノーボード・フリースタイル・フリースキー委員会に提案し、次に FIS 理事会に承認を得るため、その氏名を提案する。
資格を満たすために、推薦される主審と審判員は FIS の有効の資格を保持し、その他 FIS の適正条件を満たし、所属の国のスキー・スノーボード連盟から支持を受けていなければならない。

2007.2.4　国のスキー・スノーボード連盟組織は、組織委員会の競技委員長を、FIS 理事会の承認を得るために提案する。

2007.2.5　すべてのジュリーメンバーは同じ FIS 言語でお互いを理解しなければならない。投票権のあるジュリーメンバーは、常時コースに留まり、お互いに連絡を取りあわなくてはならない。

2007.2.6　オリンピック冬季競技大会、と FIS 世界選手権大会にいおいては、主催国・訪問国は FIS 理事会が承認したメンバー（TD を含み）が唯一ジュリーを務めることができる。

2007.3　国際競技大会のジュリーの指名（ワールドカップとコンチネンタルカップ規則も参照）。

2007.3.1　FIS が技術代表と主審を含む審判員を指名する。

2007.3.2　技術代表による任命
- ワールドカップより下の競技会のレフリー
- 不可抗力がおこった場合の代替えジュリーメンバー

2007.3.3　国際女性競技大会では、ジュリーには女性（最低一名）が含まれるべきである。

2007.3.4　競技委員長は、主催国のスキー・スノーボード連盟の支持を得ていなければならない。

2007.3.5　競技者はジュリーメンバーにはなることができない。

2007.4　ジュリーの任期

2007.4.1　指名されたジュリーメンバーは最初のチームキャプテンミーティング以前に最初の会議のために集合する。

2007.4.2　ジュリーの実働職務は最初の会議で始まり、抗議の締め切り期間内に考慮すべき抗議またはアピールがない場合、もしくはすべての抗議やアピールを処理したときに終了する。

2007.5　投票

2007.5.1　TD はジュリーの長として、会議をつかさどり、同数の場合決定票を有する。モーグルとエアリアル種目を除き、レース/コンテストディレクターが、オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、世界ジュニア選手権大会とユースオリンピック大会においてジュリーの長となる。

2007.5.2　以下に挙げる各メンバーが、ジュリーとして一票を有する。
- すべての競技会の TD
- すべての競技会の競技委員長
- スノーボードクロスとスキークロス競技会のレフリー
- ワールドカップ、オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、世界ジュニア選手権大会、ユースオリンピック大会を除く、すべてのアルペンスノーボード競技会のレフリー
- ハーフパイプ、スロープスタイル、ビッグエア、モーグル/デュアルモーグル、エアリアル競技会の主審
- ワールドカップ（エアリアル、モーグルとデュアルモーグル種目を除く）、オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、世界ジュニア選手権大会、ユースオリンピック大会のレースディレクター/コンテストディレクター

ユニバーシアード冬季大会のすべての競技会において、FIS が指名した FISU レース/コンテストディレクターがジュリーメンバーとしての投票権を有する。

2007.5.2.1　オリンピック冬季競技大会、FIS 世界選手権大会
- すべてのジュリーメンバー

2007.5.3　決定には、その場に立ち会ったメンバーだけではなく、ジュリーメンバーのすべての投票のうち過半数が必要である。

2007.5.4　すべてのジュリー会議と決定事項は議事録を作成し、各ジュリーメンバーがサインし、各ジュリーメンバーの決定内容を記載する。議事録はジュリーの長が検証し、少なくとも FIS 言語のひとつで作成しなければならない。

2007.5.5　議事録は少なくとも FIS 言語のひとつ（英語、フランス語またはドイツ語）で作成しなければならない。

2007.5.6　即決が必要ですべてのジュリーが招集できない場合、競技会前または競技会中に、各ジュリーメンバーは、規則に沿って決定することをジュリーに留保する権利を有する。しかしながら、暫定的なものであり、できるだけ早くジュリーが決定を確認する義務がある。

2007.6　ジュリーの義務

2007.6.1　ジュリーは公式トレーニングを含め、すべての競技会期間において規則が順守されているか監視する。

2007.6.2　専門的な立場から、以下のことを含むが以下に限る必要性はない:
- 競技会コースとコースの設定、公式ウォームアップエリアを確認する。
- コースの準備条項を確認する。
- 圧雪の器具（スノーコンパクター）やその他、薬品の使用を承認する。
- 観客コントロールシステムの確認。
- スタートとフィニッシュエリア、フィニッシュから外部への導線を確認する。
- 応急処置を確認する。
- コースセッターを指名する。
- コースセットの時間を調整する。
- コースセッター、コースビルダー/デザイナー（パイプ、ジャンプ、レールやその他フィーチャーを含む）の仕事を監督する。
- ゲートフラッグの固定装置を確認する。
- 競技会場におけるトレーニングの開始、終了を、専門的な準備や予想される天候状況などを考慮して決定する。
- コースインスペクションの方法を決定する。
- 競技会前にコースを視察する。
- 各ランにおける前走者の人数を決定し、前走者のスタート順を準備する。
- 前走者に説明する。
- コース状況や異常な状況を考慮し、スタート順を変更する。
- スタートのインターバルを変更する。
- ゲートジャッジに指示を与え、ゲートジャッジからの情報を入手する。
- ジャッジスタンドとジャッジの職場状況を確認する。

2007.6.2.1　ジュリーメンバーは競技会中、定期的にコースを視察するべきである。

2007.6.3　オーガナイザーの立場から、以下のことを含むが以下に限る必要性はない:

- ドローのための競技者の順位
- 特定の規則にあてはまらない場合、ある決定規範に基づいて、ポイントを持たない競技者をグループに含める際の分類
- 仮の出走・ランそして再出走（リラン）を与える
- 競技会の中止または延期（事前の）
  - コース上、コース脇に雪が少ない場合、またコースを覆う雪面の整備が不十分、もしくは均一でない
  - 競技会場の安全対策が十分でないとみなされた場合
  - 医療、救急、応急処置などの不備、または全く準備されていない
  - 観客対策が不備である
- 容認できない気象状況
- 極端な寒さ：そのような場合、ジュリーは競技会、またはトレーニングを気温があがるまで延期する、または、適切な気温になりにくいと判断した場合、競技会を中止するかを検討するために会合する。競技会中断の決定は、最終的、または一時的である場合がある。2026 参照のこと。
- 雪または天候状況で考慮が必要な場合、コースを短縮する。
- 2026 に該当する条件が生じる場合、競技会の中断。
- 2026 に該当する条件が生じる場合、競技会の終了。

2007.6.4　規律の視点から、以下のことを含むが以下に限る必要性はない：

- 体力的もしくは技術的能力が十分でない競技者を排除するという技術代表の申し出の決定。
- 競技会場内における、用具やウエアへの広告に関する規則の確認の執行。
- 競技エリアへの役員、専門的サービス、医療担当者の人数の制限。
- 失格、IRM と懲戒カードの宣告。
- 大会に認められているチームキャプテン、トレーナー、コースセッター、サービス担当者と企業代表者による規則違反の決定。
- 懲戒の評価と制裁の宣告。
- すべての競技会期間中の特定の指示に関する問題。

2007.6.5　利害の対立からの視点

2007.7　規則で扱われない質問

一般的に、ジュリーは ICR に記載されていないすべての質問について決定する。

2007.8　ジュリー・チャンネル

国際 FIS カレンダーに掲載されるすべての競技会において、ジュリーメンバーは無線を携帯しなければならない。無線機能はジュリー専用の周波数で妨害がおこらないものでなければならない。スノーボードクロス、スキークロス、スロープスタイル種目では、コースジャッジとコネクションコーチ（適応される場合）は無線を携帯しなければならない。

2007.9　FIS はジュリーまたは個別のジュリー・メンバーに対して制裁を課すことができる。

2008　技術代表（TD）

2008.1　定義

2008.1.1　TD の事前の義務

- FIS の規則と指示が確実に実行されているか確認すること
- 競技会の滑走が公平な方法で行われるように見届けること
- オーガナイザーに対して彼らの義務の範囲を助言すること
- FIS の公式代表者であること

2008.1.2　義務

TD の体制は、スノーボード・フリースタイル・フリースキー委員会の責任の下にある。技術代表のための TD ワーキンググループがこの職権を果たす。

2008.1.3　必要前提

TD は有効な TD 資格を所持していなければならない（例外は 2008.3.4 参照）。

2008.1.4　技術代表の候補者

2008.1.4.1　各国スキー連盟は TD 候補生としてふさわしい人材を、FIS 事務局に推薦する権利を有する。候補生は所定の様式を使い、所属する国のスキー連盟を通じて FIS に推薦されなければならない。推薦される TD 候補生は以下の条件が必要となる:

1．第一回目の FIS の TD クリニックに出席し、TD 候補生の基本的な知識と技術が必要なレベルに達しているかを確認する目的で、最初のトレーニングとクリニックのプロクター（複数の場合もある）の評価を受ける。
2．目指すライセンスに規定されている現場での査定を必要な回数やり遂げる。
3．第二回目の TD クリニックにおいて、取得を目指す各種目のさらなるトレーニングと筆記試験を受ける。

2008.1.4.2　トレーニング

TD 候補生の事前トレーニングは、各国スキー連盟が TD 候補生を FIS に推薦する前に責任を持って行うこと。各国スキー連盟は、FISTD クリニックにおいて基本的な訓練を受講するために必要十分な経験と技術を備え、候補生を査定するスーパーバイザーTD による実技課題や、後程予定されている筆記試験に合格できるような TD 候補生を、責任を持って推薦すること。

2008.1.4.3　実技査定と筆記試験は英語で行う。候補生は推薦されてから 2 年以内に、合格を希望する種目ごとに FIS 競技会において 2 回、実技査定を遂行しなければならない。
実技課題は 異なる日付と場所で開催される、2 種の異なるレベルの競技会で行うこと。すべての実技査定において、候補生は適正書式を使用した TD 報告書の作成も含み、TD が通常執り行うすべての職務を経験すること。各実技査定においては、異なる競技会のスーパーバイザーTD につくことが望ましい。スノーボードクロスとスキークロスを組み合わせた資格については、最低一回の実技査定はそれぞれの種目で行われなければならない。
スノーボードクロス資格者がスノーボードクロスとスキークロスを組みあわせた（またはその逆）資格へのアップグレードについては、追加の筆記試験と実技査定が必要である。
スノーボードとフリースキーのパークアンドパイプを組み合わせた資格については、候補生は最低一回スロープスタイルと一回のビッグエアまたはハーフパイプ（合計で２回）の実技査定を受けなければならない。
エアリアルとモーグル、デュアルモーグルについては、候補生は各種目について２回実技査定を受けなければならない。モーグルとデュアルモーグルについては、異なる競技会場で行われた場合、モーグルとデュアルモーグルそれぞれを対象とする。
スノーボードアルペンについては、候補生は最低２回異なるスノーボードアルペン大会の実技査定を受けなければならない。

2008.1.4.4　実技課題時の経費は、TD 候補生自身が負担すること。候補生は大会組織委員会や FIS に実技査定や筆記試験時にかかる費用の返済を要求する権利を有しない。

2008.1.4.5　TD 候補生の実技査定は、競技会運営のために公式に任命された FISTD 資格を有する者の監督のもと行われる。組織委員会が事前に了解し、実技査定を執り行うスーパーバイザーTD から実技査定の予定について提案を受領次第、FIS が例外を許可する場合もある。

2008.1.4.6　スーパーバイザーTD は TD 候補生の技術的技量について、適正な FIS 書式で報告書を作成するものとする。

2008.1.4.7　TD 候補生が作成した TD 報告書とスーパーバイザーTD の書面による査定は、FIS 事務局と TD 候補生の所属するスキー・スノーボード連盟の責任者に報告されなければならない。

2008.1.4.8 実技査定を成功裏に完了後、TD 候補生は筆記試験（TD クリニック時）を受ける。試験はクリニックのプロクター（複数の場合もある）による口頭試問を含むものとする。スノーボード・フリースタイル・フリースキーの技術代表アドバイザリーグループが合格を確認したのち、TD 候補生には番号入りの TD ライセンスが発行される。

2008.1.4.9　TD 資格

2008.1.4.10　ライセンスは番号入りの身分証明書で 2 年間有効である。2 年ごとに再発行されなければならず、各 FISTD 必携とする。

2008.1.4.11　各 TD 有資格者は、 FIS が主催するスノーボード・フリースタイル・フリースキー TD クリニックに毎年参加するべきである。2 年連続して正当な理由なしに情報の更新（アップデート）に参加しない、または任命された TD の職務を遂行しなかった場合、TD ライセンス喪失の対象となる。

2008.1.4.12　TD 有資格者が別種目の資格の追加を希望した場合、最低一回の実技査定を希望する種目において受け、追加の筆記試験に合格しなければならない。

2008.2　任命

2008.2.1　オリンピック冬季競技大会、FIS 世界選手権大会と FIS 世界ジュニア選手権大会については、スノーボード・フリースタイル・フリースキー委員会の推薦を受け、FIS 理事会が任命する。

2008.2.2　その他すべての国際競技会については、FIS スノーボード・フリースタイル・フリースキーTD ワーキンググループ（国内大会に関しては国のスキー・スノーボード連盟が TD を指名してもよい）が任命する。任命は各競技会の 60 日前には決定し、その旨、本人、大会組織委員会、および TD の所属する国のスキー・スノーボード連盟に通告しなければならない。

2008.2.3　技術代表は組織委員会のメンバーであってはならない。例外として、また地理的条件の例外として、FIS は同じ国の技術代表を任命することができるが、主催クラブまたは地域の連盟の会員ではないこと。

2008.3　技術代表の交代

2008.3.1　オリンピック冬季競技大会、FIS 世界選手権大会、FIS 世界ジュニア選手権大会に任命された TD が使命を果たせない場合、FIS 理事会と TD が所属する国のスキー・スノーボード連盟はただちに連絡を受ける。FIS 理事会は、ただちに代わりの TD を任命する。

2008.3.2　その他の競技会については、国のスキー・スノーボード連盟の TD が所属する TD グループが、代わりの TD をただちに任命することに責任を持つ。該当の組織委員会と FIS はただちに連絡を受けること。

2008.3.3　予想できない理由の場合、オリンピック冬季競技大会、FIS 世界選手権大会、FIS 世界ジュニア世界選手権大会の TD が競技会に到着できないまたは到着が遅れる、

それによって部分的または完全に競技会において業務が果たせない場合、競技会場に存在するジュリーメンバーの中から、FIS 理事会が代理人を指名する。

2008.3.4 その他の国際競技会については、ジュリーによって現場にいることができない TD の代理人を指名する。交代は 2008.1.3 に要求されている条件を満たすものでなければならない。
緊急の場合、TD はこれらの条件に合わない者でもよいが、競技会を確かに遂行（継続）する能力があること。該当者の選考において、厳しい評価基準を活用する。

2008.3.5 交代した TD は事前に任命され、指名を受けた TD と同じ権利と義務を負う。

2008.4 業務の組織

2008.4.1 オーガナイザーは余裕をもって TD との連絡を確立しなければならない。

2008.4.2 競技会の中止または延期は、適切な期限を考慮し、TD と FIS 事務局にただちに連絡しなければならない。

2008.4.3 すべての国際競技会において、TD は競技会または最初の公式トレーニングが始まる少なくとも 24 時間前までには、競技会会場に到着していなければならない。

2008.5 すべての競技会における TD の義務

2008.5.1 競技会以前
TD は、
- ホモロゲーション資料を適宜点検し、特別な許可の可能性についてオーガナイザーに助言する
- TD がホモロゲーションは存在しないと確証した場合、ジュリーは以下に挙げる「不可抗力」を除いて、大会を中止しなければならない。
- スノーボードアルペン種目において、不可抗力でホモロゲーションされたコースで大会を運営することができない場合、TD は競技会を、オーガナイザーが推薦する「代替えコース」に移動する権利を有する。この明白な状況において、必要なホモロゲーションの計測と条件は満たされること。
- FIS スノーボード・フリースタイル・フリースキーのコース規格に、コースの専門的データが適合しているか点検する。
- FIS スノーボード・フリースタイル・フリースキーのコース規格に、すべてのコースの地形とすべての必要な準備、的確な計測（コース幅など）が適合しているか点検する。
- コースにおける天候の影響と、トレーニングと競技会日の天気予報を点検する。
- 同じコースで開催された前回の競技会の TD 報告書を読み、報告書に記載された改善点が、改善されているか確認する。

- 212 に要求されている損害賠償保険証を要請、調査し、必要な場合 FIS に報告する。
- 競技とトレーニングコースを視察する。
- 公式トレーニングを監督する。必要に応じてゲートフラッグの取り付けもコントロールする。
- 事務的そして技術的準備に協力する。
- FIS ポイントを含む、公式エントリーリストを確認する。
- 競技者の FIS ライセンスの有効性、年齢制限とすべての国に与えられた人数枠（クォータ）を確認する。
- すべてのジュリーメンバーに適正な無線が用意されているか確認する。
- コースに入る際の権限と大会身分証（アクレディテーション）を確認する。
- 安全性、準備、マーキング、観客のコントロールに関して、スタートとフィニッシュエリアも含め、競技会コースを点検する。
- ジュリーとともにコースセッティングを監督する。
- 競技会ジュリーとともにすべての競技会のコース準備を監督する。
- テレビカメラの設置台の位置と必要な防御設備が整っているかを確認する。
- コースまわりの救急医療サービスの配置について、また医療体制を監督する。
- 計時機器、手動計時、通信設備、人の輸送、ジャッジスタンドなど、すべての専門的　設定について確認する。
- すべてのトレーニングの期間中競技会場に存在する。
- すべてのジュリー会議とチームキャプテンミーティングに参加する。
- 組織委員会の役員、そして FIS のテクニカルアドバイザーと緊密に協力し、仕事を進める。
- ジュリーの議長として同様の場合、決定票を投じる（ワールドカップと主要大会に関しては、エアリアルとモーグル種目を除き、レースディレクター／コンテストディレクターが議長を務め、決定票を有する、特別規則を適応する。2007.5.1 参照）。
- 必要に応じて、規則に従ってジュリーにメンバーを指名する。

2008.5.2　競技会中

技術代表は、

- コース内に存在しなければならない。
- ジュリー、チームキャプテン、コーチと連携をとって仕事をする。
- 用品や競技用具などの広告に関する規則を執行する。
- 競技会の専門的そして組織的な管理を監督する。
- FIS の規則と指示の順守に関して、オーガナイザーに助言する。

2008.5.3　競技会後

技術代表は、

- レフリーの報告書の完成を手助けする。
- ジュリー裁定のために、的確に提案された抗議書を提示する。
- 正式なリザルトに署名し、表彰式を許可する。
- XML の電子送信を見届け、オンラインの TD 報告書（必要に応じてタイミング報告書）を大会後ただちに完成させる。

- FIS ホームページ上のリザルトが正しいものであることを確認しなければならない。
- 競技会規則の変更に関して、該当の競技会において実際に経験したことに基づき適切な申し出があれば、TD アドバイザリーグループへ提示する。
- TD 候補生に関して、技術的な能力について報告書を作成する。報告書は FIS 事務局と TD 候補生の所属するスキー・スノーボード連盟の責任者に報告されなければならない。
- 中断または終了せざるを得ない競技会（複数の場合も含む）（2026）では、TD は FIS と主催国　オーガナイザー国のスキー・スノーボード連盟に、すべての詳細を含む報告書を作成する。報告書は、終了せざるを得なかった競技会の FIS ポイントを考慮するか否かについて、事実に基づいた提案を含まなければならない。

2008.5.4　全般

技術代表は、

- ジュリーによって既に決定されておらず、そして他の権威の範疇に含まれない、FIS の規則で網羅されていない、または十分に網羅されていない問題に関して決定する。
- ジュリーのテクニカルコンサルタントとして行動する。
- レフリーそしてレフリー補佐と緊密に仕事を進める。
- 規則 2026 の条件を満たしている場合、競技会の中断、もしくは競技会の終了について命じる権利を有する。
- ジュリーに、競技者の競技会からの除外を申し出る権利を有する。
- TD の義務を遂行するために必要なすべての事柄について、その権限の範疇において、組織委員会とすべての役員からの支援を得る権利を有する。
- 例外的、そして異常な状況下において、TD の決定は最終的、そして拘束力がある。そのような場合、TD は決定事項に理由を添えて文章として記録し、FIS 事務局あてにただちに連絡しなければならない。
- 主要大会（オリンピック冬季競技大会、ワールドカップ、世界選手権大会、世界ジュニア選手権大会とユースオリンピック競技会）において、追加の規則を適用し、一部の職務をレースディレクター／コンテストディレクターが代行することもある。

2008.6　技術代表の権利

2008.6.1　ジュリーの長として、会議をつかさどり、同数の場合決定票を有する（モーグルとエアリアル種目を除き、レース/コンテストディレクターが長となり、決定票を有するという特別規則をワールドカップと主要競技会に適応する）。

2008.6.2　必要に応じて、TD はジュリーの一員として、条件を満たす人物を任命してもよい。

2008.6.3　インスペクションと競技会時の義務を行うためにかかるすべての費用と旅費を、FIS の現在の規定に基づき、払い戻しを求める。

2008.6.4　競技会運営に必要なすべての書類、公式招待状、プログラム、速報などを時間厳守での組織委員会による完璧な状況説明。さらに競技会の中止、もしくは延期に関する素早い情報提供を受ける。

2008.6.5　TD の義務遂行に関するすべての事柄について、組織委員会と所属役員に協力を要請すること。

2008.7　必要経費

技術代表（そして、FIS が指名したレフリー）は、旅費として最高 600 スイスフラン––[1] の払い戻しを請求する権利を有する。長距離（列車のファーストクラス、航空費のエコノミークラス）または車の場合 1 キロあたり 0.7 スイスフラン、もしくは高速道路代を含む相当額。

TD は任命期間中、無料で宿泊と食事を受ける権利がある。この規則はインスペクション時にも適応する。

さらに、日当は 100 スイスフラン––*とし、大会業務日と大会会場までと帰宅の移動日分が加算される。これには、報告書の郵送代などを含む。二重の請求（たとえば、大会終了日に帰宅できる場合など）は認めない。移動日に宿泊が必要な場合、別に払い戻しの手続きを行うこと。

* この規則は、オリンピック冬季競技大会、FIS 世界選手権大会において、すべてのジュリーメンバーに適応する。

2008.8　制裁

すべての承認された参加者や役員と同様に、技術代表に対しても制裁が科せられることがある。

2009　レースディレクター（RD）／コンテストディレクター（CD）

2008.9.1　モーグルとエアリアル種目を除き、規則 2007.5.1 に則り、ワールドカップと主要大会において、クロス、スノーボードアルペン競技会ではレースディレクター（RD）が、そしてパークアンドパイプ競技会ではコンテストディレクター（CD）がジュリーの長となり、同数票の場合決定票を有する。

2008.9.2　レースディレクター（RD）／コンテストディレクター（CD）の義務

競技会以前

レースディレクター（RD）／コンテストディレクター（CD）による視察項目は以下を含む:

– 大会の組織、宿泊施設状況、食事、輸送、メディアの準備と労働環境は視察しなければならない。

1　例外として地理的考慮がなされない場合、オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、ワールドカップとコンチネンタルカップを除くすべての競技会において、最高支払額 600 スイスフランを有効とする。

- 競技会プログラムを承認する。
- トレーニング時間、チームキャプテンミーティング、競技会スケジュール、アンチドーピング・コントロール、用具コントロールと表彰式も視察の対象でなければならない。
- コースの設置状況が安全であるか確認する。
- 参加の権利、エントリーリスト、スタートリストが規則に則っているか；
- FIS データサービスを管理する；
- オーガナイザーとの契約に記載されているあらゆる局面を管理する；
- 選択基準に記載されているあらゆる局面を管理する；
- FIS のパートナーとの広告権利を含む、国の連盟、オーガナイザーと FIS との同意書を管理する。
- レースディレクター（RD）／コンテストディレクター（CD）は組織委員会に対して、彼らの職務を果たすために必要だとみなされる協力を要請する権利を有する。

大会中
- 競技会の見地から制作物、演出などを管理する。
- 国際スキー連盟の利害に注意を払う。
- 広告マーケティングに関する FIS 規則の管理。
- ICR 規則にまったく記載されていない、または、ジュリーメンバーに関する問題が生じた場合にはいつでも、レースディレクター／コンテストディレクターは、話し合いと決定するまでの過程を主導しなければならない。
- レースディレクター／コンテストディレクターは、コーステストとトレーニング期間中、そしてすべての競技会期間中、競技会エリア、またはその周辺に存在しなければならない。レースディレクター／コンテストディレクターがジュリーと直接連絡をとることは必要不可欠である。

2010 アドバイザリー委員会、テクニカルアドバイザー、コースアドバイザー、ビデオコントローラーとコネクションコーチ

FIS に承認されたすべての国際大会は、ジュリーへ助言するためにアドバイザリー委員会を競技会開始前に組織するものとする。

2010.1 コネクションコーチ

各競技会のそれぞれの種目に、チームキャプテンミーティングにおいて、コネクションコーチとしてコーチを 1 名指名するものとする。
ジュリーがコネクションコーチを承認する。

2010.2 競技者アドバイザリー委員会

競技者アドバイザリー委員会は、国際スノーボード・フリースタイル・フリースキー競技会に、以下のように指名することができる。
- コース係長
- 競技者の代表（女性 1 名、男性 1 名）2 名

2010.3 競技会におけるアドバイザリー委員会の役割

2010.3.1　アドバイザリー委員会の委員はジュリーに直接助言できるが、投票権のないジュリーメンバーである。

2010.3.2　アドバイザリー委員会は、参加する競技会のすべての局面を念頭に置き、安全面に関して提案するものとする。

2010.4　テクニカルアドバイザー

ジュリーを補助するために、FIS は、テクニカルアドバイザーを競技会のすべてのカテゴリーで指名することができる。
テクニカルアドバイザーは、ジュリーのなかで独自の意見を述べる権限はあるが、ジュリーとしての投票権は有しない。

2010.5　コースアドバイザー

ジュリーを補助するために、FIS は、コースアドバイザーを競技会のすべてのカテゴリーで指名することができる。
コースアドバイザーは、ジュリーのなかで独自の意見を述べる権限はあるが、ジュリーとしての投票権は有しない。

2010.6　ビデオコントローラー

クロス：　5408 参照。
アルペンスノーボード：　6406 参照。

2011　受け入れ／権利と義務

2011.1　役員、医療*と技術要員

競技会場に入る権利のある人数枠は以下のとおり：

- 競技者３名までの選手団：　トレーナー３名　医師２名*　技術者２名
- 競技者４名から５名の選手団：　トレーナー３名　医師２名*　技術者３名
- 競技者６名から 10 名の選手団：　トレーナー５名　医師２名*　技術者４名
- 選手団代表もまた正式定員内

これらの人数枠はナショナルチームの役員（チーム代表など）を含む。これらの人員は腕章によって識別されなければならない。必要に応じて、ジュリーは人数枠を縮小することができる。
220.3 条と 220.5 条に従って承認された人員は、公式技術員と医療者同様、全体の安全に責任を持つためにオーガナイザーが委託する役員（たとえば管理人や警察官など）の指示に従わなければならない。
ジュリーによる指示は、承認されたすべての人々、たとえばジャーナリスト、コーチ、チームキャプテン、および医者を含む医療者、理学療法士、救急医療者などに関して、すべての場合に優先される。

2011.2　チームキャプテンとトレーナー

チームキャプテンとトレーナーは適正な人数枠（クォータ）に従って、オーガナイザーにより承認されなくてはならない。承認を受理することにより以下の権利と義務が、個々に与えられる:

- ジュリーメンバーとなる；
- FIS から指名されていない場合、もしくは指名された人がいない場合、競技会役員として任命される；
- トレーニングまたは競技会期間中、パス、もしくは腕章の支給を受ける。
- 機器の設置またはコースのマーキングの際に、パス、もしくは腕章の支給を受ける。
- ジュリーによるすべての命令と指示に従う。
- 競技会期間中、ジュリーに抗議を提出する。
- 競技者に与えられるすべての特典（リフト、宿泊、招待など）の恩恵を受ける。
- トレーニング中、競技会場に入る。
- すべての公式儀典に参加する。
- 競技会期間中、準備エリアに入る。
- すべてのチームキャプテンミーティングに出席する。
- 会議で得たすべての情報を自らの選手団と共有する。
- 自らの選手団のすべての登録に責任を持つ。
- 自らの選手団の規律に責任を持つ。
- 競技会規則に精通する。

2011.2.1 チームキャプテンとトレーナーは ICR とジュリーの決定に従わなければならない。そして、適切でかつスポーツマンとしての態度で行動しなければならない。

2011.2.2 チームキャプテンとトレーナーは、ジュリーのメンバー、もしくはコースセッターとして認められた義務を達成しなければならない。

2012 前走者（フォーランナー）

2012.1 オーガナイザーは最低 3 名資格のある前走者を準備する義務がある。
異常な状況の場合、ジュリーは前走者の人数を増やす、または減らしてもよい。
ジュリーはラン、またはフェーズごとに異なった前走者を指名してもよい。

2012.2 前走者は前走者のスタート番号（ビブ）と FIS が要請する、すべての用具を身につけなければならない。

2012.3 任命された前走者は競技ウエアを着用し、コース全体を十分に滑走する能力がなければならない。

2012.4 最初のラン、またはフェーズで敗退した競技者は、次のランで前走者として出走することは許されない。懲罰の理由で差し止められている競技者は、前走者にはなることはできない。

2012.5　ジュリーが前走者とそのスタート順を決定する。競技会中断後、必要に応じて前走者を追加することもある。

2012.6　前走者の時間は公表されないこともある。

2012.7　要請に応じて、前走者は雪の状態、視界やコースのラインに関してジュリーメンバーに報告するべきである。

2013　競技者の責任

2013.1　保険

各競技者は適正な傷害保険に加入し、国際 FIS 資格のために FIS の選手宣誓に署名し、競技会の実施と管理に伴い競技者自身や所持品に損害、損傷が発生する可能性があることを承知し、競技役員、主催国スキー・スノーボード連盟、クラブ、もしくは競技会を組織するオーガナイザーとその役員に対する訴訟権を放棄することに合意する場合のみ、競技会参加が認められる。

2013.2　スタート番号（ビブ）

形状、サイズ、文字のデザインと装着方法を変更した場合、罰則の対象となることもある。

2013.3　広告

競技会そしてトレーニング期間中に着用する、用品または用具の広告は、FIS ガイドラインに従っていなければならない。

2013.4　競技者は、規則、規程、審判員の判断基準に精通しなければならない。さらに、スノーボード、フリースタイル／フリースキー特有の規則、ICR の 200 番台規則にも精通していること。

2013.5　競技者は、該当する表彰式には、正しく大会ビブを着用し出席しなければならない。また、優勝者はメディアの行事に参加しなければならない。表彰式の開催時刻は、公式文書であらかじめ公表しなければならない。競技会開催日以外に行う表彰式への競技者の参加は義務付けない。

2013.6　スノーボード、フリースタイル、フリースキーのすべての種目において、クラッシュヘルメットを必ず着用すること。FIS スノーボード・フリースタイル・フリースキー競技で使用するヘルメットは FIS の競技用品と広告マーケティング仕様書に従うこと。ヘルメットは製造者が推薦する方法で着用しなければならない。

2014　年齢制限

2014.1　競技会と暦年

FIS 競技会に参加資格を有するための、すべての競技者の年齢は、競技会が予定されている FIS 競技会年度の開始を含む、暦日（1 月から 12 月）の間に、競技者が誕生日記念日（誕生日）を迎えるものとする。FIS 競技会年度は 7 月 1 日に始まり次の暦年の 6 月 30 日に終了する。暦年は 1 月 1 日から 12 月 31 日である。

2014.2　ハーフパイプ、スロープスタイル、ビッグエアの年齢制限

ハーフパイプ、スロープスタイルとビッグエアの国際競技会で競技するためには、FIS 競技会年度が始まる暦年の終わりまでに、競技者は 13 歳の誕生日を迎えていなければならない。主要大会で競技するためには、FIS 競技会年度が始まる暦年の終わりまでに、競技者は 15 歳の誕生日を迎えていなければならない。

2014.3　パラレルとスノーボードクロスの年連制限

パラレルとスノーボードクロスの国際大会と主要競技会で競技するためには、FIS 競技会年度が始まる暦年の終わりまでに、競技者は 15 歳の誕生日を迎えていなければならない。

2014.4　スキークロスの年齢制限

スキークロスの国際大会と主要競技会で競技するためには、FIS 競技会年度が始まる暦年の終わりまでに、競技者は 16 歳の誕生日を迎えていなければならない。

2014.5　エアリアルとモーグル／デュアルモーグルの年齢制限

エアリアル、モーグルとデュアルモーグルの国際大会で競技するためには、FIS 競技会年度が始まる暦年の終わりまでに、競技者は 14 歳の誕生日を迎えていなければならない。

2014.6　主要競技会

主要競技会とは、ワールドカップ、世界選手権大会とオリンピック冬季競技大会と定義する。

主要競技会で競技するためには、FIS 競技会年度が始まる暦年の終わりまでに、競技者は 15 歳の誕生日を迎えていなければならない。スキークロスに関しては、FIS 競技会年度が始まる暦年の終わりまでに、競技者は 16 歳の誕生日を迎えていなければならない。

2014.7　国際ジュニアのための年齢

ハーフパイプ、スロープスタイルとビッグエアの最低年齢は規則 2014.2 に基づく。パラレルとスノーボードクロスには規則 2014.3 を適用する。エアリアル、モーグル／デュアルモーグルについては、モーグルは 2014.5 を適用し、スキークロスは 2014.4 を適用する。

最高年齢:

パラレルジャイアントスラローム、パラレルスラローム、スノーボードクロスとスノーボードクロスチーム戦は、FIS 競技会年度が始まる暦年の終わりまで

に、19 歳の誕生日を迎える競技者とする。ビッグエア、ハーフパイプとスロープスタイルは、FIS 競技会年度が始まる暦年の終わりまでに、17 歳の誕生日を迎える競技者とする。
エアリアル、モーグル／デュアルモーグルは、FIS 競技会年度が始まる暦年の終わりまでに、19 歳の誕生日を迎える競技者とする。
スキークロスは、FIS 競技会年度が始まる暦年の終わりまでに、20 歳の誕生日を迎える競技者とする。
（詳細は票を参照）

2014.8　国際競技会の分類（スキークロスを除く）

認められた生まれ年

FIS 競技会年度	19/20	20/21	21/22	22/23
U13	2008 2007	2009 2008	2010 2009	2011 2010
U15	2006 2005	2007 2006	2008 2007	2009 2008
U17	2004 2003	2005 2004	2006 2005	2007 2006
U19	2002 2001	2003 2002	2004 2003	2005 2004
有資格者 Alpine SB, SBX	2004 と以前	2005 と以前	2006 と以前	2007 と以前
有資格者 HP, SS, BA	2006 と以前	2007 と以前	2008 と以前	2009 と以前
有資格者 AE, MO/DM	2005 と以前	2006 と以前	2007 と以前	2008 と以前
WSC, WC, OWG	2004 と以前	2005 と以前	2006 と以前	2007 と以前

2014.9　スキークロス

FIS 競技会年度	19/20	20/21	21/22	22/23
U14	2007 2006	2008 2007	2009 2008	2010 2009
U16	2005 2004	2006 2005	2007 2006	2008 2007
U18	2003 2002	2004 2003	2005 2004	2006 2005
U21	2001 2000 1999	2002 2001 2000	2003 2002 2001	2004 2003 2002
有資格者 （WSC, WC, OWG）	2002 と以前	2004 と以前	2005 と以前	2006 と以前

2014.10　　世界ジュニア選手権大会

FIS 競技会年度		19/20	20/21	21/22	22/23
HP, BA, SS	Min	2006	2007	2008	2009
	max	2002	2003	2004	2005
Alpine, SBX	Min	2004	2005	2006	2007
	max	2000	2001	2002	2003
MO, AE	Min	2005	2006	2007	2008
	max	2000	2001	2002	2003
SX	Min	2003	2004	2005	2006
	max	1999	2000	2001	2002

2015　　スタート、フィニッシュ、計時と計算

専門機器の設置

2015.1　　通信とケーブルの配線

すべての国際大会において、複数の通信手段（電話もしくは無線など）をスタートとフィニッシュ間に設定しなければならない。スタートとフィニッシュ間の声による通信手段は、固定した配線での接続、もしくは無線を確保しなければならない。無線の場合には、その他の職務で使用するものとは別の回線（チャンネル）を用意しなければならない。ジャッジ種目の競技では、スタート、フィニッシュ、そしてジャッジスタンド間で直接会話できなければならない。オリンピック冬季競技大会、FIS 世界選手権大会、ワールドカップ、世界ジュニア選手権大会において、スタートとフィニッシュのすべての通信と計時計測の接続は（ハーフパイプを除き）固定した配線を確保しなければならない。データサービスのエリアにおいて、ワールドカップ、世界選手権大会、オリンピック冬季競技大会では、ハイスピードのインターネットへの接続が必要である。

2015.2　　計時機器と計時手順（スノーボードアルペン、クロスとモーグル／デュアルモーグル競技会）

FIS カレンダーに記載されているスノーボードアルペン、クロスとモーグル／デュアルモーグル競技会では、FIS が承認した電子タイマー、スタート機器と光電セルを使用しなければならない。タイミングの仕様書と手順は FIS タイミングブックレット　小冊子に記載されており、タイミング規則に関する大会は各種目の章（イベントチャプター）に掲載されている。

2016　　音響システム

2016.1　　すべての競技会において音楽を使用することができるが、競技会を妨げるようなものであってはならない。

2016.2　　スポーツプレゼンテーション（スポーツを演出する）係長がすべての期間中競技役員に無線で連絡をとる。

2016.3　いかなる場合において音楽が演奏される場合には、オーガナイザーの自由選択で予備の音楽を使用する。音楽はアップビートでエネルギッシュであること。

2017　ウォームアップのスロープ

クロスは規則 5104 を、アルペンスノーボードは規則 6106 を参照。

2018　コースの閉鎖と改良

コースの閉鎖時には、ジュリーの了承を得てゲートまたは旗の変更、コースのマーキングもしくはコースの構造（ジャンプ、こぶなど）を改良する者以外はコースに入ることはできない。
競技者が閉鎖中のコースに侵入した場合、ジュリーにより制裁の対象（通常の競技者によるインスペクションは例外とする）となることもある。
写真家とカメラの人員は、競技会の記録が必要な場合、閉鎖中のコースに入ることを許可される。人員の総数はジュリーが規制できる。彼らの可能な立ち位置はジュリーが指示し、そのエリア内にのみ留まること。
トレーナー、サービスマンなど閉鎖中のコースへの侵入を許される者はジュリーが決定する。同様に、写真家とカメラの人員が囲いの中に留まる限りにおいて、彼らの留まる位置の数をジュリーが承認しなければならない。

2019　スタートとフィニッシュの拡声器（マイクロフォン）

スタートとフィニッシュエリア、同様にエリア内でフェンスに囲まれた部分内では、オーガナイザーの同意なしに設置されたマイクロフォン（「ロービング」そしていわゆる「ギャロウズ」などのカメラにセットされたマイクロフォン、またはその他の技術機器）の使用は、トレーニング、そして競技会中、許可しない。例外は、権利者の同意書に付随して、組織委員会と／もしくはホスト放送局が許可する。

2020　リザルトの計算と発表

2020.1　非公式のタイムと特典

タイムキーパーが計測したタイムは、非公式タイムとみなされるべきである。確認、そして検証する以前に発表される得点は、非公式なものとみなされるべきである。タイムと得点は、演技を終了した競技者に用意された位置、そしてプレスエリアから見やすいスコアボードに表示すべきである。可能であれば、非公式のタイムと得点は、スピーカーで公表するべきである。すべての競技会において、スコアボードはコースの上部と下部の両位置に設けるべきである。

2020.2　非公式タイム、得点と失格の発表

2020.2.1　各競技会、そして各フェーズ終了後、できるだけ早く、非公式タイム、得点と失格を公式掲示板とフィニッシュにおいて公表するべきである。抗議は規則 2033 に定義されている締め切りに従ってジュリーメンバーに提出する。

2020.2.2　文章と口頭での失格の発表がともなう、フィニッシュとスタートにおける非公式タイムの発表は、公式掲示板での発表の代替えとなりうる。この場合、ジュリーメンバーに口頭で伝えられた抗議は、同様に決定されることができる。規則2033に定義された締め切り後に提案された抗議は受理されない。チームキャプテンは事前に知らされなければならない。

2020.3　公式リザルト

2020.3.1　公式リザルトは公式タイム、スコア、または公式に分類された競技者（スノーボードクロス／スキークロス）のフィニッシュをもって決定する。

2020.3.2　公式リザルトリストとスタートリストの項目は各種目の章に定義する:

クロス:	規則5701参照
アルペンスノーボード:	規則6701参照
パークアンドパイプ:	規則3701参照

2020.3.3　国は3つの大文字、指定されたFISコードで表示しなければならない（FIS広報もしくはFISホームページ参照）。

2020.3.4　予選と決勝、両方のリザルトを公表しなければならない。

2021　表彰式

競技会が終了する以前、そして技術代表が終了を認める前に表彰式を行ってはならない。オーガナイザーはこれ以前に、可能性のある勝者を発表する権利を有する。この発表は非公式であり、正式な表彰式とは別の場所で計画する。

2022　ドロー

2022.1　ドローは競技会の前日に行わなければならない。夜間の競技会の場合なその限りではない。

2022.2　ドローはチームキャプテンミーティングの時に行われるべきである。しかし、パブリックドローの場合は会場のメインの場所で行うことができる。スタート番号と競技者の名前を同時にドローする、ダブルドローを奨励する。

2023　ドロー後の変更

ドロー後、スタートリストが公式になった以降、スタートリストはいかなる変更も認めない。

2025　仮のリラン（再走、再レース）

2025.1　必要条件

2025.1.1　役員、観客、動物などの過失もしくは自らが制御できないと認められるその他の理由で、競技者が競技を妨害された場合、妨害が起きた直後、いずれかのジュリーメンバーに仮のリランを申請することができる。この抗議は妨害を受けた競技者のチームキャプテンが申請することもできる。競技者は妨害行為後ただちに、もしくは適宜、コースを離れなければならない。そして、それ以降のコース（コースの端を除く）を滑ることはならない。これは、スノーボードクロス／スキークロスの決勝には適応しない。

2025.1.2　特別な状況、または専門的な、たとえばスタート機器、もしくは計時計測システムの不備の場合、ジュリーは仮のリランを命じることもある。

2025.1.3　イェローフラッグによって競技者が停止した場合、競技者は仮のリランを要求する権利を有する。すべての仮のリランはジュリーの裁量による。ジュリーは、スタートリストの最終出走者の前に、競技者の仮リランを確実に行うこと。

2025.1.4　審判員が演技を見失った場合

2025.2　妨害の根拠

2025.2.1　役員、観客、動物、またはその他の障害物によってコースがふさがれた場合

2052.2.2　転倒によりコースをふさいだ競技者が、素早くコース開け渡さなかった場合（スノーボードクロス／スキークロス決勝には適応しない）

2025.2.3　競技者のポールなど、障害物がコース上にある場合（スノーボードクロス／スキークロス決勝には適応しない）

2025.2.4　応急手当てを受けている競技者による妨害

2025.2.5　競技者によってノックダウンされ、迅速に再設置されない、マーキングされていないゲートが不在の場合（スノーボードクロス／スキークロス決勝には適応しない）

2025.2.6　競技者がコントロール不能の事態により引き起こされる、その他の出来事が、競技者のスピードを著しく減速する、もしくは競技者の演技や、それが結果に影響する原因となった場合（スノーボードクロス／スキークロス決勝には適応しない）

2025.3　仮のリランの有効性

2025.3.1　レフリーもしくはその他のジュリーメンバーがただちに的確な役員、もしくはジャッジに、仮のリラン申請について理由を質問することができない場合、競技者や競技会の遅延を避けるために、仮のリランを得る可能性がある。仮のリランはジュリーが承認した場合にのみ有効とする。

2025.3.2　仮のリランを申請する権利を得ることとなった出来事以前に、競技者が失格していた場合、仮のリランの申請は有効とはみなさない。

2025.3.3　元の滑走よりも仮の滑走が悪いと判明した場合でも、仮、もしくは明らかに承認されたリランが有効となる。

2025.3.4　仮のリランについての要求が正統でないと明らかになった場合、競技者は制裁（複数の場合もある）の対象となることもある。

2025.4　仮のリランのスタート時間

スタートのインターバルが決められている場合、競技者は、スタートレフリーに報告後、決められたインターバルに則って、仮のリランをスタートしてよい。スタートレフリーは、競技者が仮のスタートに備え落ち着いて準備する十分な時間を認めるべきである。

2026　トレーニングと競技会の延期、中止と中断

2026.1　競技会の延期と中止

ジュリーは、安全性または公正性の見地から、競技会を継続することが得策ではない場合、競技会を中止、中断、もしくは延期する権利を有する。

中止の決定後ただちに、ジュリーは、種目（もしくは競技会）の再試合の手続きを決定しなければならない。競技会が運営できない場合、TD は、以降に再び競技会を開催するか、もしくはその競技会を永久に中止とするかの決定について FIS と相談しなければならない。
競技会が中止、もしくは延期となった場合、いかなる理由であっても、FIS 事務局とすべての関係各国（214.3 条参照）に電子メールでただちに知らせなければならない。競技会が延期となった場合、あらたに予定する日程と場所について、ただちに伝達しなければならない。あらたに予定する競技会は、完全に新しい競技会（例えば、エントリーは変更することができる、新しいスタート順など）として扱われるものとする。
レースディレクター／コンテストディレクター（存在する場合）と TD は（風、切り、雪崩、暴風雪などのために）競技会の中断もしくは中止を決定することができる。
競技会が再び予定される場合、競技会の予定は、その他の競技会運営に必要な時間を妨げてはいけない。

2026.2　競技会、またはトレーニングの中断

競技会の中断があった場合、競技会は、状況が保証された時点で再開するべきである。
中断したフェーズが同日に終了することができない場合、打ち切られたフェーズとして扱う。
競技会が同日に終了（もしくは再開して完了）できない場合、以下の規則を参照する:

パークアンドパイプ:　　規則 3704 参照
クロス:　　規則 5608 参照
アルペンスノーボード:　規則 6609 参照

2026.2.1　ジュリーによる競技会またはトレーニングの中断
- コースを維持することを許可した場合
- 好ましくない、もしくは安定しない天候、安全性と雪の状況
- その他の状況、電力障害、リフト故障、または不測の事態など
- いかなる中断の時間や期間については、ただちにアナウンスするべきである。
- ジュリーが、コース整備が終了し、競技会に適切な天候と雪の状況であると確信した場合、競技会をただちに再開する。
- 同じ理由（複数の場合もある）によって競技会が、繰り返し中断する場合、ジュリーは競技会の終了について考慮するべきである。

2026.2.2　短い中断
- 各ジュリーメンバーは、競技会中に短い中断を命令する権利を有する。
- 役員による短い中断の追加状況については、各種目の章を参照する。

2026.3　報告

このようなすべての状況（中断、終了、中止、延期）に関しては、TD は詳細を記した報告を作成し FIS と主催国の連盟に送付する。TD 報告書は、終了した競技会について FIS ポイントを考慮するか否かについて、事実に基づいた提案を含まなければならない。

2027　リザルトの記号と有効でないリザルトの記号

以下の記号について、適用の詳細は各種目の章を参照すること。

2027.1　リザルトの記号
- DNF–Did Not Finish　ゴールしない
- DNS–Did Not Start　不出走
- NPS–Not Permitted to Start　出走不許可
- RAL–Ranked as Last　最終順位
- JNS–Jump Not Scored　得点対象とならないジャンプ
- DSQ–Disqualified　失格

2027.2　無効なリザルトの記号
- DNF–Did Not Finish　ゴールしない
- DNS–Did Not Start　不出走
- DQB–Disqualified for unsportsmanlike behavior　スポーツマンらしからぬ態度による失格
- DSQ–Disqualified　失格
- NPS–Not Permitted to Start　出走不許可

2028　Not Permitted to Start　出走不許可／裁定

スノーボード、フリースタイル、フリースキーのいかなる FIS の国際競技会において、以下に該当する競技者は、出走不許可の制裁の対象となることがある:

2028.1　節度を欠いた名前そして／もしくはシンボルをあしらった洋服と用具（207.1 条）を着用する、もしくはスポーツマンらしからぬ態度でふるまう。

2028.2　すべてのスノーボード、フリースタイル、フリースキーの競技会において使用が義務付けられているヘルメットを含み、またそれに限らず、用具（222 条）、広告表示（207 条）　に関する FIS 規則に違反する。

2028.3　FIS が要求する医事検査（221.2 条）への協力を拒否する。

2028.4　競技者に閉鎖となっているコースやジャンプでトレーニングする（規則 2018 と 2030.3）。

2028.5　競技会でスタートし、のちにジュリーが規則に違反していたと決定した場合、ジュリーは競技者に制裁を課さなければならない。

2029　警告／制裁

警告／制裁は、以下に該当する競技者に対してジュリーが課す:

2029.1　223 条に記されている、制裁を管理する規則に違反する。

2029.2　用具の広告に適応される規則に違反する（207.1 条）。

2029.3　許可されていない方法でスタート番号を改ざんする（規則 2013.2）。

2029.4　公式のスタート番号を装着しない。

2029.5　スタート時間に準備ができていない、もしくは偽りのスタートをする。

2029.6　競技会中に外部からの援助を受ける。

2029.7　規則 2028 にあるいかなる事項に違反したとみなされる。

2029.8　スノーボード、フリースタイル、フリースキーの各種目の章に記載されている、制裁を管理する規則に違反する。

2030　失格／制裁

失格／制裁は、以下に該当する競技者に対してジュリーが課す:

2030.1　虚偽の申告、またはうそをついて競技会に参加した場合

2030.2　他人の安全、または所持品を脅かす、もしくは実際のけがや破損の原因となる。他の競技者の妨げの原因と特定される。

2030.3　競技者に閉鎖となっているコースやジャンプでトレーニングする、規則 2018 による許可されない方法でコースを改ざんする、もしくはトレーニングまたは競技会の遂行に関してジュリーの指示に反して行動する。

2030.4　トレーニング、インスペクション、競技会期間中に、仕様に適したヘルメット、もしくは公式のスタート番号を着用しない。もしくはスタート番号を何らかの方法で改ざんする、もしくは FIS の用具規則に違反する。

2030.5　スタートに遅れてくる、虚偽のスタートを行う、もしくはスタート手順の規則に違反する。

2030.6　競技会中、いかなる種類のものであれ、外部からの援助を受ける。

2030.7　遅刻が立証されない、不当な仮のリラン申請

2030.8　スポーツマンらしからぬ態度による DQB （Disqualified for unsportsmanlike behavior）　スポーツマンらしからぬ態度による失格

2030.9　203 条–資格に合格していない場合

2031　上訴委員会

2031.1　225 条参照

2032　抗議

2032.1　抗議の種類

2032.1.1　競技会参加に関する抗議

2032.1.2　競技者の競技用具に関する抗議

2032.1.3　コースまたはコース状態に関する抗議

2032.1.4　競技会中、他の競技者、または役員に対する抗議

2032.1.5　失格に対する抗議

2032.1.6　タイムキーパーもしくは得点の計算に関する抗議

2032.1.7　リランに対する抗議

2032.1.8　ジュリーの指示に対する抗議

2032.2　抗議の提出

個々の抗議は以下のように提出する:

2032.2.1　規則 2032.1.1－2032.1.7 に関する抗議は、公式掲示板に指定された場所、もしくはチームキャプテンミーティング時に発表があった場所。

2032.2.2　FIS に関する規則 2026 による抗議

2032.2.3　ジュリーは、妥当な説明、そして／または証明となる証拠をともなった抗議のみを受理することができる。

2032.2.4　ジュリーは、元のジュリーの意見に関連する、新しい証拠が存在する場合にのみ、以前の意見を再検討することが許される。

2032.2.5　こちらに記載されている規則においては抗議、または上訴を受ける可能性のある事項を除き、すべてのジュリー決定は最終決定とする。

2033　抗議の締め切り

2033.1　競技の参加に関する抗議:

- ドローの前

2033.2　コース、またはコース状態に関する抗議:

- 競技会開始前、遅くとも 60 分前まで

2033.3　競技会中における他の競技者、または競技者の用具、もしくは役員の規則外の行動に対する抗議

- 最後の競技者がフィニッシュしてから 15 分以内。
- スノーボードクロス／スキークロスの決勝とパラレルジャイアントスラローム／パラレルスラロームの決勝では、次のヒートが始まる前

2033.4　失格に関する抗議:

- 失格の掲示、またはアナウンス後、15 分以内

2033.5　計時に関する抗議:

- 非公式リザルトリストの掲示後、15 分以内。

2033.6　ジュリーの指示に対する抗議:

- ただちに、そして規則 2033.4 に関する抗議の提示に関する締め切り以前

2033.7 正しくない計算と事務的な誤りに関する抗議:
役員、または競技者の規則違反が原因ではなく、リザルトに計算の誤りがある場合、競技者の所属連盟を通し、FIS のホームページに FIS ポイントが公式に掲載されてから 48 時間以内に、FIS 事務局へ書留郵便（または電子メール: protests@fisski.com）で送付された場合、検討する。誤りが証明された場合、訂正したリザルトを発行し、関連する表彰を新たに表彰しなおす。

2034 抗議の書式

2034.1 抗議は書面で提出する。

2034.2 例外として規則 2032.1.4、2032.1.5 と 2032.1.6 に関する抗議は口頭で行うことができる。

2034.3 抗議は詳しく立証しなければならない。証拠が提示され、そして証拠となる内容が含まれなければならない。

2034.4 100 スイスフラン、もしくは同価値のその他の貨幣か、ジュリーが告知した金額を、抗議提出の預り金として支払わなければならない。預り金は、抗議が支持された場合、返金される。却下された場合、FIS に納入される。

2034.5 抗議はジュリーによる決定の公表以前に、抗議者が取り下げることもある。
しかしながら時間など何らかの理由で、ジュリー、またはジュリーメンバーが中間的な決定、たとえば仮の決定などをしているときには、抗議は取り下げることはできない。

2034.6 時間までに提出されない抗議、または抗議の費用をそえずに提出された抗議は考慮しない。

2035 権限

以下が抗議を（規則に従って書面または口頭で）提出する権限を有する。:
- 国の連盟
- トレーナー
- チームキャプテン
- 競技者（スノーボードクロス／スキークロス）

2036 ジュリーによる抗議の解決

2036.1 ジュリーはジュリーが公表した、あらかじめ決めた場所と時間に抗議を裁定するために集う。

2036.2　旗門（ゲート）の通過に関する抗議（複数の場合もある）の場合、旗門審判員と、必要な場合は、隣接する複数のゲートの組みあせを担当する旗門審判員、もしくはその他の関係する役員、問題となる競技者と抗議しているチームキャプテン、またはトレーナーが、ジュリー会議に参加するように招集されることになるだろう。さらに、ビデオ、写真、映像など追加の証拠となるものを再検証し検討されるべきである。

2036.3　ジュリーメンバーのみが投票する。TD が会議の長となる。ジュリー会議の議事録を作成し、投票権を有するジュリーメンバー全員が署名する。決定に関しては、同席していないメンバーを含む、すべてのジュリーメンバーの過半数の賛同を得る必要がある。可否同数の場合、TD の投票で決定する（ワールドカップと主要大会では、特別な規則を適応し、レースディレクター／コンテストディレクターが長となり決定票を有する）。

2036.4　抗議の裁決はジュリー会議後直ちに公式掲示板に、公示時間を添えて公示する。スノーボードクロス／スキークロスの決勝とパラレルジャイアントスラローム／パラレルスラロームの決勝の場合、決定は口頭で伝えられることもある。

2037　上訴の権利

2037.1　上訴

上訴は FIS 事務局に提出しなければならない。

2037.1.3　時間制限

2037.1.3.1　競技会ジュリーの裁決は、48 時間以内に、それぞれの上訴委員会へ上訴可能である。

2037.1.3.2　公式リザルトについて、ジュリーの権限以外の事柄に関しては、FIS 事務局を通じて理事会へ、30 日以内に上訴することができる。

2037.1.4　上訴に関する裁決は以下が行う:
- 上訴委員会
- FIS 裁判所

2037.2　延期の影響

提出された証拠（抗議、上訴に）は、上訴の延期の原因にはならない。

2037.3　提出

全ての上訴は、書面をもって立証されなければならない。証明と証拠が含まれる。とても遅れて提出された上訴は FIS に拒否されなければならない。

2038　競技者の用具

競技会用品と広告表示の仕様書を参照。

2039 競技会議定書

2039.1 フリースタイルスキー競技会の定義

フリースタイル競技会は以下の種目で構成する:

- エアリアル AE
- エアリアルチーム AET
- デュアルモーグル DM
- モーグル MO
- スキークロス SX
- スキークロスチーム SXT

フリースタイル競技会は女性と男性、両方に競技する機会を提供しなければならない。

2039.2 フリースキー競技会の定義

フリースキー競技会は以下の種目で構成する:

- フリースキーハーフパイプ HP
- フリースキースロープスタイル SS
- フリースキービッグエア BA

フリースキー競技会は女性と男性、両方に競技する機会を提供しなければならない。

2039.3 スノーボード競技会の定義

スノーボード競技会は以下の種目で構成する:

- スノーボードハーフパイプ HP
- スノーボードスロープスタイル SS
- スノーボードビッグエア BA
- スノーボードクロス SBX
- スノーボードクロスチーム BXT
- スノーボードスラローム SL
- スノーボードジャイアントスラローム GS
- スノーボードパラレルジャイアントスラローム PGS
- スノーボードパラレルスラローム PSL
- スノーボードパラレルチーム PRT

スノーボード競技会は女性と男性、両方に競技する機会を提供しなければならない。

2040 FIS が承認する予定

オーガナイザーが一日のうち（同日中）に複数（ふたつ以上）の大会を運営したい場合、競技会の日程は FIS が承認しなければならない。

2041 事故

2041.1 FIS そして競技会を運営する主催国は、競技者の負傷、または損害に関して、一切責任を負わない。

2041.2 FIS はいかなる事故、または負傷について、詳しく書面で連絡を受ける。連絡は TD によって報告されなければならない。（規則 2008.5.3 参照）。

2042 保険

2042.1 主催国

FIS の公認競技会を行う主催国は、競技会と競技会のすべての状況を補償する、適切で包括的な損害賠償保険を提供することに責任を持つ。212.1 条から 212.3 条参照。

2042.2 競技者

ライセンスの発行と競技会への参加をもって、国のスキーとスノーボード連盟は、トレーニングと競技会に関して有効で十分な傷害保険が競技者のためにすべて整い、そして競技者が準備していることと、すべての責任を負うことを確認する。

2043 組織の会議

2043.1 チームキャプテンミーティング

チームキャプテンミーティングはすべての FIS 競技会の共通規則 216 条に則って行う。チームキャプテンミーティングの目的は、競技会の手順、そして活動関する詳細な情報を提供、ビブのドローの決定、競技者のライセンスと資格の収集、運営上必要な事項について処理することである。
会議内容をそれぞれの参加者に伝達するのは、各チームキャプテンの責任である。チームキャプテンミーティングには、レースディレクター（指名されている場合）、主審、TD、競技委員長、コース係長、その他主要競技役員が出席すること。会議は、主催国からの競技委員長が議事進行する、そして TD が代理を務めることもまた可能である。

2043.2 組織委員会の会議

FIS 公認競技会において、競技会開会前に数回、および可能な場合、会期中に組織委員会を開催すること。会議は、必要に応じ、競技委員長が召集し、責任を持って大会に関わる主要関係者に召集を通達し、彼らが参加できるようにする。
会議後、会議結果は議事録を作成し、会議参加、不参加にかかわらず、大会の主要関係者にすべて書面にて報告する。すべての分野が正確に把握できるよう、競技会に関するもっとも大切な情報を伝えることは、競技委員長の責任である。

2043.3　　ジャッジミーティング

ジャッジ競技については、競技会の主審は責任を持って、競技会開会前日までに、ジャッジミーティングを開催する。少なくとも、最初の競技日の 1 日前に開催することを強く推薦する。主審がジャッジミーティングの計画に責任を持つ。

2043.4　　ジュリー会議

競技会のジュリーは、第 1 回チームキャプテンミーティング以前に、最低 1 回、集合すること。コースの公式視察のために、公式トレーニング以前にも 1 回は集合すること。ジュリーの長は、ジュリー会議の議長を務める（規則 2007.5.1 参照）。

競技会ごとの規則

3000 パーク＆パイプイベント

3100 競技エリア

3101 スタートエリア

スタートエリアは、スタートする競技者とコーチ１名、そしてスタート係以外入れないよう、閉鎖しなければならない。

3101.1 例外

室内スキー場や都市型の競技会においては例外とする。（インドアスタイルまたはインシティースタイル）

3101.2 競技者の準備エリア

競技者の準備エリアは、競技者が競技の準備をするため、そしてコーチ、スタッフ、メディアチームがそれぞれの業務を行うため、平坦で十分な広さがなければならない。

3101.3 スタートプラットフォーム

ドロップインエリアは、競技者がコースへ進入する際に適切な速度と運動量与えるべきものであり、マニューバに進入するためのものではない。競技者がスキー、スノーボードを装着した状態のままでもリラックスして立つことができるよう、完全に平らな場所とする。

3102 コース

3102.1 安全性 / フェンスの設置 / カラーリング

コースはフェンス/ロープによって、完全に閉鎖されなければならない。ジュリーが危険と判断した場所については、マットレス、パッド、ネットなどの設置を組織委員会に対して要求できる。

3102.1.1 コースと地形のマーキング

すべての競技会において、ジュリーの指示により着色染料を使い、コースの次の個所にマーカーを引くことが出来る：ハーフパイプのリップやトランジション、キッカーのテーブルからランディングへ切り替わる端（ノール）地形の変化を示すために、アプローチ、ジャンプ、トランジション、フィニッシュラインなどに水平方向と垂直方向のライン

3102.1.2 コースの閉鎖と修正

閉鎖されたコースにおいて、ジュリーまたはジュリーが認めた者以外がフィーチャーに対する変更、コースのマーキング、コース構造の変更（テイクオフ、レールなど）を行うことは認めない。2018 年の競技規則を参照すること。

3102.2 ハーフパイプ

ハーフパイプは、半円状の筒を雪の中に造成したものである。

3102.2.1.　テクニカルデータ

コード	ハーフパイプの基準	数値
S (ft)	サイズ：	
	レベル A	22 フィート/ 6.7m
	レベル B	18 フィート/ 5.5m
	レベル C	15 フィート/4.5m
L (m)	長さ（滑走可能な長さ）	
	22 フィート	最低 160.0m
		推奨 170.0m
	18 フィート	最低 120.0m
		推奨 150.0m
	15 フィート	最低 100.0m
		推奨 120.0m
H (m)	高さ、パイプの底からコーピングまでの高さ	
	22 フィート	6.7m
	18 フィート	5.3 m
	15 フィート	4.5m
V (m)	バーチカル、壁【ウォール】の上部	0.2m：82-83 度
I (°)	斜度、パイプのセンターライン	
	22 フィート	最低 17°
		推奨 18°
	18 フィート	最低 16°
		推奨 17°
	15 フィート	最低 14°
		推奨 15°
W (m)	幅、コーピングからコーピングまで	
	22 フィート	最低 19.0m
		推奨 19.0-22.0m
	18 フィート	最低 17.0m
		推奨 17.0-19.0m
	15 フィート	最低 15.0m
		推奨 15.0-17.0m
	競技会レベル	
レベル A	OWG、WSC、WJC、WC、YOG	
レベル B	COC、UVS、WJC、YOG	
レベル C	NC、FIS、EYOF、JUN	

3102.2.2　ハーフパイプ会場

ハーフパイプの会場は、規則 3102.2.1.に記載された規格を遵守しなければならない。ハーフパイプはすべての壁で雪の状態は密かつ一定であり、トランジションからボトムへの移行が滑らかで、ハーフパイプの仕様を満たすのに十分なバーチの角度があるものでなければならない。ハーフパイプ会場の造成は、予定された最初の公式トレーニングの少なくとも 1 日前に終了し、トレーニングを行うことができる状態でなければならない。すべてのレベルの競技会において（A-B-C）、ハーフパイプは推奨、承認された規格を満たす必要があり、ハーフパイプ造成のために設計された、特別な整備機械を備えていなければならない。競技会当日以前に、2 日間の公式トレーニング日を設けなければなけ

ればならない。ただし、ジュリーは特別な状況下において、この期間を短縮してもよい。

3102.3　スロープスタイル

競技会場は、ジャンプ、レール、テーブル、ビッグエアなど、多彩なフィーチャーを配置し、競技者が選択できるように２ライン以上設定すべきである。

3102.3.1　テクニカルデータ

コード	**スロープスタイルの基準**	**数値**
VD (m)	標高差（バーティカルドロップ）	
	レベル A	最低 150.0m
	レベル B	最低 80.0m
	レベル C	最低 50.0m
I (°)	斜度、平均	10°またはそれ以上
SW (m)	スロープ幅	30.0m
TF (no.)	フィーチャーの種類、すべてのレベルにおいて	最低２種類
SC (no.)	セクション、スロープの一つの個所に１つ以上のフィーチャー 最低１つの評価可能なヒットが行えること	最低
	レベル A	6 個
	レベル B	4 個
	レベル C	3 個
JP (no.)	ジャンプセクションの最低数	
	レベル A	3 個
	レベル B	2 個
	レベル C	1 個
	スタート基準	
SA	スタートエリア、最初のフィーチャーに進入するために必要な速度に応じた長さ	
	フィニッシュ基準	
FA (m)	フィニッシュエリア、最後のフィーチャーの構造とスピードに応じて、競技者が安全にコントロールされた状態で停止することが可能な長さ	
FW (m)	フィニッシュエリア幅	最低 30.0 m
	競技会レベル	
レベル A	OWG、WSC、WJC、WC、YOG	
レベル B	COC、UVS	
レベル C	NC、FIS、EYOF、JUN	

3102.3.2　一般的なコースの特徴

スロープスタイルの会場は、規則 3102.3.1 に記載された規格を遵守していなければならない。キッカー、テイクオフなどすべての個所において、雪の状態が密かつ一定となるよう、特定のプロセスで造成しなければならない。

スロープスタイル会場の造成は、予定された最初のトレーニングセッションの少なくとも１日前に終了し、トレーニングを行うことが出来る状態でなければならない。

3102.3.3　スロープスタイルコースの概要

スロープスタイルのコースには、さまざまな種類のフィーチャー（テーブルトップジャンプ、ファンボックス、クォーターパイプ、ウェーブ/ジャンプ、レールとリッジ、またはその他の種類）が設置されるものとする。コースには異なるセクションを設け、スロープの同じ個所に１つ、またはそれ以上の数のフィーチャーを設置し、評価の対象となるヒットを最低１つ行うことを可能とすべきである。コースには異なる種類のフィーチャーを最低２つと、下記の競技会のレベルに応じた最低限の数のジャンプ、および評価の対象となるヒット数が必要である

競技会レベル	最低ジャンプ数	評価対象となる最低ヒット数
Level A	3	6
Level B	2	4
Level C	1	3

コースは、競技者が特定のスタンスでなく、複数の方向にスピンできるようにし、フリースタイル技術と才能をアピールする機会を提供できるものとすべきである。フィーチャー間の距離は、スムーズなトランジションとパフォーマンスを可能にするものとする。フィーチャーならびにコース全体は、男女の両方が使用できるよう設計すべきである。

理想的なスロープスタイルコースは、幅広いフィーチャーがさまざまな組み合わせでバランス良く配置され、技術的にチャレンジングなものとすべきである。クリエイティブなフィーチャーやコースは、最初のトレーニング日前にテストし、機能的かつ安全であると見なされる限り、許可される。

3102.4　ビッグエア

3102.4.1　テクニカルデータ

コード	ビッグエアの基準	数値
	スタート基準	
SA（m）	スタートエリアの長さ	最低 5.0m
DW（m）	ドロップインランプ幅	最低 5.0m
DP（m）	ドロップインプラットフォームの長さ	最低 5.0m
DL（m）	ドロップインランプの長さ	最低 30.0m
DI（°）	ドロップインランプ傾斜	最低 20.0°
DF（m）	ドロップインランプフラット、キッカーの前のライトトランジションエリア	5.0-10.0 m
	キッカーの基準	
JH（m）	キッカーの高さ（キッカー下部からキッカーの上部のフラット部分まで）	最低 2.0 m
JT（°）	キッカーのテイクオフ角度	最低 25.0°
JW（m）	キッカーの幅	最低 5.0m
	ランディングの基準	
LF（m）	テイクオフからランディングまでの長さ	最低 10.0m
	レベル A	最低 15.0m
LI（°）	テイクオフ角度に応じたランディング斜度	最低 28.0°
LW（m）	ランディング幅	最低 20.0m
LL（m）	ランディングの長さ	最低 20.0m
	フィニッシュ基準	

FA（m）	フィニッシュエリアの長さ	30.0m（最低 20.0m）
FW（m）	フィニッシュエリアの幅	30.0m（最低 20.0m）
	競技会レベル	
レベル A	OWG、WSC、WJC、WC、YOG	
レベル B	COC、UVS	
レベル C	NC、FIS、EYOF、JUN	

3102.4.2 ビッグエア会場
ビッグエアの会場は、規則 3102.4.1 に記載された規格を遵守していなければならない。
また、会場は、予定された最初の公式トレーニングの少なくとも 1 日前に完成していなければならない。ドロップインは、競技者がジャンプを行うためのスピードを調整することを可能にし、ランディングは飛行軌道に合わせ、スムーズに着地をするのに十分な斜度であるべきである。

3103 フィニッシュエリア

フィニッシュエリアは、競技者が安全に停止できるよう、平らで十分な広さがなければならない。フィニッシュゲートは、競技者が完全に停止し、スキー/スノーボードを外してからフィニッシュエリアを離れるように設置しなければならない。

3103.1 フィニッシュエリアは、競技者がフィニッシュに向かう際にはっきりと見える必要がある。幅が広く、傾斜が緩やかで滑らかなアウトランが必要である。

3103.2 フィニッシュエリアは完全にフェンスで囲み、役員、メディア、観客に最大限の視認性を提供するようにレイアウトする必要がある。また、許可された関係者以外の侵入を阻止する必要がある。

3103.3 フィニッシュとクローズの設備は準備するか、適切なセキュリティ保護手段を介して、フィニッシュエリアの設置と閉鎖を設定する必要がある。

3200 競技設備

3201 ジャッジスタンド

ジャッジスタンドの大きさは、ジャッジならびにデータとリザルト担当者の人数（1 人当たり 1 平方メートル）に基づいて計算される。ジャッジのビューエリアは、必要な役員の人数に対して十分なスペースが確保され、またヘッドジャッジとジャッジ全員の視界が確保されるように設置される必要がある。ジャッジは風、雪、雨に当たらない様に守られるべきである。ジャッジスタンドへの入り口は、スタンドの横または後ろとする。

3201.1 備品

ジャッジスタンドには、ジャッジ全員分の椅子、テーブル、さらに 2 名のデータとリザルト担当者ならびに必要なハードウェアを置ける必要がある。各フェイズ間に、TD、スターター、スコアボード記録者のためにリザルトとスタートリストを印刷するための設備も必要である。

ジャッジスタンドの近くには、トイレが設置されなければならない。近くに無い場合は、スノーモービルまたは類似の手段を使い、最大 1 分以内に到着できる必要がある。

3201.2　ハーフパイプ競技会におけるジャッジスタンド設置場所

ジャッジスタンドはハーフパイプの下部に設置しなければならない。ただし、（ハーフパイプの下部から）ビデオジャッジングを行う場合はこの限りではない。この場合、ジャッジスタンドの設置場所はどこでも良い。ビデオジャッジングについては規則 3406.1 を参照すること。

3201.3　ビッグエア競技会におけるジャッジスタンドの設置場所

ビデオジャッジングを行う場合、ジャッジスタンドの設置場所はどこでもよい。ビデオジャッジングを行わない場合、ジャッジスタンドは、ラン、テイクオフ、ランディングが良く見えるよう、ジャンプの側方（45°の位置が理想的）に設置すべきである。ビデオジャッジングについては規則 3406.2 を参照すること。

3201.4　スロープスタイル競技会におけるジャッジスタンド設置場所

ビデオジャッジングを行う場合、ジャッジスタンドの設置場所はどこでもよい。ビデオジャッジングを行わない場合、ジャッジスタンドは、スロープスタイルコース全体が最もよく見える場所に設置しなければならない。これが可能でない場合、第 2 のジャッジスタンドを設置し、ジャッジの人数を増やすことで、コース全体を見ることができるようにしなければならない。ビデオジャッジングについては規則 3406.2 を参照すること。

3202　場内放送設備

2016 を参照すること。

Park & Pipe のすべての競技会で音楽を使用する。

音響システムは、競技者が音楽をはっきりと聞き取ることができ、主要なエリア（スタートエリア、フィニッシュエリア、またはコース全体）にて音が歪まずに聞こえる程度の音量でなければならない。また、音響システムは、音楽、スコア等を含めたアナウンサーのコメントがはっきりと聞き取れるようでなければならない。音響係長および DJ が音声/音楽に対しての責任を持つ。

3203　競技会場でのリザルト（OVR）

競技者はスタートエリアおよびフィニッシュエリアにて、全てのスコアを確認することが出来なければならない。全てのスコア、順位は、ランごとに掲示されなければならない。これは、スコアボード、データスクリーンもしくはライブアプリにて実施する。

3300　パーク＆パイプ競技役員/スタッフ:

3301　競技ジュリーメンバー

ジュリーは競技会を管理し、競技会に関する決定を下す責任を持つ。詳細については、共通セクション 2007 を参照すること。

3302　コンテストディレクター

全ての主要な競技会（UVS、WJC、YOG、WSC、OWG）において、FIS コンテストディレクターは、主要なスタッフの一人であり、ジュリーのメンバーである。
コンテストディレクターは、競技のすべてのフェイズにおいて、技術的、スケジュール的な問題など、ICR に関わる事柄が適切に処理されていることを他のジュリーメンバーとともに確認する役割を持つ。詳細については、コンテストディレクター規則 2009 を参照すること。

3303 技術代表（TD）

TD の主な任務
- FIS の規則と指示が遵守されていることを確認する
- 競技会が公平性をもって行われていることを確認する
- 主催者にその職務の範囲内で助言する
- FIS の公式な代表者となる
- 詳細については、共通セクション 2008 を参照すること。

3304 競技委員長

競技委員長は、2007 にある通り、ジュリーメンバーである。
パーク＆パイプにおいて競技委員長の役割は：

ヘッドジャッジと TD の不在時におけるハーフパイプ/スロープスタイル/ビッグエアートレーニングのスーパーバイザー
- ジャッジスタンドの設置の監督
- ジャッジスタンドにて必要な設備（テーブル、椅子、パーティション、ヒーターなど）を適切に配置する
- ハーフパイプ/スロープスタイル/ビッグエアにおけるすべてのキャプテンミーティングに出席する
- ヘッドジャッジおよび全ての FIS 役員の要求に応じて、ジャッジに十分な食べ物や飲み物などを提供する。

詳しくは、共通セクション 2004.1 を参照すること。

3305 主要競技会におけるフィニッシュとスタートレフリー(OWG と WSC)

フィニッシュならびにスタートレフリーは、OWG と WSC においてのみ配置する。詳細については、共通セクション 2004.4 と 2004.5 を参照すること。

3306 コース係長 (ハーフパイプ、ビッグエア、スロープスタイル)

コース係長は、ジュリーの決定と指示に従い、コースを準備する責任がある。
コース係長は、その土地の雪の状態や地形について精通していなければならない。
さらに、ハーフパイプ/ビッグエア/スロープスタイルコース係長は：
- 組織委員会のメンバーとすべきである
- ジュリーおよび FIS コンテストディレクターの指示の下におく
- トレーニング中および競技中のハーフパイプ/スロープスタイル/ビッグエアーコースが、FIS ハーフパイプ/スロープスタイルの推奨規格および仕様に準拠しているか常に確認する
- ハーフパイプ/ビッグエア/スロープスタイルコースの造成と維持の経験が必要である。FIS は、ハーフパイプ/スロープスタイルコースの準備と維持のた

めに FIS により任命されたテクニカルアドバイザーの配置を要求する可能性がある。

3307 スタート役員

3307.1 スターター

スターターは警告とスタート指示を担当する。スターターは、アシスタントスターターに競技者の監督を割り当て、インスペクション、トレーニング、競技中に、競技者がビブやヘルメットを装着していることを確認する。スターターは、ヘッドジャッジと連絡がとれる状態にいなければならない。

3307.1.2 OWG と WSC において、スターターの役割は、スタートレフリーまたはそのアシスタントの 1 人が行う。

3307.2 アシスタントスターター

アシスタントスターターは、競技者を正しい順番でスタートに召集する責任がある。

3307.2.1 OWG と WSC において、アシスタントスターターの役割はスタートレフリーアシスタントによって行われる。

3307.3 スターターとアシスタントスターターの両方は、使用される競技会フォーマットと、次のフェイズへ進む競技者の人数について、正確な情報を与えられなければならない。

3308 競技会スタッフ

3308.1 シェイパー

適切なコース条件を確保し、各競技フェイズを実行するためには、コースの全ての造成、形成とそれを維持する義務と目的を持ち、ジュリー、競技委員長、テクニカルアドバイザーと密に連携を取ることができる専任のクルーがいなければならない。シェイパーは、コース上の全てのフィーチャーを適切に整備するのに十分な人数が確保されなければならない。シェイパーは、コース係長と密接に連携をとる必要がある。

3308.2 サイドスリップクルー

全てのフィーチャーを維持し、適切なコース条件で各競技フェイズを実行するためには、ジュリー、コース係長およびシェイパーと密に連携を取ることができる、スキー/またはスノーボードの横すべり専門のクルーがいなければならない。

コース（ハーフパイプ、ビッグエア、スロープスタイル）に基づき、また天気と雪の状況に応じて求められるスライドスリップの技術とスリッパーの人数は変動する。

サイドスリップクルーは、コース係長/競技委員長の管理下に置く。

3308.3 カラークルー

適切なコース条件で各競技フェイズを開始し、実行するためには、ジュリー、コース係長およびシェイパーと密接に連携して作業する義務と目的を持ったスキーの専用クルーがいなければならない。カラークルーは、適切なカラーポンプまたは類似したものを使用し、全てのフィーチャーに着色を行う。

コース（ハーフパイプ、ビッグエア、スロープスタイル）と天気や雪の状態に応じてカラーリングの技術およびカラークルーの人数は変動する。
カラークルーは、コース係長または競技委員長の管理下に置く。

3308.4 キッカー/セクションマーシャル
スロープスタイル、ビッグエアにおいて、コースマーシャルは各フィーチャー/セクションの近くに配置され、そのフィーチャーを監視する。
キッカー/セクションマーシャルは、担当セクションにて、各競技フェイズにおける競技者の流れをコントロールするため、無線と旗を備えていなければならない。

3308.5 メディカルチーム
公式トレーニングおよび競技中は、スタートエリアに常時、最低 2 名の救助/応急手当担当者を配置する必要がある。
詳細については、医療ガイドラインおよび一般規則のセクション 2004.8 および 2004.9 を参照すること。

3309 リザルト係長（計時計算係長）およびアシスタント
共通セクション 2004.6 を参照すること。
多くの場合、リザルト係長はデータサービス会社の担当者、または計算システムを扱う担当者である。

3309.1 トリックコーラー
OWG、WSC、WC におけるすべてのスロープスタイル競技会では、トリックコーラーが任命される。トリックコーラーはジャッジによって承認される。トリックコーラーは、行われたすべてのトリックを読み上げ、リザルトチーフがグラフィックシステムにトリックの名前を入力することを助けるのを義務とする。

3310 競技セクレタリー
共通セクション Rule 2004.7 を参照すること。

3311 ジャッジパネル

3311.1 定義
競技会におけるジャッジパネルは、各競技会のレベルに応じたライセンスを保有する、3〜9 名のジャッジおよびヘッドジャッジ（SB＆FK ジャッジアドバイザリーグループにより認定）から構成される。ジャッジは、現行の FIS 規則と基準に基づいて採点しなければならない。
次期シーズンのヘッドジャッジとジャッジは、FIS スノーボード、フリースタイル、フリースキー委員会の秋季会議に先立って選出される。
CoC および FIS レースのジャッジは、最終的なカレンダーが確定したときに選出される。

3311.2 義務
ジャッジの構成は、スノーボードフリースタイルフリースキー委員会の責任下にある。ジャッジアドバイザリーグループはこの権限を行使する。

3311.3 前提条件

ジャッジとヘッドジャッジは、任命された競技大会のレベルに対応したランセンスを保有している必要がある。

3311.4 養成

ジャッジの養成は次のとおり行う。

- 各所属スキー連盟にて C ライセンスを取得する
- 地域/国内にてジャッジ経験を積む
- 国際ジャッジクリニックに参加する
- 国際ジャッジクリニックにおけるステノ//筆記試験の満足のいく出来
- ジャッジの経験に関する前提条件が満たされている場合、そのジャッジは国際ライセンスを取得する資格がある。（3311.6 資格-ライセンスを参照すること）

各国スキー連盟は、有能な人物を FIS ディベロップメントプロセスへの参加に推薦できる。その承認に関して SB＆FK ジャッジアドバイザリーグループが最終的な決定を下す。

3311.5 教育

申請者の訓練は、各国スキー連盟の責任とする。

申請者は、FIS 国際ジャッジクリニックに出席し、筆記試験に合格し、FIS SB＆FK ジャッジアドバイザリーグループ（JAG）の承認を得る必要がある。試験は公式の FIS 言語にて行われる。

3311.6 資格 - ライセンス

SB および FK ライセンスは各競技別々のものである。 SB / FK を兼ねたライセンスは存在しない。ジャッジは、スノーボードまたはフリースキーのライセンス取得するために以下の前提条件を満たす必要がある。

A–ライセンス

A–ランセンスジャッジは、あらゆるレベルの FIS SB / FK 競技会で審判することができ、冬季オリンピック、ユースオリンピック、世界選手権を含むすべての FIS 競技会にてヘッドジャッジを務めることができる。

B–ライセンス

B–ライセンスジャッジは、FIS ワールドカップ、ユースオリンピック大会、コンチネンタルカップ以下にて審判することができ、FIS コンチネンタルカップ以下の競技会にてヘッドジャッジを務めることができる。

C–ライセンス

C–ライセンスジャッジは FIS コンチネンタルカップ以下にて審判することができる。
例外的な状況において、ワールドカップに最大 1 名まで C ライセンスジャッジの配置が認められる。
コンチネンタルカップごとに最大 2 名までの C ライセンスジャッジの配置が認められる。
C–ライセンスジャッジは国内のすべての競技会にてヘッドジャッジを務めることができる。

ライセンス	OWG	YOG	WSC	WC	UVS	WJC	CoC	FIS	NC
A-ジャッジ	X	X	X	X	X	X	X	X	X

B-ジャッジ		X		X	X	X	X	X	X
C-ジャッジ				X**		X**	X*	X	X

*) FIS コンチネンタルカップ 1 戦あたり最大 2 名の C ライセンスジャッジを配置可能とする。

**) FIS ワールドカップおよび WJC につき最大 1 名の C ライセンスジャッジを配置可能とする。

3311.6.1 A ライセンスの前提条件

- 各競技において最低 3 年のジャッジ経験がある。
- 過去 3 年間に最低 2 回、国際 FIS ジャッジクリニックに参加した。
- 過去 3 年間に最低 1 回、ワールドカップのジャッジをしている。
- FIS SB / FK ジャッジアドバイザリーグループ（JAG）により承認された
- ジャッジは、ハイレベルな独立したイベントにおけるジャッジ経験、またはハイレベルな競技者としての経験に基づき、ライセンスのアップグレードを申請できる。申請者は、FIS 国際ジャッジクリニックに少なくとも 1 回参加し、NSA の承認を受けている必要がある。ライセンスのアップグレード申請に対する承認、または否認は、JAG によって判断される。
- FIS A-License を維持/更新するため、ジャッジは過去 2 年の間に国際ジャッジクリニックに少なくとも 1 回参加し、実践試験においてスキル/および知識に関する満足のいく結果を示す必要がある。毎年参加することが奨励されている。

3311.6.2 B ライセンスの前提条件

- 各競技において最低 2 年間のジャッジ経験がある。
- 過去 2 年間に最低 2 回、FIS コンチネンタルカップ（また同等）のジャッジの経験がある。

- 最低 1 回、国際ジャッジクリニックに参加した。
- FIS SB / FK ジャッジアドバイザリーグループにより承認された。
- ジャッジは、ハイレベルな独立したイベントにおけるジャッジ経験、またはハイレベルな競技者としての経験に基づき、ライセンスのアップグレードを申請できる。申請者は、FIS 国際ジャッジクリニックに少なくとも 1 回参加し、NSA の承認を受けている必要がある。ライセンスのアップグレード申請に対する承認、または否認は、JAG によって判断される。
- FIS B-License を維持/更新するため、ジャッジは国際ジャッジクリニックに少なくとも 1 回参加し、実践試験においてスキル/および知識に関する満足のいく結果を示す必要がある。毎年参加することが奨励されている。

3311.6.3 C ライセンスの前提条件

C ライセンスは各国スキー連盟にて付与するライセンスであり、各国スキー連盟の規則と構造に基づいて発行される。FIS SB＆FK JAG は、NSA によって JAG に提出された C ライセンスジャッジの最新のリストを保持する。

3311.6.4 一般条件

各国スキー連盟は C-ライセンスのみ発行できる。より高いライセンスを取得するには、ジャッジは、国際 FIS ジャッジクリニックに出席し、FIS SB / FK ジャッジアドバイザリーグループにより承認される必要がある。

3311.7　ヘッドジャッジの責任と義務

ヘッドジャッジは、採点を行わないことが望ましく、ジャッジの決定の正確さ、メモリボード、そして計算係長とともにリザルトの確認を行い、結果を TD と確定し、ジャッジエリアとスタンド周辺を管理する責任を負う。

詳細な責任と義務については、ジャッジハンドブックを参照すること。

3311.8　ジャッジの責任、義務および手続き

- 以前の印象、競技者の所属、人種、肌の色、信仰に関わらず、全ての競技者にバイアスをかけず、公平に順位をつけること。
- ジャッジは、結果を前もって予測すること、自身がジャッジパネルの一員となっている競技会に賭けてはならない。
- あらゆる面でジャッジハンドブックに記載されている FIS 審査基準に従うこと。
- ジャッジは、家族が参加している競技会（子供、兄弟、姉妹、夫と妻）に配置することはできない。

詳細な責任と義務については、ジャッジハンドブックを参照すること。

3311.9　ジャッジの人数

OWG と WSC の場合、最低 7 名のジャッジが必要である。
ハーフパイプ、ビッグエア、スロープスタイル

- ヘッドジャッジ 1 名
- 6-9 名のスコアジャッジ

スロープスタイルでは、セクションごとに評価が行われる場合、最低 9 名のスコアジャッジと 1 名のヘッドジャッジが配置されなければならない。

FIS ワールドカップ、FIS スノーボードジュニアワールドチャンピオンシップ、およびその他のすべての国際競技会では、最低 7 名のジャッジが配置される。

- 最低 6 名のスコアジャッジ
- ヘッドジャッジ 1 名

スロープスタイルにおいて、セクションごとの評価が行われる場合、最低 8 名のスコアジャッジと 1 名のヘッドジャッジが配置されなければならない。

国際競技会 - CoC 以下のレベルの FIS 競技会における特別な場合において、最低 1 名のヘッドジャッジ+ 3 名のスコアジャッジが認められる（例外は FIS によってのみ行われる）。

3311.10　国ごとのジャッジの人数

ジャッジ（競技会のレベル）

レベル 3–4 競技会（FIS と NC）

- いかなる資格のジャッジでも配置可能

レベル 2 競技会（COC）

- スコアジャッジのパネルにおいて少なくとも 2 か国必要

レベル 1 競技会（OWG、WC、WSC、WJC、YOG）

WSC＆OWG にて

ジャッジパネルがグループに分割されない場合、（ヘッドジャッジを含む）1 か国のみとする。ジャッジパネルがセクションまたはフィーチャーによって分割され、パネルが 7 名以上のジャッジで構成されている場合は、1 国につき最高 2 名のジャッジ（ヘッドジャッジを含む）の配置が可能であるが、それぞれ別々のセクションに配置される必要があり、すべての場合において、パネルには少なくとも 6 カ国らのジャッジが含まれなければならない。

ワールドカップ、ジュニアワールドチャンピオンシップ、そして YOG において

最大で各国 2 名のジャッジ（ヘッドジャッジを含む）を配置することができる。

3311.11 経費勘定

ジャッジは、最大で 600 スイスフラン―[1]*（高速道路税込）[1]までの旅費の払い戻しを受ける権利があり、配置中の宿泊および食事は無償で提供される。この規則は、インスペクションおよび競技会への渡航費（ファーストクラスの鉄道運賃、長距離の場合はエコノミークラスの航空運賃、また自動車の場合は走行距離 0.70 / km ごとに 1 CHF）にも適用される。ジャッジは、往復の移動日および割り当て日ごとに、1 日あたり 100.00 スイスフラン（CHF）の固定料金を受け取る。二重料金（例えば、最後の競技と同じ日に帰宅するとき）は認められない。
往復の間に宿泊する必要がある場合は、別々に清算しなければならない。

[1] 1 日あたりの最大支払額は CHF 600 であり、地理的な理由により例外が認められない限り、オリンピック冬季オリンピック、ワールドチャンピオンシップ、ワールドカップ、およびコンチネンタルカップを除くすべての競技会において有効である。

トレーニング当日、ジャッジが 200 km を超える移動をしなければならず、また公式トレーニングが午前 10:00 以降に開始されない限り、OC により前日の宿泊が提供される必要がある。
夜間/夜間決勝があり、競技が 20:00 以降に終了する場合、OC はジャッジの出発前夜に宿泊施設を提供しなければならない。
ジャッジは CoC レベルにおいて 1 日は公式トレーニングに参加しなければならない。
*この規則は、オリンピック冬季大会および FIS 世界選手権の全ジュリーメンバーに適用される。

運営委員会におけるジャッジ経費負担

コンチネンタルカップ（EC、NAC、SAC）

- すべてのコンチネンタルカップにおいて、主催者からジャッジに旅費と報酬を支払われる。
- FIS SB＆FK JAG は、これらの競技会においてジャッジの人数を 5 名、もしくはそれ以下にすることを決定できる。
- 競技会当日のジャッジの昼食。
- 宿泊と食事（ワールドカップについては上記を参照）
- ジャッジの報酬は、審判をした日程と 2 日間の移動日に対してのみ支払われる。（例：2 日-予選日と決勝の日）。

- 公式トレーニング当日、ジャッジが競技会場まで 200 km 以上の運転が必要な場合において、午前 10 時以降に公式トレーニングが開始されない限り、OC は前夜に宿泊施設を提供する必要がある。
- 夜/夕方に決勝戦があり、競技が 20:00 を過ぎて終了する場合、ジャッジの出発前に OC は宿泊施設を提供する必要がある。
- 競技会がキャンセルとなった場合、ジャッジは審判した日数分のみ補償を受ける。競技会が当日にキャンセルとなった場合、ジャッジがスタンドにいる場合は、その日の報酬を受け取る。キャンセルの結果により発生した自己負担費用は、ジャッジに払い戻される。これにはアップグレードされた航空券も含まれる。
- 審査員は、CoC レベルにおいて、公式トレーニングに 1 日は参加する必要がある。

3311.12 配置と置き換え

冬季オリンピック、FIS スノーボード世界選手権、FIS ジュニア世界選手権において、パネルのジャッジの任命はすべてスノーボードフリースタイルフリースキー委員会の推薦に基づき FIS 評議会によって決定される。

3311.12.1 冬季オリンピック

冬季オリンピックにおいて、パネルのジャッジ全員の指名はスノーボードフリースタイルフリースキー委員会の推薦に基づき、FIS 評議会によって行われる。

冬季オリンピックのジャッジの選出基準

- ジャッジは、選出された競技会の FIS SB/FK の A ライセンスを保有している必要がある
- ジャッジは FIS SB＆FK ジャッジアドバイザリーグループにより指名されなければならない
- ジャッジは、OWG の 2 年前までに、少なくとも 8 回の FIS ワールドカップ（FIS 世界選手権を含む）の審判をしていなければならない。
- ジャッジは英語を十分に理解している必要がある
- ジャッジは、アジア、南半球、ヨーロッパ、スカンジナビア、北米のさまざまな地域の出身である必要がある。
- ヘッドジャッジは、前オリンピックのジャッジ（ヘッドジャッジではない）でなければならない。

すべての基準を満たしているならば、いずれの各国スキー連盟からも、FIS SB&FK ジャッジアドバイザリーグループにジャッジの提案ができる。

3311.12.2 WCS, YOG, WC, WJC

FIS スノーボード世界選手権および FIS ジュニア世界選手権、ワールドカップ、ユースオリンピックの場合、ジャッジパネルは、FIS SB & FK JAG の指名を元に FIS SB および FK、スノーボードフリースタイルフリースキー委員会から推薦され、FIS 評議会によって任命される。

3311.12.3 下位レベル (CoC, NAC & FIS)

ジャッジパネルは、FIS SB＆FK JAG とともに国内主催者によって指名される。

3311.13 ジャッジの置き換え

冬季オリンピック競技大会、FIS 世界選手権または FIS ジュニア世界選手権のジャッジが責任を果たすことができない場合、当該ジャッジが所属するスキー

連盟ならびに FIS 評議会に伝達される。FIS 評議会は直ちに別のジャッジを任命しなければならない。

他のすべての競技会については、ジャッジが所属するスキー連盟と FIS が、代替ジャッジを即時に任命する責任を負う。該当の組織委員会ならびに FIS は直ちに通知されるべきである。

予想外の理由により、冬季オリンピック競技大会、FIS 世界選手権および FIS ジュニア世界選手権のジャッジが競技会に到着しない、または到着が遅れることにより、競技でその機能を部分的または完全に果たすことができない場合、アシスタントヘッドジャッジがその役を置き換える。

3311.14　配置の管理

主催者は、競技会に先立ち、ジャッジ、特にヘッドジャッジとの連絡を確立しなければならない。
競技のキャンセルまたは延期は、適用される期限を考慮して、すべてのジャッジと FIS に直ちに通知されなければならない。

各国スキー連盟は、Snowboard＆Freeski ジャッジアドバイザリーグループ *（FIS SB＆FK JAG）にジャッジの提案を行う。 OWG、WSC、WJC の場合、FIS SB＆FK ジャッジアドバイザリーグループと、スノーボード、フリースタイル、フリースキー委員会から提案され、評議会で最終承認される。

ジャッジの WC への配置回数に上限はないが、ローテーションすることを強く推奨する。

*）FIS SB＆FK ジャッジアドバイザリーグループが、ジャッジの提案を行う場合、各国スキー連盟は事前にその提案を承認しなければならない。

FIS SB＆FK ジャッジアドバイザリーグループ議長は、各国スキー連盟による承認を確認する責任がある。

OWG：　各国スキー連盟の提案は、毎年秋に開催される FIS 会議の前、つまり競技会の約 1.5 年前に行わなければならない。

WSC：　各国スキー連盟の提案は、毎年春に開催される FIS 会議の前、つまり競技会の約 1 年前に行わなければならない。

WJC：　各国スキー連盟による提案は、それぞれのシーズンの秋の FIS 年総会の前に行わなければならない。

WC：　各国スキー連盟による提案は、各シーズンの秋の FIS 会議の前に行わなければならない。

3400　判定基準と採点

3401　ジャッジハンドブック

ジャッジハンドブックは、ICR の不可欠な部分と見なされる。

3402　判定基準（ビッグエア、スロープスタイル、ハーフパイプ）

次の判断基準が考慮される。
- 完成度
- 難度
- 高さ
- 多様性
- 新規性

採点基準の説明は、ジャッジハンドブック、ルール８を参照すること。

3403 ポイントシステム

各ジャッジは、小数を使用せず、各競技者に 100 点満点で評価を行うものとする。競技者のスコアが除算を含む計算から導き出される場合、端数切り捨てて、小数第２位まで表示する。

3403.1 減点スケール

各ジャッジシステムには、失敗に対する減点基準がある。減点の度合いは競技会ごとに異なり、ジャッジハンドブックの各ジャッジシステムに関する章でそれぞれ定められている。

3403.2 オーバーオールインプレッションシステム

各ジャッジは、ジャッジハンドブックに記載されている基準を使用し、オーバーオールオールの観点からランの初めから終わりまでを評価し、採点を行う。

3〜7 名のジャッジが、採点基準に基づき、競技者のパフォーマンスを独自に評価する。採点を行うジャッジが６名以上いる場合、最高スコアと最低スコアは切り捨てられ、それ以外のスコアを有効とする。ジャッジが最大５名の場合、すべてのスコアを有効とする。

ジャッジは転倒、ミス、ストップを考慮に入れ、転倒/ストップごとにランからポイントを引くことができる。（ジャッジハンドブックの減点スケールを参照すること）

3403.3 スロープスタイルのためのセクションごとの採点（SS）

最低７名から最大で９名のスコアジャッジ：
WC、WSC、および OWG では、セクションバイセクションジャッジフォーマットが使用される場合、最低９名のスコアジャッジが必要である。

ジャッジは、トリックジャッジと/オーバーオールジャッジの２つの役割に分かれる。

総合スコアの合計値は常に 100％とするが、その配分は変動する場合がある。以下の値が推奨される。

トリックジャッジ：合計スコアの 60％
オーバーオールジャッジ：合計スコアの 40％

オーバーオールジャッジはそれぞれ 1〜100 ポイント、トリックジャッジはそれぞれ１〜100 ポイントを入力し、データならびにリザルトシステムにて再計算される。

3403.3.1　トリックジャッジ

トリックジャッジは 2〜3 つのパネルに分かれ、スロープスタイルコースの異なるセクションを評価する。ひとつのパネルはジャッジ 2 名または 3 名から構成され、各パネルはコースの 2 つまたは 3 つのセクションを評価する。トリックジャッジはポイントを使用して各セクションを個別に評価し、各セクションのランキングを作成する。

各セクションのスコアは、スロープスタイルのすべてのセクション間で均等に分割するか、各フィーチャー/セクションごとに異なる値を設定できる。また、1 つのセクション内の異なるフィーチャーに異なる値を設定することもできる。

3403.3.2　オーバーオールジャッジ

2 名から 3 名のジャッジからなる 1 つのパネルが、採点基準に基づいてランを評価する。
オーバーオールジャッジの合計スコアは、各オーバーオールジャッジのスコアの平均から計算される。

3404　ランキングシステム

3404.1　FIS レベル以下のみにおけるオーバーオールランキング

各ジャッジは、ジャッジハンドブックにある、オーバーオールインプレッションを基準とし、その中でも多様性（Variety）を主な基準として競技者の順位付けを行う。ヒート終了時に競技者への情報提供のため、ジャッジからスコアが与えられる場合がある。

競技者は、パフォーマンスに応じて次のグループに分類される。
- 優秀
- 良い
- 平均的
- 冒険者

3405　データとリザルトシステム

データサービスシステム（ハードウェアとソフトウェア）は、競技会のレベルに適した基準でなければならない。データシステムは、シーディングおよびリザルトが規則に従っていることを保証しなければならない。各ランの後にヘッドジャッジが順位を確認できるよう、競技会フォーマットに合った方法にて、表示しなければならない。システムは、https：//www.fis-ski.com/en/inside-fis/document-library/timing-data にて規定されている XML 形式で結果をアップロードする必要がある。FIS 認定のデータシステムを使用することを推奨する。
最低条件として、選択された競技会フォーマットに従って、順位が正しくソートされ、リザルトを表示するようにプログラムされたスプレッドシートでも良い。
スコアはスコアカードにより転送され、リザルトチーフまたはアシスタントによって入力される。
CoC およびそれ以上のレベルの競技会において、各ジャッジがスコアを直接入力するためのキーパッド、または同様のデバイス（タブレットなど）のシステムが必須である。
WJC、WC、WSC、OWG では、すべてのジャッジが、各ランの後に個々のスコアとランキングが更新されたことを確認できるスクリーンを持つ必要がある。

詳細については、データサービスブックレットおよび CoC / WC ルールブックを参照すること。

3405.1 スコアリングギャップアラート

WJC、WC、WSC、OWG において、スコアリングギャップアラートが必須である。これは、隣接するスコアの差が２から５（2 から 5 の位置に等しい）となった際、そのことを通知するものであり、その幅は各競技会にて選択される。

3405.2 WC、ユース選手権におけるタイブロッカー

WJC、WC、WSC、OWG では、タイブロッカーが必須である。同点が発生した場合、ヘッドジャッジが確認した後にのみスコアがシステムに受け入れられる。

3406 ビデオ判定

上位レベルの FIS 大会（OWG、WSC、WC、YOG、WJC）では、ハーフパイプ、スロープスタイル、ビッグエアにおいてビデオジャッジが使用される。 ビデオフィードは、ジャッジの補助として使用することも、ジャッジが使用する唯一のフィードとして使用することもできる。

ハーフパイプとビッグエアにおいては、少なくとも２つ、スロープスタイルにおいては大きい画面を３つ設置し、ジャッジスタンドにはテレビ制作からのフィードを提供する必要がある。（テレビガイドラインも参照すること）

3406.1 ハーフパイプ

コーチ/競技者が、実行したトリックの回転数が誤認されたと感じた場合、ビデオレビューを要求することができる。審査はジャッジとジュリーによって行われ、競技会の公式映像のみが審査の対象となる。
審査の要求は、競技の次のフェイズの開始前、または最終フェイズである場合、公式リザルトが公表される前に行う必要がある。これ以降、審査の要求は受け付けられない。
審査の要求は、全てのジュリーメンバー、ジャッジ、またはジュリーに任命された者に依頼することができる（これは、チームキャプテンミーティングで周知される）。
審査の結果、ジャッジパネルとジュリーの裁量により、必要に応じてスコアの変更が行われる。

3406.2 ビッグエア

インラン、テイクオフ、滞空時間、ランディングをカバーし、サイズ、空間、ランディングの深さ、空中における軌跡を把握するために、1 台のカメラからの独立したフィードが必要である。グラブを適切に評価するためには、ナックルから撮影された追加のフィードが必要である。
同様に、テイクオフを評価するために、後ろから撮影を行う固定カメラも必要である。

3406.3 スロープスタイル

このフィードは、一貫性のある適切な画像でコース全体をカバーする必要がある（インラン、レール、滞空時間、ランディング、その他を含む競技者のラン全体）。すべてのフィーチャーのテイクオフとランディングは、ビデオフィードに表示される必要がある。トリック全体が連続するショットとして表示され、途中でカットしてはならない。

3406.4　　リプレイシステム

上位レベルの FIS 競技会（OWG、WSC、WC、YOG、および WJC）では、最大 4 つの入力が可能なビデオ再生システムが利用できる必要がある。システムは、現在配信中の映像と、既に配信された映像のリプレイを提供できる必要がある。

- ハーフパイプでは、上からのカメラと下からカメラによる映像。
- ビッグエアでは、ラン全体と、グラブを評価するためのナックルからのクローズアップ、さらに後ろからテイクオフを撮影するカメラが必要である。
- スロープスタイルでは、テレビクルーによりカットされたライブフィード。

3500　　競技会フォーマットとヒートの説明

3501　　ヒートフォーマット

Park&Pipe の競技会は、ヒートにより予選が行い、3501.1 にて準決勝と決勝、3501.2 で予選についてどのように準決勝、決勝へと進出するかについて説明している。フェイズにおいて、行うランの数と、そのうち有効とするランの数をそれぞれ異なる設定とすることも可能である。ヒートの概要は、フェイズごとに異なる場合がある。競技会フォーマットについては、1 つのフェイズ内のヒート間で変更することはできない。

24～30 名以上の競技者（2 ヒート以上）がいる場合、準決勝を行うことを推奨する。

どの競技会フォーマットを使用するかは、競技会に参加している参加者の人数と時間に基づき、ジュリーが決定する。規則 3603 フォーマットの発表に記載されている通りに、遅くともチームキャプテン/競技者ミーティングにて発表する必要がある。

3501.1　　予選

3501.1.1　　予選におけるヒートサイズ

予選は性別ごとに分けて行う。ヒートの数は、性別ごとの競技者の総数に依存し、ジュリーによってチームキャプテンミーティングの前に決定する。

各種目における予選ヒートの競技者数は次の通りとする：

ハーフパイプ：1 ヒートあたり 12-30 名（理想的な人数 25 名）

スロープスタイル：1 ヒートあたり 12-30 名（理想的な人数 20-25 名）

ビッグエア：1 ヒートあたり 12-30 名（理想的な人数 25-30 名）

上記よりも少ない人数の性別/カテゴリーは、すべての参加者を 1 つのヒートとして競技を行う。

3501.1.2　　シーディング

シーディングは次の通り行う：

競技者は、WSPL ランキング/ FIS ポイントのランキング、フリースキーにおいては特定のイベントにおける WSP リストに従って、ヒートに分けられる。競技者が同順位の場合はドローにより決定する。ポイントを持っていない競技者は、ランダムにドローされ、ポイントを保有している競技者の下に付けられる。

2 つのヒートがある場合、競技者は次のように分けられる

ヒート 1：ランキング 1、4、5、8、9 など

ヒート 2：ランキング 2、3、6、7、10 など

3 つのヒートがある場合：
ヒート 1：ランキング 1、6、7、12 など
ヒート 2：ランキング 2、5、8、11 など
ヒート 3：ランキング 3、4、9、10 など

4 つのヒートがある場合：
ヒート 1：ランキング 1、8、9、16 など
ヒート 2：ランキング 2、7、10、15 など
ヒート 3：ランキング 3、6、11、14 など
ヒート 4：ランキング 4、5、12、13 など

3501.2　競技者が準決勝および/または決勝に参加する方法

競技会フォーマットの説明にある数字は、決勝でのフィールドサイズが男子 10〜12 名、女子 6〜12 名のワールドカップと主要競技会を基準とする。CoC、FIS、またはその他の競技会の場合、ジュリーがチームキャプテンミーティングの前に、フィールドサイズに合わせて人数を調整することができる。次のフェイズへ進む競技者は、フィールド全体の約 1/3 となることを推奨する。
予選から決勝へ進むための競技会フォーマットは次から選択できる。

3501.2.1　準決勝を行わず、決勝に進む場合

予選を行い、以下に定められた人数が直接決勝に進むことが出来る。

男子：
1 ヒートの場合：上位 10-12 名の競技者
2 ヒートの場合：各ヒートの上位 5-6 名の競技者
3 ヒートの場合：各ヒートの上位 4 名の競技者
4 ヒートの場合：各ヒートの上位 3 名の競技者

女子：
1 ヒートの場合：上位 6〜12 名の競技者
2 ヒートの場合：各ヒートの上位 3-6 名の競技者
3 ヒートの場合：各ヒートの上位 2-4 名の競技者

3501.2.2　決勝へ直接進出+合計最高スコア

ヒートから XX 名の競技者が決勝へ進出する際の競技会フォーマット

予選において、各ヒートから上位の競技者が決勝へ進出するとともに、予選日全体で次に高いスコアを獲得した競技者を加えることができる。競技者の人数は、ジュリーが決定した決勝のフィールドサイズと関連する。
この競技会フォーマットは、ヒートが同一のジャッジにより採点され、気象条件に基づき、一貫したコース条件であった場合においてのみ使用できる。

3501.2.3　予選から直接決勝進出のある準決勝

予選ヒートを行い、各ヒートの上位の競技者は直接決勝へと進み、下位の競技者は準決勝へと進む。それぞれの競技者の人数は次の通りとする。

各ヒートの上位の競技者は、決勝に直接進むことができる。
男子：
1 ヒートの場合：　上位 5-6 名が直接決勝へ進出する
2 ヒートの場合：　上位 3 名が直接決勝へ進出する
3 ヒート、または 4 ヒートの場合：上位 2 名までが直接決勝へ進出する

女子：
1 ヒートの場合：　　上位 3-6 名が直接決勝へ進出する
2 ヒート、3 ヒートの場合：　　上位 2-4 名が準決勝へ進出する

決勝への直接進出がある場合、準決勝の出場資格は次の通りとする。

男子：
1 ヒートの場合：ランク 6/7 位から 18 位まで準決勝へ進出する
2 ヒートの場合：ランク 4 位から 9 位まで準決勝へ進出する
3 ヒートの場合：ランク 3 位から 6 位まで準決勝へ進出する
4 ヒートの場合：ランク 3 位から 5 位まで準決勝へ進出する

女子：
1 ヒートの場合：ランク 4/5/6/7 から 9 番目まで準決勝へ進出する
2 ヒートの場合：ランク 3/4/5 から 5/6/7 まで準決勝へ進出する
3 ヒートの場合：ランク 3/4/5 から 6/7/8 まで準決勝へ進出する

準決勝から決勝への出場資格：
男子：上位 5〜6 名の競技者が決勝へ進出する
女子：上位 2〜6 名の競技者が決勝へ進出する

3501.2.4　すべての上位の競技者による準決勝
予選を行い、各ヒートにおける上位の競技者全員が以下の通りに準決勝へ進む：
男子：
1 ヒートの場合：上位 10-24 名の競技者
2 ヒートの場合：各ヒートの上位 10〜12 名の競技者
3 ヒートの場合：各ヒートの上位 7〜8 名の競技者
4 ヒートの場合：各ヒートの上位 5〜6 名の競技者

女子：
1 ヒートの場合：上位 12〜24 名の競技者
2 ヒートの場合：各ヒートの上位 6〜12 位の競技者
3 ヒートの場合：各ヒートの上位 4〜8 位の競技者

準決勝からの決勝進出の資格：
男子：上位 10〜12 名の競技者が決勝に進出する
女子：上位 6〜12 名の競技者が決勝に進出する

3501.3　年齢ごとのカテゴリーのヒート形式
各年齢カテゴリーは、それぞれ別のヒートに分けるものとする。 規則で推奨している人数よりも多いカテゴリーについては、ルール 3501.1.1 を参照すること。予選のヒートのサイズは、規則で説明している方法でシーディングを行い、ヒートに組み込む。
各カテゴリーからの決勝進出者の人数は、チームキャプテン/競技者ミーティングの前にジュリーによって決定する。
参加者が 4 人未満の年齢カテゴリーは、その次に高い年齢のカテゴリー、または若いカテゴリーに参加することができる。

3502 有効なラン/各フェイズにおけるランの数

各フェイズにおけるリザルトを有効とするためには、最低２本のランを完了する必要がある。

3502.1 2 ラン中ベスト 1 ラン

すべての競技者が２本のランを行う。
ヒートにおける順位は、競技者のベストスコアから決定する。

3502.2 x ラン中のベスト 1 ラン

すべての競技者が３本以上のランを行う。
ヒートにおける順位は、競技者のベストスコアから決定する。

3502.3 x ラン中、ベスト 2 ラン以上

すべての競技者が３本以上のランを行う。
ヒートにおける順位は、実行したランの数と、有効とするランの本数に応じて（チームキャプテンミーティングにて発表される）、競技者の２本以上のランのうちのベストスコアから決定する。

このフォーマットは、シングルヒットイベント、または FIS レベル以下のキッカーとレールが１つずつしか設置されていない短いスロープスタイルの競技会においてのみ有効である。以下に説明するように、多様性（Variety）を考慮する必要がある。

3502.3.1 ビッグエアにおける多様性（Vaariety）

ビッグエアにおいて、３本のランのうち、ベスト２本のランが採用される競技会フォーマットでは、有効とする２本のランのトリックは異なる必要がある。
競技者が同じフェイズ中に同じ種類のトリックを２回以上行った場合、スコアが最も高いトリック１つを有効とし、低いものは考慮しない。
同一のフェイズにおいて、２回のジャンプのみが実行された場合、そのうちの最高スコアのみ有効とする。

時計回り/反時計回りのフォーマット

トリックの種類は次の通り定義される：

- 時計回りと反時計回り
- レギュラーフロントフリップ、またはスイッチフロントフリップ/レギュラーバックフリップまたはスイッチのバックフリップ。競技者が 180 度以上の回転をフリップに足した場合、回転トリック（時計回りまたは反時計回り）となる。
- ストレートエアまたはスイッチストレートエアは、異なる種類のトリックと見なす。

4 方向中 2 方向のフォーマット

トリックの種類は次の通り定義される：

- スノーボード：フロントサイド、バックサイド、スイッチバックサイド、スイッチフロントサイド
- フリースキー：ライト、レフト、スイッチライト、スイッチレフト
- レギュラーフロントフリップ、またはスイッチフロントフリップ/レギュラーバックフリップまたはスイッチのバックフリップ。 競技者が 180 度以上の回転をフリップに足した場合、回転トリック（時計回りまたは反時計回り）となる。

– ストレートエアまたはスイッチストレートエアは、異なる種類のトリックと見なす。

女子の競技において、各競技会で使用する競技会フォーマットは、最初のトレーニングセッション前のチームキャプテンミーティングで決定する。女子と男子は、同じ競技会で異なるフォーマットを使用する場合がある。

ビッグエアの多様性（Variety）の詳細については、ジャッジハンドブックを参照すること。
男子の競技において、使用する競技会フォーマットは、チームキャプテンミーティングで決定しなければならない。

3502.3.2 ノックアウトランキングにおけるビッグエアの多様性（Variety）
1 つ目と 2 つ目のトリックは、回転の方向が異なる（時計回りと反時計回り）必要がある。 3 つ目のトリックでは、テイクオフの方向（FS、BS、SBS、および Cab）を 1 回目と 2 回目と異ならなければならない。ストレートエアまたはスイッチストレートエアは、異なる種類のトリックとみなす。

3502.4 真の総合順位
競技者は、完走したすべてのランが考慮の対象となり、順位付け/採点される。

3503 タイブレーク
2 名以上の競技者が同点だった場合、同じ順位（スコア）を獲得する。スタート番号が早い競技者が公式リザルトリストに先に掲載される。

3503.1 準決勝進出者決定のための予選における最下位スポットのタイ
競技者が準決勝において、決勝進のための最後のポジションにおいて 2 名以上が同点となった場合、彼らは同じ順位（スコア）を獲得し、全員が準決勝に進出する。
準決勝には通常よりも競技者の人数が多くなる。

3503.2 準決勝における最終スポットのタイ（同順位）
2 名以上の競技者が決勝進出のために最後のポジションにおいて同点となった場合、彼らは同じランク（ポイント）を獲得しなければならない。 同点となったすべての競技者は直接決勝に進出する。

3503.2.1 準決勝なし
3501.2.1 に記載されたように、準決勝を行わず、直接決勝へ進出する場合、決勝には準決勝を行なった場合よりも競技者の人数が多くなる。

3503.2.2 準決勝
3501.2.3 に記載されたように、準決勝を行わず、直接決勝へ進出する競技フォーマットを使用した場合、決勝に出場する競技者において予選段階に同点が発生した場合、準決勝へ進む競技者の人数はそのヒートの人数に応じて減らされる。準決勝において、同点の競技者が予選から進むため、決勝進出の資格を持つ競技者数はその人数に応じて減らされる。

3504 ヒートの手順

3504.1 シングルジャッジドヒート

ヒートはそれぞれ順番に行われる。ジャッジはパネル全体で同一のヒートを採点する。

3504.2　ダブルアップヒート

このジャッジフォーマットでは、同じ競技会において異なる２つのヒートの競技者が同時にトレーニングおよび競技を行う。ジャッジは、1 人のヘッドジャッジと、2 つの異なるジャッジパネルに分かれる。2 つのパネルはそれぞれ、最低３名のジャッジで構成される。ジャッジパネル 1 はヒート 1/3 のすべてのランを採点し、ジャッジパネル２は、ヒート 2/4 におけるすべてのランを採点する。このジャッジフォーマットは、予選フェイズにおいてのみ使用可能とする。

同一コースで異なる種目（SB、FS）の競技会を同時に行う場合、各種目にて完全に独立したジャッジパネルを使用する。

3504.3　ジャム（NC、FIS レベル以下のみ）

各ヒートは、事前に定められたヒートジャムの時間枠を使用する。すべての競技者は、その時間内で回数無制限でランを行うことができる。
最初のランは、スタート順で開始される。2 回目のラン以降は、順序はない。
ジュリーはチームキャプテンミーティングの前に、次の項目を明確にする必要がある。

- ゲレンデにおける移動手段（リフト、モービルなど）を考慮したラン 1 つあたりの所要時間に適したヒートサイズ
- ヒートジャムの時間枠
- 有効とするラン：最もスコアが高かったラン、またはトゥルーオーバーオールランキング

3504.4　ノックアウト

この形式は決勝専用であり、シングルヒットイベント（ビッグエア、レール）に最適である。3501.2.4 に記載されているように、条件として、すべての上位選手で準決勝を行う、または小さいフィールドサイズで 1 つのヒートのみで予選を行うことを適切な KO として推奨する。上位 16 名または 8 名の競技者を最終シードとする。

3504.4.1　ノックアウト決勝の構成

- 1/8 決勝男子
- 1/4 決勝女子と男子
- 1/2 決勝女子と男子
- スモールファイナルとビッグファイナルの女子と男子
- 2 回のジャンプのうちベスト 1 つのジャンプを有効とする
- 勝者はさらに上に進む

予選における最高スコア獲得者は、決勝を通して出走順は２番目とする

- ランク 1–2：ビッグファイナルからのランキング
- ランク 3–4：スモールファイナルからのランキング
- ランク 5–8：予選結果からのランキング
- ランク 9–16：予選結果からのランキング

3504.4.2　ノックアウト決勝における多様性（Variety）

競技者は、ノックアウト形式の決勝において最大２回まで同じトリックを行うことができる（最大４回のウィニングジャンプ）。

競技者が予選または決勝で同じトリックを２回以上実施した場合、スコアが高い方のトリックを有効とし、最も低いトリックは考慮されない。

3504.4.3　ノックアウト決勝における組み合わせ

直接対戦の組み合わせ　1/8 決勝
ペア１：１位と 16 位
ペア２：８位と９位
ペア３：５位と 12 位
ペア４：４位と 13 位
ペア５：３位と 14 位
ペア６：６位と 11 位
ペア７：７位と 10 位
ペア８：２位と 15 位

直接対戦の組み合わせ　1/4 決勝
ペア１：1/8 ファイナルにおけるペア１とペア２の勝者（男子）または１位と８位（女子）
ペア２：1/8 ファイナルにおけるペア３とペア４の勝者（男子）または４位と５位（女子）
ペア３：1/8 ファイナルにおけるペア５とペア６の勝者（男子）または３位と６位（女子）
ペア４：1/8 ファイナルにおけるペア７とペア８の勝者（男子）または２位と７位（女子）

直接対戦の組み合わせ　1/2 決勝
ペア１：1/4 ファイナルにおけるペア１とペア２の勝者
ペア２：1/4 ファイナルにおけるペア３とペア４の勝者

直接対戦の組み合わせ　スモールファイナル
ペア１：1/2 ファイナルにおける両方の２位

直接対戦の組み合わせ　ビッグファイナル
ペア１：1/2 ファイナルにおける両方の勝者

3504.4.4　ノックアウト決勝の順位

ビッグファイナルの勝者は、1 位に順位付ける。
ビッグファイナルの敗者は、2 位に順位付ける。
スモールファイナルの勝者は、3 位に順位付ける。
スモールファイナルの敗者は、4 位に順位付ける。
1/4 ファイナルの敗者は、予選の順位に応じて 5～8 位に順位付ける。
1/8 ファイナルの敗者は、予選の順位に応じて 9～16 位に順位付ける。

3600　フェイズと手順

3601　エントリー

エントリーシステムの手順とタイムラインは、一般的な FIS ルールセクション 215 を参照すること。

3601.1　年齢制限

すべての FIS 競技会において、さまざまなレベルの競技会に参加できるように年齢制限を設けている。
一般セクション 2014 を参照すること。

3601.2 クォータ
すべての FIS 競技会において、競技会の種類とレベルに基づき、クォータ制限を適用する。
それぞれのレベルと種類の競技会については、クォータシートを参照すること。

3602 チームキャプテン/競技者ミーティング
2043.1 および 216 を参照すること。

3603 競技会フォーマットの発表
ジュリーは、フィールドサイズ、コース条件、気象条件、および競技の利用可能な時間に基づき、競技会フォーマットを決定する。
以下の項目を明確にする：
- 予選におけるヒートの数
- 準決勝フォーマット使用の有無、準決勝なしで直接決勝へ進むか否か
- 人数が少ないカテゴリーの場合、決勝のみとするか？
- 次のフェイズに進む競技者の人数
- 有効とするランの本数
- ヒート進行の手順（シングルジャッジ、ダブルアップ、ジャム）

チームキャプテンミーティング中、より正確にはドローの前に、競技フォーマットを発表し、確定する。
気象条件が厳しい状況において、公式トレーニングの時間が確保される場合に限り、決勝のみで競技を実施することができる。
OWG、WCH、WJC、WC、および CoC の競技会フォーマットは、それぞれのルールにて定める。

3604 スタート順
スタート順の決定は、競技者の参加の最終確認が行い、スタートリストが作成された瞬間とする。
競技者の追加や競技者の変更は認められない。
217、2022、および 2023 を参照すること。

3604.1 予選のスタート順
FIS が提供する WSPL / FIS ポイントリスト（またはジュリーが合意したスタートリスト作成の基となるリスト）は、競技者を分類するために使用する。競技者がいずれのリストにも掲載されていない場合、その競技者はポイント無しの競技者のグループに割り当てられる。

競技者はヒートに分けられる。スタート順は、ルール 3501.1 に記載されているシーディングに従い、上位の競技者が始めにスタートする。

3604.1.1 スタート順 OWG、WSC、WC
各ヒートの競技者は 2 つのグループに分けられ、スタート順決定のために別々にドローを行う。

グループ 1：ヒートで 6 位以上のシードスポットを獲得する競技者

グループ２：1 位から 5 位にランクされた競技者

チームキャプテンミーティングにてグループ 1、または 2 のどちらが先にスタートするか発表する。

3604.2　準決勝のスタート順

準決勝のスタート順は、予選の結果に基づき、ラン 1 とラン 2 のスタート順は同じとする。
スタート順の基準は、予選の順位が低い競技者が先にスタートし、予選順位が高い競技者が後からスタートする。異なるヒートにて予選のランクが同じ競技者の場合は、予選のスコアが低い競技者が（3502 有効なランで定義されている）、より高い競技者よりも先にスタートする。
スコアが同じである場合、より低いシードポジションの競技者がどちらが先にスタートするかを決定できる。

3604.3　決勝のスタート順

決勝のスタート順は、予選と準決勝の結果に基づき、決勝におけるラン全てで同じとする。
準決勝出場者を含めたスタートリスト：
準決勝にて、最も低い順位で決勝に出場した競技者（順位が 3 位の女子/ 6 位の男子）からスタートし、より高い順位であった競技者がそれに続く。
オプション 2 の直接決勝に進出した競技者は、次の順序でスタートする：
シード決定の基準として、はじめに予選の順位が低い競技者、その次に高い順位の競技者とする。
予選にて異なるヒートから同じ順位となった競技者においては、予選でより低い予選スコア（3502 有効なランで定義）であった競技者がより高いスコアを獲得した競技者より先にスタートする。スコアが同じであった場合、FIS ポイントの低い方が先にスタートする。

3604.3.1　ビッグエア決勝のスタート順（3 回の実行のうちベスト 2 回の形式）

決勝のスタート順は、予選と準決勝の結果に基づき、決勝においても最初の 2 ランは同じとなる。3 本目つまり最後のランは、2 本目の後のランキングに従い、ファイナリストを逆順に並べて行う。
スコアが同じである場合、より低いシードポジションの競技者がどちらが先にスタートするかを決定できる。

3605　ジュリーによるコース点検

ジュリーは、最初の公式トレーニングの前にコース承認のため、正式に会合する。
ジュリーメンバーは、各日の公式トレーニングの開始前、および競技中に定期的にコースを点検する。ルール 2043.4 を参照すること。

3606　チームのコース点検

各競技日の公式トレーニングの前に、チーム（コーチと競技者）によるコース点検を行う。この点検の後、チームは懸念事項や気づいた点についてジュリーに提言できる。この点検は、コースを滑り降りて行う（フィーチャーをヒットすることは出来ない）。
チームの分類方法（トレーニングの 2-3-4 セッションまたは予選の 2-3-4 ヒート）、および天候とコース条件に基づき、ジュリーの裁量でコース点検の時間を新たに設ける場合がある。

発言や懸念事項が無い場合、競技は次のフェイズに進む。懸念や提言があった場合、ジュリーはそれらを処理した上で次のフェイズに進むことができる。

3607 公式トレーニング

主催者は、競技初日より前に、競技者とコースのレベルに応じて、十分なトレーニング日数とセッションを予定するものとする。各トレーニングセッションでは、競技者が少なくとも４回コースを滑るのに十分な時間を確保する必要がある。

3608 各競技フェイズの前のウォームアップ

通常、すべての競技フェイズ（予選、準決勝、および決勝）の前に、ウォームアップを予定し、競技者がコースを滑るための時間を確保する。

3609 競技フェイズ

競技フェイズは同日に完了するか、完了できない場合、再スケジュールする必要がある。複数のヒートの場合、中断前に完了したヒートは有効とし、未実施のヒートは翌日に行うことが出来る。
競技者がスタートを離れた場合（ヘッドジャッジがジャッジの準備ができていることを知らせ、スターターが競技者にスタートの合図を出した後）、ランは有効とされ、競技者が停止または装備（スキーまたはスノーボード）を外した時点までを評価する。これは競技者が最初のヒットの前に停止した場合、またはランを最後まで完了しなかった場合であっても同様である。リランは許可しない。
競技者がランを開始し、いかなる種類のマニューバを実行した場合、コースからの離脱、ランの停止、ランを終了しなかった際、その時点までのスコアが与えられる。規則 3612 の特別な手順を参照すること。
その競技者はスコアとランキングを獲得し、リザルトリストに掲載される。
競技者が競技中、何かによりランを妨げられた場合、競技者はリランを要求することが出来る。この場合、競技者は直ちに停止し、手を挙げ、公式な意思表示をする必要がある。ジュリーは暫定的にリランを許可し、次のフェイズの前に最終決定を下す。規則 2025 を参照すること。

3610 スタート手順とコマンド

スタートにおいて、競技者を有利にする、邪魔をする可能性のある競技役員またはスタッフがいてはならない。すべての外部による援助は禁止されている。スタートポストのプル、また同様の補助は許可する。

スタートコマンドは次の通りとする。

ヘッドジャッジは、スターターにジャッジの準備ができていることを通知し、その時点でスターターは競技者にスタートできることを知らせる。
例：
– 「ジャッジ準備完了」。
– 競技者はスタートすることができる（音声信号と視覚信号）
– 「ビブ番号 22 ドロップイン」。
主要な競技会では、コマンドがヘッドジャッジから発信されない場合がある。この場合、コンテストディレクターが従うべき手順を決定し、スターターに通知する。

3610.1 テレビによるスタート間隔

TV プロダクションが関わる競技会において、コンテストディレクターまた委任された者は、ジャッジとテレビの準備ができ次第、スターターにスタートコマンドを与える。

3610.2　誤ったスタート

公式のスタートコマンドに合わせずにスタートした競技者のリランは許可しない。スターターは、誤ってスタートをした競技者、またはスタート規則に違反した競技者のスタート番号をすぐにジュリーに告知しなければならない。

3610.3　スタートの遅延

競技者が予定された時間通りにスタートする準備ができていない場合、そのランは（DNS）とし、スタートすることを許可しない。ただし、ジュリーがその理由を「不可抗力」によるものであると判断した場合、遅延を免除し、ヒートの後方にて暫定的なスタートを許可することができる。これは、ジュリーによって承認または拒否されなければならない。定められた時間内にスタートをしない競技者は、スタート不可（NPS）とし、DNS と記録される。
競技者の個人用機器の故障、また競技者の軽度の体調不良は「不可抗力」と認められない。

3611　抗議、リラン、罰則/制裁

3611.1　抗議

一般的なセクション：2032、2036 を参照すること。

3611.2　リラン

一般セクション 2025 を参照すること。ジュリーは、その理由が後程確認されることを条件に、条件付きでリランを許可できる。
競技者は、スターターに報告した直後に、連続する 2 名の競技者の間でスタートすることができる。
競技者は、競技を妨害された直後にリランをジュリーのメンバーに要求することができる。ただし、この場合、できる限り早くコースを離れる必要がある。
リランの例と主な理由：

- ジャッジが競技のランを見ることができなかった
- 特別な状況、またはビデオジャッジシステムの障害など、その他の技術的な障害。
- スタートプロトコルの誤り、または失敗により、競技者がスタートを離れ、ビデオジャッジシステムにより撮影されていない場合。

3611.3　ペナルティ/制裁

一般セクション 223 を参照すること。

3612　特別な手順

3612.1　ランの最中の停止

競技者が 10 秒を超えて停止した場合、競技者はその時点までが採点され、ランは終了したと見なす。競技者は、できる限り早くコースから退場すべきである。
この状況において、競技者はその時点までが審査の対象となる。ヘッドジャッジが状況に応じてついて判断する。
ジャッジハンドブックを参照すること。

3612.2　ジャンプのスキップ
ジャッジハンドブックを参照すること。

3612.3　登り返し/用具が外れる （スキー–スノーボード）
競技者（スキーヤー–スノーボーダー）が自分の用具（スノーボードまたは両方のスキー）を脱ぐか、片方または両方のスキーが外れた場合、ランは終了したと見なし、採点される。
すべての用具（スノーボード/スキー両方）が正しく着用されている限り、歩行またはホッピングを許可する。

3613　表彰
2021 を参照すること。

3700　リザルトと最終順位

3701　リザルトおよびスタートリストに関する情報
詳細については、スコアリング＆データブックレットを参照すること。

3701.1　公式スタートおよびリザルトリストには、次の情報が含まれている必要がある
競技会の情報
- FIS コーデックス
- 日付
- 競技会の名称
- 国名を含む競技会の開催地
- 競技会スポンサーの名前
- TD およびリザルト責任者の署名
- FIS または競技シリーズのロゴ
- 区分
- イベント
- 性別
- 各リザルト（スタートリスト、ブラケット、各フェイズリザルト、最終リザルトなど）

コースデータ：

ハーフパイプ	**ビッグエア**	**スロープスタイル**
コース名	コース名	コース名
長さ	テイクオフからスウィートスポットまでの長さ	長さ
幅	テイクオフ角度	スタートの高度
高さ	ランディング斜度	フィニッシュの高度
斜度	ナックルの上から測定したキックの高さ（ステップアップのマイナス）	バーティカルドロップ
		キッカー要素の数
		ジブ要素の数

ジュリーおよび役員

次の役員は、氏名と国籍を含めて個別に記載する必要がある。ジュリーは別に定められる。

ジュリー：
- FIS TD
- 競技委員長
- ヘッドジャッジ
- コンテストディレクター（配置されている場合）

役員：
- コース係長
- リザルト係長（計時計算係長）
- ジャッジを含むジャッジの配置個所

天気
- 晴れ/曇り/霧/降雪/雨
- 気温
- 雪の温度
- 雪の状態

競技者情報
- ビブ番号
- 苗字
- 名前
- 国籍
- 誕生年（YB）
- FIS コード
- スノーボード競技会の場合はスタンス

3701.2 公式のスタートリストには、次の追加情報が含まれている必要がある：
- 予選ヒート番号、準決勝または決勝
- 競技者のリストとスタート順
- シード基準： FIS ポイント、WC ポイント、WCSL または WSPL ポイント、OWG および XOG においては FIS シードリストを参照すること

3701.3 フェイズのリザルトリストには、次の追加情報が含まれている必要がある：
- 開始時間
- フェイズ
- ジャッジシステム
- 3701.1 に記載された順位と競技者の情報
- そのフェイズにおける各ランの合計スコア
- 必要に応じて各セクションの合計スコアを含む、個々のジャッジのスコア。各ジャッジのスコア（スロープスタイルにおけるセクションジャッジの場合）は、別の分析ドキュメントに表示される場合がある。
- IRMs

WC、OWG、WSC の際の追加情報：
- 可能であれば優勝ランのトリック名

3701.4 最終リザルトリストには、次の追加情報が含まれている必要がある：
- ジャッジシステム

- 3701.1 に記載されている最終順位と競技者の情報
- 予選の各ランと有効ラン、それぞれの合計スコア/トータルスコア
- 準決勝の各ランと有効ラン、それぞれの合計スコア/トータルスコア
- 決勝の各ランと有効ランそれぞれの合計スコア/トータルスコア。ビッグエアでは、有効とされないスコアも記載されるが、オーバーラインが引かれる。
- IRMs

3702 最終順位

最終リザルトには、順位が次の順序で記載される。

1. 決勝のリザルト
2. 決勝に進まなかったすべての競技者の準決勝の結果
3. 次のフェイズに進まなかったすべての競技者について、すべての予選ヒートの有効スコアに従って順位付けされた予選のリザルト。2 名以上の競技者が 2 つの異なるヒートで同点となった場合、同じ順位（スコア）を獲得する。スタート番号が大きい競技者が公式リザルトリストに記載される。

3703 IRMs

3703.1 DNS

3703.1.1 スタートリストが作成された後に競技に出場しない競技者は、競技への出場権をもたず、DNS として個別にリストに記載される。

3703.1.2 あるフェイズにおいてランをスタートしない競技者は、そのランは DNS として記載され、スタートした他のラン/ランに従ってスコアが与えられる。

3703.1.3 決勝または準決勝でスタートしない競技者は、DNS として記載され、そのフェイズに置いて最下位に順位付けされる。フェイズにおいて複数の競技者が DNS となる場合、予選または準決勝の結果に従って順位が付けられる。

3703.1.4 ノックアウトフォーマットにおいて、決勝のサブフェイズでスタートしない（DNS）競技者は、その決勝フェイズにおいて最下位を獲得するものとする。フェイズで複数の競技者が DNS となった場合、予選または準決勝の結果に従って順位が付けられる。

3703.2 DSQ

ルール 2030 に記載されているように、失格となった競技者は、いずれのフェイズにおいても順位は付けられず、個別に記載される。

3703.3 NPS

一般セクションルール 2028 および機器ルール No 3.5 を参照すること。

3704 不完全な競技会におけるリザルト

決勝フェイズを完了することができない場合、少なくとも予選フェイズが完了している場合において、最後に完了したフェイズのスコアが、それぞれのフェイズに出場した競技者の最終リザルトとなる。この場合、賞金は発表された金額の 50%まで削減される。

公式リザルトには以下が含まれる：

- 決勝への出場資格のある競技者のリザルトと、競技が中断された後のフェイズのリザルト。決勝への出場資格のある競技者は、その前のフェイズからのリザルトのみを取得した競技者の前に順位付けされる。
- 直接決勝に出場した選手のリザルト
- 準決勝のリザルト（該当する場合）。
- 準決勝への出場資格をもつ競技者の予選のリザルト
- 次のフェイズに進まなかったすべての競技者の予選ヒートの有効スコアに従い順位付けされた予選のリザルト。2 名以上の競技者が 2 つの異なるヒートで同点となった場合、同じ順位（スコア）を獲得する。スタート番号が大きい競技者が公式リザルトリストの最初に記載される。

3704.2　3 本以上で行う決勝フォーマットにおいてランが完了しなかった場合のリザルト

3 本以上で行う決勝フォーマットにおいて、2 本目のラン実施後に中断された場合、最も良いランが最終リザルトとして有効となる。これは、3 本中ベスト 2 本を組み合わせた競技会フォーマットの場合においても同様である。

5000 クロスイベント

タイム計測、もしくはグループでの予選を行った後、複数人の競技者が様々な種類のターン、ジャンプ、ウェーブを含む特設クロスコースにて、互いに競い合う

5100 競技エリア

5101 スタート

5101.1 スタートエリアと適切な避難所

スタートエリアは競技者、1 名の引率者、そしてスタート役員以外は入場できない。規制エリアはコーチ、チームキャプテン、サービスマン等が待機中の競技者をサポートするのに、公衆の邪魔が入らないように設ける。スタートエリアには避難所の設置が望ましい。もし-10℃を下回った気温の場合、テント、もしくは暖をとる小屋にヒーターを設けなければならない。

5101.2 スタートプラットフォーム

スタートランプは、競技者がスタートではリラックスして待機ができ、スタートを切った後に素早く競技力のあるスピードに達することができるように調整すべきである。

5102 コース

スタートとフィニッシュの設営、テレビ塔、計測器、スポンサー広告機器など、競技会に必要なアイテム

5102.1 クロスコースの定義

5102.1.1 テクニカルデータ

コード	クロスコース	数値
CL (m)	コース全長	
	レベル A	800–1300m
	レベル B	最短 700m
	レベル C	最短 450m
	ショートコース OWG、WSC 以外の全てのレベル（ナイトイベント、シティイベント等）	
CA (°)	コース平均斜度	5 ° –12 °
VD (m)	標高差（バーティカルドロップ）	
	レベル A	70 –260m
	レベル B	最低 60m
	レベル C	最低 40m
SW (m)	スロープ幅	40m
TW (m)	コース幅	6.0m –16.0 m
	競技会の形式とレベルに応じて	

	スタート基準	
SA (m)	スタートエリア	長さ 10.0m
		幅 30.0 m
SP (m)	スタートプラットフォーム	長さ最低 6.0m
	スタートゲートの幅に応じて	幅 12.0m (+/- 4.0m)
SL (m)	スタート区間（スタートから最初の方向変更まで)	
	レベル A	100.0m
	レベル B	80.0m
	レベル C	80.0m
	フィニッシュエリア基準	
FL (m)	フィニッシュライン（幅)	15.0m (+/- 5.0m)
FA (m)	フィニッシュエリア全長	60.0m (+/- 10.0m)
FW (m)	フィニッシュエリア幅	30.0m
	競技会レベル	
レベル A	OWG, WSC, WJC, WC, YOG	
レベル B	COC, UVS	
レベル C	NC, FIS, EYOF, JUN	

5102.1.2　コースの特徴

クロススポーツの概念に従って、クロスコースは 4〜6 人の選手たちが、様々な要素のあるコースをできるだけ速く、完走できなくてはならない。エキサイティングな滑走はスタートからフィニッシュまでに追い越しの可能性から生み出される。様々なジャンプ要素、カーブ、ウェーブによって、コースの攻略が難しくなる。コースデザイン、フィーチャーとコース整備に関しては、コースビルディングガイドラインを参照すること。

5102.2　安全対策/フェンス設営/カラーリング

5102.2.1　フェンス設営

コースは、障壁によって完全封鎖されなければならない。

5102.2.2　安全対策設営

ジュリーの同意を得て、コースは適切で安全な素材で保護しなければならない。

5102.2.3　カラーリング

コースはコースサイドに沿って青いペイントで十分にマーキングされなければならない。ジュリーがジャンプと着地点でペイントされる場所を決定する。インスペクションの前、トレーニング前、そして各競技フェーズ前に、必要に応じて状態をチェックして補充する。

フィニッシュラインは、5103.1.2 フィニッシュラインで定義されている通りでなければならない。

5102.2.4　コースの閉鎖と変更

閉鎖されているコース内は、ジュリーのみが旗門やフラッグの変更、コースのマーキング、またはコース構造（ジャンプ、コブなど）の変更を行える。

閉鎖中の競技コースに入場した競技選手は、ジュリーの制裁対象になる。（例外：通常のコースインスペクション時）

フォトグラファーと撮影チームは、競技会の撮影をするために閉鎖されたコース内に入ることができる。彼ら/彼女らの最大人数はジュリーによって制限できる。彼ら/彼女らの配置は、ジュリーによって定められた場所に限り、また競技中そのエリアに居ること。
トレーナー、サービスマンなど、閉鎖された競技コースに入ることができる人はジュリーによって決定される。同様にフォトグラファーと撮影チームの人数と場所は、バリアの内側（競技コース内）に入る場合は、ジュリーに承認さなければならない。

5103 フィニッシュゾーン

フィニッシュゾーンは、フィニッシュエリア（フィニッシュコーラル）、計測小屋（ゴールハウス）、テレビタワー、ミックスゾーン、観戦エリアなど。
フィニッシュ設営と閉鎖は、適切なセキュリティ保護手段を用いて運営すべきである。

5103.1 フィニッシュエリア（フィニッシュコーラル）

フィニッシュエリアは競技エリアの一部であり、フィニッシュに向かってくる競技者がはっきりと見えなければならない。
フィニッシュエリアは完全にフェンスで囲まなければならない。いかなる不正入場を防止しなければならない。

5103.1.2 フィニッシュライン

フィニッシュラインはコースの終わりを示し、また２つの垂直なマークで定義される。フィニッシュラインは赤い直線で明確に示されなければならない。

例外的に、ジュリーは技術的、セキュリティー上の理由、または地形的な観点から、5102.1.1 テクニカルデータに記載されている距離を縮めることができる。もしタイム計測機器がフィニッシュマーキングの後ろに設置されている場合は、十分な保護をしなければならない。
さらなる詳細に関しては、タイミング＆データの小冊子を参照すること。

5104 ウォームアップコース

適切なウォームアップコースを用意しなければならない。

5200 設営とイベント資材

5201 スタート、フィニッシュ、計測器設置

FIS カレンダーの全てのイベントでは、FIS に公認された電子計測器、スタートデバイス及びフォトセルを使用しなければならない。承認済み機材のリストは公開されます。FIS に公認された機材リスト外の計測機器を使用した競技会では、FIS ポイントは考慮されない。

タイム計測の仕様と手順についての詳細は、FIS タイミング小冊子にて説明されている。

5201.1 スタート機材

5201.1.1 スタート機材の設置

スタート機材はコースの中央に合わせて設置しなければならない。スタートゲートたちは同時に開放しなければならず、また競技者が力をかけることによってゲートを開放する、もしくは開放を妨げることが不可能でなければならない。

5201.1.2　クロススタート機材基準
電子リリース装置と予選セットアップの詳細に関して、タイミング小冊子を参照してください。

5201.1.3　電子リリース装置

電子機器を使用してドロップドアを開放することは認められている。すべてのドロップドアは所定の位置でロックされ、同じ電子信号によって解除される必要がある。開放のタイミングは 1.0～4.0 秒の間でランダムであること。スタート合図の「アテンション」（5610.3.2 スタート合図とコマンド/2707.4 スタートコマンド）にて、スターターによってランダムシークエンスが開始される。

ワールドカップ、世界選手権、冬季オリンピック競技会では、電子リリース装置の使用が必須。

電子リリース装置は最低 20 回のスタートシークエンスを行えるバックアップパワーソースを備えてなければならない。もしこのバックアップシステムに障害が発生した場合、機械的なスタートリリースシステムを使用してスタートゲートを操作できる必要がある。

5201.2　タイム計測機器
すべての国際大会では、2 つの別々に電子的に同期された時刻で動作するタイム計測システムを使用する必要がある。一つのシステムはシステム A（メインシステム）、もう一つはシステム B（バックアップシステム）としてレース開始時に指定する。

タイム計測機器とタイム計測に関するすべての技術的詳細はタイム計測小冊子に記載されている。

5201.2.1　スタート計測開始のタイミング
スタートのタイミングは、競技者の膝から下の脚がスタートラインと交差すると同時、もしくはスタート機材の板が開放されると同時に計る。

5201.2.2　フィニッシュ計測のタイミング
すべてのイベントでは、FIS に公認された 2 つのフォトセルシステム（たち）をフィニッシュラインに設置しなければならない。一つはシステム A に接続、もう一つはシステム B に接続される。

5201.2.3　無線タイム計測
予選で無線タイム計測機器を FIS、NC、また COC レベルの競技会で使える。タイム計測機器は FIS タイミング小冊子の無線計測機器の基準を満たしていなければならない。

5201.2.4　タイム計測配線
最低 2 系統の別々の配線がタイム計測に必要。
コミュニケーション通信は別系統にする。ハイレベルな競技会では、より多くの配線が必要になる場合がある。タイム計測小冊子を参照

5201.2.5　手動タイム計測
タイム計測の予選では、手動のスタートとフィニッシュでのタイム計測が必須。技術的詳細はタイム計測小冊子を参照

5201.2.6　フィニッシュカメラ
各ヒートのフィニッシュ判定カメラは必須。技術的必要条件と設置場所について、タイム計測小冊子を参照

5201.2.7　リアクションタイム
ワールドカップ、世界選手権大会、冬季オリンピック競技会では、リアクションタイムを計測する必要がある。
技術的必要条件はタイム計測小冊子を参照

5201.3　タイム計測ハウス
タイム計測及びデータ作業エリアは最低 3.0 x 4.0 メートル。テーブル、椅子、電子機器と暖房機器を提供する必要がある。タイム計測とデータ作業の場所は、特定のコース仕様によって定義される。
施設は耐候性があり、内部が暖かく、トイレ設備が利用可能でなければならない。

5203　旗門
クロスの旗門は、三角形の旗門フラッグで接続された一本のスタビーフレックスポール（ターン側旗門）と一本のロングスラロームリジットポール（外側旗門）で構成される。

5203.1　旗門フラッグ
三角形旗門フラッグ（バナー/パネル）には以下のサイズが使用できる。（以下のサイズから僅かなサイズ誤差は許容される）

底辺長さ：　最小 100 cm　　最大 130 cm
長辺高さ：　最小 80 cm　　最大 110 cm
短辺高さ：　45 cm

旗門フラッグは 2 色の別々の色であること
旗門フラッグは風を通しやすい素材であること
旗門フラッグの広告は、通気性やフラッグのリリースメカニズムを低下させてはならない。

5203.2　ポール
すべてのポールはリジットポールとスタビーポールに細分化される。ポールは 2 色の使用を推奨する。

5203.2.1　リジットポール
円柱で形成され、ジョイント部のない、直径最小 20mm から最大 32mm のポールはリジットポールとして使用できる。それらは破片にならない素材（ポリカーボネートプラスチック、または類似の特性を持つ非分裂素材）でなければならない。

5203.2.2　スタビーポール

スタビーポールは、ヒンジの付け根からポールの上端まで 45 cm 以内の上部がパッドもしくは空洞になっているポール。
– ソフトパッド (おおよそ) 35 cm
– ベース部長さ(おおよそ) 25 cm

5204 スタートナンバー（ビブ）

5204.1 スノーボードクロス

ナンバービブは、番号が前後及びスリーブ部に、コースジャッジから良く視認できる必要がある。

5204.2 スキークロス

ビブは、数字が前後に、コースジャッジからよく視認できる必要がある。

5204.3 ファイナルフェーズ用のビブ

予選フェーズ後にビブはファイナル用に交換する必要がある。ファイナル用の新しいビブ番号は、予選の順位によって決められる。もし正しい番号のビブが利用できない場合、昇順番号のビブを決勝フェーズで使用しなければならない。

5205 カラージャージ

ヒートで競う際には、追加のカラージャージを使用する。主な４色のカラービブは、赤（予選／シーディングで１番目）、緑（予選／シーディングで２番目）、青予選／シーディングで３番目）、黄色予選／シーディングで４番目）である。白予選／シーディングで５番目）と黒予選／シーディングで６番目）は６人制フォーマットの際に追加で使用される。カラージャージは、番号ビブの上に着用する。

5206 放送設備

5206.1 音響システム

2016.1-2 を参照

5206.2 OVR（競技会場でのリザルト）

公式掲示板はスタートとフィニッシュエリアに設置する。
シーディング表はスタートに掲示する。リザルトとすべての公式書類は、フィニッシュエリアの掲示板に掲示する。これはもしライブデータをアプリのデータサービスや電光掲示板にて情報提供していたとしても、掲示板掲載は必須である。

5300 クロス競技役員／スタッフ

5301 ジュリー

ジュリーは競技会運営と競技会で判断が必要になった場合の責任を負う人物である。レフリーについては共通セクション 2007 を参照。

5302 レースディレクター

ユニバーシアード、世界ジュニア選手権大会、ユースオリンピック、ワールドカップ、世界選手権大会、オリンピック冬季競技大会といったメジャーイベン

トでは、FIS レースディレクターは主要な役員であり、競技会運営と審判員を行う。彼／彼女は競技会のすべてのフェーズをフォローし、他のジュリーがすべての技術面、スケジュール、そして ICR の問題が適切に処理されるように確認する。

レースディレクター詳細は 2009.を参照

冬季ユニバーシアードで FISU の技術代表は、FIS からユニバーシアードのレースディレクター／競技会ディレクターとして承認された、すべての競技会において決議権のあるジュリーメンバーである。

コンチネンタルカップレベルの競技会において、コンチネンタルカップの競技委員長は主要なスタッフであり、競技会のジュリーメンバーで必要に応じて審判員として判断を行う。彼／彼女は競技会のすべてのフェーズをフォローし、他のジュリー0 がすべての技術面、スケジュール、そして ICR の問題が適切に処理されるように確認する。詳細は COC ルールブックを参照。

5303 技術代表(TD)

技術代表の主な義務

- FIS のルールと指示が遵守されていることを確認する
- すべての競技会運営がフェアに行われているか視察する
- 大会オーガナイザーが彼らの責務を全う出来るようアドバイスする
- IS の公式代表として責務を行う

詳しくは共通セクション 2008 を参照

5304 競技委員長

競技委員長は、大会組織委員会のメンバーでジュリーメンバーの一員である。詳細は共通セクション 2004.1 を参照。

クロス競技会における彼／彼女の追加の義務と責任については

- 競技会開催地と接な関係を持つこと
- クロストレーニングと競技会フェーズを監督する
- 技術代表と協力して適切な場所にセクチョンチーフとセクション審判員を配置する
- すべてのセクションチーフおよび／もしくはセクション審判員が適切な通信装置（無線機）を装備し、彼らが十分な運営に関する知識を持ち、また競技会開催中に迅速なコミュニケーションを、無線を通じて行えるように確認する。（英語で）
- すべてのクロスのチームキャプテンミーティングに参加する。

5305 レフリー

メジャーイベントでは、レフリーは技術代表、大会委員長とは別の国籍の人物が行うべきである。
レフリーは、各出走終了ごとに、もしくは競技会のフェーズ後ごとにセクションチーフ旗門員からのルール違反、ゲート違反に関するレポートを記録する。各出走、フェーズの直後に確認と署名、レフリー議事録に記録を行い、すみやかに公式掲示板に掲示する。レフリー議事録には失格者の名前とどのセクションにて失格が発生したか、また失格に抵触したルールの番号と失格を掲示した正確な時刻とその失格に対する抗議期限時刻を含めて明記するべきである。

レフリーはジュリーメンバー（2007 参照）であるとき、予選の時はプロテストを受け入れて、KO ファイナルではフィニッシュエリアでのリビューリクエストを受け入れ、迅速にプロテスト／リクエストを他のジュリーメンバーに報告しなければならない。場合により、技術代表がフィニッシュエリアにて抗議を受けるか選ぶことができるが、それはレフリーがスタート、もしくはコース内に位置している場合である。メジャーなクロス競技会ではレフリーは FIS に任命される。

クロス競技会ではレフリーは以下の項目を担当する：
- スタート番号のドロー
- コースセット終了後すみやかにコース確認を行う。単独、もしくは他のジュリーメンバーと協力して、また／もしくは招待した人員とともに。
- コースセッターとすべてのジュリーメンバーは、状況によりインスペクションに参加できなかった場合、旗門を削除、もしくは追加といったゲートの変更を通知しなければならない。
- スタートおよびフィニッシュレフリー、また大会役員からルール違反や旗門のトラブルについて、それらが発生した出走後と競技会の最後に報告を受ける。

5306 ビデオコントローラー

イベントチャプター5408 Video Control を参照

5307 コース係長

2004.3 を参照

5308 コースセッター

競技会ジュリーはコースセッティングの責任者である。
コースセットは指名されたコースセッターとコース係長がジュリーと協議して実施する。

5308.1 任命

ワールドカップ、オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、世界ジュニア選手権大会では、コースセッターの任命は、コースディレクターによるコースの審査の後、FIS によって行われる。任命されたコースセッターはコースセットを FIS レースディレクター、ジュリー、コネクションコーチと共に行う。
FIS カレンダーに公開された国際的な競技会では、コースセッターはジュリーによって任命される。ジュリーは競技会のレベルに最適なコースセッターを任命する。

5309 大会事務局

共通ルール 2004.7 を参照

5310 スタート、フィニッシュ役員

5310.1 スタートレフリー

共通ルール 2004.4 を参照
クロス競技会のスタートレフリーは、スタート装置を監督し、スタート合図を行い、カラービブをチェック、ビブの配布、スタートする選手を揃え、観衆をコントロールし、スタートエリアを整理して、その他手動タイミングを含めたスタート業務に関連する責務を行う。

5310.2　スタートレフリー助手

競技会の規模に応じて、適切な人数の助手を指名する必要がある。

5310.2.1　スターター

スターターは、警告シグナルとスタート合図を担当する。彼はスターター助手を監督して、選手がインスペクション、トレーニング、そして競技会中に適切にビブとヘルメットを着用しているか監視する。スターターはジュリーと連絡を取り合えなければならない。

5310.2.2　スターター助手

スターター助手は選手たちをスタートに正しい順番で呼び出し並べることを担当する。

5310.2.3　他のスタート助手

順調な競技会運営を行うために、必要に応じて以下の役割に多くのスタート助手を割り当てるべきである。

- 群衆のコントロール；コースアクセス、スタートコーラルアクセス
- スタート装置の操作
- ビブの配布（番号ビブとカラービブ）
- ハンドタイムキーパー
- 掲示板
- スタートエリアの構成

5310.3　フィニッシュレフリー

共通ルール 2004.5 を参照

クロス競技会ではフィニッシュレフリーは適切にフィニッシュラインを通過しているかを監督し、選手の着順と DNS、DNF、DSQ などといったルールが正確に判断する責務を負う。

その他のフィニッシュレフリーの責務：フィニッシュレフリーはフィニッシュエリアでプロテストを受け入れる。フィニッシュレフリーはプロテストの報告を迅速に他のジュリーメンバーにしなければならない。

5310.4　フィニッシュ助手

競技会の規模に応じて、適切な人数の助手を指名する必要がある。

5310.4.1　フィニッシュコントローラー

フィニッシュコントローラーは以下の任務を行う

- 最終旗門からフィニッシュまでのセクションの監視
- フィニッシュラインを適切に通過しているかの監視
- コースを完走した選手をフィニッシュした順に記録する

*ワールドカップのようなメジャー大会（オリンピック冬季競技大会など）ではフィニッシュレフリーがこれらの業務を行う場合がある。

5310.4.2　他のフィニッシュ助手

順調な競技会運営を行うために、必要に応じて以下の役割に多くのフィニッシュ助手を割り当てるべきである。また、競技者の着順を決定する補助を行う。フィニッシュ役員はジュリーの DNS、DNF、DSQ の判断を補助する。

- 群衆コントロール

- フィニッシュライン判断
- ビブ管理
- ハンドタイムキーパー
- 掲示板
- フィニッシュエリアの整理
- ミックスゾーン

5311 競技会スタッフ

5311.1 セクション主審

セクション主審は業務を行うセクションの監督と整理を行う。彼は監督する指定されたセクションに配置される。各予選フェーズもしくはシーディングフェーズの最後、そして競技会の最後に、彼は各セクション審判のプロトコルを収集し、レフリーに届ける。彼は適切なタイミングで各セクション審判に彼らの必要な資料（審判プロトコル、鉛筆、スタートリスト、メンテナンスツールなど）を判断して配布し、また観客をコースから遠ざける、もしくはコース整備の補助をするなど、必要に応じて行う。
競技会の規模に応じて、競技委員長もしくは技術代表がセクション主審の任を行う。

5311.2 セクション審判／セクションチーフ

セクション審判はコース全体の旗門やフェイーチャーを視認できるように配置する。セクション審判は割り当てられたセクション番号にある一つもしくは複数の旗門とフィーチャーの監督を担当する。セクション審判は、競技者が正しく旗門を通過した確認し、書面での報告、そして／もしくは、すべての旗門不通化、又はルール違反を無線にて報告しなければならない。彼は他にも重要な役割を果たさなければなりません。詳細は 5404 Intentional Contact にて説明があります。

すべてのセクション審判はクロス競技会の監修するルール理解し、DSQ、RAL、また DNF といったルールを判断するルールを熟知していなければならない。

競技会の規模に応じて、セクションチーフがセクションチーフとセクション審判の両方を兼務することができる。

5311.3 コース整備と修復

5311.3.1 カラーリング係

競技会ではスキーを履いたバンプや類似したフィーチャーにカラーリングを競技会フェーズかコースの状況に応じて行う、ジュリーやコース係長、シェイパーと連絡が取れるクルーが必要。
コースの状況、天候、雪の状態やカラーリングの方法に応じて必要なカラーリングクルーの人数を手配する。
彼らはコース係長、そして／もしくは競技委員長の指示に従う。

5311.3.2 サイドスリップ係

競技会では、スキーまたは／もしくはスノーボードを履いた、必要に応じてすべてのフィーチャーを整備する、ジュリーやコース係長、シェイパーと連絡が取れるコース整備係が必要。

コースの状況、天候、雪の状態やコース整備の方法に応じて必要な　コース整備に必要な人員を手配する。
彼らは、コース係長、そして／もしくは競技委員長の指示に従う。

5311.3.3　シェイパー
競技会では、コース上のすべてのフィーチャーの建設、シェイプ、そして整備に対応した業務を、コースの状況に応じて競技会フェーズを進行するにあたって適切なコース状況維持を行う、ジュリー、コース係長、テクニカルアドバイザーと連絡が取れるクルーが必要。
シェイパーの人数は、コース上のすべてのフィーチャーを限られた時間で整備するのに十分な人数であるべきである。
彼らはコース係長と密接に連絡が取れること。

5311.3.4　コース整備係
競技会では、コース上のすべてのフィーチャーにおける排雪作業、ゲート修復、安全設備の調整と／または修復を競技会フェーズを進行するにあたって適切なコース状況維持のために、コース係長、セクションチーフ、そしてシェイパーとよく連絡が取れるクルーが必要。
コース整備係の人数は、コース上のすべてのフィーチャーを限られた時間で整備するのに十分な人数であるべきである。彼らはコース係長と密接な連絡がとれること。もし係員の人数が十分な場合、コース整備係をセクションごとに分割して、セクションチーフの監修のもと業務を行う。

5311.4　コース備品と技術用品係長
共通ルールセクション　2004.10 を参照

5311.5　メディカルチーム
メディカルガイドラインと共通ルールセクション 2004.8 と 2004.9 を参照

5312　データサービス／計算員

5312.1　リザルト係長（計時計算係長）
共通ルール 2004.6 を参照。

以下の役員はリザルト係長（計時計算係長）の責任下にある：
- 電気計時係
- 計算係

5312.2　電気計時係
電気計時係は、タイム計測の正確性について責任を負う。タイム計測は迅速に計算され競技会事務局とリザルト責任者に伝え、リザルトを公表する。彼らはまた、データの記録をとる担当でもある。電気計時係は助手を選択できる。

5312.2.1　電気計時係助手
2 人の電気計時係助手はルール 5201.2.5 ハンドタイミングに則って、手動でストップウォッチを操作する。1 人の電気計時係助手はそれらすべての競技者の手動計測記録を記録する。

5312.3　計算係

計算係長は、リザルトを迅速かつ正確に発行する責任を負う。計算係長はスタートリスト、ブラケット、参考結果の即時掲示と、プロテスト期限満了後、または抗議が処理された後の公式結果の発表を監督する。（2020.2.1 および 5206.2 を参照）
計算係長はリザルト係長により監督され、競技会事務局（2004.7）とよく連携して業務を行い、助手を選んでも良い。

5400 クロスヒート／ランの定義

5401 旗門通過

旗門の正しい通過は、両方のスキーのトップと競技者の両足がゲートラインを越したことで成す。２つのゲートがセットされている場合、ゲートラインは架空の２本のターニングポールを結ぶ最短ラインである。もしターニングゲートが１つのみの場合、ゲートラインはアウトサイドケートとターニングポールによって形成されるラインの延長線となる。（図を参照）

5401.1 正しい旗門通過は、競技者の両足がボードのビンディングに固定されている状態で、ボード全体がゲートラインを越したことで成す。

5401.2 競技中に競技者がスキー／ボードでゲートラインを通過する前に、ポールが直立状態から抜けてしまった場合でも、スキー／ボートと両足は元のゲートラインを通過しなければならない（雪上に印された場所）。競技中にゲートポールもしくはスタビーが不足している場合でも、競技者は正しく旗門通過していると見なされるように元のポールがある時と同じようにポール位置の外をターンする義務がある。

5402 競技者の責任

競技者が旗門不通過、もしくは正しく通過しなかった場合（5401 旗門通過）、彼らはそれ以上滑走を続けてはならない。

5403 セクションジャッジ

5403.1 ジャッジプロトコル

すべてのセクション審判はセクションジャッジプロトコルシートを受け取り、以下の情報を記入する：

5403.1.1 セクションジャッジの名前

5403.1.2 セクションの番号

5403.1.3 指定の滑走／ヒート（1 本目、2 本目／予選タイム計測滑走／予選ヒート、決勝など）

5403.2 ジャッジプロトコルシートの記入

競技者が旗門（もしくはゲートマーク）を 5401 旗門通過に則って正しく通過しなかった場合、セクション審判は迅速に以下の項目をセクションジャッジプロトコルシートに記入する。

5403.2.1 競技者のビブナンバー

5403.2.2 失格報告書.

5403.2.3 発生した違反を説明する図面（スケッチマップが絶対に必要）

5403.2.4 セクション審判は競技者が外部の援助（転倒した際などに）を受けないことを監視しなければならない。僅かな外部の援助であっても、競技者の制裁の対象となる。これらの事象もセクションジャッジプロトコルシートに記載する必要がある。

5403.2.5 もし再走が発生した場合、セクションジャッジは情報と競技者のビブ番号をプロトコルシートにて報告しなければならない

5403.3 セクションジャッジの通常業務

隣接するセクションジャッジ、ジュリーメンバー、もしくは公式なビデオコントローラーの報告と問題現場のセクション審判の報告に相違があった場合、ジュリーはそれらの報告を考慮して選手に制裁を与えるか、抗議を受け入れるかを判断する。
セクションジャッジが下す決定は、明確かつ正当でなければならない。
セクションジャッジは、「競技者を取り敢えずは信じる」という原則を守るべき。

5403.3.1 セクションジャッジは、違反であることを確信した時のみ、その違反を宣言しなければならない。抗議を受けた場合、彼は明確に詳しく違反として提訴したか説明できなければならない。

5403.3.2 セクションジャッジが、違反が発生したことを判断できない場合、隣接するセクションジャッジに事案について相談することができる。彼はコース内のトラックを確認するために、ジュリーメンバーを通して競技会の一時中断を要求することもできる。

5403.3.3 公衆の意見が彼らの判断に影響を与えることは許されない。セクション旗門員は自分の意見を述べなければならない。

5403.3.4　失格／制裁に関わるセクションジャッジ、もしくは暫定的な再走に関わる事件の目撃者は、抗議が解決するまでジュリーに協力しなければならない。

5403.3.5　技術代表の責任において、ジュリーの判断待ちのセクションジャッジを解放することができる。識別できるようにセクションジャッジはビブを着用することを推奨する。主催者は必要に応じてセクションジャッジと最終調整を行う。必要な場合は技術代表もこのセッションに参加できる。

5403.3.6　主催者は、チーフセクションジャッジの任命と予備要員をセクションジャッジの交代が競技会開催中に必要になった場合に備えて人員確保しておくべき。

5403.3.7　制裁の即時発表／失格／IRM

決勝では、セクションジャッジは直ちに失格の連絡、IRM の通知ができる。

5403.3.7.1　失格／IRM の即時通知は次の方法で行う：主催者が提供する無線通信機を使用して。ジュリーメンバーはセクションジャッジから競技者の犯した過失、失格に関して即時報告を受けられるように、同じ、無線チャンネルを使用していなければならない。

5403.3.7.2　即時の発表は、セクションジャッジがすべての事故についてセクションジャッジプロトコルシートに記録することを緩和するものではない。予選フェーズのでは、セクションジャッジのプロトコルシートはセクションジャッジ係長にとって収集される。ヒートフェーズでは、セクションジャッジ係長がプロトコルシートを収集しない可能性があるが、それらは必要に応じてジャッジのために競技会終了までにジュリーが利用できるように準備できていなければならない。

5403.4　セクション審判の補助業務

セクションジャッジは次の補助業務を行う；抜けてしまったゲートポールを所定の位置に修復する、破損もしくは外れたフラッグを修復する、セクションのコースの整備と修復、セクションの人払い。

5403.3.4.1　競技者が滑走中に妨害に遭った場合、彼は直ちに停止し、最寄りのセクションジャッジに報告しなければならない。セクションジャッジは直ちに無線でジュリーに報告し、ジュリーにさらなる指示を求めなければならない。そして、それらの指示に従い、競技者に発生した問題について問わなければならない。再走が許可された場合、セクションジャッジは競技者に通知し、競技者をスタートに戻さなければならない。このルールは予選タイム計測滑走フェーズでのみ有効である。もし予選ヒート、もしくは決勝フェーズにて競技者が妨害に遭った場合、セクションジャッジはルール 5404 に従って判断しなければならない。不可抗力によりヒートの全員（4 名から 6 名の競技者）が停止しなければならなかった場合、ジュリーが最終判断を決める

5404　意図的な接触（インテンショナルコンタクト）

5404.1　妨害の原因となる接触

クロス競技において接触は起こりうる。競技者による他の競技者に対する妨害の判断は、ジュリーによって決定される。違反の疑いがある場合、ヒート直後のフィニッシュエリアにてジュリーメンバーもしくはセクションジャッジに対して、競技者がヒートのレビューを要求できる。ジュリーは判断材料としてセ

クションジャッジの意見、また／もしくはコーチ／スタッフから提供された映像証拠、および／もしくはテレビ制作からの「ビデオレビュー」を使用することができる
提供された証拠から、ジュリーは妨害行為が発生しているか判断しなければならない。妨害行為は、ICR の条項 5404.1.1 および 5404.1.2 に基づいて決定される。妨害行為に対する制裁は、FIS ウェブサイトの意図的な接触のガイドラインを使用して決定されるものとする。
妨害行為に対するすべてのジュリー決定は、次のヒート開始前に承認されなければならず、以後抗議することはできない。

5404.1.1 接触による妨害行為（身体もしくは用具）
妨害行為のレベルは偶発的か、無作為か、意図的かによって判断される。
偶発的な接触は、クロスの自然環境によって発生し、これらにはヒートレースの影響（サイドバイサイドや混雑した状況）、地形の特徴、コース設定、そして競技者の過失が含まれる。
意図しない接触による妨害行為は、競技者が「レース中」の意思決定が原因として他の競技者の結果に直接影響する干渉が発生したことを指す。ジュリーが意図しない妨害行為が発生したと判断した場合、妨害をした競技者は ICR 5404.2.1 に則って制裁を受ける。
意図的な接触によって引き起こされる妨害行為は、競技者が意図的にたの競技者の結果に直接影響する可能性のある接触を行った際に発生する。ジュリーが意図的な妨害行為が発生したと判断した場合、妨害をした競技者は ICR 5404.2 に則って制裁を受ける。

5404.1.2 ブロッキングによる妨害行為（レースラインの優先）
他の競技者の前方を滑走するすべての競技者は自分の滑走ラインを選択する権利があり、選択されたラインが理想的なレースラインから突然逸脱しないこと。
ブロッキングによる妨害行為は、リードする競技者が他の競技者を追い越すために理想的なレースラインから外れることにより発生する。ジュリーがブロッキングによる妨害行為が発生したと判断した場合、妨害をした競技者は ICR 5404.2 に則って制裁を受ける。

5404.1.3 意図的な接触と制裁のガイドライン
スキークロスの意図的な接触、および制裁に繋がる行為、干渉、事故についてガイドラインに説明されている。ガイドラインは FIS ウェブサイトにある。

5404.1.4 妨害行為に対する制裁と懲罰

5404.1.4.1 カードシステム
ジュリーはヒートによって実行されるフェーズの中で、規則 5404.1.1 および／もしくは 5404.1.2 によって判断される接触の妨害行為へのペナルティーを行使する場合、警告および色のカードシステム（イエローカードおよびレッドカード）を使用して対象の競技者に制裁を与える。制裁の程度はジュリーによって判断され、スタートレフリーが次のヒートを開始する前、または表彰式の前に、対象の競技者（またはチーム責任者）へ通達されなければならない。

5404.1.4.2 制裁、もしくは懲罰の判断は、違反が以下の項目について当てはまるか検討される：
- 行為は意図的であったか否か。
- 被告が行為から利益を得たかどうか。
- 意図しない障害が十分に深刻であったかどうか。

– 行為に対する結果がどうであったか。

5404.1.4.3 公式な警告（WRG）
妨害行為はルール 5404.1.1 および／もしくは 5404.1.2 に従って判断されるが、妨害行為が無作為であり、ヒートの結果に直接影響しないと判断された場合、ジュリーは違反した競技者に対し公式な警告を発行することができる。もし競技者が同じ競技会にて２回目の公式な警告を受けた場合、それは自動的にイエローカード（RAL）となる。5404.2.1.2 を参照。

5404.1.4.4 イエローカードの制裁（RAL）
妨害行為はルール 5404.1.1 および／もしくは 5404.1.2 に従って判断されるが、妨害行為が無作為であったが、他の競技者の結果に直接影響を与えた場合、ジュリーはイエローカード（RAL）を発行することができる。
妨害行為はルール 5404.1.1 および／もしくは 5404.1.2 に従って判断されるが、妨害行為が意図的なものであったが、結果に直接影響を与えなかった場合、ジュリーはイエローカード（RAL）を発行することができる。

イエローカード（RAL）を受けた競技者への制裁は、彼らのヒートにて最下位になり、また行われていたラウンドでの最下位順位となること。彼らは最終リザルトに「RAL」と記載される。イエローカードを受けた競技者は、受領以後の競技会を続けることが許されない。イエローカードを受けたことは、シーズン中に同じカテゴリーの競技会で継続される。

5404.1.4.5 レッドカードの制裁（DSQ）
妨害行為はルール 5404.1.1 および／もしくは 5404.1.2 に従って判断されるが、妨害行為が意図的なものであり、他の競技者の結果に直接影響する行為てあった場合、ジュリーはレッドカード（DSQ）を発行することができる。

レッドカード（DSQ）を受けた競技者に対する制裁は、行われている競技会から失格となり、最終リザルトに DSQ として記載される、そして順位を得ることができない。レッドカード（DSQ）を受けた競技者は、同じカテゴリーのシーズン中に行われる次の競技会への出場停止（NPS）となる。
FIS カレンダーに載っている次の同じカテゴリーの競技会は、公式結果で終了し、公開されたことが検証されなければならない。
レッドカードを受けたことは、シーズン中に同じカテゴリーの競技会で継続される。

5404.1.4.6 制裁ルール 5404.1 の発表
ジュリーによって判断されたルール 5404.1 対象のすべての制裁は、次のヒートを開始する前判断され、フィニッシュエリアにて発表され、対象の競技者、または彼らのチーム責任者へ通達されなければならない。
制裁について、スタートとフィニッシュの公式掲示板に掲載される。すべての制裁の掲示は説明を含み、FIS 技術代表より最終レポートに記録と報告され、関係する加盟団体へ届けられる。
制裁理由の可能性として：
– 直線にて他人をブロックした
– 押し出す／引っ張る
– 横からの接触
– 背後からの接触

5404.1.4.7 複数のカード制裁に対する罰則

5404.1.4.8 複数の警告
もし競技者が同じ競技会にて２回目の公式な警告を受けた場合、それは自動的にイエローカード（RAL）となる。5404.2.1.2 を参照

5404.1.4.9 複数のイエローカード（RAL）による制裁
同じシーズン中に同じカテゴリーのイベントにて２回目のイエローカード（RAL）を受けた場合、自動的に同じカテゴリーのシーズン中に行われる次の競技会への出場停止（NPS）となる。
FIS カレンダーに載っている次の同じカテゴリーの競技会は、公式結果で終了し、公開されたことが検証されなければならない。

5404.1.4.10 複数のレッドカード（DSQ）の制裁
同じシーズン中に同じカテゴリーのイベントにて２回目のレッドカード（DSQ）を受けた場合、ジュリーはルール 225.2 に基づいて競技者を提訴し裁く必要がある。

5404.1.4.11 制裁の期限
イエロー／レッドカード（RAL／DSQ）の制裁の期限は対象のシーズンに行われるイベントが終了するまでである。制裁（RAL／DSQ）が OWG、WSC、WJC、YOG の際に与えられた場合は、その１度のイベントのみ有効である。

5404.2 レースレビューと制裁調整の役職
ジュリーが指名した審査委員会（ワールドカップの場合は５名：TD、RD と３名の事件に関与していないアドバイザリーグループメンバー、その他のジュリーレベルの人物）は、競技会終了後２４時間以内、もしくは次の同一カテゴリーの競技会の最低１時間前までに、制裁について見直す。
この審査の結果から、ジュリーは制裁措置の緩和をする可能性があるが、競技会の順位結果は変わらない。

5405 制裁の即時発表／違反による失格

競技者で 5404.1 意図的な接触に則って失格になった競技者は、意図的な接触による失格（DSQ）として競技会で順位は付かない。

5405.1 再レースは、ルール 5404.1 意図的な接触の違反があったヒートの選手たちに認められるものではない。

5405.2 5404.1 意図的な接触のルールに対するすべての違反は、「カードシステム」に則って次のヒートが開始される前に対象の競技者もしくは彼らのチームキャプテンにフィニッシュエリアにて公表される。制裁は、コース下部と上部の公式掲示板に掲載され、違反が発生した場所を示す。すべての判断は FIS 技術代表の TD レポートに記録されなければならない。

5406 タイム計測滑走のフィニッシュ定義（予選）

電子式タイム計測機により、タイム計測は競技者がフィニッシュポストの間の線と身体の一部もしくは用具が交わった際に計測される。

5407 各ヒートの順位付けの定義

5407.2 フィニッシュラインでの順位

5407.2.1　スキークロス
各ヒートでの順位は、身体の一部がフィニッシュラインと交わった順番で決められる。

5407.2.2　スノーボード
各ヒートでの順位は、身体の一部もしくはスノーボードがフィニッシュラインと交わった順番で決められる。

5407.3　同着

5407.3.1　スモールファイナル前に行われるヒートの同着
同着により順位付けが不可能な場合、順位は競技者の予選フェーズでの順位に基づいて決定する。予選順位の上位選手が同着の優位になる。
ホリスティックフォーマットの場合は、ヒートシーディングにより決定する。シーディング順位で優位の選手が同着の上位になる。

5407.3.2　スモールファイナルとビッグファイナルでの同着について
スモールファイナルもしくはビッグファイナルにて同着の場合、同着のまま両者同じ順位となる。

5407.4　DNF, RAL & DNS

5407.4.1　不完走（DNF）の競技者の順位
1 人以上の競技者がコースを完走しなかった場合、競技者の順位はそのヒートで正しく滑走した区間距離によって決められる。競技者でより多くの旗門を正しく通過（5401 旗門通過）した競技者が上位になる。
不完走（DNF）が発生した場合でも、上位 2 名（4 人制フォーマット）もしくは上位 3 名（6 人制フォーマット）の競技者が次のヒートへと進む。

5407.4.2　最下位指定される競技者の順位（RAL）
競技者は彼らのヒートで自動的に最下位指定され（RAL）、ラウンド内の最下位となる。（1/8 ファイナルでは 32 位、1/4 ファイナルでは 16 位）
最下位指定を受けた競技者は、その競技会で行われるその後のヒートへの出走は許されない。

5407.4.3　スタートしない競技者の順位（DNS）
競技者でスタートしない（DNF）場合は、ヒートでの順位は付かず、次のヒートに進むことはない。

5407.4.4　同着ルール（5407.3）は IRM と RM に有効

5408　ビデオコントロール

競技会主催者が公式なビデオコントロールの技術的に導入が可能な場合、ジュリーは公式ビデオ審判に任命される。ビデオ審判員の任務は、コース上の競技者の旗門通過と「意図的な接触」に抵触するすべての事故を観察することである。クロスの競技会において、ジュリーは公式ビデオコントローラーの見解を基に失格／制裁の最終決定を下すことができる。

5500　フォーマットとヒートの説明

5500.1　　競技会の手順

全ての国際 FIS 公認競技会には、一般的に以下のフォーマットがある

5500.1.1　　競技会フォーマット

1 回もしくはそれ以上のラウンドで構成された予選フェーズ（すべての競技者は 1 ランから開始）

1 回もしくはそれ以上で構成される決勝フェーズ

5000.1.2　　フォーマットの変更

- ジュリーは以下の状況において、決勝のみのフォーマットに変更する場合がある。
- 競技者数がその競技会の決勝進出人数と同じ、もしくはそれ以下の場合。
- 悪天候、もしくは雪の状態が悪い場合
- その他の悪条件によりプログラムを短縮する必要がある場合

5501　　予選フェーズ

予選はタイムトライアル、1 回の予選ヒートラウンド、もしくは 3 回の予選ヒートラウンドによって行うことができる。

5501.1　　タイム計測による予選

タイム計測滑走は KO ファイナルの出場選手を決めるために行われる。
彼らは予選、もしくはシーディングフォーマットを使用する。
予選フォーマットでは、決勝進出に必要な有効なタイムが必要である。
シーディングフォーマットでは、DNF、DNS も決勝に進むことができる（5501.1.8 を参照）。

5501.1.1　　シングルランの予選

すべての競技者は 1 本のタイム計測滑走を行う。
完走したすべての競技者は、彼らのタイムによって順位付けされる。
DSQ、DNF、DNS となった競技者には順位は付けられず、ヒートブラケットにスポットを得ることはない。

スキークロスでは、シングルランの予選が CoC、WC、WSC、OWG にてタイム計測を行う予選フォーマットで行うことが必須である。（タイム計測の予選に加えて、ホリスティックヒートフォーマットも可能である）

5501.1.2　　予選２本滑走のベストを採用

２ランズ–競技者は２本のタイム計測滑走を行う。その２本の滑走のにおいてより優れたタイムの滑走をベストランとして、その記録によって予選の順位付けがなされる。

２本目の滑走の順番は 1 本目の滑走順と同じであるが、１本目でスタート順が 16 もしくは８番目までの競技者はスタート順がリバースオーダーでスタートする。

5501.1.3　　予選２本滑走（カットダウン）

カットダウンシステムによる２本のタイム計測滑走

- １本目にて、出場者の上位 50％のタイムの競技者は、ファイナルブラケットへと選出され、残りは２本目の滑走を行う。

– ２本目の出走順は、1 本目にて決勝進出が決まった選手を除いた同じ出走順にて行われる。
– ２本の予選滑走において優れているタイムにて順位付けを行い、残りの決勝進出者を決定する。

5501.1.4 セッション
ジャムセッション–無制限の滑走本数。すべての競技者は決められた時間内で無制限の滑走本数を滑ることができる。それらの滑走の最も優れたタイムによって予選の順位付けが行われる。
スタート順：スタート順はシステムごと、出走者の人数により決まる
各ヒート最大の競技者人数は 64 名。

5501.1.5 クロスにおける同着

5501.1.5.1 シングルランの予選、もしくはカットダウンフォーマットの 1 本目
２名もしくはそれ以上の競技者が同タイム（同着）の場合、シーディングポジションの悪い方の競技者が優勢となる。

5501.1.5.2 予選２本滑走、もしくはカットダウンフォーマットの２本目
２名もしくはそれ以上の競技者が同タイム（同着）の場合、競技者の滑走合計タイムによって順位付けを行う。
もし滑走にて IRM がある場合、DNF はタイムより下位、DNS は DNF より下位となる。それでもなお同点の場合、シーディングポジションの悪い方の競技者が優位となる。

5501.1.5.3 ジャムセッション
２名もしくはそれ以上の競技者が同タイム（同着）の場合、競技者の予選のベスト２本の滑走の合計タイムによって順位付けを行う。
もしそれら２本の滑走の片方にて IRM がある場合、DNF はタイムより下位、DNS は DNF より下位となる。それでもなお同点の場合、シーディングポジションの悪い方の競技者が優位となる。

5501.1.7 DNF, DNS
カットダウンシステムを含む２本の滑走フォーマットの場合、競技者で予選 1 本目を不完走（DNF）もしくは未出走（DNS）の場合でも２本目の予選滑走をすることができる。
予選フェーズにおいて、有効なタイムリザルトの競技者のみが決勝フェーズへ進むことができる。シーディングランフォーマットには適応されない。
（5501.1.8）

5501.1.8 シーディングランフォーマットにおける IRM
DNF はコースを完走した競技者の下位に順位付けられる。
複数名の競技者がコースを完走しなかった場合、順位付けは各競技者が正しく旗門通過したコース上の滑走距離に応じて決められる。より長く正しく旗門通過（5401 旗門通過）してコースを滑走した競技者が優位となる。
もし彼らがそれでも同着の場合、競技者の順位は彼らのシーディングによって決まる。
DNS は DNF のさらに下位に順位付けされる。もし複数名の競技者が未出走の場合、彼らのシーディングによって順位は決定する。

5501.2 予選ヒート（ホリスティックフォーマット）

ホリスティックヒートフォーマットの競技者人数が決勝ブラケットに収まる人数を超える場合、予選ヒートラウンドを実施する必要がある。

5501.2.1　予選ヒートの競技者人数
予選ヒートラウンド（QHR）は、予選ヒートの出走者数が次のヒートブラケットの出場者数よりも少ない時に限り使用する必要がある。

以下の表は、使用するヒートの種類を示している：

使用するブラケット	出場選手人数
4 名の競技者	1–4
ＱＨＲ	5–6
8 名の競技者	7–8
ＱＨＲ	9–11
16 名の競技者	12–16
ＱＨＲ	17–23
32 名の競技者	24–32
ＱＨＲ	33–47
64 名の競技者	48–64
ＱＨＲ	65–95
128 名の競技者	96–128
ＱＨＲ	128–191

5501.2.2　予選ヒートラウンドの実施
決勝ブラケットの超過競技者数（X）および決勝ブラケットへ進出する競技者人数（Y）は、ヒートにて競争して KO ファイナルの出場者を決める（5502.1.3 決勝ペアリング／ブラケット）
競技者数（X）が偶数の場合、人数（Y）は（X）と同じ人数になる。競技者数（X）が奇数の場合は、人数（Y）は次に大きな偶数の人数なる。
各予選ヒートの上位２名の競技者が KO ブラケットに進出することができる。

5501.2.3　予選ヒートの回数
予選ヒートの回数（K）は、予選ヒートラウンドで競う競技者数に応じて決まる。(X + Y)
K = (2x Y) / 4

5501.2.4　予選ヒート表の決定
まず、決勝ブラケットから出された選手（Y）が予選ヒートブラケットの行列に代入される。
上位半数の（Y）は 1 ヒート目からレッドビブのポジションに代入される。
下位半数の（Y）はヒート番号の大きいヒートからグリーンビブのポジションへと代入される。
上位半数の（X）は 1 ヒート目からブルービブのポジションに代入される。
下位半数の（X）はヒート番号の大きいヒートからイエロービブのポジションへと代入される。
例：64 人の KO ブラケットに対して出場者が 67 人の場合
X = 3 =>人数が奇数のため、次の偶数は 4
Y = 4 =>必要なヒート数の計算
K = (2x Y) / 4 = 2 =>必要なヒートラウンド回数

Q-Heat #	Red Bib 1st Position	Green Bib 2nd position	Blue 3rd position Bib	Yellow Bib 4th position
1	61	64	65	
2	62	63	66	67

例：32 人の KO ブラケットに対して出場者が 46 人の場合
X = 14 =>人数は偶数
Y = 14 =>必要なヒート回数の計算
K = (2x Y) / 4 = 7 =>必要なヒートラウンドの回数

Pre -Heat #	Red Bib 1st Position	Green Bib 2nd position	Blue 3rd position Bib	Yellow Bib 4th position
1	19	32	33	46
2	20	31	34	45
3	21	30	35	44
4	22	29	36	43
5	23	28	37	42
6	24	27	38	41
7	25	26	39	40

5501.2.5 ブラケットへの参加
各ヒートのフェーズにおいて、上位２名（4 人制ヒート）もしくは上位３名（6 人制ヒート）が次にヒートへ進む権利を得る。

5501.2.6 KO ブラケットでの競技者の割当て
各ヒートの勝者は、予選ヒートのレッドビブのスポットが KO ブラケットで割り当てられる。
各ヒートの２位は、予選ヒートのグリーンビブのスポットが KO ブラケットで割り当てられる。

例：32 人の KO ブラケットに対して出場者が 46 人の場合：
予選ヒートの結果：

Pre Heat #	Red Bib 1st Rank	Green Bib 2nd Rank	Blue Bib 3rd Rank	Yellow Bib 4th Rank
1	46	32	19	33
2	31	20	34	45
3	35	30	21	44
4	22	29	36	43
5	23	37	28	42
6	41	27	38	24
7	39	40	25	26

予選ヒートの勝者と２位通過の再割り当て：

Heat #	Red Bib 1st Rank	Green Bib 2nd Rank	Blue Bib 3rd Rank	Yellow Bib 4th Rank
1	1	16	17	Second 1 = 32
2	8	9	Winner 6 =41	Winner 7 = 39

3	5	12	Winner 3 = 35	Second 5 = 37
4	4	13	Winner 2 = 31	Second 4 = 29
5	3	14	Winner 1 = 46	Second 3 = 30
6	6	11	Winner 4 = 22	Second 6 = 27
7	7	10	Winner 5 = 23	Second 7 = 40
8	2	15	18	Second 2 = 20

5501.3　予選３ヒート制（JUN、FIS、NC レベルの競技会のみ）

予選を３回のヒートにて行う。すべての競技者は３ラウンドの予選ヒートを４人の競技者で行う。出場人数により、１から３ヒートが３人の競技者で行われる場合がある。
各競技者はそれぞれの予選ラウンドにてヒート内の順位に応じたポイントが与えられる。獲得ポイントはヒートの出走人数によって異なる。
４人ヒートの場合：１位：10 点、２位：5.6 点、３位：３点、４位：1.4 点
３人ヒートの場合：１位：8.9 点、２位：5.1 点、３位：1.4 点
２人ヒートの場合：（DNS がある場合のみ）１位：6.5 点、２位：1.9 点
DNF：１点
DNS：−1.5 点
RAL：−1.5 点
予選順位は３ヒートの合計得点によって決められる。

5501.3.1　予選ラウンドごとのヒート回数

ヒートの回数は参加者の性別と年齢カテゴリーごとの合計人数を４で割って少数を切り上げた数によって決められる。
38 人の競技者が出場する場合、４人制ヒートを８回と、３人制ヒート２回の予選ラウンドが行われる。

5501.3.2　ヒートのシーディングとゲートの選択

FIS ポイントリストにおけるトップの競技者たちは、各予選ヒート表のはじめに配置される。セットされる競技者の人数は、予選ラウンドヒート数に等しい。
ヒート内のその他３つスポットは、各フィールド内でランダムに選出される。
ゲート選択の優先順位はランダムに決定される。
合理的な FIS ポイントが利用できない低いレベルの競技会（例えば JUN カテゴリー）では、ポイント上位の選手からシーディングすることなく、すべてのヒートをランダムでヒートスポットを決定しても良い。
ジュリーは、同じ競技者が３回同じヒートになる、もしくは競技者のヒートが３回３人制ヒートに満たない場合、もしくはヒートの内容が非常にアンバランスであると判断できる場合、再びシーディングをドローすることを判断できる。

5501.3.3 3　ヒート予選モードでの同着

予選にて、競技者が決勝の最終スポットに同着であった場合
各競技者はヒートレベル値（hlv）がある。hlv は各予選ヒートで競う選手の FIS ポイント合計によって計算される。３回のヒートの合計 hlv の高い競技者は、合計の低い競技者より上位になる。
同着が残っている場合、競技者で３ヒートにてスタートレーンの優先順位の合計が高い方が上位になる。
それでも同着が残る場合、決勝の最終スポットの同着は追加のタイブレークヒートにて決められる。他の同着の競技者は、FIS ポイントの高い順にシードされる。

決勝戦の資格を持たない競技者の同着は、同位とする。その場合、ビブ番号の大きい競技者を先にリストに載せる。

5501.3.4　最大競技滑走数
競技会で選ばれる競技形式は、１日競技者一人当たり、最大６回の競技力のある滑走にする必要がある。予選と決勝ヒートが同日に行われる場合、これには予選と決勝ヒートを含む。競技形式がファイナリストに対して６回以上の出走がある場合、予選は決勝と別の日に開催されなければならない。

5501.3.5　FIS ポイントを有さない年齢カテゴリーの予選ヒート
（ルール 201.1 & 201.2 にて説明されているとおり）
6 人以下の競技者の小カテゴリーは、下もしくは上の年齢グループのカテゴリーに参加する必要がある。これは予選ヒートに関してである。決勝ヒートは、各性別／年齢カテゴリーで適切に決勝を行える少なくとも３名の競技者がいる限り、年齢カテゴリーに再分割できる。

5502　決勝

5502.1　KO ヒート
上位２名の競技者（4 人制ヒート）もしくは上位 3 名の競技者（6 人制ヒート）は各ヒート内の着順にて、次のフェーズに進むことができる。

5502.1.1　4 人制フォーマット
決勝戦を 8、16、32、64、もしくは 128 名の競技者が各ヒート 4 人ごと【に】競う

5502.1.2　6 人制フォーマット
決勝戦を 12、24、48、もしくは 96 名の競技者が各ヒート 6 人ごと【に】競う

5502.1.3　クロスの決勝ブラケット／ペアリング
決勝のペアリングは以下のノックアウト（KO）フォーマットとグループヒートフォーマット（RR）に基づいて行われる。

5502.1.3.1　1 ヒート／4 名用の 4 人制 KO ブラケット

ヒートナンバー	レッドジャージ第 1 ポジション	グリーンジャージ第 2 ポジション	ブルージャージ第 3 ポジション	イエロージャージ第 4 ポジション
1	1	2	3	4

5502.1.3.2　1 ヒート／6 名用の 6 人制 KO ブラケット

ヒートナンバー	レッドジャージ第 1 ポジション	グリーンジャージ第 2 ポジション	ブルージャージ第 3 ポジション	イエロージャージ第 4 ポジション	ホワイトジャージ第 5 ポジション	ブラックジャージ第 6 ポジション
1	1	2	3	4	5	6

5502.1.3.3　2 ヒート／8 名用の 4 人制 KO と RR ブラケット

ヒートナンバー	レッドジャージ第 1 ポジション	グリーンジャージ第 2 ポジション	ブルージャージ第 3 ポジション	イエロージャージ第 4 ポジション
1	1	4	5	8
2	2	3	6	7

5502.1.3.4　2 ヒート／12 名用の 6 人制 KO ブラケット

ヒート ナンバー	レッドジャージ 第 1 ポジション	グリーンジャージ 第 2 ポジション	ブルージャージ 第 3 ポジション	イエロージャージ 第 4 ポジション	ホワイトジャージ 第 5 ポジション	ブラックジャージ 第 6 ポジション
1	1	4	5	8	9	12
2	2	3	6	7	10	11

5502.1.3.5　4 ヒート／16 名用の 4 人制 KO ブラケット

ヒート ナンバー	レッドジャージ 第 1 ポジション	グリーンジャージ 第 2 ポジション	ブルージャージ 第 3 ポジション	イエロージャージ 第 4 ポジション
1	1	8	9	16
2	4	5	12	13
3	3	6	11	14
4	2	7	10	15

5502.1.3.6　4 ヒート／24 名用の 6 人制 KO ブラケット

ヒート ナンバー	レッドジャージ 第 1 ポジション	グリーンジャージ 第 2 ポジション	ブルージャージ 第 3 ポジション	イエロージャージ 第 4 ポジション	ホワイトジャージ 第 5 ポジション	ブラックジャージ 第 6 ポジション
1	1	8	9	16	17	24
2	4	5	12	13	20	21
3	3	6	11	14	19	22
4	2	7	10	15	18	23

5502.1.3.7　8 ヒート／32 名用の 4 人制 KO ブラケット

ヒート ナンバー	レッドジャージ 第 1 ポジション	グリーンジャージ 第 2 ポジション	ブルージャージ 第 3 ポジション	イエロージャージ 第 4 ポジション
1	1	16	17	32
2	8	9	24	25
3	5	12	21	28
4	4	13	20	29
5	3	14	19	30
6	6	11	22	27
7	7	15	18	31
8	2	15	18	31

5502.1.3.8　8 ヒート／48 名用の 6 人制 KO ブラケット

ヒート ナンバー	レッドジャージ 第 1 ポジション	グリーンジャージ 第 2 ポジション	ブルージャージ 第 3 ポジション	イエロージャージ 第 4 ポジション	ホワイトジャージ 第 5 ポジション	ブラックジャージ 第 6 ポジション
1	1	16	17	32	33	48
2	8	9	24	25	40	41
3	5	12	21	28	37	44
4	4	13	29	29	36	45
5	3	14	19	30	35	46
6	6	11	22	27	38	43
7	7	10	23	26	39	42

8	2	15	18	31	34	47

5502.1.3.9　16 ヒート／64 名用の 4 人制 KO ブラケット

ヒート ナンバー	レッドジャージ 第 1 ポジション	グリーンジャージ 第 2 ポジション	ブルージャージ 第 3 ポジション	イエロージャージ 第 4 ポジション
1	1	32	33	64
2	16	17	48	49
3	9	24	41	56
4	8	25	40	57
5	5	28	37	60
6	12	21	44	52
7	13	20	45	52
8	4	29	36	61
9	3	30	35	62
10	14	19	46	51
11	11	22	38	59
12	6	27	38	59
13	7	26	39	58
14	10	23	42	55
15	15	18	47	50
16	2	31	34	63

5502.1.3.10　16 ヒート／96 名用の 6 人制 KO ブラケット

ヒート ナンバー	レッドジャージ 第 1 ポジション	グリーンジャージ 第 2 ポジション	ブルージャージ 第 3 ポジション	イエロージャージ 第 4 ポジション	ホワイトジャージ 第 5 ポジション	ブラックジャージ 第 6 ポジション
1	1	32	33	64	65	96
2	16	17	48	49	80	81
3	9	24	41	56	73	88
4	8	25	40	57	72	89
5	5	28	37	60	69	92
6	12	21	44	53	76	85
7	13	20	45	52	77	84
8	4	29	36	61	68	93
9	3	30	35	62	67	94
10	14	19	46	51	78	83
11	11	22	43	54	75	86
12	6	27	38	59	70	91
13	10	23	42	55	74	87
15	15	18	47	50	79	82
16	2	31	34	63	66	95

5502.1.3.11　32 ヒート／128 名用の 4 人制 KO ブラケット

ヒート ナンバー	レッドジャージ 第 1 ポジション	グリーンジャージ 第 2 ポジション	ブルージャージ 第 3 ポジション	イエロージャージ 第 4 ポジション
1	1	64	65	128
2	32	44	96	97
3	17	48	81	112

4	16	49	80	113
5	9	56	73	120
6	24	41	88	105
7	25	40	89	104
8	8	57	72	121
9	5	60	69	101
10	28	37	92	101
11	21	44	85	108
12	12	53	76	117
13	13	52	77	116
14	20	45	84	109
15	29	36	93	100
16	4	61	68	125
17	3	62	67	126
18	30	35	94	99
19	19	46	83	110
20	14	54	75	118
21	11	54	75	118
22	22	43	86	107
23	27	38	91	102
24	6	59	70	123
25	7	58	71	121
26	26	39	90	103
27	23	42	87	106
28	10	55	74	119
29	15	50	79	114
30	18	47	82	111
31	31	34	95	98
32	2	63	66	127

5502.1.3.12　ラウンドロビングループシーディングテーブル

中間フェーズのペアリングは次のグループヒートフォーマットのようになる：

		グループヒートのビブ番号			
グループ	ヒート	レッド	グリーン	ブルー	イエロー
1	1	1	2	3	4
	2	5	6	7	8
	3	9	10	11	12
	4	13	14	15	16
2	5	1	5	9	13
	6	2	6	10	14
	7	3	7	11	15
	8	4	8	12	16
3	9	1	6	11	16
	10	2	5	12	15
	11	3	8	9	14
	12	4	7	10	13
4	13	1	7	12	14
	14	2	8	11	13

	15	3	5	10	16
	16	4	6	9	15
5	17	1	8	10	15
	18	2	7	9	16
	19	3	6	12	13
	20	4	5	11	14

5502.1.4　予選によるヒートペアリング
予選を通過したすべての競技者は、5501 予選フェーズの予選順位に基づきブラケットに振り分けられる。
競技会がワールドカップの場合、ヒートシーディングはパブリックヒートセレクションによって決めても良い。（WC ルール参照）

5502.1.5　シーディングランによるヒートペアリング
シーディングの滑走数
5501.1.1（1 本の滑走）にて説明されている予選滑走と同じように、すべての競技者が 1 本タイム計測滑走を行うが、DNS または DNF のすべての競技者もファイナルブラケットにシーディングされる。

5502.1.6　予選以外のヒートペアリング
ブラケットを埋めるのに、予選ヒート（5501.2 予選ヒート）を行うことを推奨する。

ランキングを決めるために勝ち上がれなかった競技者でヒートを組むことは可能。それらは新しいヒートブラケットにグループ化される。ヒートで３着になった者はお互いに競い合い、４着になった者はまたそれに応じて競争する。
1/16 ファイナルにて３着もしくは４着になった競技者は、33～64 位の順位決定戦を準々決勝から決勝戦（もしくはスモールファイナル）までの行程で行う。
1/8 ファイナルにて３着もしくは４着になった競技者は、17～32 位の順位決定戦を準決勝から決勝戦（もしくはスモールファイナル）までの行程で行う。
64 名を超える競技者がいる場合、敗者ラウンドは最大 1 ラウンドまでに追加制限され、それらのラウンド後、競技者たちはそれぞれの結果で順位付けされる。

5502.3　ラウンドロビン

5502.3.1　グループヒートフォーマット（ラウンドロビン）
5502.1.3 決勝ブラケット／ペアリングで説明されている予選に基づいて、16 名の競技者がグループヒートにシーディングされる。５回のラウンドにて、すべての競技者同士が総当たりで対戦する。

5502.3.1.1　シングルパネル
5502.1.3.12 決勝ブラケット／ペアリングで説明されている予選もしくはシーディングに基づいて、16 名の競技者がグループヒートにシーディングされる。５回のラウンドにて、すべての競技者同士が総当たりで対戦する。
エントリーしている競技者が 17 名から 19 名の場合、FIS シーディングリストより 16 番以降の競技者によりプレヒートを行い、グループヒートフェーズに出場する競技者を決定する。

5502.3.1.2　ダブルパネル

エントリーしている競技者が 20 名から 32 名場合、5502.1.3.13 決勝ブラケット／ペアリングで説明されている予選もしくはシーディングに基づいて、競技者が２つのパネルのグループヒートにシーディングされる。５回のラウンドにて、すべての競技者同士がパネル内で総当たりで対戦する。

5502.3.2　グループヒートでの同着のルール（ラウンドロビン）
ヒート内で同着が発生した場合、対象の競技者たちは同じ順位のポイントを得る。

5502.3.3　グループヒート後の同着のルール（ラウンドロビン）
2 名の競技者が同点の場合、共通ヒートにてより順位の上位の競技者が優位となる。もし彼らが共通ヒートにて同着であった場合、予選順位もしくはシーディングランキングの上位者が優位となる。3 人もしくはそれ以上の競技者が同点の場合は、予選順位もしくはシーディングランキングの上位者が優位となる。（予選順位が上位の競技者が同着を制する）

5502.3.4　ラウンドロビングループヒートでの順位付け
競技者は、RR フェーズでの獲得ポイントの合計に基づいて順位付けされる。

5502.3.5　ヒートごとの順位別獲得ポイント表

順位	ポイント
1st	= 4
2nd	= 3
3rd	= 2
4th	= 1
DNS	= 0
RAL	= 0

不完走（DNF）は結果として考慮され、競技者は 5702.6 DNF の最終順位に基づいて着順を得る。（もし複数の競技者が DNF の場合、着順はより長くコースを滑走したかによって決まる。）

5502.3.6　ラウンドロビングループヒートの中間ランキング
20 ヒート（ラウンド 5）の後、各競技者がヒートフェーズ中に獲得した合計ポイントに基づいてパネルごとに 1 位から 16 位までの暫定成績を決める。もし競技会が RR フェーズ後に競技を完了できない場合、その暫定成績が最終順位としてリザルトに使用することができる。
ダブルパネルでは、競技者が彼らのパネルで獲得した合計ポイントに基づいて暫定成績を決める。両方のパネルの結果を併合して決勝のリストが決まる。上位 8 名の競技者に同点はない。（2 名が 1 位の場合、2 名ともに 1 位で、次の順番は 3 位となる）9 位以降の競技者の順位は、シーディングもしくは予選の順位によって決定する。

5502.3.7　ラウンドロビングループヒートフェーズ中の無効なリザルトマーク（IRM）

5502.3.7.1　競技者が DSQ になった場合、対象の競技者は全てのポイントを失い、また順位は付けられず、次のヒート、準決勝、決勝戦に進むことはできない。

5502.3.7.2　競技者がグループヒートフェーズにて RAL、DNF、もしくは DNS であった場合、対象の競技者はまだ次のラウンドに参戦することができる。

5502.3.9　　準決勝

5502.3.9.1　シングルパネル
KO フォーマットにて上位８位の競技者は、準決勝に進出する。彼らは、ラウンドロビンの結果に基づいてシーディングされる。5502.1.3.3 ２ヒート／８名用の４人制 KO と RR ブラケットを参照。同着はルール 5502.3.3 グループヒート後の同着のルール（ラウンドロビン）に基づいて順位付けされる。

5502.3.9.2　ダブルパネル
RR フォーマットにて各パネル上位４名の競技者は、準決勝に進出する。彼らはラウンドロビンの結果に基づいてシーディングされる
5502.1.3.3 ２ヒート／８名用の４人制 KO と RR ブラケット、5502.3.3 グループヒート後の同着のルール（ラウンドロビン）を参照。
セミファイナル１：パネル１の１位（赤）、パネル２の２位（緑）、パネル２の３位（青）、パネル１の４位（黄）。
セミファイナル２：パネル２の１位（赤）、パネル１の２位（緑）、パネル１の３位（青）、パネル２の４位（黄）。

5502.3.10　決勝
スモールファイナル：セミファイナル１の３着（赤）、セミファイナル２の３着（緑）、セミファイナル１の４着（青）、セミファイナル２の４着（黄）。
ビッグファイナル：セミファイナル１の１着（赤）、セミファイナル２の１着（緑）、セミファイナル１の２着（青）、セミファイナル２の２着（黄）。

5502.3.10.1　不可抗力
競技会が完了できない場合、ジュリーはセミファイナルとスモールファイナルをショル略して、各パネルの上位２名の競技者をビッグファイナルに進出させることを決めることができる。

5502.3.11　決勝フェーズでの同着ルール（ラウンドロビン）
セミファイナルにて同着が発生した場合、競技者の順位はグループヒートの順位に基づいて決定する。
ビッグファイナル、もしくはスモールファイナルでの同着の場合、彼らは同じ順位となる。

5502.1.3.13　ラウンドロビンダブルパネルグループヒートシーディング表
中間フェーズのヒートのペアリングは、下記のグループヒートフォーマット表に基づいて行われる。

パネル１		グループヒートのビブ番号			
グループ	ヒート	レッド	グリーン	ブルー	イエロー
1	1	1	4	5	8
	2	9	12	13	16
	3	17	20	21	24
	4	25	28	29	32
2	5	1	9	17	25
	6	4	12	20	28
	7	5	13	21	29
	8	8	16	24	32
3	9	1	12	21	32

	10	4	9	24	29
	11	5	16	17	28
	12	8	13	20	25
4	13	1	13	24	28
	14	4	16	21	25
	15	5	9	20	32
	16	8	12	17	29
5	17	1	16	20	14
	18	4	13	17	16
	19	5	12	24	25
	20	8	9	21	28

パネル 2		グループヒートのビブ番号			
グループ	ヒート	レッド	グリーン	ブルー	イエロー
6	1	2	3	6	7
	2	10	11	14	15
	3	18	19	22	23
	4	26	27	30	31
7	5	2	10	18	26
	6	3	11	19	27
	7	6	14	22	30
	8	7	15	23	31
8	9	2	11	22	31
	10	3	19	23	30
	11	6	15	18	27
	12	7	14	19	26
9	13	2	14	23	27
	14	3	15	22	26
	15	6	10	19	31
	16	7	11	18	30
10	17	2	15	19	30
	18	3	14	18	31
	19	6	11	23	26
	20	7	10	22	27

5600 フェーズと手順

5601 エントリー

エントリーシステムの手順と期限について、共通 FIS ルールセクション 215 参照

5601.1 年齢制限

すべての FIS 競技会では、様々なレベルのイベントに参加できるように年齢制限が適応されている。
一般セクション 2014 を参照

5601.2 クォータ

すべての FIS 大会では、イベントの種類とレベルに基づいてクォータの制限が適用される。

さまざまなレベルと種類の競技会におけるクォータシートを参照

5602 チームキャプテンミーティング

2043.1 と 216 を参照

5603 フォーマットの発表

使用される予選フォーマット、決勝フォーマット、および使用されるブラケットサイズは、ドローミーティングの際に発表されなければならない。
使用されるフォーマットはジュリーによって選択され、それらはインビテーションにて公表されているフォーマットと異なる場合がある。

5604 ドロー／スタート順

2022 を参照
スタート順は競技会前日のチームキャプテンミーティングにて決められる。すべての FIS クロス競技会では、コンピューターによるランダムドローを使用することができる。

5604.1 ドローとスタートリスト

5604.1.1 ドロー後のスタート順の変更、追加、そして交代は許されない。
競技者が間違ったスタート順でスタートした場合、チーム（国）に対して制裁が与えられる場合がある。

5604.1.2 スタートリストは、すべての役員、コーチ、競技者、テレビ関係者、メディア担当者、VIP に配布されなければならない。

5604.1.3 スタートリストの誤り
大会組織委員会がスタート順に間違いを生じた場合、ドローをやり直す必要がある。この場合、チームキャプテンはスタートリストが配布されてから 15 分以内に誤りを組織委員会に報告しなければならない。15 分以降は間違いはチームキャプテンの誤りとして扱われ、修正されない。

5604.2 シーディングと予選、もしくはシーディングランのドロー

5604.2.1 メジャーな競技会でのシーディング
ワールドカップ、世界選手権大会、オリンピック競技大会では、競技者は彼らの WCSL のベストランキング、WC ポイントリスト、もしくは、FIS ポイントリスト（年間複数回更新）に基づいて並べられる。もし競技者が同点であった場合、次のカテゴリーにランキングの優れる競技者が上位となる。もし彼らが３つのカテゴリー全てにおいて同点である場合、彼らのポジションはドローによって決められる。
使用される FIS ポイントリストは、ドローミーティングの日に有効なものが使用されなければならない。

5604.2.2 その他の競技会でのシーディング
その他の FIS 競技会では、競技者は彼らの現在の FIS ポイントリストに基づいて並べられる。
使用される FIS ポイントリストは、ドローミーティングの日に有効なものが使用されなければならない。

コンチネンタルカップでは、特別な規則が使用される場合がある。
ランク付けされていない競技者には、ビブはランダムドローにて割り当てられる。

5604.2.3　予選のドロー
上位グループ（16／8）はランダムにドローされる。それ以降の競技者は彼らのシーディングに基づいて並べられる。
第１シードグループはシーディングリストのベスト１６の男子、ベスト８の女子と定義される。

5604.2.4　異常なコンディションでのスタート順「スノーシード」（第１シードを除く）
降雪などによる異常なコンディションの場合、ジュリーは予選のスタート順を変更することができる。少なくとも６名の競技者が選出され、１番スタート予定であった選手の前に滑走する。彼ら６名の競技者はスタートリストの下位20％からランダムで選出され、彼らはスタート番号の大きい者からスタートする。
もしスタートリストの下位 20％が６人未満の場合、シーディングリストの下位から６名の競技者が選出される。

5604.3　ホリスティックヒートフォーマットのシーディングとドロー

5604.3.1　メジャーな競技会のシーディング
ワールドカップ、世界選手権大会、オリンピック競技大会では、競技者は彼らの WCSL のベストランキング、WC ポイントリスト、もしくは、FIS ポイントリスト（年間複数回更新）に基づいて並べられる。もし競技者が同点であった場合、次のカテゴリーにランキングの優れる競技者が上位となる。もし彼らが３つのカテゴリー全てにおいて同点である場合、彼らのポジションはドローによって決められる。
使用される FIS ポイントリストは、ドローミーティングの日に有効なものが使用されなければならない。

5604.3.2　その他の競技会のシーディング
その他の FIS 競技会では、競技者は彼らの現在の FIS ポイントリストに基づいて並べられる。
使用される FIS ポイントリストは、ドローミーティングの日に有効なものが使用されなければならない。
ランク付けされていない競技者には、ビブはランダムドローにて割り当てられる。

5604.3.3　ホリスティックヒートフォーマットのドロー
シーディングリストに載っているすべての競技者は、グループ分けされる。それらグループは、5502.1.3 決勝ブラケット／ペアリングに基づいて振り分けられる。（赤、緑、青、黄、白、黒）
第１グループ（レッドビブ）は 5502.1.3 決勝ブラケット／ペアリングにて説明されているとおりブラケットに入れられる。
残りのフィールドはグループごとにドローされて、ブラケットに入れられる。
第２グループ（グリーンビブ）、第３グループ（ブルービブ）、第４グループ（イエロービブ）、第５グループ（ホワイトビブ）、第６グループ（ブラックビブ）
グループごとのドローは、コンピューターによりランダムドロー、抽選によるドロー、競技者による個人指名、もしくはパブリックドローを行うことができる。

5605 コースセット

旗門のセットは公式インスペクションとトレーニングの前に行う必要があり、地形の特性やコース上のフィーチャー、ジャンプを巧みに使用してセットを行うことが望ましい。トレーニング中にコースをスムーズな競技ラインで滑走させるためにセットの少々の調整を行うことができる。トレーニング中に変更が行われた場合、すべての競技者とチームキャプテンがその変更について認識できるように、スタートエリアで発表する必要がある。

5605.1 三角ゲート（フラッグ）の配置

5605.1.1 三角フラッグは競技者が高速で滑走している際にもはっきりと視認できるようにセットされなければならない。三角フラッグは競技ラインに対して正しい角度に設置されるのが望ましい。特定の状況では、競技者は同じ色の２つのゲート間を通過する必要がある。（例：廊下セクション／ストレートセクション）

5605.1.2 旗門はローラーやジャンプのテイクオフの両脇に設置する必要がある。ランディングのような見えない位置へのゲートの配置は避ける。フラットなバンク無しのターン、バンクターン、もしくは他のすべてのターンではシングルターニングゲートにてセットを行い、アウトサイドゲートの必要はない。

5605.2 スペアポール

コース係長は、十分なポールの予備を適切な場所に配置することを担当する。予備ポールは、スタートもしくは競技者がそれらポールによって混乱と誤解をされない場所に配置する必要がある。

5605.3 ゲートのマーキング

ゲートポールの位置は簡単に視認できるように着色料でマーキングされる。

5605.4 ゲートのナンバリング

旗門はコースの最上部からボトムまですべてナンバリングされ、またそれらの番号はアウトポールに記される。スタートとフィニッシュはカウントされず、ゲートとして認識しない。

5605.5 補助

コースセッターがジュリーによって定められた時間内にフェンシングポールなどに気を取られずにコースセットに集中できるように、コースセッターを補助する必要がある。
コース係長は次のものを十分に用意する必要がある：
- 十分な青と赤ポール（ロングポールとスタビー）
- 色分けされた、旗門数のフラッグ
- ドリルやゲートレンチなど
- 十分な旗門の数
- ポールをマーキングするためのマーキング塗料

5606 インスペクション

競技者は、コースの下見を、コース内を低速でスライドしながら滑走、もしくはコース脇を滑走して行うことができる。インスペクションの時間はジュリー

によって判断されるが、最低でも 30 分以上でなければならない。すべての競技者は、トレーニングを行う際に少なくとも 1 回のインスペクションを完了する必要がある。競技者はインスペクション中にビブとベルメットを見えるように着用しなければならない。

5607 トレーニング

競技会に参加するためには、少なくとも 1 本のトレーニング滑走を行うことが必須である。

5607.1 ビブを着用していない競技者は、公式トレーニングに参加することはできない。

5608 競技会フェーズ

5608.1 フェーズの説明

タイム計測予選	1 本もしくは複数本
タイム計測シーディング	1 本もしくは複数本
３ヒート制の予選	X 回のヒートを３ラウンド
ラウンドロビン	４ヒートを５ラウンド／計２０ヒート
ホリスティックフォーマット 予選ヒートラウンド	X 回のヒートを１ラウンド
ホリスティックフォーマット 4/8/16/32/64/128	X 回のヒートを１～６ラウンド
KO ラウンド／フォーマット 4/8/16/32/64/128	シーディング、予選、もしくはラウンドロビン後に、X 回のヒートを１－１６ラウンド

5608.2 シングルタイムトライアルのスタートゲート位置の決定

使用するスタートゲートの選択はジュリーによって決められる。

5608.3 競技会、もしくはトレーニングの中断

もしフェーズが中断され同日に終了できない場合、そのフェーズは終了よ【と】して扱われる。

5609 スタートストップ

スタートストップは、競技フィールドに入場できる全ての競技者と役員の安全を確保するために設けられている。この手順は全ての関係者に理解され、遵守されなければならない。

スタートストップ：スタートストップはコースメンテナンス、天候（霧、強風など）、コース上に装備（競技者の用具、フェンス、道具など）が落ちているという理由から発生する。

「スタートストップ」の号令：「スタートストップ！」が発令された時、スタートレフリーはスタートを閉鎖しなければならない。彼は無線での連絡を受けた際に、直ちに、スタートを閉鎖する／スタートした最後の競技者の番号を伝える／ヒートのスタートしている競技者の番号を伝える／ヒートのスタートを中断する、などの対応を行なわなければならない。（「スタートストップ了解、ナンバー23 番／ヒート滑走中、ナンバー24 番／スタート待機中」）

イエローフラッグ：コース上の競技者の即時停止には、イエローフラッグが使用されなければならない。5609.1 を参照。

5609.1　イエローフラッグ

イエローフラッグはコース上でセクションジャッジにより彼らのセクションにて選手を即時停止させるために使用される。

イエローフラッグはコース上でセクションジャッジにより彼らのセクションにて選手を即時停止させるために使用される。（例：スタートストップイエローフラッグセクション４。セクション４はイエローフラッグを使用し、セクション３、２、１も同様に使用する。セクション５、６、それ以降のフィニッシュエリアまでのセクションは選手の滑走を止めない。）

5609.1.1　インスペクション

ジュリーは、トレーニングとレースの際に後続の競技者に警報を伝えるためのイエローフラッグの位置を定める。
イエローフラッグは初回のインスペクションまでに競技者に認識される場所に配置しなければならない。

5609.1.2　トレーニング

競技者、もしくはヒートがトレーニング中にイエローフラッグにより止められた時、競技者、もしくはヒートは停止した場所から再スタートする権利がある。

5609.1.3　予選

競技者、もしくはヒート内の全員（4／６名の選手全員）が予選中に止められた場合、対象の競技者、もしくはヒートには再走の権利がある。ジュリーは競技者の再走が競技会の最終走者の前に行われる、もしくはヒートの場合は次のヒートが開始される前に行われるように確保する必要がある（ワールドカップとメジャーイベントなど）。下位レベルのイヴェントの場合、次のフェーズが始まる前に行う。

5609.1.4　決勝

ヒート内の全員（4／６名の選手全員）が競技中に止められた場合、対象の競技者には再走の権利がある。
ジュリーは、ヒートの再走が次のヒートが開始される前に行われるように確保する必要がある（ワールドカップとメジャーイベントなど）。下位レベルのイヴェントの場合、次のフェーズが始まる前に行う。

5609.1.5　義務

競技者はイエローフラッグが振られた際、直ちに停止しなければならない。

5609.1　イエローフラッグ

5610　スタート手順と合図

スタートする競技者に有利になったり、邪魔をする可能性がある役員もしくは競技者の付き添いは、スタートする競技者の背後にいることはできない。スタートする競技者に対するすべての外部の手助けは禁止されている。スターターの指示により、競技者はスタートデバイスのゲート内に入る必要がある。スターターは、スタート時に競技者に触れてはならない。スタートデバイスの解放は許可されている。

5610.1　タイム計測滑走

予選のスタートは、スタートデバイスのゲートが開いている、もしくは閉じているどちらの状態からでも行うことができる。ゲート解放状態を使用する場合、ビームライトによって、もしくはアルペンのスタートシステムを使用してタイム計測を開始できる。あるいは、KO ファイナルのようにゲートを閉じた状態からリアクションスタートでスタートを行うこともできる。

5610.1.1　スタートシグナルと合図

スタートする競技者に有利になったり、邪魔をする可能性がある役員もしくは競技者の付き添いは、スタートする競技者の背後にいることはできない。スターターは、スタート時に競技者に触れてはならない。

スタート 10 秒前に、スターターは各競技者に「10 秒前」を伝える。スタート 5 秒前からスターターは「５、４、３、２、１」とカウントを行い、それから「Go」の合図を行う。

5610.1.2　スタート間隔

5610.1.2.1　通常のスタート間隔

競技者は通常 20～60 秒のスタート感覚でスタートする。ジュリーによってスタート間隔は決められる。

5610.1.2. 2　特別なスタート間隔

テレビ送信放送の要件を満たす必要がある場合、ジュリーはスタート間隔の延長要求を許可するか検討する場合がある。

5610.3　ヒート

5610.3.1　決勝のスタートレーンの選択とカラージャージの割り当て

5610.3.1.1　ヒートのカラージャージの割り当て、5205 を参照。

5610.3.1.2　スタートレーンの選択

スタートレーンの選択は、各ヒートにおいて予選／シーディングの順位（タイム）に基づいて決められる。上位の競技者からスタートレーンを選択し、下位の選手は空いているスタートレーンから選択していく。

5610.3.2　スタート合図と号令

”We are ready for the next Heat, proceed to the Start Gate“

“Enter the Start Gate“ (スタート合図のおよそ 30 秒前)

“Skier/Rider Ready!”, そして “Attention!” の後スターターは 1 秒―4 秒の間でランダムなタイミングでスタートゲートを開放する（もしくは電子制御の解放装置を使用する場合、スターターはランダムスタートシークエンスを起動する。

決勝でのスタート合図が行われている場合、コーチングは許可されない。（コーチはスタートデバイスの操作はできない、コースからの無線情報など行ってはならない。）

5610.4　スタートの遅刻

競技者にはスタートゲートに定刻で到着する義務がある。

スタートに間に合わない／遅刻した場合は、DNS となる。（Did Not Star

5610.4.1　不可抗力
遅延が「不可抗力」によるものの場合、ジュリーは遅延を許すことができる。競技者の個人競技用具の故障、または競技者の軽度の怪我／病気は、「不可抗力」を構成するものではない。

5610.4.2　タイム計測予選におけるスタートオーダー
スタートが遅延したところで、競技者がスタート準備ができている場合、スターターは第 1 走者をスタートさせて良いかジュリー、レフリー、フィニッシュ役員、タイム計測責任者、アナウンサー、およびスコアリング責任者に確認して、スタートを開始する。

5610.5　スタートの失敗

5610.5.1　スタートゲートのスタート不良もしくは誤作動
次の内容は失格／制裁対象です。
- 競技者がスタートデバイスを操作した場合
- 競技者のボード／スキーがスタートライン（垂直面）をスタート合図（スタートゲートが開く）前に通過した場合
- スタートゲートがスタート合図前に技術的な不具合で明らかにブロックされた場合、スタートを再度やり直す必要がある。
- スタートゲートが技術的な不具合でスターターではなく競技者によって開放された場合、スタートは再度やり直す必要がある。
- スタートゲートがすべての競技者に対して公平に開放されなかった場合、再滑走を行うができる。

5610.5.2　有効なスタートと誤ったスタート
スタート間隔が定められている競技会では、競技者はスタートシグナルでスタートしなければならない。スタートのタイミングは、公式なスタート時間から 5 秒前から 5 秒後の間にスタートしなければならない。その時間内にスタートしない競技者は制裁される。
スタートレフリーは誤ったスタートを行った、もしくはスタートのルールに違反した競技者のスタート番号と名前をジュリーに報告しなければならない。

5610.5.3　ヒートフェーズにて、スタート合図が完了する前に競技者がコースに入った場合、RAL が課せられる

5611　特別な手順

5611.1　ルーズスキーもしくはスノーボード
スタートしてコース内で片足、もしくは両足のスキーが外れてしまった場合、もしくはスノーボードで片足が外れてしまった場合、競技者は停止しなければならず、それ以上滑走を続けることはできない。そして、競技者はコースから退出する必要があり、その滑走は Did Not Finish（DNF）と裁定を受ける。

5611.2　片足スキー、ノースキー、片足ビンディング（スノーボード）による滑走継続
片足スキー、ノーススキー、片足ビンディング（スノーボード）にて滑走継続可能な場所は、コースのフィニッシュに近いトラックで、またコース状況によるがそれぞれのトラック内のユニークなフィーチャーの特性を考慮して定めな

ければならない。そこは、フィニッシュエリアにつながる最終フィーチャーまたはジャンプの位置、および、その地点以降で用具を失った場合でも安全にコースを完走することが可能かによって判断する。
この定義された場所の後で競技者が片足スキー、両足スキー、スノーボードを失ったとしても、彼らはそのままフィニッシュラインを通過して完走することができる。所定の場所はジュリーによって予選またはシーディングラウンドの前に定められ、チームキャプテンミーティングにてチームに通知される。

5612 抗議（プロテスト）、再レース（リラン）

一般セクションルール 2027 を参照

5612.1 再レース

意図的な接触の場合、クロスでは再レースは行われない。

再レースは、不可抗力の場合、もしくは競技者がヒートの関係者以外の人もしくは状況に妨害された場合のみ、ジュリーによって判断される。再レースは、妨害を受けた競技者が勝ち上がる可能性がある場合、検討することができる。
再レースする人数は、妨害が発生した競技状況により異なるが、例えば明確にヒートを序盤から最後までリードした２名の競技者がいた場合、それら２名はヒートを再レースする必要はない。
競技者が干渉によってゲートを不通過したが、その結果が明らかに有利とならない場合、その行為は「DNF」と見なされない場合がある。

5612.1.1 電子タイム計測の失敗

タイム計測システムに障害が発生した場合、再レースは認められる。

5612.2 抗議

競技者が 5404.1 意図的な接触のルールに違反していると判断されている時、抗議を行うことはできない。

5612.2.1 抗議の報告

失格／制裁は、各ヒートの直後にコースの下部および／もしくは上部の指定エリアにて発表および／または掲示される。
すべての抗議は、次のヒートが始まる前に、レフリーおよび／または、別のジュリーメンバー、またはジュリーに指名された人（チームキャプテンミーティングにて発表される）に報告しなければならない。この時間以降に行った抗議は認められない。競技者は、他の競技者によって妨害されたと思われる場合に、抗議の権利を得るために滑走をやめる、または／もしくは手を上げる必要はない。抗議は書面で行う必要はないが、その他の抗議に関する ICR ルールは適用される。抗議料は競技終了時に、またはその前に支払わなければならない。

5613 表彰

2021 を参照

5700 リザルトとスタートリスト

5701 リザルトとスタートリストの情報

詳細は「Timing and Data Booklet」を参照

5701.1　公式スタートリストと公式リザルトには以下の情報を掲載すること：

競技会の情報：

- FIS コーデックス
- 日付
- 競技会の名称
- 国名を含む競技会場名
- 競技会スポンサーの名称
- 技術代表とリザルト責任者の署名
- FIS もしくは競技会シリーズのロゴ
- 種目
- イベント
- 性別
- リザルトの種類（スタートリスト、ブラケット、フェーズリザルト、決勝リザルトなど）

コースデータ：

- コースの名称
- コース全距離
- スタート地点標高
- フィニッシュ地点標高
- 標高差
- エレメントの数

ジュリーと役員：

以下の役員は氏名と国籍を含めて記載する必要がある。ジュリーは個別に定義される。

ジュリー：
- 競技委員長
- FIS 技術代表
- レフリー
- レースディレクター（存在する場合）

大会役員：
- スタートレフリー
- フィニッシュレフリー
- コース係長
- コースビルダー
- コースアドバイザー（存在する場合）
- 技術アドバイザー（存在する場合）
- コースデザイナー（存在する場合）
- ビデオコントローラー（存在する場合）

天候：
- コンディション（晴れ／曇り／霧／雪／雨など）
- 気温
- 雪温

– 雪質

競技者情報：
– ビブナンバー
– FIS コード
– 苗字
– 名前
– 国名
– 生まれ年（YB）

5701.2 公式スタートリストは以下の追加情報を掲載する：
– フェーズとラウンドの名称
– 開始時刻
– 競技者とスタート順のリスト
– シーディングクリテリア：競技者の FIS ポイント、WC ポイント、WCSL

5701.3 予選リザルトは以下の追加情報を掲載する：
– 開始時刻
– 順位
– 5101.1 に記載されている競技者情報
– 予選時刻
– 無効な結果記号（IRM）
– 前走者の氏名と国名

5701.4 決勝リザルトは以下の追加情報を掲載すること：
– 決勝開始時刻
– 最終順位
– 5101.1 に記載されている競技者情報
– 進行報告:
– ラウンドの着順
– ラウンドのヒートカラー
– FIS ポイント
– 無効な結果記号（IRM）
– ジュリーの決定
– 前走者の氏名と国名

5702 最終リザルト

5702.1 4 人制／6 人制フォーマット
最終リザルトにて 1 位から 4 位（6 人制フォーマットでは 1 位から 6 位）までの競技者の順位は、ビッグファイナルの着順によって決まる。5 位から 8 位（6 人制フォーマットでは 7 位から 12 位）の競技者の順位は、スモールファイナルの着順によって決まる。以降の競技者の順位は、各ヒートで着順とラウンドの同じ着順のグループ内の予選／シーディングの順位に基づいて決まる。

5702.2 ラウンドロビン
ラウンドロビングループヒートの結果は、予選結果となる。

5702.3 DNS の最終順位

競技者が競技会の初回フェーズで未出走の場合、競技者は最終リザルトに DNS と表示され、順位は付かない。

競技会の初回フェーズの後、いずれかの決勝ラウンドにて未出走（DNS）になった競技者は、その決勝ラウンドの最下位の順位となる。同じラウンドで不出走（DNS）になったすべての競技者は同じグループとなり、タイブレイクルールに則って順位付けされる。

5702.5 RAL の最終順位

決勝のいずれかのラウンドで最終順位（RAL）を受けた競技者は、すべての DNS となった競技者の上位で、その決勝ラウンドの最下位となる。最終順位（RAL）になったすべての競技者は同じグループとなりタイブレイクルールに則って順位付けされる。5407.4.2 を参照

5702.6 DNF の最終順位

競技者でタイム計測の予選でスタートしたが、完走しなかった、もしくは正しくコースを完走しなかった場合、競技者はそれらの滑走で DNF となり、最終リザルトに DNF と表示され、また順位は付かない。
競技者がヒートにて DNF となった場合、5407.4.1 完走しなかった競技者の順位付けに則ってヒートの順位付けされ、その着順に従って最終順位を決める。
DNF に関するすべての決定は、ジュリーの責任となる。

DNF は以下の内容に課せられる：
- スキーで／ボードで旗門のラインを通過しない、もしくはフィニッシュゲートを通過しないことを含む、競技コースから外れる滑走をした場合。（旗門不通過 4.1 と 4.2 を参照）
- いずれかのスキーが外れる、もしくはいずれかの足がボードから外れた場合、もしくは 10 秒以上滑走が止まった場合

5703 未完了な競技会のリザルト

5703.1 競技会の中断

競技会の中断があった場合、状況が改善すれば競技会を再開すべきである。同日に競技会を完了できた場合、中断前に完了していた結果は有効なまま使用できる。それ以外の場合、予選、もしくはいくつかのフェーズ、または決勝ラウンドが完全に完了している場合を除き、中断前の結果は無効になる。未完了な決勝フェーズもしくはラウンドは延期できるが、その場合は同じ競技会場で競技を完了しなければならない。決勝戦が完全に完了できない場合、予選の結果または決勝のことなるラウンドの順位が有効となる。

5800 チームイベント（BXT／SXT）とミックスチームイベント

5801 実行

同じ国チームの２名の競技者によってチームが編成される。
各国チームは性別ごとに２名の競技者（女性／女性：男性／男性）、もしくは男女混合チーム（女性／男性）で構成される。
予選、もしくはシーディングの手順は決勝（競技会の決勝フェーズ）の決定に使用される。

決勝フェーズは４つの国代表ペアの競技者チームのヒートを、ノックアウト（K.O.）方式で行う。
チームの第一走者がフィニッシュすると、第二走者は第一走者がフィニッシュラインを通過した際に生じるトップとの時間差に応じてスタートする。
最大の「ペナルティタイム」は、第一走者がコースを完走しなかった場合（DNF）、もしくはトップとのタイム差が参考タイムの 5%以上であった場合に適用される。
各チームの第二走者（セカンドファイト）で先にフィニッシュラインを通過した上位２名のチームが決勝の次のフェーズに進む。

5801.1　決勝の組立

5801.1.1　決勝への参加資格（予選フォーマット）

5801.1.1.1　滑走数
各国チームの出走競技者両名は、１本タイム計測滑走を行う。

5801.1.1.2　チームイベント予選のシーディングリスト（ドローリスト）
ワールドカップ、世界選手権大会、世界ジュニア選手権大会、そして冬季オリンピック競技大会では、WC、WSCL（SX）、そして FIS ポイントの最も優れたランキングを使用して、チームごと２名の競技者をランキングに従って選定する。もし競技者同士がランキングの合計で同点であった場合、２番目に良いランキングリストの合計が使用される。もし３つ目のランキングリストを使用してもなお同点であった場合、その順番はドローによって決定する。

5801.1.1.3　予選滑走のスタート順
チームはシーディングリストのスタート順に従ってスタートする。
１番のチームのペア２名の競技者がスタートした後、次のチームの競技者がスタートする。ミックスチームイベントの場合、各国チームの男性競技者が女性競技者より先に出走する。

5801.1.1.4　予選滑走後の順位とリザルト
全ての完走したチームは、チームの競技者両名の合計タイムによってチームタイムが計算され、順位付けされる。

5801.1.1.5　同着：
もし２チーム、もしくはそれ以上のチームのチームタイムが同タイムであった場合、出走順が遅かったチームが上位となる。

5801.1.1.6　予選滑走での DNF
もしチームの片方の競技者が DNF の場合、そのチームはペア２名共に完走したチームの下位になる。
もしチームの両名の競技者が DNF の場合、そのチームは DNF となり、KO 方式の決勝フェーズに進むことはできない。

5801.1.1.7　予選滑走での DNS
もしチームの１名、もしくはペア両名の競技者が DNS の場合、そのチームは DNS となり、KO 方式の決勝フェーズに進むことはできない。

5801.1.2　クロス競技会の結果によるシーディング？同コース（個別リザルトシーディングフォーマット）

もし SX／SBX の競技会が SXT／BXT 競技会と同じコースで行われる場合、その競技会の結果をチームイベントのシーディングに使用できる。出場チームはチームの２名の競技者の順位に基づいて決められる。

5801.1.2.1　同点

２チーム、もしくはそれ以上のチームの合計順位が同順位の場合、より上位の個人ランキングの競技者の属するチームが上位となる。
例：
Team 1 = Ranks 1 + 9 (sum = 10)
Team 2 = Ranks 3 + 7 (sum = 10)
Team 3 = Ranks 4 + 6 (sum = 10)
Team 1 が最高のランキングを有しているので上位となる。
Team 2 が２番目のランキングを有するため、次の順位となる…

それでも同点の場合、シーディングの順位の上位チームが優位となる。

5801.1.3　シーディングフォーマット（ランキングリストによるシーディング）

5801.1.3.1　チームシーディングリスト

現状のランキングリスト（WC、FIS ポイント、WCSL（SX））により、全ての表記されている競技者はシーディングランク（5604.3 参照）を取得する。そして、全ての競技者は、国別、そしてシーディングランクの昇順でグループ化される。このチームチーディングリストは、ビブの選択と決定の基準となる。チームシーディングリストが作成された後、出場する全ての国別チームはチームシーディングリストに従って、ドローミーティング（TCM）にてチームエントリーを行う。エントリーされた各チームのビブは、チームシーディングリストに従って昇順で配布される。

5801.1.3.2　SX/ SBX チーム

出場枠が制限されている場合（WC/WSC フォーマット、女性８名と男性 16 名）、チームシーディングリストの上位女性４名／男性８名のチームは、他の全てのチームが参加する前に２番目のチームをエントリーする権利がある。そのため上位女性４名／男性８名の競技者を有する各国チームは、リストから上位２チームを選択してエントリーを行える。その後全てのエントリーできる各国チームが上位１チームをエントリーする。そして、リストの上位から順に次のチームの選定を行っていき、チーム数がある場合は女性８チーム、男性１６チームに達するまで行う。

冬季オリンピック競技会では特別な OWG クォータ規則に従い、の別のルールが適用される場合がある。

5801.1.3.3　ミックスチーム SX/SBX

出場枠が制限されている場合（WC/WSC フォーマット、８名、12 名、もしくは 16 名のミックスチーム）、チームシーディングリストの上位４名、６名、もしくは８名のチームは、他の全てのチームが参加する前に２番目のチームをエントリーする権利がある。そのため上位４名、６名、もしくは８名の競技者を有する各国チームは、リストから上位 2 チームを選択してエントリーを行える。その後全てのエントリーできる各国チームが上位１チームをエントリーする。そして、リストの上位から順に次のチームの選定を行っていき、チーム数がある場合は８チーム、１２チーム、もしくは１６チームに達するまで行う。

冬季オリンピック競技会では特別な OWG クォータ規則に従い、の別のルールが適用される場合がある。

5801.2　チームイベント（SXT／BXT）の決勝ノックアウト（K.O.）フェーズの実行と順位

5801.2.1　KO フェーズの競技者数
決勝は 16 もしくは８チームが４チームごとのヒートで行われる。

5801.2.2　決勝フェーズのビブ
決勝のビブナンバーは、フォーマットに応じて、予選滑走、シーディングラン、もしくはシーディングの基準により区分された後のチームの順位である。ビブは、同じチームの第一走者と第二走者が識別できるように別のビブを着用する。

5801.2.3　チームの割り当て
チームイベントの前の最後のチームキャプテンズミーティングにて、チームキャプテンは各国チームの代表の競技者を割り当てる必要がある。

5801.2.4　スタート順
ミックスチームイベントの場合、各国チームの男性が先にスタートする。

5801.2.5　決勝のカラージャージの割り当て
5205 のルールに従う

5801.2.6　ヒートのペアリング
5502.1 で示されているとおり、全ての予選通過、もしくはシーディングされたチームは、5801.1.1/ 5801.1.3 で示されている彼らの予選、もしきはシーディングの順位によって決められる。

5801.2.7　スタートレーンの選択
チームの第一走者は、彼らの予選、もしくはシーディングの順位に従ってスタートレーンの選択をする。チームの第二走者は必ず第一走者と同じレーンからスタートしなければならない。

5801.2.8　チームイベント（SXT／BXT）のノックアウト（K.O.）フォーマット
各ヒート上位２チーム（４チームヒートの場合）は、次のラウンドに進出できる。

5801.3　時間差の順位と作成

5801.3.1　第一走者の順位と時間差
各チームの第一走者の順位はフィニッシュラインに定められる。
スキー（SXT）：各ヒートの順位は、体の一部がフィニッシュラインと交差した際に決まる。
スノーボード（BXT）：各ヒートの順位は、体の一部、もしくはボードの一部がフィニッシュラインと交差した際に決まる。

5801.3.2　第一走者の DNF
もしチームの第一走者が DNF となった場合、チームの第二走者は「ペナルティーダイム」の時間差でスタートする。

5801.3.3　第一走者の RAL と DNS
もしチームの第一走者が RAL、もしきは DNS となった場合、チームの第二走者のスタートは許可されない。

5801.3.4　タイム差の計測
チームの第一走者の公式なタイム差は、フィニッシュラインのフィニッシュラインカメラ、および／もしくは電子式タイム計測装置によって計測される。

5801.3.5　ペナルティータイム
最初の競技者がフィニッシュラインを通過してから同じヒート内の残りの競技者達との最大のタイム差はペナルティータイムと呼ばれ、制限される。ペナルティータイムは基準タイム（5801.3.5.1）の 5%である。ジュリーは、特別な状況に応じて、興味深いレースにするために、ペナルティータイムを 3%から 7%の範囲で変更することを決定しても良い。ペナルティータイムの調整は、完了したフェーズ後にのみ行うことができ、次のフェーズが開始される前にチームに通知されなければならない。もし予選滑走が行われず、シングル SX／SBX 競技会のタイムが使用される場合、この予選、もしくはシーディングランのタイムがペナルティータイムの計算ベースになる。もしシングル SX／SBX 競技会がホリスティックフォーマットで行われていた場合、SXT／BXT レース前の最後に行われたトレーニングのタイムをベースに計算される。

ペナルティータイムの適応例

例 1：基準タイム＝100 秒　→ ペナルティータイム＝5 秒

第一走者の着順	第一走者のトップとのフィニッシュ時の時間差	第二走者のスタート装置の開放の時間差
1 位	0.00 秒	0.00 秒
2 位	1.31 秒	1.31 秒
3 位	1.90 秒	1.90 秒
4 位	4.44 秒	4.44 秒

例 2：基準タイム＝100 秒　→ ペナルティータイム＝5 秒

第一走者の着順	第一走者のトップとのフィニッシュ時の時間差	第二走者のスタート装置の開放の時間差
1 位	0.00 秒	0.00 秒
2 位	1.31 秒	1.31 秒
3 位	1.90 秒	1.90 秒
4 位	20.93 秒	5.00 秒（5%）

例 3：基準タイム＝100 秒　→ ペナルティータイム＝5 秒

第一走者の着順	第一走者のトップとのフィニッシュ時の時間差	第二走者のスタート装置の開放の時間差
1 位	0.00 秒	0.00 秒
2 位	DNF	5.00 秒（5%）
3 位	DNF	5.00 秒（5%）
4 位	RAL 又は DSQ 又は DNS	NPS（Not permitted to start）

5801.3.5.1　基準タイム
基準タイムは次のように構成される：

5801.3.5.1.1　チームイベントの予選タイム
予選が行われた場合、基準タイムは、予選タイムの最も速い女性と最も速い男性のタイムの合計である。

5801.3.5.1.2　同じコースで行われたクロス競技会の予選タイム
チームイベントが開催される同一コースにて SX／SBX の競技会が開催される場合、その競技会の予選タイムを使用することができる。基準タイムは、予選タイムの最も速い女性と最も速い男性のタイムの合計である。

5801.3.5.1.3　予選タイム計測無し（チームイベントではなく、個人競技会の際）
チームイベントで予選が行われない、チームイベントが開催される前に同一コースにて個人競技会が開催されない、もしくは個人競技会がホリスティックヒートフォーマットで行われた場合、参考タイムはチームイベント競技会の最後の TCM 前に行われた最後のトレーニングのタイムを使用する。基準タイムは、トレーニング時のタイムの最も速い女性と最も速い男性のタイムの合計である。

もし適切なタイム計測機器がトレーニングで使用できない場合、コース全長と勾配によって推定の滑走タイムを計算され、ジュリーにより承認される。（例外的な場合）

5801.4　第二走者のスタートと順位

5801.4.1　第二走者のスタートデバイスの開放
１着のチームの第二走者のスタートデバイスが、第二走者への「スキーヤーズ／ライダーズレディ！」、「アテンション！」の号令がされた後に、最初に解放される。スタート時に追加のコントロールデバイスを使用すると、スタートレフリーとスターターは第一走者のフィニッシュ順位に従って正しいスタート順を確認／制御できる。
他の第二走者のスタートデバイス開放のタイム差は、第一走者の着順とトップとのフィニッシュライ通過時のタイム差によって定められる。

5801.4.2　第二走者滑走後の各チームヒートの順位
各ヒートの順位は、競技者の身体の一部（もしくは SBX ではボードの一部）がフィニッシュラインを通過した順番で定められる。

5801.4.3　第二走者が不完走の場合の順位
一般的な個人戦のクロスルールが適用される（5407 参照）

5801.4.4　セミファイナルまでのヒートでの同着
第二走者の順位が判定できない場合、順位は予選、もしくはシーディングのランキングによって決められる。より上位のランキングであったチームが同着時に上位となる。

5801.4.5　セミファイナル、ビッグファイナルでの同着
セミファイナル、もしくはビッグファイナルにて同着の場合、チームは同着として同じ順位となる。

5801.5　チームイベント（SXT／BXT）における制裁と「未出走」

5801.5.1　決勝フェーズにおけるチーム競技者の未出走
一般的な個人戦のクロスルールが適用される（5407.4 参照）

5801.5.2　決勝フェーズにおける最下位指定（RAL）
一般的な個人戦のクロスルールが適用される（5407.4 参照）

5801.5.3　意図的な接触による失格（DSQ）
チームの競技者の一人がルール 5404 の違反に基づいて失格になった場合、そのチームはその競技会での順位は付けられず、最終ランキングで DSQ として記載される。

5801.5.4　制裁の効果
制裁、もしくは懲罰の執行は、チームではなく対象の競技者に個人的に下される。
イベントでの直接的な影響はチームにも効力があるが（チームは DSQ、RAL となる）、次戦の競技会への影響は対象の競技者にのみ効力があり（NPS：出場停止）、ペアを組んだチームメンバーは他の競技者とチームを組んで出場できる。
もし競技者に RAL（イエローカード）が与えられた場合、その効力はチームに反映され、チームは最下位指定（RAL）となり、その競技会の以降のラウンドへの出走は許されない。イエローカード（RAL）が与えられた競技者は残りのシーズン中も残る。
もし競技者に「口頭での警告」（WRG）が与えられた場合、その警告はチームに影響しない。２回の警告が同じ競技会にて同じ競技者に与えられた場合、それは RAL となりチームに反映される。

5801.6　最終順位
一般的な個人戦のクロスルールが適用される（5702 参照）

5801.7　スノーボードクロスチームの決勝の DNS、RAL、DNF
一般的な個人戦のクロスルールが適用される（5702 参照）

※資格要件：各イベントのレベルに応じて出場に必要な SX／SBX の最小 FIS ポイントを定める（例：SBX WC の出場には 50FIS ポイント以上必要）。また、全ての競技者は個々の競技会の出場にあたり、通常の国別出場枠の一部としてエントリーされる必要がある。

5900　競技用具

5901　スノーボード

5901.1　競技用ウェア

競技用具仕様参照―クロスカントリー、スキージャンピング、ノルディックコンバインド、スノーボード、フリースタイル、フリースキー、セクション F(3)

5901.2　ヘルメット

競技用具仕様参照―クロスカントリー、スキージャンピング、ノルディックコンバインド、スノーボード、フリースタイル、フリースキー、セクション F(4)

5901.3 ボード
競技用具仕様参照―クロスカントリー、スキージャンピング、ノルディックコンバインド、スノーボード、フリースタイル、フリースキー、セクション F(1)

5901.4 バインディング、プレートおよびつなぐ器具
競技用具仕様参照―クロスカントリー、スキージャンピング、ノルディックコンバインド、スノーボード、フリースタイル、フリースキー、セクション F(2)

5902 スキー

5902.1 競技用ウェア

5902.1.1 スキースーツ
競技用具仕様参照―クロスカントリー、スキージャンピング、ノルディックコンバインド、スノーボード、フリースタイル、フリースキー、セクション E(6.1)

5902.1.2 プロテクター／保護用具
競技用具仕様参照―クロスカントリー、スキージャンピング、ノルディックコンバインド、スノーボード、フリースタイル、フリースキー、セクション E(9)

5902.1.3 スーツ計測
競技用具仕様参照―クロスカントリー、スキージャンピング、ノルディックコンバインド、スノーボード、フリースタイル、フリースキー、セクション E(6.1)

5902.2 ヘルメット
競技用具仕様参照―クロスカントリー、スキージャンピング、ノルディックコンバインド、スノーボード、フリースタイル、フリースキー、セクション E(7.1)

5902.3 スキー用具

5902.3.1 スキーセットの本数
競技用具仕様参照―クロスカントリー、スキージャンピング、ノルディックコンバインド、スノーボード、フリースタイル、フリースキー、セクション E(2.4)

6000 アルペンスノーボードイベント

6100 競技フィールド（全般的な定義）

競技コースの技術的部分：
スタートとフィニッシュの設置、テレビ撮影台、計測機器、スポンサー広告備品などは、競技会に必要なアイテムである。

6101 コース公認

すべての FIS アルペンスノーボード競技会は、公認コースで行わなければならない。特別な場合、技術データと必要要件の例外と逸脱は、FIS または競技ジュリーによる承認が可能である。

6102 コース仕様一覧

6102.1 クラシックシングルイベントのコース仕様

コード	スラロームとジャイアントスラロームの基準	寸法
CL(m)	コース長（VD に比例）	
	SL スラローム	400m～600m
	GS ジャイアントスラローム	600m～1200m
VD(m)	標高差（CL に比例）	
	SL スラローム	120m～180m
	GS ジャイアントスラローム	200m～400m
CA(°)	コース斜度（平均）	16°(±2°)
CL と VD は互いに比例する必要がある 例：長いコース／高 VD、短いコース／低 VD		
SW(m)	スロープ幅	
	SL スラローム	最小 30m
	GS ジャイアントスラローム	最小 40m
	プロジャンプは可能	
	シティおよびランプ競技では例外が可能	
	スタート基準	
SA(m)	スタートエリア	長さ 10m
		幅 30m
SP(m)	スタートプラットホーム	長さ最小 6m
	幅：スタートゲートによる	幅 8m(±4m)
	スピードを得るための傾斜	
	コースセット	
GD	旗門間の距離	
	GS ジャイアントスラローム	20m～27m
	SL スラローム	10m～14m
	フィニッシュ基準	
FL(m)	フィニッシュライン（コースごとの幅）	最小 10m
FA(m)	フィニッシュエリアの長さ	
	SL スラローム	40m

	GS ジャイアントスラローム	60m
FW(m)	フィニッシュエリアの幅	最小 30m
	競技会レベル	
レベル A	OWG、WSC、WJC、WC、YOG	
レベル B	COC、UVS	
レベル C	NC、FIS、EYOF、JUN	

6102.2 パラレルイベントのコース仕様

コード	パラレルイベントの基準	**寸法**
CL(m)	コース長（VD に比例）	
	PGS パラレルジャイアントスラローム	400m～700m
	PSL パラレルスラローム	250m～450m
VD(m)	標高差（CL に比例）	
	PGS パラレルジャイアントスラローム	120m～200m
	PSL パラレルスラローム	80m～120m
CA(°)	コース斜度（平均）	16°(±2°)
CL と VD は互いに比例する必要がある 例：長いコース／高 VD、短いコース／低 VD		
SW(m)	スロープ幅	
	PGS パラレルジャイアントスラローム	最小 40m
	PSL パラレルスラローム	最小 30m
	プロジャンプは可能	
	シティおよびランプ競技では例外が可能	
	スタート基準	
SA(m)	スタートエリア	長さ 10m
		幅 30m
SP(m)	スタートプラットホーム	長さ最小 6m
	幅：スタートゲートによる	幅 12m(±4m)
	スピードを得るための傾斜	
SD(m)	スタートゲート間の距離	最小 6m
	推奨：コースセットの幅	
	コースセット	
CD	コース間の距離	
	PGS パラレルジャイアントスラローム	9m～12m
	PSL パラレルスラローム	8m～10m
GD	旗門間の距離	
	PGS パラレルジャイアントスラローム	20m～27m
	PSL パラレルスラローム	10m～14m
	フィニッシュ基準	
FL(m)	フィニッシュライン（コースごとの幅）	最小 8m
FA(m)	フィニッシュエリアの長さ	60m
FW(m)	フィニッシュエリアの幅	最小 30m
レベル A	OWG、WSC、WJC、WC、YOG	
レベル B	COC、UVS	
レベル C	NC、FIS、EYOF、JUN	

6103 スタート

6103.1　スタートエリア

スタートエリアは、スタートする競技者、同伴する 1 名までのトレーナーとスタート役員以外に対し閉鎖されなければならない。スタートエリアは悪天候から適切に保護されなければならない。トレーナー、チームキャプテン、サービスマンなどのために、一般に妨げられることなくスタートを待つ競技者の面倒が見られるような、特別にロープで仕切られたエリアが提供されなければならない。スタートの呼び出しを待っている競技者のために、適切な待機場所が用意される必要がある。

6103.2　ライダーズエリア

トレーナー、競技者、サービスマンのための待機場所をフェンスで囲むことが奨励される。

6103.3　スタートプラットホーム（スタートランプ）

スタートランプは競技者がスタートラインでリラックスして立ち、スタート後直ちにフルスピードに達することができるようにつくられなければならない。スタートバーまたはスタート装置はスタート設備に設置される。仕様は特定のイベントの必要性に応じ調整される。

6104　コース

6104.1　コースの準備

競技は十分に整備された雪面でレースされなければならない。競技中に降雪があった場合、コース係長はそれが圧雪されているかどうかを確認するか、可能であればコースから除雪する必要がある。

コースは少なくとも競技会の 20 時間前に一般から隔離されていなければならない。コースは片側からもう片方の側まで、可能な限りフラットである必要がある。雪は固い競技斜面を提供するために圧雪されていなくてはならない。人工的な整備手段が認められている（塩、水など）。危険個所には、組織委員会はコース公認報告書で規定された通り、またはジュリーの要求に従って、安全設備（マット、パッド、ネットなど）を設置する必要がある。

両方のコースで同等の競技条件を提供できるように、選択された斜面の全幅に渡って、雪質は常に固くなければならない。

6104.2　クラシックシングルイベント

6104.2.1　スラロームの特徴

理想的なスラロームコースは、標高差と斜度を考慮し、競技者が最大限のスピードを巧妙かつ正確なターンで組み合わせることができるように設計された連続ターンが盛り込まれなければならない。グーフィーまたはレギュラーのいずれかの競技者に有利にはならないように、コースは対称的にすべきである。
スラロームは、すべてのターンを迅速に完結させる必要がある。コースは通常のテクニックと相いれないアクロバティックなものを要求すべきでない。コースは地形に適した技術的に巧妙なターン構成であり、単独または複数の旗門でつなげられ、滑らかな滑走が可能でありながら、異なる弧の方向転換を含む、スノーボードの様々なテクニックを試すものであること。旗門はフォールラインに沿ってのみセットされるだけではなく、トラバースを散在させた深いターンが必要とされる。

6104.2.2　一般的なジャイアントスラロームの特徴
地形はうねりと起伏のあるものが望ましい。コースの幅は少なくとも 40m ないとならない。
コース公認を担当するインスペクターは、この最小幅が適切かどうかを判断し、必要に応じて拡幅するように命じることができる。インスペクターまたは TD が判断した例外的な場合は、コース幅は 40m 未満であってもよい。

6104.2.3　スラロームの旗門数
スラロームの推奨旗門数
最小：35 旗門
最大：55 旗門

6104.2.4　ジャイアントスラロームの旗門数
ジャイアントスラロームの推奨旗門数
最小：25 旗門
最大：50 旗門

6104.2.5　スラロームとジャイアントスラロームの旗門間距離
旗間の距離は：
SL で 10～14m（推奨値 11～13m）、
GS で 20～27m（推奨値 22～24m）である。

6104.3　パラレルイベント
パラレルは、2 名の競技者が 2 つの並行するコースを同時に並んで滑走する競技である。コースの設定、地形の構成、雪の整備は、可能な限り同一でなくてはならない。

6104.3.1　PSL と PGS の特徴

6104.3.1.1　2 つ以上のコースが設営できる十分な幅の、（すべての地点からコース全体を見渡せる）できれば少し凹状であるコースを選択する。地形変化は斜面の表面全体で同一でなければならない。コースのレイアウトは同じプロフィールと同じ難度でなければならない。

6104.3.1.2　レースが円滑かつ迅速に確実に進行されるよう、コース沿いにリフトが必要である。

6104.3.2　旗門数
PSL の推奨旗門数は約 23～30 旗門
PGS の推奨旗門数は約 22～26 旗門

6104.3.3　旗門間距離
ターンの距離（旗門から旗門）は、
PSL で 10～14m（推奨値 11～13m）、
PGS で 20～25m（推奨値 22～24m）である。

6104.5　安全性／フェンス／カラー

6104.5.1　フェンス

コースは障壁によって完全に閉鎖されなければならない。トレーナーがコース上で競技中の選手を見るための場所を明確にすることが推奨される。

6104.5.2 コースの閉鎖と修正
閉鎖されたコースでは、ジュリー以外誰も、旗門やフラッグの変更、コースのマーキング、コース構造（ジャンプ、コブなど）の変更を行なうことはできない。
閉鎖された競技コースに入る競技者は、ジュリーの裁可の対象となる。（例外：通常の競技者のインスペクション）

カメラマンとカメラチームは、競技に必要な記録のため、閉鎖されたコースに入ることができる。その総数はジュリーによって制限される。彼らは可能な場合ジュリーにより配置され、このエリアのみに留まることができる。

トレーナーやサービスマンなど、閉鎖された競技コースで許可される者は、ジュリーによって判断される。同様に、カメラマンとカメラチームの人数と場所は、彼らが障壁の内側にいる限りジュリーの認可が必要である。

6104.5.3 安全対策
コース全体の最低の安全対策と保護はコース公認に従う。
ジュリーは追加の保護と安全対策を必要とする場合がある。

6104.5.4 コースと地形のマーキング
すべてのイベントのコースにおいて、ジュリーの指示により、コースは以下を使用してマークすることができる：
- 小さな松葉または類似の材質をコース上に撒く
- 着色染料を、旗門から旗門への垂直方向、ハーフパイプのリップ、ランディングを含むキッカーのエッジなど、およびコース全体の水平方向（SBX など）、特に地形変化を示すアプローチ、ジャンプ、変わり目、フィニッシュラインなどに使用する。

6105 フィニッシュエリア

6105.1 フィニッシュエリアは、フィニッシュに近づく競技者にはっきり見えるようにしなければならない。幅広く、円滑に走り抜けられる緩やかな傾斜を用意する必要がある。

6105.2 フィニッシュエリアは完全にフェンスに囲まれており、あらゆる不正侵入を防ぐ必要がある。

6105.3 フィニッシュの設置と閉鎖は、適切な安全保護対策によって設定または確保されること。

6105.4 滑走を終えた競技者には、フィニッシュエリアとは別の特別なエリアが提供される。このエリアまたは廊下では、該当する場合、報道機関（ペンと映像）とのコンタクトが可能である。

6105.5 フィニッシュのアプローチと出口は、視覚的に別々に設定する必要がある。

6105.6 フィニッシュラインとマーキング

フィニッシュラインは、２つの垂直なマーキング（またはパラレルイベントでは３つか４つ）が、インフレータブル、または垂直バナーによってマークされる。必要に応じ、設備は安全に保護される。

PSL/PGS では、各フィニッシュの幅は少なくとも 8m（併せて最小 16m）、GS および SL では 10m 以上でなければならない。

例外的な場合、ジュリーは技術的および安全上の理由、または地形の理由で、この距離を縮めることができる。フィニッシュの幅は、２つのフィニッシュポストもしくはバナー間の距離でみなされる。計測サポートも少なくともこれより離れ、保護される必要がある。計測サポートは通常、フィニッシュポストかバナーのすぐ後ろ、斜面の下側に配置される。フィニッシュラインは、赤色で水平方向に明確にマークしなければならない。

6105.6.1 パラレルイベント（PGS と PSL）では、フィニッシュラインはスタートラインと平行であり、双方の最終旗門まで同じ距離でなければならない。

6106 ウォームアップスロープ

一般から閉鎖され、可能な限り競技コースと同様の、適切なウォームアップスロープを利用できるようにすること。

6200 設営と競技機材

6201 スタートとフィニッシュの設置

6201.1 パラレルイベントのスタート装置

異なるスタートゲートによる２種類の異なるスタート手順は以下の通り：

- 同時ゲートは、双方の滑走において同時に開かなければならない。競技者がゲートを開けられないようになっていなければならない。
- 遅延ゲートは、1 本目の滑走は同時に開かなければならない。2 本目の滑走ではスタートゲートは 1 本目のタイム差で開く。競技者がゲートを開けられないようになっていなければならない。

6202 ゲート

旗門は、1 本のスラロームポールと 1 本のスタビーポールと三角フラッグで構成される。内側の回転ポールはスタビーのフレックスポールでなくてはならない。外側のポールは丈夫なものであること（特に風が強い場合）。

6202.1 ゲートフラッグ

三角フラッグ（バナー／パネル）は、２つの異なる色であることが必要で、以下のサイズで使用できる。（以下の寸法からのわずかな差は許容される。）

	PSL/SL	PGS/GS
底辺の長さ：	100 ㎝	130 ㎝
長い方の高さ：	80 ㎝	110 ㎝
短い方の高さ：	45 ㎝	45 ㎝

6202.1.1 すべての競技会レベルにおいて、PSL/SL に PGS/GS のゲートフラッグを使用することが認められる。

OWG、WSC、WC、YOG、および WJC イベントでは、PAR および SBX の競技会に、PGS サイズのゲートフラッグが使用される必要がある。

6202.1.2　ゲートフラッグは、ゲートの底辺においてフォールラインに対し正しい角度（90°）で設置しなければならない。ゲートフラッグはゲートの底辺に合わせて固定される。

6202.1.3　ゲートフラッグは、スタビーポールと外側のロングポールが同じ色であること（通常は赤と青）。

6202.1.4　ゲートフラッグは、風を通しやすい素材でなくてはならない。

6202.1.5　ゲートフラッグの広告は、通気性やフラッグが外れる機能を低下させないこと。

6202.2　ポール

使用されるすべてのポールは非可倒式と可倒式に分別される。
シングルイベントのポールは色が交互に変わる（通常は赤と青）。パラレルイベントではコースは色で分けられ、各コースで 1 色ずつとなる。

6202.2.1　非可倒式ポール

ゲートの外側のポールには非可倒式ポールを使用することができる。直径が最小 20 ㎜から最大 32 ㎜の、円形で均一な継ぎ目のないポールは、非可倒式ポールとして許められる。それらはセットされた時に少なくとも雪から 1.80m 突き出た長さでなければならず、壊れにくい素材（ポリカーボネートプラスチックまたは同様の特性を持つ素材）で作られている必要がある。

6202.2.2　スタビーポール

スタビーフレックスポールは、ヒンジの下部からポールの上端までの長さが 45 ㎝以下で、上端がパッドまたは空洞になっている可倒式ポールまたはフレックス素材である。
ソフトパッド部分（約）35 ㎝
基部の長さ（約）25 ㎝

6203　計測ハウス

計測とデータの作業エリアの最小サイズは 2.5×4.0 メーターである。テーブル、椅子、電源、暖房が提供される必要がある。計測とデータのエリアの場所は、特定のコース仕様によって定義される。
施設は耐候性があり、暖房されなければならず、トイレ設備も利用可能であること。

6204　計測機器

すべての国際大会では、時刻で動作する、2 つの同期される電子的に分離した計測システムを使用しなければならない。レース開始前に、1 つのシステムはシステム A（メインシステム）、もう片方のシステムはシステム B（バックアップシステム）に指定される。

計測機器と計測に関するすべての技術的詳細は、データと計測の小冊子に記載されている。

組織委員会は、次のことを実現できる計測およびデータシステムを提供しなければならない：現行の FIS リストと CoC スタンディングリストを使用し、どちらが競技者のベストポイントであるかを見つけ出す。データシステムは、スタートリスト、予選 1 本目と 2 本目のリザルト、および、獲得された CoC ポイントと FIS ポイントを含む最終リザルトを計算できるものを提供しなければならない。

6204.1　スタート計測器

スタートの計測器は、競技者が膝下の脚でスタートラインを通過する正確な時間を測定するものとする。

6204.2　フィニッシュの光電管

すべてのイベントで、フィニッシュラインには FIS によって承認された 2 つの光電管の設置が必要である。1 つはシステム A に接続される。もう片方はシステム B に接続される。

6204.3　計測ケーブル

計測用に最低 2 組のケーブルが必要である。
通信は別々の組で行なう必要がある。ハイレベルのイベントではより多くのラインが必要とされる。（データと計測冊子を参照）

6204.4　ケーブルなしの計測

FIS、NC、および COC 競技会の予選では無線の計測器を使用しても良い。計測機器はデータと計測冊子に記載されている FIS 無線規格を満たしていなければならない。

6204.5　手動計測

予選の計測にはスタートとフィニッシュの手動計測が必須である。技術的な詳細についてはデータ及び計測の冊子を参照。

6204.6　予選とシングルイベント

各競技者の滑走タイムは 2 つの独立した公認計測器で記録される。（同じくデータと計測の冊子を参照）

6204.7　パラレル決勝 2508.2

スタートは同時であるため、フィニッシュ時の競技者間のタイム差だけが 2 つの独立した公認計測器によって記録される。シグナルの 1 つを切った最初の競技者は、クロノメーターをスタートさせ、“ゼロ秒”となる。次の競技者（2 走目）は、時計（クロノメーター）を続けて停止し、1 走目の競技者とのタイム差が 1/100 秒単位でつけられる。

6205　ビブナンバー

視認性を高めるために、前面、背面と袖に番号のついたビブを使用すること。正確なサイズと詳細は用具ルールを参照すること。

6206　公式案内システム

6206.1　音響システム

2016.1-2 を参照。

6206.2 OVR（競技会場でのリザルト）

主催者は、すべての記録されたタイムおよび／またはすべての競技者のスコアを、視覚または音響で提示し続けるための適切な設備を提供すること。
公式掲示板はフィニッシュエリアに設置される。
スタートリストやフェイズリザルト、その他すべての公式文書は掲示板に掲示する必要がある。これはデータサービスがライブアプリやデータスクリーンで提供される場合にも必須である。

6300 アルペンスノーボード競技役員

6301 ジュリー

2007 を参照。

6302 レースディレクター

すべての主要イベント（OWG、WSC、WC、WJC、YOG、および UVS）では、FIS レースディレクターはジュリーの長であり、レフェリーとしての役割を果たす。詳細情報については、レースディレクタールール 2009 を参照。

冬季ユニバーシアード（UVS）では、FIS によって UVS のレースディレクターとして承認された FISU テクニカルチェアは、すべての競技会のジュリーメンバーとして投票権を持つ。

コンチネンタルカップレベルの競技会（CoC）では、レースディレクターはジュリーの長である。詳細については CoC ルールブックを参照。

6303 技術代表（TD）

TD の主な任務
- FIS のルールと指示が遵守されていることを確認する
- 競技会が公平に行われていることを確認する
- 職務の範囲内で主催者に助言する
- FIS の公式な代表になる

詳細については共通セクション 2008 を参照。

6304 競技委員長

競技委員長は、組織委員会のメンバーであり、ジュリーメンバーでもある。詳細については、共通セクション 2004.1 を参照。

アルペンスノーボードでの、競技委員長の追加任務と責任は以下の通り：
- ホストリゾートと密な関係を持つ
- 競技会のフェイズを監督する
- TD/RD と協力し、旗門審判の場所と正確な配置を監督する
- すべての旗門審判が必要とされる任務について知識を持っていることを確認する
- アルペンスノーボードのチームキャプテンミーティングに出席する

6305 レフリー

メジャーイベントの場合、レフリーは TD および競技委員長とは別の国籍であること。

6305.1　レフリーの任務と権限

- スタート順のドロー
- 単独で、もしくはジュリーメンバーおよび／または任意の一行の同伴の上、セット直後のコース査察を行なう
- コースセッターとすべてのジュリーメンバーは、都合によりこの査察に参加しなかった場合、その変更を知らさなければならない
- 1本目の滑走の終了時と競技会の終了時に、ルール違反と旗門不通過の報告をスタートとフィニッシュレフリーおよび競技役員から受け取る
- 各滑走の後直ちに、失格者の名前を含んだリスト、失格が発生した旗門番号、失格に至る失敗の内容と失格が掲示された正確な時間を記録した旗門審判の氏名などと共にレフリー記録を確認、署名し、公式掲示板とフィニッシュテントに掲示する。
- 競技会中ジュリーメンバー間で異なる意見があった場合、もしくは競技者が重傷を負った場合などの特別なケースがあった場合は、FIS の報告書を提出する。

6305.2　TD との協力

レフリーとアシスタントレフリーは、TD と密に稼働しなければならない。

6306　コース係長

共通セクション 2004.3 参照。

6307　競技セクレタリー

共通ルール 2004.7 参照。

6308　コースセッター

コースセッターは、競技会のジュリーにより指名され（FIS によって選ばれなかった場合）、競技会前の最後のチームキャプテンミーティング（“ドロー”）で発表される。コースセットの前に、セッターはジュリーおよびコース責任者（競技委員長およびコース係長）の立会いの下、コースの確認と下見を実施しなければならない。
レベル 1 の競技会（WC、WSC、OWG）では、コースセッターを選出する際の追加手順が適用される場合がある。
すべての競技会では、コースセッターの作業は、ジュリー（主要イベントや WC では RD）によって監督される。

6308.1　任命

6308.1.1　冬季オリンピック大会、FIS 世界選手権大会、FIS ジュニア世界選手権大会、ワールドカップ：

- FIS による指名（経験豊富なコースセッターのみが考慮される）

6308.1.2　FIS 国際カレンダーにあるその他すべての国際競技大会：

- FIS による指名、またはジュリーもしくは組織委員会を通じて指名

6308.2　コースセッターの権限

6308.2.1　コースの地形と安全対策上の変更の導入を勧告する。

6308.2.2　コースセッターがコースセットに専念できるように、コースセットに十分な数の補助要員を使用することができる。

6308.2.3　コース用具係から、必要なすべての資材を提供される。

6308.3　コースセッターの任務

6308.3.1　コースを適切にセットするために、地形、積雪、参加競技者の技量を重んじて、コースセッターは TD、レフェリー、競技委員長およびコース係長の立会いの下、競技コースの地形の事前確認を実施する。

6308.3.2　コースセッターは、競技コースの安全確保を考慮しながらセットすること。

6308.3.3　コースセッターは、グーフィーまたはレギュラースタンスのいずれかの競技者に有利にならないように、対称的なコースをセットするように注意しなければならない。スタートと第 1 旗門の間にはターンがあってはならない。

6308.3.4　コースはコースインスペクション中に競技者が支障を受けないように、コースインスペクションの開始スケジュールまでにセットされ準備ができていなければならない。

6308.3.5　コースセットはコースセッターの任務である。彼らは ICR のルールを順守する責任があり、ジュリーの助言を受ける。

6308.3.6　コースセッターは、すべてのチームキャプテンミーティングに出席する必要があり、コースに関する報告をする。

6308.3.7　コースセッターはジュリーメンバーと協力しなければならない。

6309　スタートとフィニッシュ役員

6309.1　スタートレフェリー

共通ルール 2004.4 参照。
アルペンのイベントでは、スタートレフェリーは、スタートゲート装置と計測バー、スタートの合図、ビブの配布、スタートの競技者の整列、群衆整理など、スタートエリアを運営し、マニュアル計測を含むその他関連の働きを監督する追加の任務がある。

6309.2　アシスタントスタートレフェリー

競技会の規模に応じて、適切な数のアシスタントスタートレフェリーを指名することができる。

6309.2.1　スタート係
スタート係は警告シグナルとスタートを担当する。スタート係は競技者の統括をアシスタントスタート係に割り当て、競技者がインスペクション中と競技中にビブとヘルメットを着用しているか確認する。スタート係はジュリーとコンタクトを取らなければならない。

6309.2.2　アシスタントスタート係

アシスタントスタート係は、競技者を正しい順番でスタートに呼び出す責任がある。

6309.2.3 その他のスタートアシスタント
適正な競技の流れを確保するため、必要に応じてこれらの役割に十分なスタートアシスタントを配置すること。
- 群衆整備：コースへのアクセス、スタートエリアへのアクセス
- スタート装置の操作
- ビブ配布（番号）
- 手動計測
- スコアボード
- スタートエリアの設営

6309.3 フィニッシュレフェリー
共通ルール 2004.5 参照。

アルペンスノーボードでは、フィニッシュレフェリーは、フィニッシュラインの適正な通過、競技者のフィニッシュ順、および DNS、DNF、DSQ などのその他の発生事項や裁定を監督する追加の任務がある。

フィニッシュレフェリーのその他の責任：フィニッシュレフェリーは、フィニッシュエリアでの抗議を受け付ける。フィニッシュレフェリーは、すべての抗議を直ちにその他のジュリーメンバーに報告しなければならない。

6309.4 フィニッシュレフェリーアシスタント
競技会の規模に応じて、適切な数のアシスタントを指名することができる。

6309.5 その他のフィニッシュアシスタント
適正な競技の流れを確保し、競技者の最終順位の確定のために、必要に応じてこれらの役割に十分なフィニッシュアシスタントを配置すること。
フィニッシュ役員は、DNS、DNF、および DSQ の裁定において、ジュリーをアシストする。

- 群衆整備
- フィニッシュライン
- ビブ回収
- 手動計測
- スコアボード
- フィニッシュエリアの設営
- ミックスゾーン

6310 競技スタッフ

6310.1 旗門審判長
旗門審判長は、旗門審判の業務を組織、監督する。旗門審判長は、各人が担当する旗門を指定し、所定の位置に配置する。1 本目の滑走の終わりと競技会の終わりに、旗門審判長は旗門審判の旗門判定記録表を集めレフェリーに報告する。旗門審判長は、適切なタイミングで各旗門審判に必要な用具（旗門判定記録表、鉛筆、スタートリストなど）を配布し、観客をコースから離したりコースを維持したりするための支援を提供する準備がなされなければならない。旗

門審判長は、旗門のナンバリングとマーキングが求められる時間内に行なわれていることを確認しなければならない。

6310.2　旗門審判員

旗門審判員は、すべての旗門を完全に見渡せるようにコース全長に適切に配置される。旗門審判員は、1 つまたは複数の旗門を担当する。旗門審判員は、競技者の通過が担当エリアを通して正しかったかどうかを正確に観察し、旗門不通過またはルール違反を書面、および／または直ちに無線で報告しなければならない。旗門審判員はまた、他の多くの重要な機能も果たさなければならなく、それらのすべては 6403 旗門判定で詳しく説明されている。

すべての旗門審判員はアルペンスノーボード競技会を管理するルール、特に DSQ、DNF を管理するルールを熟知していなければならない。

6310.3　コース整備と維持

6310.3.1　カラークルー

適正なコース条件で各競技フェイズを開始し実行するために、適切なカラーポンプまたは類似品によりコースのすべての関連部分を着色する、ジュリー、コース係長と密に連携して作業する義務と目的を持った、スキーを履いた専任クルーが必要である。
コースに基づき、天候と雪のコンディションのカラーリング技術はカラークルーの数と同様に異なる。彼らはコース長、および／または競技委員長の管理下にある。

6310.3.2　サイドスリップクルー

コースのすべての部分を維持し、適正なコース条件で各競技フェイズを開始し実行するために、ジュリー、コース長と密に連携して作業する義務と目的を持った、スキー、および／またはスノーボードを履いた専任サイドスリップクルーが必要である。
コースに基づき、天候と雪のコンディションのサイドスリップ技術はサイドスリップクルーの数と同様に異なる。彼らはコース長、および／または競技委員長の管理下にある。

6310.3.3　コース整備係＆旗門係

適正なコース条件を確保しながら各競技フェイズを開始し実行するために、除雪、ゲートの交換、安全設備の調整、および／または交換などの、コースのすべての部分を維持するため、コース長と密に連携して作業する義務と目的を持った、専任クルーが必要である。
コース整備係と旗門係の数はすべてのコースのタイムリーな整備に十分でなければならない。彼らはコース長と密接に関係する。人員の数が許す場合、コース整備係はコースのセクション内に分配される。

6310.5　コース用具係長と技術設備

共通ルールセクション 2004.10 参照。

6310.6　医療チーム

詳細については、メディカルガイドラインと共通ルールセクション、2004.8 と 2004.9 を参照。

6311 リザルト係長（計時計算係長）

共通ルール 2004.6 を参照。
以下の役員はリザルト係長（計時計算係長）の責任下にある：
- 電気計時係
- 計算係

6311.1 電気計時係

電気計時係はタイムの正確性について責任を負う。タイムは直ちに計算してリザルトを公表するために、競技セクレタリーとリザルト係長（計時計算係長）が利用できるようにしなければならない。彼らはまたデータの記録も担当する。
電気計時係はアシスタントを選択できる。

6311.1.1 アシスタント電気計時係
2 名のアシスタント電気計時係が、2020.2.4 に従いストップウォッチを操作する。
1 名のアシスタント電気計時係がすべての競技者の記録タイムを完全に記録する。

6311.2 計算係

計算係は、リザルトの迅速かつ正確な計算をチェックする。計算係は、スタートリスト、ブラケット、非公式リザルト、抗議期間満了後または抗議が処理された後の公式リザルト発表の即時掲示（2020.2.1 と 6206.2 を参照）と複製を監督する。計算係は、リザルト係長（計時計算係長）により監督され、競技セクレタリーと密に連携し、アシスタントを選出できる。

6400 旗門＆フィニッシュコントロール

6401 旗門通過

6401.1 競技者が、少なくとも前足がボードにバインディングで固定されている状態で、ボード全体が旗門線を横切った場合、旗門は正しく通過されたとみなす。転倒した場合、競技者は回転旗門線を通過する必要がある。

6401.2 三角フラッグのスラローム、パラレルスラローム、ジャイアントスラローム、パラレルジャイアントスラローム、およびスノーボードクロスの旗門線は、フラッグの底辺２点を結ぶ、回転ポールを通過するラインの延長線である。

6401.3 競技中、ボードと両足が旗門線を通過する前に、競技者がポールを垂直位置から抜いてしまった場合、ボードと足は元の旗門線（雪の中のカラーマーキング）を通過する必要がある。競技中、旗門ポールやスタビーが抜けている場合、競技者は旗門を正しく通過したとみなされるように、元の場所のマークの周りをターンする義務がある。

6401.4 旗門不通過後の継続滑走の禁止

競技者が旗門をミスし、戻って正しく通過していない場合、彼らはもはやそれ以降の旗門を通過する権利を失い直ちにコースを放棄すること。
競技者がこの禁止事項に違反した場合、ジュリーによって制裁を受け、その制裁には失格、および／もしくは罰金が含まれる場合がある。
競技者が２つ以上の旗門を誤って通過し、明らかに正しい通路の旗門線の１つから逸脱した場合、競技者が自分の過失を認識していたものと見なされる。

6402　　競技者の責任

6402.1　　競技者は失敗したり転倒したりした場合、旗門審判員に質問することができる。旗門審判員は、可能であれば、競技者が制裁／失格に至る過失を犯した場合、競技者に知らせなければならない。

6402.2　　いずれの場合も、明瞭で断定的な声で、旗門審判員は次のいずれかの言葉で競技者の質問に答えるか知らせるかする：
「ゴー!」旗門審判員が旗門通過が正しいと判断し、競技者が制裁／失格にならないとされる場合。
「バック！」競技者が制裁／失格になる場合。

6402.3　　原則として、旗門審判員はこれらの言葉を開催国の言語で言う。
競技者はこれらの言葉遣いを学ぶ必要があり、チームキャプテンミーティングでそれらをアナウンスすることは助けとなる。

6402.4　　競技者自身が自分の行動に全責任を負い、この点で彼らは旗門審判員に責任を負わせることはできない。

6403　　旗門審判

6403.1　　旗門判定記録表

すべての旗門審判員には、以下の情報を含む旗門判定記録表が配られる：
- 旗門審判員の名前
- 旗門の番号
- 滑走の指定（1 本目または 2 本目／予選または決勝）

6403.1.1　　競技者が 6401 旗門通過に従って、旗門（または旗門カラーマーク）を正しく通過しなかった場合、旗門審判員は提供された旗門判定記録表に直ちに以下を記録しなければならない：
- 競技者の（ビブ）スタートナンバー
- 旗門審判員が複数の旗門を担当している場合、失格が生じた旗門番号
- F の文字（フォールト：失格の頭文字）
- 生じた失格の図解（スケッチマップ一必須）

6403.2　　旗門審判-全般

6403.2.1　　旗門審判員は、競技者が外部からの助けを受け入れないように見ていなければならない（例：転倒の場合）。この種の失格も同様に、旗門判定記録表に記入されなくてはならない。

6403.2.2　　各旗門審判員は、競技ルールについて十分な知識を持ち、ジュリーの指示に従わなければならない。

6403.2.3.　　隣接する旗門審判員、ジュリーメンバーまたは公式ビデオコントローラーが、競技者について当該の旗門審判員の記録とは異なる報告をした場合、ジュリーは競技者の制裁の可能性または抗議に関する決定の観点から、これらの記録を柔軟に解釈する。

6403.2.4　旗門審判員により下された決定は、明確で偏りのないものでなくてはならない。疑わしい場合、旗門審判員は“疑わしきは罰せず”の原則を守るべきである。

6403.2.5　旗門審判員は、失格が生じたと確信した場合にのみ、失格を宣言しなければならない。抗議の場合、旗門審判員は、失格がどのように生じたかを明確かつ断定的に説明しなければならない。

6403.2.6　旗門審判員は、失格が発生したかどうか疑わしい場合は、記録を確認するために隣接する旗門審判員に諮ることができる。旗門審判員は、コース上のラインの跡を確認するため、ジュリーメンバーを介して競技を一時的に中断することを要求できる。

6403.2.7　一般の意見が彼らの判断に影響を与えることは許されない。旗門審判員は自分の意見を述べなければならない。

6403.2.8　旗門審判員の責任は、担当する最初の旗門に競技者が近づくところから始まり、その管轄下の最後の旗門を通過した時に終わる。

6403.2.9　ジュリーの指示に従い、旗門審判長（またはそのアシスタント）は、すべての旗門判定記録表を回収する。そしてそれらをレフェリーに渡す。

6403.2.10　失格／違反、または再走につながる出来事の目撃を記録した各旗門審判員は、抗議の解決後までジュリーに応じられる状態になくてはならない。

6403.2.11　ジュリーからの呼び出しを待機している旗門審判員を解散するのは技術代表の責務である。

6403.2.12　旗門審判員は、遠隔の安全な場所を選択するか配置されなくてはならない。滑走中に競技者が妨害されないように、競技コースから十分な距離を保つ。識別目的のため、旗門審判員はビブを着用することを推奨する。

6403.2.13　主催者は、十分な数の有能な旗門審判員を用意する責任がある。主催者は、必要に応じて旗門審判長立の会いの下、最終指示によりそれを集めることができる。必要に応じて TD はこの立ち合いに参加できる。

6403.2.14　旗門審判員は、競技開始のかなり前に位置に就かなければならない。

6403.3　旗門審判員の補足業務

旗門審判はこれらの補足業務を負う；抜けた旗門ポールを正しい位置に戻す、破れた、または外れたフラッグを交換する、コースの旗門を維持修復する、コースをクリアに維持する。

6403.3.1　破損した旗門ポールを色（青または赤）に従い交換する。破損したポールの破片は、競技者や観客を危険にさらさないように片付けなければならない。

6403.3.2　競技者が滑走中に妨害を受けた場合、競技者はすぐに競技コースを離れ、これを最寄りの旗門審判員に報告しなければならない。旗門審判員は、自身の旗門判定記録表に出来事の状況を記述し、1 本目または 2 本目の滑走の終了時にジュリーに応じられるようにしなければならない。旗門審判員は、当該の競技者

がレフェリーと他のジュリーメンバーに直ちに報告することを指示する必要がある。

6403.4 旗門審判員のサポート

6403.4.1 主催者は、交代が必要であると思われる場合、競技中に（または２本目に）、交代できる旗門審判要員を提供しなければならない。

6403.4.2 ポールが頻繁に抜けたり壊れたりする特に大変な場所では、旗門係が旗門審判員を援助するために配置されることを推奨する。

6403.4.3 正しい色の十分な交換用ポール。これらの交換用ポールは、競技者を混乱させないようにコースから十分に離れた場所に保管し配置しなければならない。交換用ポールは、可能であればフラッグがすでに付けられた状態で、安全上の問題にならないように、先を下に向け雪の中に斜めに刺しておかなければならない。

6403.4.4 すべての旗門審判員は、競技全体を通してフィニッシュレフェリーとの連絡を確保するために無線機を装備する必要がある。または、ジュリーによって任命されたもう１人の役員（審判）を、事象についてジュリーに通知するためコースに沿って配置することができる。

6404 制裁／失格の即時通告

6404.1 パラレル競技では、旗門審判員は失格を直ちに通知しなくてはならない。

6404.2 失格の即時通知は、以下を方法で行うことができる：

6404.2.1 視界の良い時、特定の色の旗を揚げる。

6404.2.2 視界の悪い時または霧の時、音声シグナル。

6404.2.3 その他の手段では、ジュリーによって承認され主催者が用意したもの。

6404.3 即時通知は、旗門審判員が旗門判定記録表にすべての出来事を記録することを免除しない。

6404.4 旗門審判員は、要求に応じジュリーメンバーに情報を提供するように、自分自身がジュリーに応じられる状態である必要がある。

6405 フィニッシュラインの通過

フィニッシュラインは、以下の状態で通過する必要がある：

- 少なくとも１つの足がボードに固定されていること。
- 両足でフィニッシュエリア通過時に転倒した場合、競技者の身体もしくは用具のいずれかの部分が計測器を切った時、タイムが取られる。

6406 ビデオコントロール

主催者が公式ビデオコントロールを技術導入した場合、ジュリーは公式ビデオコントローラーを任命する。ビデオコントローラーの責務は、コース上の競技

者の通過を観察することである。公式ビデオコントローラーは、失格／制裁に関する最終決定についてジュリーに助言することができる。
すべての国際カレンダーレースでは、ビデオもしくは映像のコントロールが推奨される。

6500 競技フォーマット＆ヒートの説明

6501 シングルフォーマット-2 本滑走

シングルフォーマットイベント（パラレル滑走ではない）は、常に２つの異なるコースでの２本の滑走で決定しなければならない。可能な限り、両滑走を同日に開催する必要がある。

6501.1 2 本目の滑走の制限 2106.2

2 本目の滑走は同じ斜面で行われるが、旗門はリセットしなければならない。1 本目の滑走でフィニッシュしたトップ 15 名の女子とトップ 25 名の男子は、2 本目を滑走する資格がある。コンチネンタルカップおよびそれ以下のレベルの競技会では、時間が許せばジュリーは 45 名の男子と 25 名の女子を 2 本目の出走を許可することができる。これは 1 本目の滑走の 1 時間以上前に発表される必要がある。
トップ 15 名の男女は 1 本目の滑走のリザルトの逆順でスタートする。残りの競技者は、1 本目の滑走のリザルト順にスタートする。

6503 デュアルフォーマット

すべての競技者は、トップ 16 のランダムドローを除き、より高い
WC/CoC/FIS（ポイント）ランクに従って区分けされる。各競技者は 1 回の滑走を行なうー赤コースでは奇数（1、3、5、、、）、青コースでは偶数（2、4、6、、、）となる。
赤で順位付けられたすべての男女と、青で順位付けられたすべての男女がコースを交換する。
出走順は 1 本目の滑走のリザルトに従う。
最終リザルト：両方のタイムが加算される（赤と青での 1 本ずつの滑走）

6504 パラレルイベント

6504.1 パラレル予選システム

コースは最初からパラレルでセットされる。コースはパラレル決勝コースと同一か類似している。
予選システムは可能な限り同日に開催される 2 本滑走で構成される。

6504.1.1 1 本目の滑走−予選 1 本目

各競技者は、1 回の滑走を行なうー赤コースでは奇数（1、3、5、、、）、青コースでは偶数（2、4、6、、、）となる。
各コースの 16 位までの競技者が予選 2 本目のラウンドへ進出する。

6504.1.2 2 本目の滑走−予選 2 本目

2 本目の滑走の出走順は、各コースの予選 1 本目の滑走のリザルトの逆順となる。競技者はコースを交換する。（1 本目赤の競技者は 2 本目に青コースを競技する、逆の場合も同様）
予選 1 本目の滑走で 16 位にタイがいた場合、すべてのタイの競技者は予選 2 本目を出走する。

予選２本目の後の最終リザルトは、２本の滑走の合計となる。
各男女の上位 16 名の競技者が有効タイムを伴い決勝へ進出する。

6504.1.3　小規模な競技人数
競技者が 32 名より少数の場合、予選２本目は各コース８名（合計 16 名）で行ってもよい。

6504.1.4　パラレル予選でのタイブレーク
2 名以上の競技者が決勝フェイズに進む際に、決勝資格の最終順位（4 位、8 位、16 位…）に２本の予選滑走後のタイを含む場合、タイは２本の内のベストの滑走で決着される。なおタイの場合、タイは低いシード順の方へ決着される。
まだなおタイの場合は、大きいビブ番号の競技者がより良い順位を得る。

6504.2　別コースの予選

6504.3　K.O.ファイナル／ダイレクト“ノックアウト”

6503.3.1　パラレル決勝は以下で構成される：
- 1/8 ファイナル
- 1/4 ファイナル
- 1/2 ファイナル
- スモール、ビッグファイナル

6504.3.1.1　1/8 ファイナル
1/8 ファイナルヒートの勝者は、1/4 ファイナルへ進出する。

6504.3.1.2　1/4 ファイナル
1/4 ファイナルヒートの勝者は、1/2 ファイナルへ進出する。

6504.3.1.3　1/2 ファイナル
1/2 ファイナルヒートの勝者は、ビッグファイナルへ進出する。1/2 ファイナルヒートの敗者はスモールファイナルへ進出する。

6504.3.1.4　スモール、ビッグファイナル
ビッグファイナルの勝者は 1 位となる。ビッグファイナルの敗者は 2 位となる。スモールファイナルの勝者は３位となる。スモールファイナルの敗者は４位となる。

6504.3.1.5　小規模な競技人数（6504.1.3）の場合、８名の男子と４名の女子の決勝が認められる。
ジュリーは、競技会前のチームキャプテンミーティングでこれを発表する必要がある。

6504.3.1.6　5 位から８位と 9 位から 16 位の順位は予選の滑走により決まる。いずれにしても、上位グループに確定した競技者は、下位グループの競技者の予選タイムより遅かったとしても上位グループに留まる。
例：1 度競技者が上位８位に入ると、その競技者は上位８位の中に留まる。

6504.3.1.7　パラレル決勝での DNS
競技者が 1/8 もしくは 1/4 ファイナルで出走しない場合、それらは自動的に 16 位（1/8 ファイナル）もしくは８位（1/4 ファイナル）に順位づけられる。２名

以上の競技者が出走しない場合、（DNS）競技者は、予選タイムに従い（15 位/16 位）、（7 位/8 位）に順位づけられる（3 名以上の DNS 競技者も同様）。
競技者がスモールもしくはビッグファイナルの 1 本目でスタートしない場合、リラン（2 本滑走）フォーマットの場合、もう片方の競技者は 1 度だけ出走しなければならない。

6504.3.2　2 本滑走の KO ファイナルフォーマット
競技者の各ペアは 2 本の滑走を行なう。競技者は 2 本目でコースを交換する。フィニッシュラインでの 2 名の競技者のタイム差が記録される。
2 本目の滑走後、2 本の滑走のタイム差が加算される。2 本の滑走のタイム差が小さい競技者は次のラウンドへ進む。各滑走の最大タイム差は計算されたペナルティタイムであり、最大は 1.5 秒とする。
両者の滑走のタイム差がタイの場合、2 本目の勝者が次のラウンドへ進む。
（遅延スタートゲートが使用され、2 名の競技者が 2 本目の滑走のフィニッシュラインをタイで通過した場合、1 本目の滑走で負けた競技者が勝者となる）。

1 本目の滑走でフィニッシュしなかった、もしくは失格となった競技者は、4%（最大 1.5 秒）のペナルティタイムで 2 本目の滑走をスタートする（6504.3.2.3 ペナルティタイムを参照）。

各両方の滑走で競技者がタイの場合、予選タイムの速い競技者が次のラウンドへ進む。
両方の競技者が同じ予選タイム（予選 1 本目と 2 本目の合計タイム）だった場合、タイは 6504.1.4 のとおり決着される。

1 本目の滑走を出走しない競技者はペナルティタイムを負う。両方の競技者が 1 本目の滑走を出走しない場合、2 本目の滑走で勝った競技者が自動的に進出する。両方の競技者が 2 本目の滑走を出走しない場合、1 本目の滑走で勝った競技者が自動的に進出する。加えて、1 名の競技者が DNS で、ペアのもう片方の競技者が DSQ の場合、1 本目の滑走では DNS の競技者がペナルティを負い、2 本目の滑走では出走した競技者（しかし DSQ をした者）が進出する。

6504.3.2.1　パラレルファイナルのペアリング–2 ランフォーマット
8 つのペアは予選のリザルトを使用して次のように作られる：

グループ	男女
	1 位 – 16 位 8 位 –　9 位 5 位 – 12 位 4 位 – 13 位 3 位 – 14 位 6 位 – 11 位 7 位 – 10 位 2 位 – 15 位

6504.3.2.2　スタート順
各ペアで、最初、もしくはペアの上部にリストされている競技者は、1 本目を赤コースで出走する。表の順序に従って、上から下へすべてのグループが続けて競技する。2 本目の滑走では競技者はコースを交換する。パラレル決勝のすべての滑走がこのシステムを使用して行われる。

6504.3.2.3　ペナルティタイム

ペナルティタイムは、男女の予選のベストタイムにより計算される。最大 1.5 秒以内の 4%のペナルティタイムがパラレル決勝で使用される。
すべての場合において、各ペアの 1 本目の滑走のタイム差はペナルティタイムよりも大きくなることはない。つまり、実際のタイム差が 3 秒の場合、ペナルティタイムは 1.5 秒であり、2 本目の滑走は 1 本目のラウンドの 1.5 秒のハンディキャップが敗者に課せられスタートされる。
両方の競技者が 2 本目の滑走でそれぞれのペナルティタイムによりタイになった場合、2 本目の勝者が次のラウンドへ進む。
両方の競技者が 2 本目の滑走で同じ旗門で失格となった場合、1 本目の勝者が次のラウンドへ進む。

6504.3.2.4　リランフォーマットの IRM

ラウンドの 1 本目の滑走で失格またはフィニッシュしなかった競技者は、ペナルティタイムを負って 2 本目を出走する。
2 本目の滑走で失格またはフィニッシュしなかった／放棄した競技者は、除外される。
両方の競技者がフィニッシュしなかった場合、旗門より多く通過した競技者が：
1 本目の滑走：ペナルティタイム分、1 本目の滑走を勝利する
2 本目の滑走：次のラウンドへ進出する

両方の競技者がコースをフィニッシュせず、停止または転倒、もしくは同じ旗門で失格となった場合、タイは 6504.3. 2 本滑走の KO ファイナルフォーマットにより決着される。ビッグとスモールファイナルでは、タイは決着されない。

6504.3.3　シングルラン KO ファイナルフォーマット

競技者の各ペアは、1 本のみ滑走する。
a）予選タイムの合計による予選
予選タイム（＝予選 2 本の滑走タイムの合計）がより速かった競技者が、赤もしくは青のコースを選択できる。
両方の競技者が同じ旗門で失格となった場合、または同タイムでタイとなった場合、最も速い予選タイムを持つ競技者が次のラウンドへ進む。
両方の競技者が同じ予選タイムの場合、両方の予選滑走のベストタイムによりタイが決着される。なおタイの場合、ビブ番号の大きい競技者が次のラウンドへ進む。

b）予選滑走の“2 本のベスト”による予選
より良い予選タイムを持つ競技者が、赤もしくは青のコースを選択できる。

両方の競技者が同じ旗門で失格となった場合、または同タイムでタイとなった場合、最も速い予選タイムを持つ競技者が次のラウンドへ進む。
なおタイの場合、ビブ番号の大きい競技者が次のラウンドへ進む。

このフォーマットは競技会の開始前に発表されなくてはならない。

6504.3.3.1　パラレル決勝のペアーシングルランフォーマット

8 つのペアは予選のリザルト/シードを使用して次のように作られる：

グループ	男女

	4 位 – 13 位 5 位 – 12 位 8 位 – 9 位 1 位 – 16 位 2 位 – 15 位 7 位 – 10 位 6 位 – 11 位 3 位 – 14 位

6504.3.3.2 シングルフォーマットの IRM
失格またはフィニッシュしなかった／放棄した競技者は除けられる。

両方の競技者がフィニッシュしなかった場合、旗門をより多く通過した競技者が勝利する。

両方の競技者がコースをフィニッシュせず、停止または転倒もしくは同じ旗門で失格となった場合、タイは 6504.3.3 シングルラン KO ファイナルフォーマット、により決着される。ビッグとスモールファイナルではタイは決着されない。

6600 フェイズ＆手順

6601 エントリー

エントリーシステムの手順とタイムラインは、共通 FIS ルールセクション 215 を参照。

6601.1 年齢制限

すべての FIS 競技会では、様々なレベルのイベントへの参加のため年齢制限が適用される。
共通セクション 2014 を参照。

6601.2 クォータ

すべての FIS 競技会では、イベントのタイプとレベルに基づいてクォータ制限が適用される。
様々なレベルとタイプの競技会のクォータシートを参照。

6602 TC ミーティング

6603 フォーマットの発表

使用される予選フォーマット、決勝フォーマット、および使用されるブラケットのサイズはドローミーティングで発表されなければならない。
使用されるフォーマットはジュリーにより選択され、インビテーションで掲載されているフォーマットと異なる場合がある。
不可抗力の場合、ジュリーはフォーマットを変更することができるが、インスペクション開始前にそれを発表しなければならない。

6604 ドロー／スタート順

217&2022/3022 参照。

冬季オリンピック大会、FIS 世界選手権、ジュニア世界選手権大会、FIS ワールドカップおよび FIS コンチネンタルカップでは、特別ルールが施行される場合がある。

6604.1　スタート順とシード

6604.1.1　参加選手の区分けはジュリーによって行われる。

6604.1.2　競技者の区分けには、FIS が提供する FIS ポイントリストを使用しなければならない。競技者が最新の有効な FIS ポイントリストに表示されない場合、その競技者はポイントのない競技者グループに割り当てられる。

6604.1.3　FIS ポイントリストは、スタート順の決定に使用される。最初のグループは 16 名で構成され、30 人未満の競技者もしくはジュリーが決定するその他の人数の場合は 10 名に減らすことができる。

ランダムドローが最初のグループで行われる。残りの選手は FIS ポイントに従い配置される。ポイントのないすべての競技者はドローされる。

コンチネンタルカップ、ワールドカップ、世界選手権では、FIS ポイントもしくはそれぞれのカップポイント（世界選手権では WC ポイント）の、どちらか高い方がスタート順の決定に使用される。冬季オリンピック大会では、特定の規則が適用される。

6604.1.4　ドローは競技会の前日に行なわなければならない。これは夜間の競技会では適用されない。

6604.1.5　ドローはチームキャプテンミーティングで行わなければならない。スタート番号と競技者の名前を同時にドローするダブルドローが推奨される。

6604.2　ドロー後の変更

ドローが終了しスタートリストが公式になった後、スタートリストを変更することはできない。

6604.3　特別な状況下でのスタート順-“スノーシード”（第 1 シードを除く）

特別な状況下では、ジュリーはスタート順を変更することができる（降雪の場合など）。事前に指名された、各コースの少なくとも 6 名の競技者グループがスタート順 1 番の前に出走する。これらの 6/12 名の競技者は、スタートリストの後尾 20%から選出される。主催者が少なくとも 6 名のフォアランナーを提供する場合は、このルールは適用されない。

6604.4　ビブ配布

スタートビブの配布：スタート番号（ビブ）は、スタート順（6604.1.3）に従って配布される。

6604.4.1　主要イベントでの決勝ビブ

ビブ番号は、決勝ビブとトレーニング／予選ビブに分類される。決勝用のビブは、予選／シードのランキング（例 1-16…）と一致し、それに応じて配布される必要がある。決勝で使用できる別個のビブ番号セットがない場合、決勝ビブは別に取っておく必要がある。予選ビブは決勝ビブを除いた最初の番号（例 17,

18…）から配布される。下位レベルのイベントにおいても、主催者はこのシステムの使用を選択することができる。

6604.4.2　フォアランナービブ
4 枚の前走者ビブ（F1-F4）が主催者によって提供される必要がある。

6605　コースセット

6605.1　コースセットアシスタント
コースセットには、コースセッターがコースに集中し、ポールの調達に気を取られないよう、ジュリーが定める時間帯にアシスタントが提供される必要がある。

6605.2　コースセット機材と資材
コース用具係長は、予想される旗門数と適量の予備パーツに応じて、以下の機材を十分に提供する必要がある。
- 十分な青と赤のポール（ロングポールとスタビー）
- 色で分けられた妥当な数のフラッグ
- ドリル、ゲートキーなど
- 個別の番号で旗門をマークできるもの
- ポールの位置をマーキングするための着色料
- パラレルイベント用のメジャー／ロープ（主要イベントと WC の RD）

6605.3　スロープのインスペクション
このインスペクションは、コースセットをする前にコースセッターにより行なわなければならない。スラロームは、最初の 30 名の競技者の平均能力に適したものであること。

6605.4　旗門
スラローム旗門は、三角フラッグで接続された、1 つのスタビーフレックスポール（回転ポール）と 1 つのロングスラロームフレックスポール（外側ポール）で構成される（6202 ゲート参照）。

6605.4.1　三角フラッグの位置
三角フラッグのついているすべての旗門は、コースの全般的なフォールラインに対して正しい角度（90°）でセットされなければならない。
連続するゲートは色を交互にする必要がある。バナナゲートは 2 つの旗門が同じ色である。

6605.4.2　旗門のマーキング
旗門ポールの位置は、競技全体を通じて見やすく、容易に識別しやすい着色料でマークされる。

6605.4.3　旗門数のナンバリング
旗門にはコースの上から下まで番号が振られ、外側のポールに番号表示をつけなければならない。スタートとフィニッシュはカウントせず旗門とみなさない。

6605.5　コースセット（シングルとパラレルフォーマットイベント）
コースセットの際には、以下の原則に従う必要がある：
- 一定の組み合わせによる単調に連続する旗門の回避

– 競技者に急激にまたは鋭いブレーキを課する旗門は、現代のスラロームコースにあるべきではない難しさを増すことで滑走の流れを損なうため避けるべきである。
– コースの最初または最後に難しいターン弧をセットすることは推奨しない。最終旗門は競技者がスピードに乗ってフィニッシュを通過できるよう、速度のつくものであること。
– スラロームポールは、コースセッターが作業を監督できるよう、コース係長もしくは指定されたアシスタントがセットした直後にドリルで刺さなければならない。

6605.5.1 最後の２旗門
旗門をコースにセットする際、地形に則した自然なラインで競技者のフィニッシュ通過を誘導することに特に注意を払わなくてはならない。最後の２旗門は競技者を自然なラインとスピードでフィニッシュへ導かなければならない。
理想は競技者がフィニッシュラインの中央に入るように誘導することである。

6605.6 シングルフォーマットイベント
２本目の滑走コースは、十分なスペースがある場合、１本目の滑走コースの横にセットすることができる。
１本目の滑走は競技会の前日にセットすべきである。両方の滑走は同じコースにセットできるが、２本目の滑走はリセットしなければならない。

6605.6.2 ジャイアントスラロームのセット
ジャイアントスラロームのセットの際には、次の原則を守らなければならない：

6605.6.2.1 ジャイアントスラロームをセットする際に地形を巧みに使うことは、ほとんどの場合スラロームよりも重要である。これは旗門の規定幅と旗門間の距離がより大きいため、ターンの役割はそれほど重要ではない。従って、地形を最大限に活用しながら、シングルゲートを主にセットすることが推奨される。ターン弧は設定できるが、主に地形変化に乏しい部分にする。

6605.6.2.2 ジャイアントスラロームは、様々なロング、ミドル、ショートターンを伴うべきである。競技者は、旗門間の独自のラインを自由に選択できるべきであり、このラインは、斜面のフォールラインに沿ってセットしてはならない。可能な限りコースの全幅を使うべきである。コースはグーフィーまたはレギュラーのいずれかの競技者に有利にならないように、“対称的”にセットされるべきである。

6605.7 パラレルベントのセット
（上から見て）左のコースは赤いポールと赤い三角フラッグで、右のコースは青のポールと青の三角フラッグでセットされる。6202 旗門、参照。
特別な状況（例：主要なイベントでのスポンサーカラー）では、レースジュリーは、赤（オレンジ、ピンクなど）と青（黒、緑など）の色の範囲にとどまるカラーバリエーションを確定することができる。

6605.7.1 ２つのコースの間隔
２つの対するコースのマーカーの等間隔（回転ポールから回転ポール）は、
PSL で 8～10m、
PGS で 9～12m である必要がある。

最初の旗門（赤と青コース）は、スタートゲートと同じ距離にセットする必要がある。

6605.7.2　同じコースセッターがコースを設定し、それらが同一かつ並行であることを確認する。セッターは、コースの流れがスムーズでカーブ（非常に顕著なカーブ）に多様性があり、コースがリズム変化を生じさせることを確実にする必要がある。いかなる場合も、このイベントは上から下への長い直滑降のようになってはならない。

ダブルとトリプルのコンビネーションをセットすることができる。

6605.7.3　同じ回転方向の２つの連続する旗門（“バナナゲート”）の最寄りのポール間の距離は、PGS では 10〜17 メートル／PSL では 5〜6 メートルで、同じ色の旗門とフラッグでセットされる必要がある。ゲートは、競技者が高速でも明確かつ迅速にそれらを見分けられるようにセットされなければならない。ゲートのフラッグはレーシングラインに対し正しい角度でセットされなくてはならない。

6605.7.4　最初の旗門は、エッジに乗ってターンするための十分なスピードを生み出す前に、ボード上で安定してスタートや滑走ができるように、スタートゲートからまっすぐにスタートゲートまで十分な距離でセットし、２名の競技者の内１名が有利、または不利にならないようにしなければならない。

- ダブルゲートのコンビネーション（バナナ）をセットする場合、グーフィーとレギュラーの競技者に対し同数をセットすること。（スロープの都合により例外は可能）

6605.7.5 シングルランフォーマットが決勝で使用される場合、２つのコースのタイム差が 0.75%以上（予選２本目の両コースの男子上位６名のタイムの平均により計算される）の場合、予選後にコースリセットがされなければならない。
リセット（例：旗門数）は、フェアで公平なレースを目的とし、ジュリーにより柔軟に判断される。

6605.8　コースの確認

ジュリーは、コースセッターがコースセットを完了した後、コースがインスペクションおよび／または競技への準備ができていることを、特に以下に注意を払って確認しなければならない：

- スラロームポールがしっかりと刺し込まれているか。
- 旗門は正しい色順か。
- ポールの位置はマークされているか。
- 番号は外側のポールに正しい順序でつけられているか。
- ポールは雪上で十分な高さがあるか。
- ２つのスラロームコースは競技者が間違うことのないように互いに十分離れているか。
- 各コースのフェンスはスラロームポールから十分離れているか。
- コースの端にある障害物は取り除かれ整理されているか。
- フィニッシュ前の最終旗門は競技者をフィニッシュの中央に誘導しているか。
- 予備ポールは競技者が間違うことのないように正しく配置されているか。

– スタートとフィニッシュは、6103 スタートと 6105 フィニッシュエリア、に従っているか。

6606 コースインスペクション

6606.1 コースは競技当日のトレーニングのために閉鎖されたままになる。

6606.2 競技者は、最低 10 分間のパラレルコース（予選と決勝）のインスペクションが許可される。

6606.3 コースは競技者のインスペクション開始時から、仕上がった競技コンディションであるべきで、競技者はコース内の作業者によりインスペクションを邪魔されてはならない。ジュリーがインスペクション方法を決定する。競技者はスタート番号を見えるように着用しなくてはならない。競技者は準備されたコースを滑り降りたり、旗門を通ったりすることはできない。競技者はジュリーの指示に従い、コースのそばや内側をゆっくりと横滑りでインスペクションできる。競技者は、ボードをつけずに徒歩でコースに入ることは許されない。競技者はコースを“シャドーライディング”することはできない。

6607 スタート手順と合図

出走する競技者に有利になったり、邪魔になったりする可能性のある役員や付添者は、その競技者の後ろにいてはならない。 すべての外部の助けは禁止される。 スタート係の指示により、競技者は計測バーもしくは計測器の後ろに自分の場所を確保する必要がある。 スタート係は出走時に競技者に触れてはならない。スタートバーまたは他の同様の補助器具から押し出でることは許可される。

6607.1 スタートインターバル

ジャイアントスラロームとスラロームでは、競技者は通常 30〜60 秒の間隔のインターバルでスタートする。ジュリーは異なるインターバルに修正できる。

パラレルイベントでは、スタートは不規則なインターバルで行われる。競技委員長、レースディレクター、またはジュリーによって任命された役員は、各競技者がいつスタートすべきかをスタート係に伝える。コース上の競技者は、次の競技者がスタートする前にフィニッシュラインを通過する必要はない。

6607.1.1 特別なスタートインターバル
スタートインターバルは、次の条件下で変更される場合がある：

2032.2.1 テレビ放映の要件を満たすために、ジュリーはスタートインターバルの延長を許可する要求を検討する場合がある。

2032.2.2 最初の 25 名の競技者のスタートインターバル
（ビブグループ 1〜25）を最大 120 秒に。

2032.2.3 ジャイアントスラロームでは、スタートインターバルが 30 秒未満になることはない。

6607.2 スタートシグナルと合図

6607.2.1 シングルイベントのシグナルと合図

すべてのシングル計測イベント（GS、SL と PGS、PSL の予選）のスタートシグナルは次の通りである：
スタートの 10 秒前に、スタート係が各競技者に「10 秒前」と知らせる。
スタートの 5 秒前に、スタート係が「5、4、3、2、1」と数え、スタート合図「ゴー」と言う。

可能であれば、自動音声シグナルが使用される。スタート係は競技者にスタート時計を見せる。

6607.2.2 パラレルイベントのスタートシグナルと合図
スタート係が「ゴー」という合図、もしくは単一音声シグナルを発する前、スタート係は最初に“レッドコースレディ、ブルーコースレディ”と尋ねて、競技者が準備できているかどうかを確認しなければならない。
“ライダーズレディ”は、音声合図と連動してのみ使用できる。（ドアが開いた時に一連の短いビープ音に続いて 1 つの異なる（大きいまたは長い）ビープ音が鳴る）

6607.3 スタートでの過失
スタートインターバルが固定されている競技会では、競技者はスタートシグナルでスタートしなければならない。スタートする時間は、公式スタート時間の前後各 5 秒の制限時間内にスタートすれば有効となる。その制限時間内にスタートしない競技者は制裁を科せられる。

スタートレフリーは、誤ったスタートをした、もしくはスタートルールに違反した競技者のスタート番号と名前をジュリーに通知しなければならない。

6607.3.1 失格の発生：
競技者がスタートゲートを操作した場合
競技者が最後のスタートシグナルが与えられる（可聴および/または可視）前に、競技者のボード（ウエスタンスタイルのスタートゲートが使用されている場合は体全体がカウントされる）が、スタートライン（垂直面）を切った場合。

6607.4 パラレルイベントでのスタートゲートの誤動作
スタートシグナルが与えられる前に競技者がゲートに触れることなく、一方または両方のスタートの機械ゲートが技術的な不具合のために明らかにブロックされている場合、スタートをやり直さなくてはならない。

6607.5 スタートの遅延

6607.5.1 予選とシングルフォーマットの時の遅延スタート
時間通りにスタートする準備ができていない競技者は制裁を受ける。しかしスタート審判は自身の所見で遅延が“不可抗力”によるものであるとした場合、その遅延を許すことができる。
例えば、競技者の個人用具の故障や競技者の軽度の傷病は“不可抗力”には含まない。
それが疑わしい場合は、スタートレフェリーは暫定的なスタートを許可してもよく、そのスタートはジュリーによって確定または否定されなければならない。

スタートインターバルが固定されている場合、遅延した選手はスタートレフェリーの決定に従い、スタートレフェリーに報告した後、固定されたインターバ

ルの中でスタートすることができる。スタートレフェリーは、遅延した競技者がいつ（どのスタート番号から）スタートするかをジュリーに通知する。

不規則なスタートインターバルの場合、遅延した競技者は、6607.5 に従いスタートする。スタートレフェリーは、遅延した競技者がいつ（どのスタート番号から）スタートするかをジュリーに通知する。

スタートレフェリーはジュリーとの協議の後に決定を下し、現れるのが遅れたためにスタートを許可されなかった、または現れるのが遅れたにもかかわらずスタートを許可された、もしくは暫定的にスタートを許可された競技者のスタート番号と名前を記録しなければならない。

6608 抗議、再走、ペナルティ／制裁

6608.1 ペナルティ／制裁

制裁の共通条件については、223 を参照。

競技者が次の場合、制裁を科す：

6608.1.1 競技者が旗門を通過する、もしくはコース上の旗門と並行してターンを練習する。

6608.1.2 旗門不通過を犯した後、競技を続ける。

6608.2 失格

競技者は、以下の場合に DSQ になる：

- 少なくとも 1 つの足をボードに固定した状態で、旗門線を通過しなかった場合。
- ボードに乗ってコースを滑走しなかったり、6405 フィニッシュラインの通過、に従ってフィニッシュを通過しなかったりした場合。
- スタートでの過失（6607.3 スタートの過失、参照）
- パラレルまたはデュアルフォーマットの妨害相手、意図的であろうがなかろうが競技者が予選の滑走中に対戦相手を妨害した場合、妨害された競技者は再走をすることができる。対戦相手を妨害した競技者の滑走は末尾にカウントされる。
- 不正な旗門通過
- 旗門の外側でターンがなされない場合

6609 特別な手順

6609.1 競技会の中断

中断された滑走が同日に終了できない場合、それは中止した滑走として扱われる。

6609.1.1 ジュリーによる中断

6609.1.1.1 コース整備を行なうには、中断の時刻と所要時間は直ちに発表しなければならない。

6609.1.1.2 悪天候または不安定な天候、安全性と雪の状態。

- コース整備が完了し、適切な競技会が保証される天候と雪の状態であるとジュリーが判断した後、直ちに競技会は再開される。
- 同じ理由で競技会の中断が繰り返し発生した場合、ジュリーは競技の中止を検討する必要がある。

6609.1.1.3 報告書
このような場合はすべて、TD により十分に詳細な報告書が FIS と開催国協会宛てに作成される。TD 報告書は、中止された競技会が FIS ポイントが考慮されるかどうかに関わらず、根拠のある推奨事項が含まれている必要がある。

6609.1.2 短い中断
ジュリーの各メンバーは、競技の短い中断を要求する権利がある。
旗門審判は短い中断を要求できる。

6609.2 停止 – 歩いて戻る

6609.2.1. 予選とシングルフォーマット
予選フェイズで旗門不通過のあとに完全停止した競技者はステップバックが認められる。

6609.2.2. KO ファイナル
旗門不通過のあとに完全停止した競技者は戻ることが認められなく、直ちにコースを離れなくてはならない。

6609.3 再走
2025 に記載されている通り、すべての場合において暫定的な再走が認められる。

6609.3.1 予選
競技者が予選滑走中に対戦相手を妨害した場合、妨害された競技者は再走することができる。対戦相手を妨害した競技者の滑走は末尾に記録される。

6610 表彰
2021 を参照。

6700 リザルトと最終ランキング

6701 スタートでのインフォメーションとリザルトリスト
詳細についてはデータと計測の小冊子を参照。

6701.1 公式スタートリストとリザルトリストは、以下の情報を含む必要がある：
競技大会情報：
- FIS Codex
- 日にち
- 競技大会名
- 国名を含む競技会場名
- 競技会スポンサー名
- TD とリザルト係長（計時計算係長）の署名
- FIS もしくは競技大会シリーズのロゴ

– 種目
– イベント名
– 性別
– リザルト種別（スタートリスト、ブラケット、フェイズリザルト、最終リザルト、など）

コースデータ：
– コース名
– コース公認番号
– 全長
– スタート標高
– フィニッシュ標高
– 標高差
– ターン数と旗門数

ジュリーと役員：
以下の役員はフルネームと国籍を含めて記載する必要がある。ジュリーは個別に定義される。

ジュリー：
– 競技委員長
– FIS 技術代表
– レフェリー
– レースディレクター（いる場合）

役員：
– コース係長
– コースセッター（各滑走における）
– スタートレフェリー（いる場合）
– フィニッシュレフェリー（いる場合）
– コーススーパーバイザー（いる場合）
– ビデオコントローラー（いる場合）

天候：
– 晴れ/曇り/霧/降雪/雨
– 気温
– 雪温
– 雪質

競技者情報：
– ビブ番号
– 名字
– 名前
– 国籍
– 生年月日
– FIS コード

6701.2 **公式スタートリストは、以下の追加情報を含む必要がある：**
– 予選ヒートナンバー、準決勝もしくは決勝
– 競技者のリストとスタート順
– シードの基準：FIS ポイント

6701.3　フェイズリザルトリストは、以下の追加情報を含む必要がある：

- スタート時間
- フェイズ（1 本目、2 本目、決勝）
- タイム
- 順位と競技者の情報（6701.1 参照）
- IRMs

WC、OWG、WSC での追加情報：

- - 最低 2 つの中間タイム

6701.4　最終リザルトリストは、以下の追加情報を含む必要がある：

- 最終順位と競技者の情報（6701.1 参照）
- 予選 1 本目のタイム
- 予選 2 本目のタイム
- 2 本の予選タイムの合計
- 決勝フェイズのタイム差
- IRMs
- 前走者の氏名と国籍

WC、OWG、WSC での追加情報：

- - 最低 2 つの中間タイム

6702　最終ランキング

6702.1　KO ランキング（第 3 フェイズ KO ファイナル）

競技者の 1 位と 2 位は、ファイナルラウンドでのフィニッシュ順位により順位づけられる。競技者の 3 位と 4 位はスモールファイナルラウンドでの順位により順位づけられる。残りのすべての競技者は、各ラウンドに従い順位づけられ、滑走した各ラウンド（例：準々決勝）と予選順位により順位づけられる。
予選 1 本目もしくは 2 本目までを滑走した競技者は、6702.2 に従い順位づけられる。

6702.2　シングルフォーマットと予選

予選 2 本を滑走した競技者は、その 2 本の合計タイムにより順位づけられる。
残りの競技者は、予選 1 本目の滑走のリザルトにより順位づけられる。

6702.3　タイ

2 名以上の競技者が、同じ競技フェイズかラウンドで同タイムだった場合、彼らは同じ順位（ポイント）を獲得するが、スタート番号が大きい競技者の方が公式リザルトリストの上位にリストされる。

6702.4　RM と IRMs（リザルト順位と途中棄権/失格のリザルト順位）

6702.4.1　第 1 フェイズ

第 1 フェイズ（予選 1 本目）で DNS、DNF もしくは DSQ となった競技者は順位づけされない。

6702.4.2　第 2 フェイズ

第２フェイズでDNS、DNFもしくはDSQとなった競技者は、第２ラウンドを滑走したすべての競技者の最後となる。DNSはDSQの後ろに、DSQはDNFの後ろに順位づけされる。

6702.4.3　KOファイナルフェイズ
DNS、DNFもしくはDSQとなった競技者は、滑走したラウンド（例：準々決勝）での予選リザルトにより順位づけされる。

6702.4.4　DBQ
DBQとなった競技者は、第２フェイズまたは決勝フェイズで出走しても順位を取得しない。

6703　競技不成立後のリザルト

競技の中断がある場合、競技は条件が許せば再開する必要がある。同じ日に競技を完了できる場合、中断前に完了したリザルトは有効なままである。

同じ日に競技を完了できない場合、競技は公式スケジュール（例：予備日）内で延期することができる。

独立した予選フェイズ（例：SB PAR予選）は同じ日に完了しなければならない。決勝フェイズは中断した時点から再開する必要がある（第３ヒート後に停止した決勝は、中断後、第４ヒートから続ける）

少なくとも予選ファイズが完了していれば、決勝が完了できない場合、最後に完了したフェイズのリザルトが最終リザルトとされる。最終順位は、ヒートでの順位と、最後に完了したフェイズの順位により決定される。FISポイントのみが付与される。カップポイント、賞金、メダルは授与されない。

6800　パラレルチームイベント

6801　チーム認定

関連するシリーズの現行のカップスタンディングリスト（WCにはWCポイント、CoCにはCoCポイント）もしくはFISポイントリスト（どちらか高い方）が、参加国チームの決定に使用される。ポイントはすべての国のペアに合算される。（男女混合ペアのオプション、例えばWCに使用）
国ごとの２つのベストランクの競技者のポイントが、この国の第１チームなどのポイントを決定する。すべての国のチームはそれに応じて順位づけられる。
各国は参加を希望するチーム数を確定する必要がある。スタートリストは、最初に各国から最高位のチームを選択し、再びリストの上位から始めて各国から2位のチーム（もしいたら）を選択し、16/24/32チームに達するまで、リストを下に移動しながら必要に応じ繰り返して決定される。
開催国は最大４チームまで追加スポットを獲得する（すべての競技者は2519.2に従う資格が必要）。開催国がスポットを使用している場合、チームのリストは最後の方から削減される。開催国がまだ16/24/32位以内に順位づけされていない場合、16/24/32位は開催地のものとなる。

6802　チーム資格

各国のチーム資格とシードが決定されると、各国は任意の競技者(*)をそのチームに入れることができるが、各競技者は１つのチームでのみ競技する資格を有する。各国は競技会のシードミーティングで、どの競技者が各チームに含まれ

るかを宣言しなければならない。どのチームメイトが 1 番目と 2 番目に滑走するかは各国が独自に決定する。通常のパラレルイベントと同様に、コースは各国チームのシードにより決定される。
* 資格要件は、イベントのそれぞれのレベルでのシングル PAR 競技会への参加に必要な最低 FIS ポイントに従われる。さらに、すべての参加者は、自国の PAR の通常クォータの一部として参加しなければならない。

6803 チームシード

チームは標準のワールドカップパラレルブラケットにシードするために、チームポイントに従って順位づけられる。

6804 競技

各チームの第 1 走者は、両方のゲートが同時に開く標準のパラレルスタートでスタートする。これらの競技者がスタートゲートをスタートするとすぐにゲートは閉められ、チームメイトが同じスタートゲートに並ぶ。チームの第 1 走者がフィニッシュラインを通過するとシグナルがスタートゲートに送られ、連携するチームメイトの個別のゲートのみが開く。第 2 走者が先にフィニッシュラインを通過するチームが次のラウンドへ進出する。

6805 ペナルティタイム

ペナルティタイムが使用される場合、ペナルティタイムは、前段の個々のレースの男女の予選ベストタイムの平均により計算される。最大 2.5 秒以内の 6% のペナルティタイムがパラレル決勝で使用される。最終的な最大ペナルティは、個々の競技会においてジュリーによって確定される。
例外的な場合、ペナルティタイムは魅力的なレース決定を可能にするため、それぞれの決勝フェイズ（例：準々決勝、準決勝）でジュリーにより調整することが可能である。これは次のフェイズのスタート前までに通知される。

すべての場合において、各ペアの 2 本目の滑走の最大タイム差は、最大ペナルティタイムによりも大きくなることはない。つまり、実際のタイム差が 5 秒でペナルティタイムが 1.9 秒であった場合、第 2 走者は、1 本目の滑走で負けた競技者のために 1.9 秒のハンディキャップが課せられスタートする。
両方の競技者が 2 本目の滑走で同じ旗門で失格となった場合、1 本目の滑走で勝ったチームが次のラウンドへ進む。

6900 用具

6901 競技ウェア

競技用具仕様参照―クロスカントリー、スキージャンピング、ノルディックコンバインド、スノーボード、フリースタイル、フリースキー、セクション F(3)

6902 ヘルメット

競技用具仕様参照―クロスカントリー、スキージャンピング、ノルディックコンバインド、スノーボード、フリースタイル、フリースキー、セクション F(4)

6903 ボード

6903.1 スノーボード

競技用具仕様参照―クロスカントリー、スキージャンピング、ノルディックコンバインド、スノーボード、フリースタイル、フリースキー、セクション F(1)

6903.2　　バインディング

競技用具仕様参照―クロスカントリー、スキージャンピング、ノルディックコンバインド、スノーボード、フリースタイル、フリースキー、セクション F(2)

6903.3　　バランスとスピードのコントロール

競技用具仕様参照―クロスカントリー、スキージャンピング、ノルディックコンバインド、スノーボード、フリースタイル、フリースキー、セクション F(5)

特別規則

2900 人工照明下における競技会

2900.1 人工照明下で競技を実施することを認める。

2900.2 証明は以下の仕様に合致しなければならない。

2900.2.1 光度はコース表面と平行になるようにして測定した際に、コースのいかなる場所でも 80 ルクス以上であること。照明はムラがなくできる限り均等であること。

競技がテレビ放映される場合、テレビプロダクション責任者が必ず光度を確認すること。個々の状況に応じて特別な調整が必要な場合も生ずる。

2900.2.2 投光器（フラッドライト）を用いて照らす場合は、滑走コースの地形的特徴が光の影響で変わらないよう配慮し、設置しなければならない。照明は競技者に正確な地形の状況を示すものでなければならず、深度や遠近感の正確さを変えるものであってはならない。

2900.2.3 照明によりレースラインに競技者の影が投影されるようなことになったり、まぶしさのために競技者の目がくらむようなことがあってはならない。

2900.2.4 コースに隣接する障害物や建物は、明るく照らさなければならない。

2900.3 TD はジュリーとともに、事前に照明が規則に適合していることを確認しなければならない。主催者は TD のためにコサイン補正付きの露出計を用意すること。

2900.4 TD は照明の質について、補足報告書を提出しなければならない。

2900.5 コースセッターは、照明状態が最適な競技会会場区域にコースをセットしなければならない。

考慮すべきその他のブック（冊子）

- FIS スノーボードとフリースキージャッジハンドブック
- FIS モーグル/エアリアルジャッジハンドブック
- ワールドカップ規則ブック
- コンチネンタルカップ規則ブック
- FIS ポイント規則ブック
- 医事ガイドライン
- 用具におけるコマーシャルマーケティング
- スノーボードのクォータ説明
- 世界選手権大会と世界ジュニア選手権大会の組織のための規則
- プレシジョンと指示書

ブラケットのサンプル